

# 女性への暴力の実態 および子どもへの影響

## 委託調査報告書

女性と子どもに対する DV 研究グループ

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金

無断転載を禁じます。

(財)女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）

2001年3月発行

この報告書は、アジア女性基金が大阪市立大学看護短期大学部、友田尋子助教授を代表とする「女性と子どもに対する DV(ドメスティック・バイオレンス)研究グループ」に委託した調査研究の報告です。

# 目次

I章	本調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査方法	1
3	調査の実施内容	3
4	回収状況	4
II章	調査結果	11
1	アンケートに回答した人々	11
2	ジェンダー認識	18
3	暴力認識	41
4	被害の実態	61
5	加害の実態	73
6	子どもころの経験	82
	(1)暴力体験	82
	(2)暴力目撃	85
7	子どもへの虐待	90
III章	被害像・加害像	101
1	被害者・加害者の人となり	101
2	暴力認識や性格・生活態度	107
3	ジェンダー認識や男女の関係、役割	120
4	子どもへの虐待	124
IV章	子どもころの経験	127
1	暴力体験	127
	(1)ジェンダー認識	127
	(2)暴力認識	133
	(3)子どもへの虐待	137
2	暴力目撃	139
	(1)ジェンダー認識	139
	(2)暴力認識	145
	(3)子どもへの虐待	149
V章	まとめ－総括－	151
添付資料		159
1	アンケート票	159
2	調査結果一覧	183
3	自由記述	237

# I 章 本調査の概要

# I 章 本調査の概要

## 1 調査の目的

DVの被害はパートナー間だけではなく、その子どもにも及ぶ。また、子ども自身が直接被害を受けることがなくとも、DVの家庭で育ち、親が暴力を受けるのを目撃した子どもたちはここに傷を負い、それが次世代の暴力と繋がる傾向があるということが欧米の研究では明らかとなっている。

本調査は、予備調査（1999年「ドメスティックバイオレンス家庭における女性と子どもの被害」報告）を経て、DVの家庭における被害の実態を明らかにし、子どもへの虐待の関連を探るために、そして暴力の連鎖を断ち切るための取り組みへの足がかりとするために実施した。本調査では、家庭内の男女の関係や役割の認識と実態、暴力の認識、被害と加害の経験の態様と程度、子どもへの暴力に関する経験、程度および被害の潜在化の程度などについての実態を明らかにすることを目的とした。

なお、対象者を男女を問わず、全ての調査協力の申し出者を対象としたため、調査自体がDVの認識を高める社会啓発になるよう調査名称を「Domestic Violence『女性への暴力の実態および子どもへの影響』に関する調査研究」とした。

## 2 調査方法

### (1) 調査方法

調査協力を申し出た方に対し、申告した住所に調査票を郵送し、対象者自身が同封の返信用封筒に密封して返信するという郵送回収方法を採用した。

調査協力の告知方法は、協力の得られた以下の機関によって以下の方法で行った。

- ・婦人公論No.1065とNo.1066で、「DV 最も身近な犯罪」梶山寿子（ジャーナリスト）による連載中の記事に掲載し、アンケート協力を呼びかけた。

#### 掲載内容

具体的なDV対策の参考にするため、筆者を含む「DV研究グループ」では、アンケートを実施致します。ご協力いただける方はご連絡ください。用紙をお送りいたします。送料などの負担はおかけいたしません。

（大阪市立大学看護短期大学部 友田研究室 TEL/FAX06-6645-3538）

- ・関西テレビのホームページで、DV関連のホームページ中に調査について説明を行い、DV調査協力を呼びかけた。
- ・メンズセンターのホームページで、DV調査について説明を行い、DV調査協力を呼びかけた。

- ・読売新聞 7 月 31 日付で、「ストーカー行為 DV 型の被害深刻」の記事の中で実態調査について掲載され、調査協力を呼びかけた。(記事①)
- ・京都新聞 8 月 5 日付で、「暴力連鎖を断ち切る」の記事の中でDV被害の実態調査について掲載され、調査協力を呼びかけた。(記事②)
- ・朝日新聞 8 月 19 日付で、「DV 調査の協力者募集」の記事が掲載され、調査協力を呼びかけた。(記事③)
- ・日経新聞 8 月 21 日付で、女性かわらばんコーナーに「DV の背景を調査」の記事が掲載され、調査協力を呼びかけた。(記事④)
- ・埼玉新聞 8 月 24 日付で、「DV 目撃した子 心の影響を調査」の記事が掲載され、調査協力を呼びかけた。(記事⑤)
- ・他には、講演、研究会、研修会、セミナーなどで「DV」関係のテーマである場合、また感心のある場合、参加者に対し、DV 調査協力を呼びかけた。予備調査の時に、次回調査協力の申し出があった対象者への調査票を発送した。調査感心の高い人々への依頼と調査票の発送を行った。

## (2) 調査時期

平成 12 年 8 月～10 月

## (3) 調査対象

- ①配偶者、パートナー（恋人など）から暴力を受けていた方（受けている方）
- ②配偶者、パートナー（恋人など）、あるいは子どもへの暴力をふるっていた方（ふるっている方）
- ③子どもに親の暴力を目撃した方
- ④親から虐待を受けていた方
- ⑤以上のような経験のない方

つまり、協力くださるという意思のある方全てを対象とした。

### 3 調査の実施内容

調査内容は、資料の調査票を参照

調査内容に、予備調査で明らかとなった点については、以下のように予備調査からの修正、追加を行い、調査表作成の参考とした。

(1)予備調査から、被害者は女性のみならず男性にも及んでいること（予備調査では5.7%が男性であった）が明らかとなった。これは、欧米の研究で男性の被害者は、全体の5~10%と言われていたのである。ただし、欧米の場合にはホモセクシュアルの男性同士のカップルが多く、予備調査の男性回答者は「加害者は妻、元妻」と回答し、ヘテロセクシャルのカップルであった。そのため、本調査の対象者を今回も女性に限定せず、男性も調査対象者とした。

(2)予備調査から、回答者自身の子どものころの暴力経験ありとする回答は、半数以上の51%であり、養育の怠慢・拒否(Neglect: 初'レト)を受けたとする回答も20%以上あった。この結果は、子どものころの体験が成人後の回答者の生活に影響を与えていると考えられる。欧米の研究で、バタラー(加害者)の85%が子どものころDVの家庭で育ち、暴力の経験または暴力の目撃経験があるとされている。また、バタードウーマン(被害女性)の1/3が子どものころに暴力の目撃経験があると報告している。そのため、本調査の対象者全てに、成人後の加害および被害の経験あるなしに関係なく、子どものころの暴力経験について調査した。

(3)予備調査から、被害女性に対するDVを目撃している子どもは、全体の9割にのぼり、その年齢は6歳以下の幼児が60%を占めていた。暴力を受けていた、つまり子どもの虐待があったのは62%という高い数値であった。欧米の研究で、加害者が子どもにも暴力を加える割合はきわめて高いと報告している。さらに、DVにさらされた子どもたちが心身ともに傷つくことは、予備調査でも明らかとなった。予備調査では、身体影響があった子どもは25%、心的な影響があった子どもは60%であった。ただし、DVの家庭に育ちながら健全に成長した子どもも半数いることになり、DVの家庭に育っていないがバタラーになっていたり、バタードウーマンになった成人も半数いることになる。そのため、本調査の対象者は、現在の加害および被害の経験がない、また子どものころの暴力経験も目撃経験もない、という対象者に対しても調査対象者とした。

これらの対象者を拡げることによって、暴力が発生する状況には様々な要因が関係していることについて、どのような要因がどのように働き、子どもたちへの暴力連鎖を防ぐことが出来るのかを検討する基礎的な調査となることを意図した。

調査項目は、以下の6項目で構成した。

- (1)家庭内の男女関係や役割について
- (2)暴力の認識について
- (3)被害経験について
- (4)加害経験について
- (5)子どもころの経験について
- (6)子どもへの虐待について

#### 4 回収状況

結果は以下の通りである。

発送数	回収数	有効回収数	無効数
1564	835	834	1
	53.4	99.9	0.1

回答者からの回答を統計に還元したいという意向から、回答者からの調査票の回答がところどころに空白があっても、母集団をその都度変わることを承知で、統計処理に反映させた。そのため、分析に際し、母集団が変わっている箇所については、文中に母集団を明記した。特に、家庭内の男女関係や役割、および暴力の意識の項目では、母集団が様々に変化している。



# ストーカー行為 DV型の被害深刻

夫を恋人からの暴力「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の被害が深刻化している中で、成立したストーカー行為規制法の問題点と、DVをなくすのに有効な法整備を考える「DV防止セミナー2000」が、神戸市で開かれた。被害の実情を正確にとらえた犯罪のない社会づくりを期待する意見が相次いだ。



ドメスティック・バイオレンスやストーカー行為に対する有効な防止策について話し合ったセミナー(神戸市中央区で)

テーマは「DV被害者の声は、どこまで届くのか」。DVやストーカー被害者の遺族の話から対策を探るのがねらい。日本DV防止・情報センター(神戸市)が主催。約500人が参加した。

初めに、妹(当時27歳)を昨年7月、元交際相手の会社員の男(当時27歳)に殺された兵庫県姫路市の尾井広行さんが語った。

「警察にも助けしてもらえず、自分さえ我慢すれば、そのうち逃げられると、妹は思っていたようだ。妹のつらさを理解してやれなかった」と尾井

## 被害者保護、加害者の再教育…

## 有効な法整備を

神戸セミナー

うことで片付けられる」

今秋施行されるストーカー行為規制法は、被害者が告訴しなくても、やめさせることを望んだ場合は、警察が加害者に警告を出すことができ、

井さんは話した。兵庫県警はその後、警部補3人を処分して、

ストーカー行為は、顔見知りにつきまといわれる「知人型」、DV加害者による「ドメスティック型」が大勢。ストーカー行為は、DVの一部とみなされることもある。

「ドメスティック型の被害が深刻になりやすい。加害者が被害者の居所や連絡先も知っている」と、「ストーカー被害者の会」(横浜)の秋岡史さん。「一方で、警察では恋人同士のいきさき、とい

警告に従わない時は都道府県公安委員会が同行の禁止命令を出せる。

だが、DV問題に詳しい角田由紀子弁護士は「ずっと民事不介入で来た警察が、ちゃんと判断できるのか。また本来は裁判所が出すべき禁止命令について公安委員会がきちんと対応できるのか。告訴しても刑罰が軽く、再教育の機会もなく出所してきた時の仕返しに心配だ」と指摘した。

尾井さんも「警察は、今も変わりはないと思う。法律だけでは被害者は守られない。警察官にこの問題の教育を」と訴えた。

ドメスティック・バイオレンスは、被害者の女性に心身面の深い傷を与えるだけでなく、そばにいる子どもたちへも大きな影を落とすというと言われる。こうした問題を深掘りし、大阪の福祉、医療、心理などの専門家をつくる「女性および子どもに対するDVおよび子どもに対するDV研究グループ」が、アンケートで実態・影響調査をする事になり、協力者を広く募っている。

「女性への暴力の実態および子どもへの影響」に関する調査研究で、回答は千人規模を目標としている。DVが及ぼす子どもへの影響を調べる全国規模の調査としては初めてとなる。アジア女性基金(東京)の助成を受けて、9月末までにアンケートを回収し、年内には調査結果をまとめることになっている。

回答はDVの被害者、加害者に限らず、だれでも可能。

## 問題探る実態調査へ 専門家グループ

調査の内容は「ジェンダー(社会的・文化的な性差)意識」▽暴力に対する意識▽DV被害の経験の有無▽子育ての経験の有無▽子どもへの虐待経験の有無▽育った家庭でDVを自覚した経験の有無」など。回答者の費用負担はない。

グループのメンバーで、子どもの虐待問題などにかかわっている大阪市立大看護短期大学の友田孝子助教は「DVが及ぼす子どもへの影響だけでなく、親から子へ、世代間を受け継がれるおそれのある暴力の連鎖について考える手が必要になれば」と話している。

協力できる人は、〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-5の17、大阪府立大学看護短期大学友田研究室(06-6644-3535)フックス専用)へは、がきか電話、フックスで連絡を。

## DV防止法案まとめ

女性を保護する施設をつくる①全国シェルターネットワーク(波田あいき代表)は、約300人を対象にしたアンケートを基に、DV防止法の早期制定に向けた草案をまとめた。

### シェルターネット

草案の骨子として、①DVはどこで起きて、②「犯罪」と明確に規定する③国および自治体は、被害女性や子どもの安全を守る体制を整備する④この問題にかかわる専門家の通報義務を明らかにする⑤被害当事者の安全確保のため、裁判所は迅速な手続きによる保護命令を通達する⑥社会的認識の徹底のために、教育、啓発活動を行う⑦支援活動を民間団体への公的援助を充実させる——とした6項目を掲げた。

さらに、国や自治体の具体的な施策として、24時間体制の「女性への暴力防止危機センター」の設置や、加害者への再教育プログラムの開発、暴力被害による心的外傷からの回復を支援する体制づくりなども求めている。

# 教育を讀む

佐藤 学

離婚件数過去最高  
人口動態統計は、もう一昨年(一九九九年)の離婚件数が二五万組を超え、過一〇年と比較すると三・六倍以上ある。特に、中高年における増加率が著しい。離婚率(人口千人当たりの離婚組数)は二〇・〇となり、

## 「社会の子」という視点を

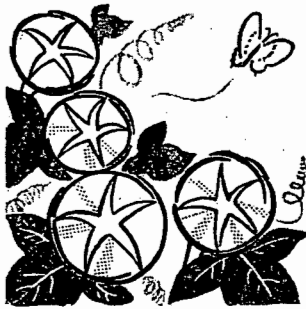
日本の社会も、米国のように、イソイソやフランスのように、何年も結婚する人々と、一度も結婚しない人々と、三十分以下であり、学齢児童の半数以上が生活保護を受ける。二割以上が生活保護を受ける。中央教育審議会は、今年四月「少子化と教育について」を報告したが、家庭の教育力や地域社会の教育力の復活を提唱する提言にとどまっている。むしろ一家庭の教育力の回復が叫ばれている中で、ますます子どもが現れており、不況により子どもは親の子どもであり、

厚生省が六月末に発表した一九九九年の人口動態統計によると、昨年生まれた赤ちゃんは百十七万七千人余りで少子化傾向はますます強まり、二人の女性が生涯に産む子どもの数の平均(合計特殊出生率)は一・三四人となつて、過去最低を更新した。

## 少子化時代の子ども危機

# 離婚やリストラ増えて

その要因として、厚生省は、晩婚化で二十代の出産が減ったことを挙げている。事実、母親の初産年齢は二七・九歳で過去最高を記録し平均初産年齢は二八・七歳、女性は二六・八歳で前年を〇・一歳上回っている。特に高学歴者の晩婚化と少子化は著しい。



イラスト・志摩 純子

### 近代家族の崩壊

人口動態統計は、近代家族が、おだやかに崩壊しつつあることを示している。ほぼだれもが生涯に一度結婚し、子どもを産んで育てるといつ時代は終わってしまう。たゞ今は、現在、東京都の三五歳から三九歳の男性の三人に一人近くは独身である。全国平均で見ても、同年齢の男性の独身者は二〇％以上に達して

### DV被害の実態調査へ



DV調査を進める友田大 大阪市立大看護短期大学部 助教授

「暴力連鎖」を断ち切る  
DV被害の実態調査へ  
研究グループがアンケート実施  
DV被害の実態調査へ  
研究グループがアンケート実施  
DV被害の実態調査へ  
研究グループがアンケート実施

京都YMCAは、十二日から近江八幡市の京都YMCAサバエ教育キャンプ場で開く二泊三日の「夢☆冒險キャンプ(母子家庭子どもキャンプ)」の参加者を募集している。  
湖畔のキャ  
ンプ場で、水  
泳やカヌー、  
上水ゲームなどのスポーツとキャンピングファイヤーや  
野外料理などを楽しむ。対象は母子家庭の小学  
四年生から中学生で、定員は四十五人。参加費は五  
千円。申し込みは、京都YMCAウエルネスセンタ  
ー(三条075-2331)4388。

「夢☆冒險キャンプ」参加者  
湖畔のキャ  
ンプ場で、水  
泳やカヌー、  
上水ゲームなどのスポーツとキャンピングファイヤーや  
野外料理などを楽しむ。対象は母子家庭の小学  
四年生から中学生で、定員は四十五人。参加費は五  
千円。申し込みは、京都YMCAウエルネスセンタ  
ー(三条075-2331)4388。

「暴力連鎖」を断ち切る第一  
力として調査を始め昨秋、東京で「ドメスティック・バイオレンス」家庭における女性と子ども被害の「一歩」調査を実施した。  
「暴力連鎖」を断ち切る第一  
力として調査を始め昨秋、東京で「ドメスティック・バイオレンス」家庭における女性と子ども被害の「一歩」調査を実施した。

### DV調査の

### 協力者募集

夫・恋人からの女性への暴  
力(ドメスティック・バイオ  
レンスDV)について、大  
阪市立大学看護短期大学の  
研究グループが調査に協力し

てくれる人を募集している。

DVとは親密な関係におけ  
る身体的、精神的、経済的、  
性的なものを含めたすべての  
暴力を意味する。これまで  
「家庭内の問題」として見過  
ごされがちだったが、近年、  
人権問題として取り上げられ

るようになった。

調査は女性・男性の両方を  
対象にし、被害・加害の体験  
の有無を問わない。研究の中  
心となっている友田響子・大  
阪市立大学助教授は「DVは  
親から子へと伝わることも多  
い。調査によって、この連鎖

を断ち切るために私たちが出  
来ることが何かを探りたい」  
としている。

協力を申し出るには住所、  
氏名を傳いで、〒545・0  
051 大阪市阿倍野区旭町  
1の5の17、大阪市立大学  
看護短期大学部 友田研究室

(電話) 577-7311  
45-0511へ

〒用紙が郵送されたら、  
返送の送料は無料。また、  
西テレビのホームページ  
http://www.kiv.co.jp  
でも、アンケート用紙を  
提供している。

2000. 8. 21付

# 00. 8. 21 女性かわらばん

子どもに対するDV研究  
グループ（大阪市）は、  
子供への影響について全

◎夫や恋人からの暴

国規模の調査を始めた。

力、ドメスティックバイ

被害者や加害者が子供時

オレンス（DV）の被害

代に暴力を受けていたか

が深刻化している。「D

聞き、まず世代間を受け

Vは単に男女の問題にと

継がれる「暴力の連鎖」

とまらない」と話す

の実態について明らかにする。

のは大阪市立大看護

◎同会では調査

短期大学部助教授の

協力者を募集中。D

友田尋子さん。友田

Vの被害者、加害者

さんによると「家庭

に限らず、比較のため

内で夫婦間の暴力を

に広く回答を求め

口撃する子供たちの

ている。九月中旬ま

心にも悪影響がある

でに郵送で回答する

のに、実態の把握や

方式で、申し込みは調査

研究は手つかずのまま

票を送る住所を書き、フ

だそうだ。

◎そこで友田さんが

アクスで同短期大学部友

代表を務め、学者や医師

田研究室（06・664

で構成する「女性および

5・35338）へ。

## DVの背景を調査



## II 章 調査結果

## II章 調査結果

### 1 アンケートに回答した人々

アンケートに回答した人々は、834人であった。アンケート回答申し出数は1564あったが、回収数は835で、回収率は53.4%であった。有効回答数は834（有効回答率99.9%）であった。

#### 問1 性別

性別で見ると、女性回答者は87.2%（727人）、男性回答者は12.8%（107人）であった。（図1）また、何らかの暴力経験があると答えた人は77.9%（650人）であった。これは、被害、加害、子どものころの暴力体験、暴力目撃、子どもへの虐待のどれか1つの暴力でも「あり」と回答した人を対象とした。「子どもへの虐待」については、虐待（身体的、心理的、性的、養育の怠慢・拒否）の4項目どれか1つの行為でも「あり」とした人を対象とした。

#### 問2 年齢別

年代別に見ると、「10代」は1.0%（8人）、「20代」は17.0%（142人）、「30代」は34.7%（289人）、「40代」は24.9%（208人）、「50代」は16.9%（141人）、「60代」は3.5%（29人）、「70代」は1.3%（11人）、「80代」は0.4%（3人）となった。一番多かった回答年齢は「30代」であった。（図2）

男女別に見ると、男性（n=106人）では「10代」は5.7%（6人）、「20代」は21.7%（23人）、「30代」は29.2%（31人）、「40代」は30.2%（32人）、「50代」は12.3%（13人）、「60代」は0.9%（1人）、70代、80代からの回答はなかった。女性（n=725人）では「10代」は0.3%（2人）、「20代」は16.4%（119人）、「30代」は35.6%（258人）、「40代」は24.3%（176人）、「50代」は17.7%（128人）、「60代」は3.9%（28人）、「70代」1.5%（11人）、「80代」0.4%（3人）であった。（図3）

図1 性別

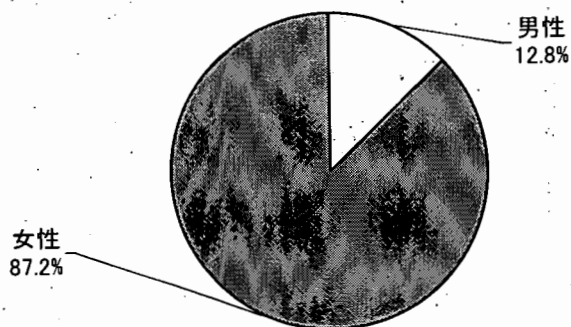


図2 年齢層

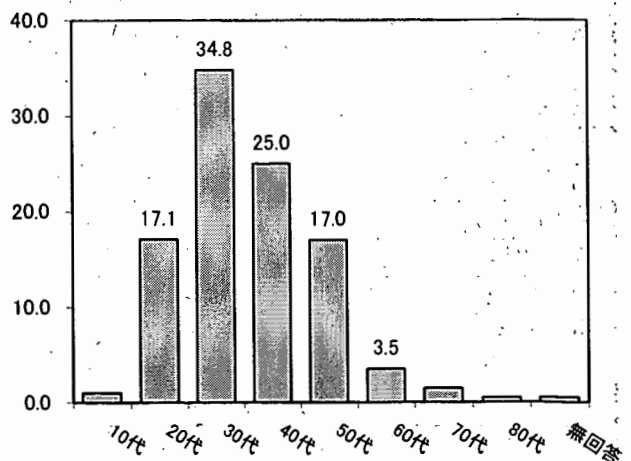
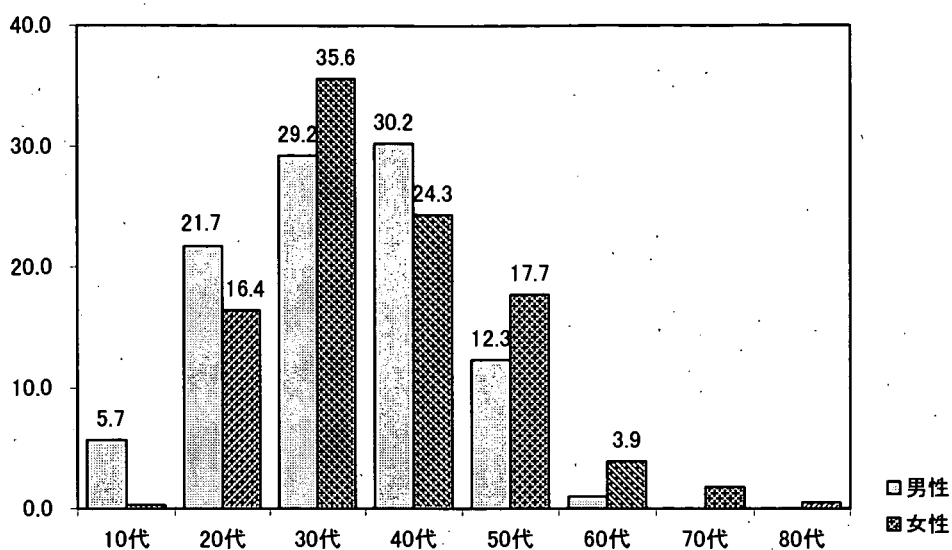


図3 年齢層 男女別



問3 居住地別

1都1道2府35県からの回答があり、他にアメリカ、香港からの回答もあった。回答の最も多かった居住地は大阪府で、回答のなかった居住地は、青森県、山形県、福井県、鳥取県、佐賀県、熊本県、宮崎県、沖縄県であった。(表1)

表1 都道府県別居住地

都道府県名	回答数	%	都道府県名	回答者	%
北海道	5	0.6			
岩手県	2	0.2	奈良県	28	3.4
宮城県	9	1.1	京都府	48	5.8
秋田県	1	0.1	大阪府	251	30.1
福島県	2	0.2	兵庫県	89	10.7
新潟県	7	0.8	和歌山県	10	1.2
富山県	3	0.4	岡山県	15	1.8
石川県	4	0.5	広島県	12	1.4
茨城県	14	1.7	島根県	3	0.4
群馬県	4	0.5	山口県	11	1.3
栃木県	5	0.6	香川県	4	0.5
千葉県	38	4.6	愛媛県	6	0.7
埼玉県	42	5.1	高知県	2	0.2
東京都	105	12.6	徳島県	4	0.5
神奈川県	54	6.5	福岡県	12	1.4
静岡県	4	0.5	大分県	1	0.1
山梨県	2	0.2	長崎県	4	0.5
長野県	3	0.4	鹿児島県	1	0.1
愛知県	7	0.8	アメリカ	1	0.1
岐阜県	5	0.6	香港	1	0.1
滋賀県	8	1.0	無回答	2	0.2
三重県	5	0.6	合計	834	100



問 4 最終学歴

「大学、短期大学、高専」が 48.0% (401 人)、「高校、専門学校、各種学校」が 39.2% (327 人)、「大学院」が 3.2% (27 人)、「中学校」が 2.5% (21 人)、「その他、在学中」が 6.2% (52 人)であった。(図 4)

男女別に見ると、男性 (n=107 人) では「大学、短期大学、高専」が 60.8% (65 人)、「高校、専門学校、各種学校」が 17.7% (19 人)、「大学院」が 4.7% (5 人)、「その他、在学中」が 16.8% (18 人)であった。女性 (n=721 人) では「大学、短期大学、高専」が 46.6% (336 人)、「高校、専門学校、各種学校」が 42.8% (308 人)、「大学院」が 3.1% (22 人)、「中学校」は女性のみで 2.9% (21 人)、「その他、在学中」が 4.7% (34 人)であった。(図 5)

図 4 最終学歴

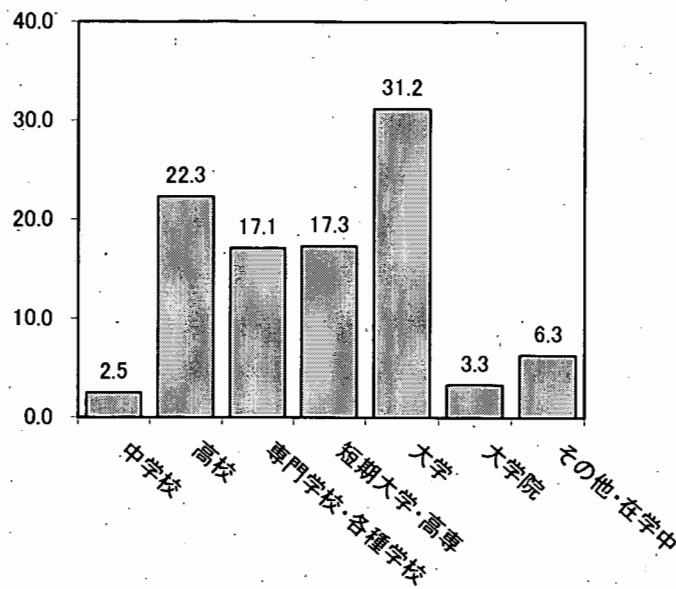
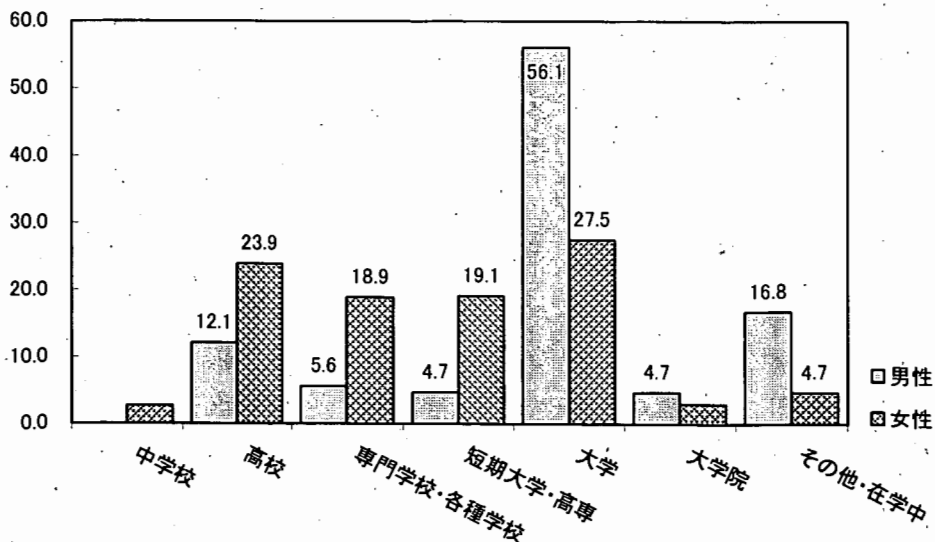


図 5 最終学歴 男女別



## 問 5 職業別

「お勤めの場合」は「専門、技術職」が 27.3% (228 人)、「事務職、販売、サービス職、営業職」が 18.8% (157 人)、「労務、技能職、土木、建築職」が 2.9% (24 人)、「経営、管理職」が 2.3% (19 人)、「派遣社員」が 2.2% (18 人)、「勤め：その他」が 5.5% (46 人)であった。「自営業・家族従業の場合」は「商工、サービス業」4.0% (33 人)、「自由業」が 1.9% (16 人)、「財産、不動産利用」が 0.7% (6 人)、「農林漁業」が 0.1% (1 人)、「自営、家族：その他」が 2.2% (18 人)であった。「その他の場合」は「専業主婦(夫)」が 21.7% (181 人)、「学生」が 5.3% (44 人)、「無職」が 5.0% (42 人)であった。

男女別に見ると、「お勤めの場合」は男性では「専門、技術職」が 34.6% (37 人)、「事務職、販売、サービス職、営業職」が 14% (15 人)、「労務、技能職、土木、建築職」が男性のみで 9.3% (10 人)、「勤め：その他」が男性 2.8% (3 人)であった。女性では「専門、技術職」が 26.3% (191 人)、「事務職、販売、サービス職、営業職」が 19.6% (142 人)、「経営、管理職」が 0.8% (6 人)、「派遣社員」が女性のみで 2.5% (18 人)、「勤め：その他」が 6.2% (45 人)であった。「自営業・家族従業の場合」は男性では「自由業」が 3.7% (4 人)、「商工、サービス業」が 2.8% (3 人)であった。女性では「商工、サービス業」が 3.7% (27 人)、「自由業」が 1.8% (13 人)、「農林漁業」が女性のみで 0.1% (1 人)、「財産、不動産利用」も女性のみで 0.8% (6 人)、「自営、家族：その他」も女性のみで 2.5% (18 人)であった。「その他の場合」は男性では「学生」が男性 15.9% (17 人)、「専業主婦(夫)」が 0.9% (1 人)、「無職」が男性 3.7% (4 人)であった。女性では「専業主婦(夫)」が 24.8% (180 人)、「学生」が 3.7% (27 人)、「無職」が 5.2% (38 人)であった。男女ともに一番多かった職業は「専門・技術職」であった。

全体的に回答者の 68% (556 人)と 7 割近くの人は何らかの仕事についていることがわかった。性別的に見ると、男性も 67.2% (72 人)と 6 割以上が就業している。女性は 64.3% (422 人)と 6 割が就業している。「無職」に関しては「学生」「専業主婦(夫)」も含め、男性は 20.5% (22 人)、女性は 33.7% (245 人)であった。

## 問 6 勤務形態

「定期(常勤)」が 45.4% (371 人)、「無職」が 19.4% (162 人)、「パート、アルバイト」が 18.8% (157 人)、「不定期、非常勤」が 7.8% (65 人)、「その他」が 3.0% (25 人)であった。また、職業の項目で「専業主婦」と記入しているが、勤務形態ではどの項目にも記入せず「無記入」としている人が 4.4% (37 人)、「その他」を選択し記述において「主婦業」とする人もいた。(図 6)

男女別に見ると、男性 (n=107 人) では「定期(常勤)」が 74.8% (80 人)、「パート、アルバイト」が 15.0% (16 人)、「無職」が 5.6% (6 人)、「不定期、非常勤」が 2.8% (3 人)、「その他」が 1.9% (2 人)であった。女性 (n=710 人) では「定期(常勤)」が 41.0% (291 人)、「無職」が 22.0% (156 人)、「パート、アルバイト」が 19.9% (141 人)、「不定期、非常勤」が 8.7% (62 人)、「その他」が 22.0% (156 人)であった。(図 7)

全体に「定期(常勤)」が最も多く、これは性別的に見ても同様であった。男性の場合は 7 割以上が「定期(常勤)」を占め、女性の場合「定期(常勤)」が 4 割であった。

図6 勤務形態

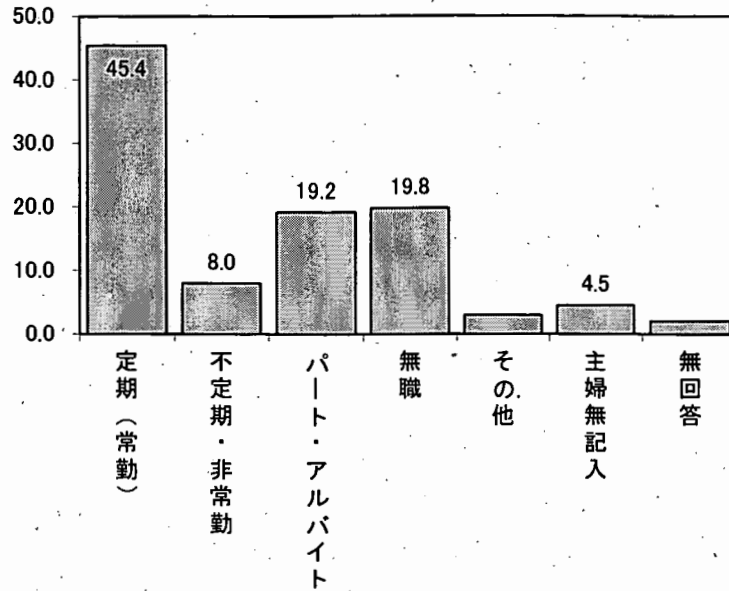
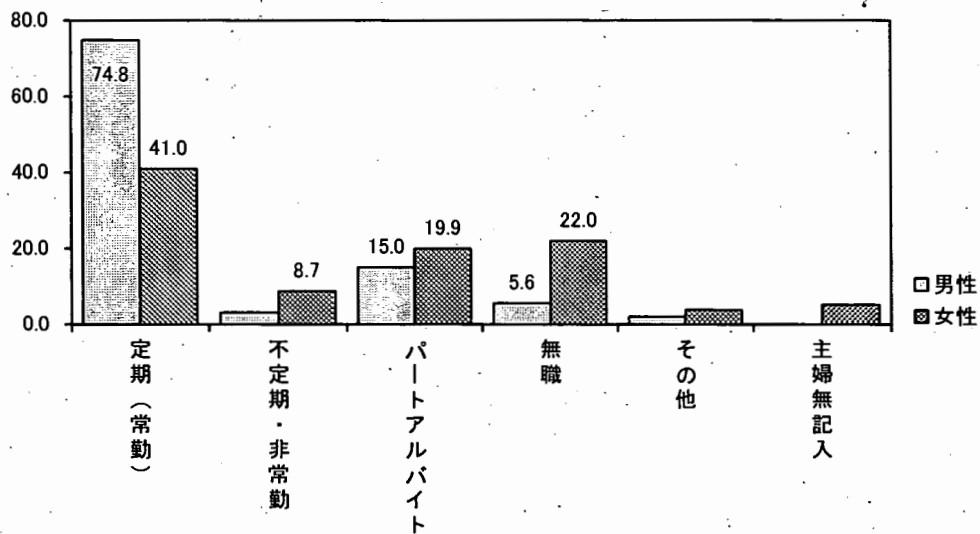


図7 勤務形態 男女別



問7 年収別

年収「なし」が19.1% (159人)、「100万円未満」が16.4% (137人)、「300万円～500万円未満」が13.7% (114人)、「100万円～200万円未満」が12.8% (107人)、「200万円～300万円未満」が11.8% (98人)、「500万円～700万円未満」が10.1% (84人)、「700万円～900万円未満」が6.4% (53人)、「1000万円以上」が2.8% (23人)、「900万円～1000万円未満」1.9% (16人)、「わからない」が1.1% (9人)であった。(図8)

男女別に見ると、男性 (n=106人) では「500万円～700万円未満」が21.7% (23人)、「700万円～900万円未満」が19.8% (21人)、「1000万円以上」が15.1% (16人)、「300万円～500万円未満」が14.2% (15人)、「200万円～300万円未満」が11.3% (12人)、「900万円～1000万円未満」が7.5% (8人)、「なし」が4.7% (5人)、「100万円～200万円未満」が3.8% (4人)、「

「100万円未満」が0.9%（1人）、「わからない」が0.9%（1人）であった。女性（n=694人）では「なし」が女性22.2%（15人）、「100万円未満」が女性19.6%（136人）、「100万円～200万円未満」が14.8%（103人）、「300万円～500万円未満」が14.3%（99人）、「200万円～300万円未満」が12.4%（98人）、「500万円～700万円未満」が8.8%（61人）、「700万円～900万円未満」が4.6%（32人）、「900万円～1000万円未満」が1.2%（8人）、「1000万円以上」が1.0%（7人）、「わからない」が女性1.2%（8人）であった。（図9）

全体的に見ると「なし」が最も多くなっている。男性は「500万円～700万円未満」が最も多く、女性は「なし」が多く次いで「100万円未満」であった。

平成12年度家計調査による勤労世帯の平均年収は749万円であった。

図8 年収

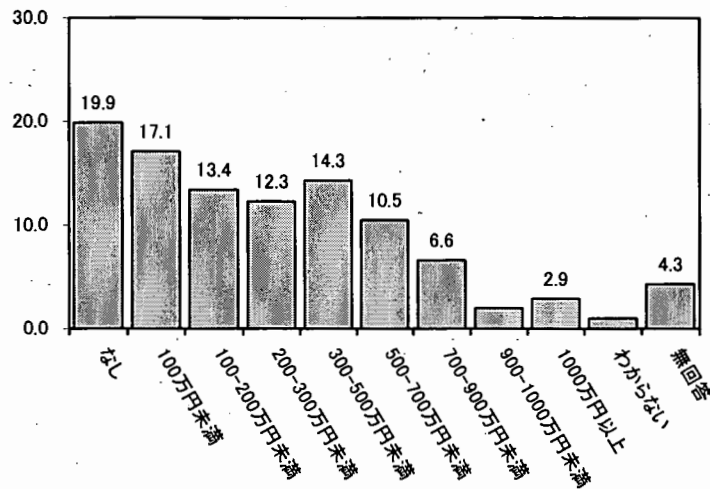
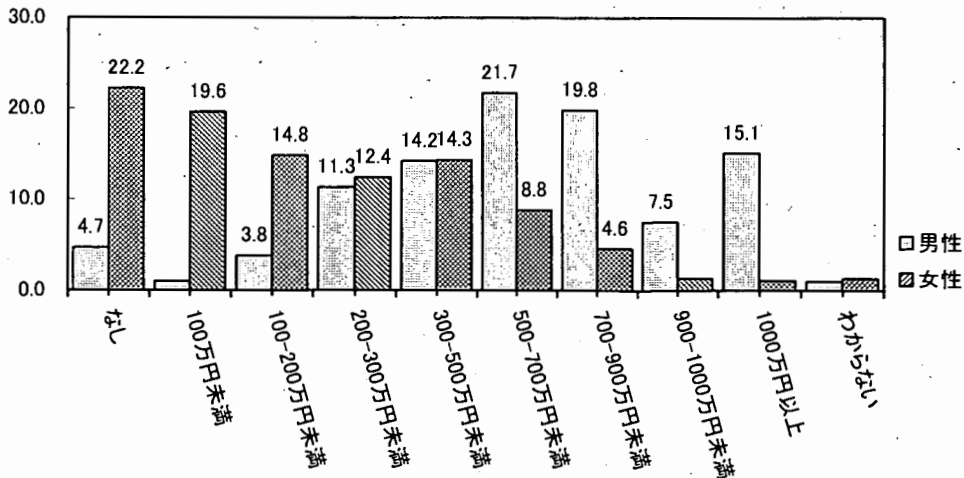


図9 年収(男女別)



問8 現在の配偶者・パートナーの有無

「同居の配偶者あり」が56.2%（469人）、「配偶者パートナーなし」が21.0%（175人）、「別居パートナーあり」が10.9%（91人）、「別居配偶者あり」が9.5%（79人）、「同居パートナーあり」が2.2%（18人）となっていた。（図10）

男女別に見ると、男性（n=107人）では「同居の配偶者あり」が66.4%（71人）、「配偶者パートナーなし」が16.8%（18人）、「別居パートナーあり」が12.1%（13人）、「別居配偶者あり」

が2.8% (3人)、「同居パートナーあり」が1.9% (2人)であった。女性 (n=725人) では「同居の配偶者あり」が54.9% (398人)、「配偶者パートナーなし」が21.7% (157人)、「別居パートナーあり」が10.8% (78人)、「別居配偶者あり」が10.5% (76人)、「同居パートナーあり」が2.2% (16人)であった。(図11)

同居している人は「配偶者」「パートナー」を合わせると全体は58.6% (487人)、男性は66.3% (73人)、女性は57.1% (414人)であった。

図10 配偶者・パートナーの有無

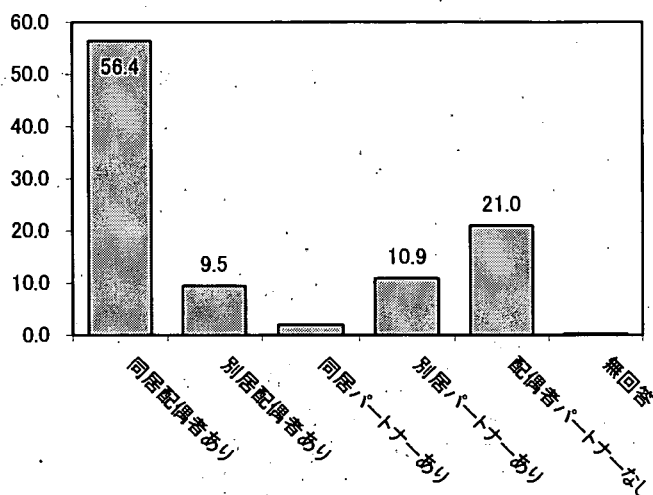
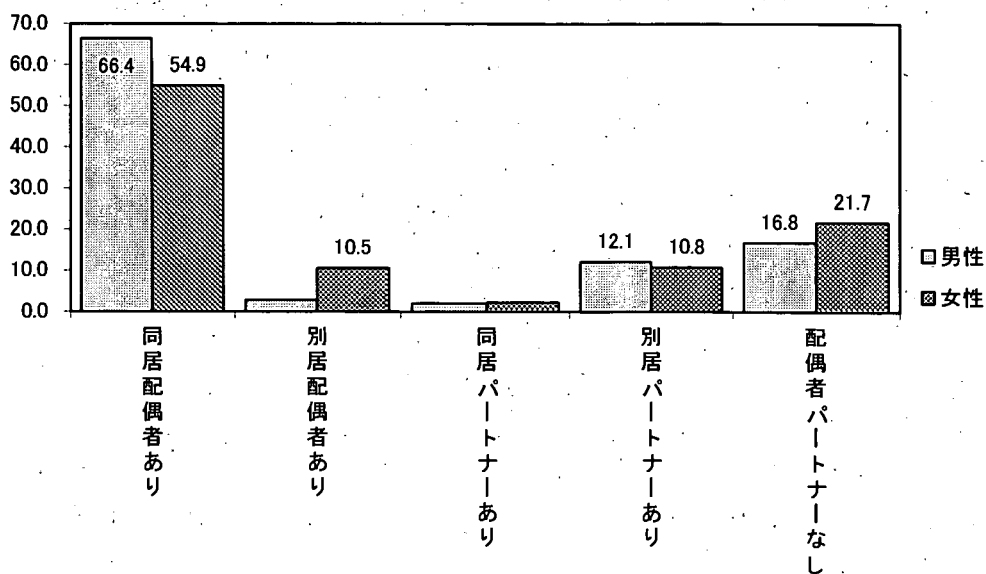


図11 配偶者・パートナーの有無(男女別)



## 2 ジェンダー認識

### 問1「家庭内の男女の役割、関係について」—性的役割分業意識—

①「男は仕事、女は家庭と分担するのがよい」では、「そう思わない」が75.1% (626人)、「どちらとも言えない」が20.3% (169人)、「そう思う」が3.6% (30人)であった。(図12)

男女別で見ると、男性(n=106人)では「そう思わない」が59.4% (63人)、「どちらとも言えない」が31.1% (33人)、「そう思う」が9.4% (10人)であった。女性(n=719人)では「そう思わない」が78.3% (563人)、「どちらとも言えない」が18.9% (13人)、「そう思う」が2.8% (20人)であった。(図13)

図12 ①「男は仕事・女は家庭」と分担するのがよい

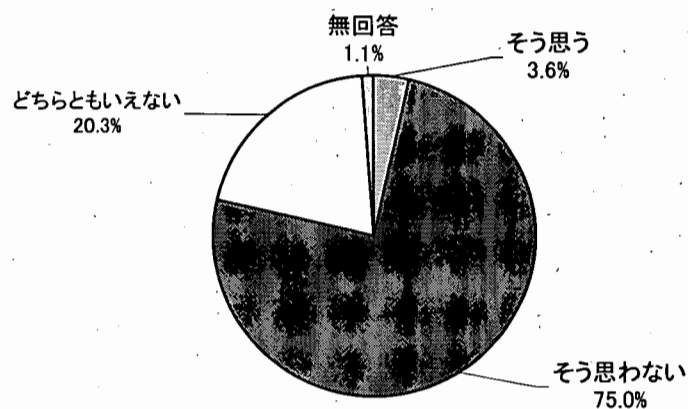
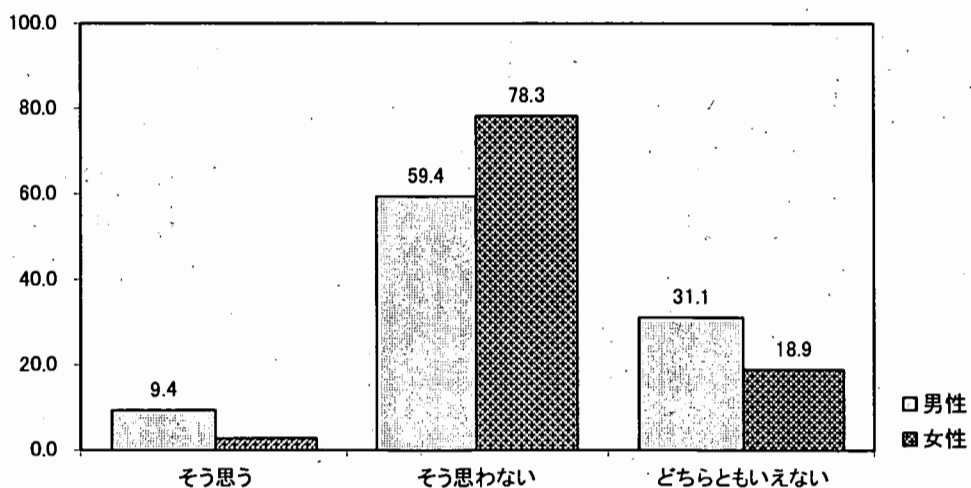


図13 ①「男は仕事・女は家庭」と分担するのがよい(男女別)



②「女性は働く場合、家事に支障のないようにするべきだ」では、「そう思わない」が55.3% (461人)、「どちらともいえない」が27.8% (232人)、「そう思う」が15.8% (132人)であった。(図14)

男女別で見ると、男性 (n=①に同じ) では「そう思わない」が43.4% (46人)、「そう思う」が31.1% (33人)「どちらともいえない」が25.5% (27人)であった。女性 (n=719人) では「そう思わない」が57.7% (415人)、「どちらともいえない」が28.5% (205人)、「そう思う」が13.8% (99人)であった。(図15)

図14 ②女性は働く場合、家事に支障のないようにするべきだ

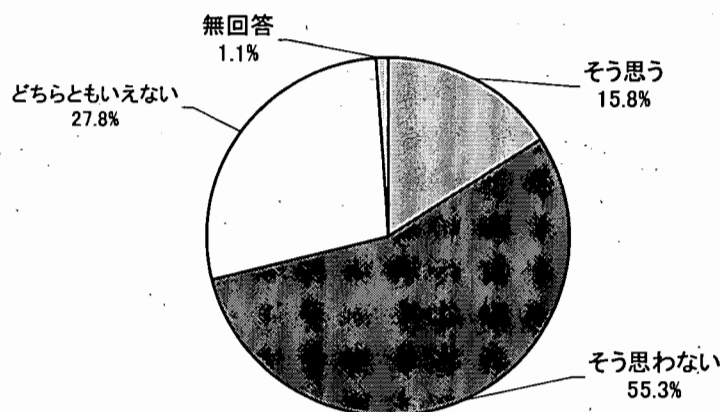
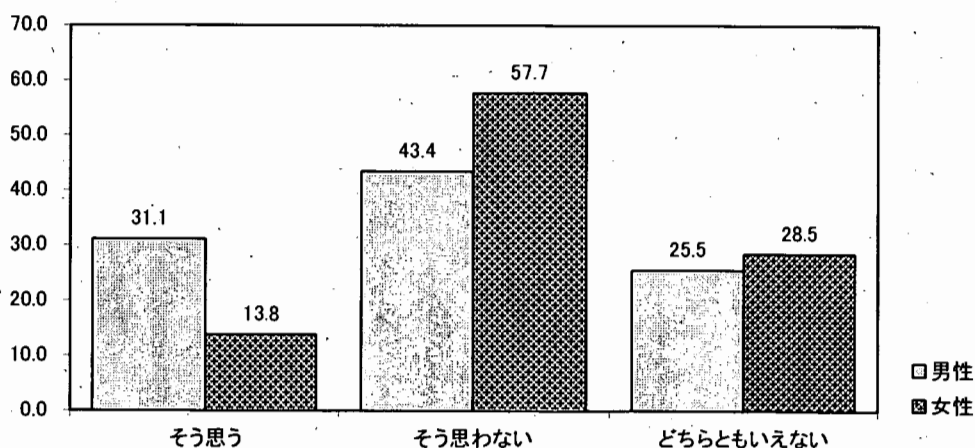


図15 ②女性は働く場合、家事に支障のないようにするべきだ(男女別)



③「家族が快適に暮らせるよう配慮するのは、妻のつとめである」では、「そう思わない」が 55.5% (463 人)、「どちらともいえない」が 27.0% (225 人)、「そう思う」が 16.5% (138 人)であった。(図 16)

男女別に見ると、男性 (n=①と同じ) では「そう思わない」が 64.2% (68 人)、「どちらともいえない」が 21.7% (23 人)、「そう思う」が 14.2% (15 人)であった。女性 (n=720 人)では「そう思わない」が 56.1% (463 人)、「どちらともいえない」が 28.1% (202 人)、「そう思う」が 17.1% (123 人)であった。(図 17)

図 16 ③家族が快適に暮らせるよう配慮するのは、妻のつとめである

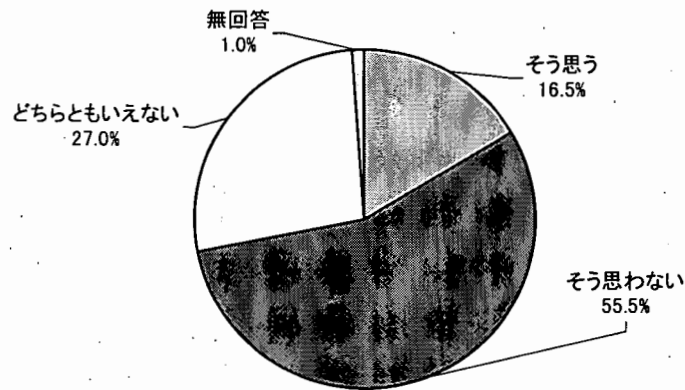
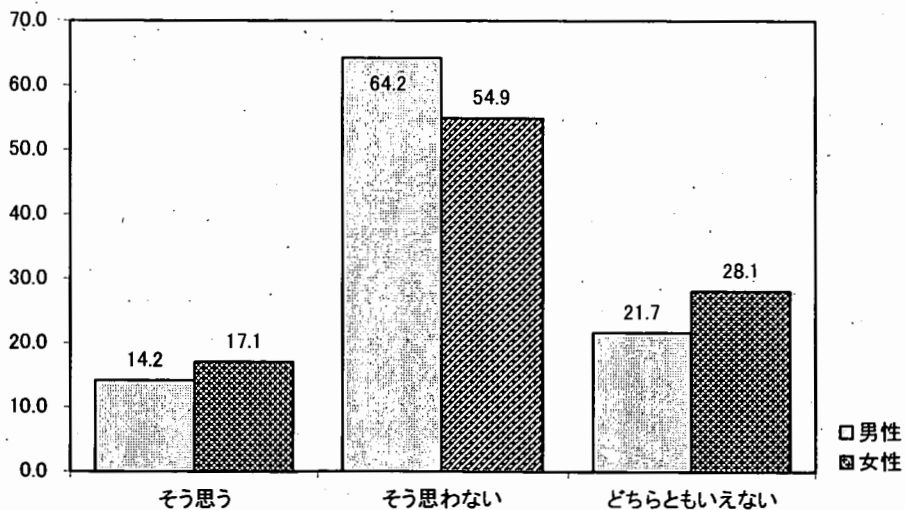


図 17 ③家族が快適に暮らせるよう配慮するのは、妻のつとめだ(男女別)





④「妻子を養うのは男の甲斐性である」では、「そう思わない」が 50.5% (421 人)、「どちらとも言えない」が 24.8% (207 人)、「そう思う」が 23.1% (193 人)であった。(図 18)

男女別で見ると、男性 (n=105 人) では「そう思わない」が 43.8% (46 人)、「そう思う」が 36.2% (38 人)、「どちらとも言えない」が 20.0% (21 人)であった。女性 (n=716 人) では「そう思わない」が 52.4% (375 人)、「どちらとも言えない」が 26.0% (186 人)、「そう思う」が 21.6% (155 人)であった。(図 19)

図 18 ④妻子を養うのは男の甲斐性である

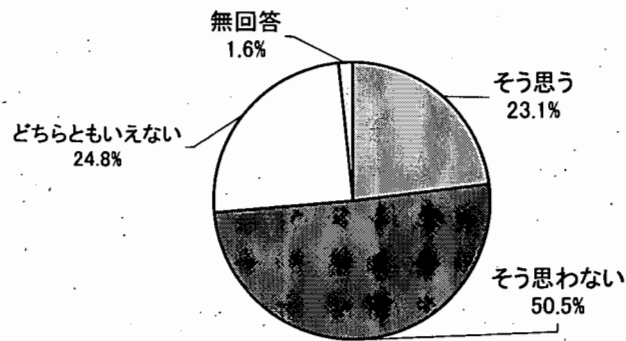
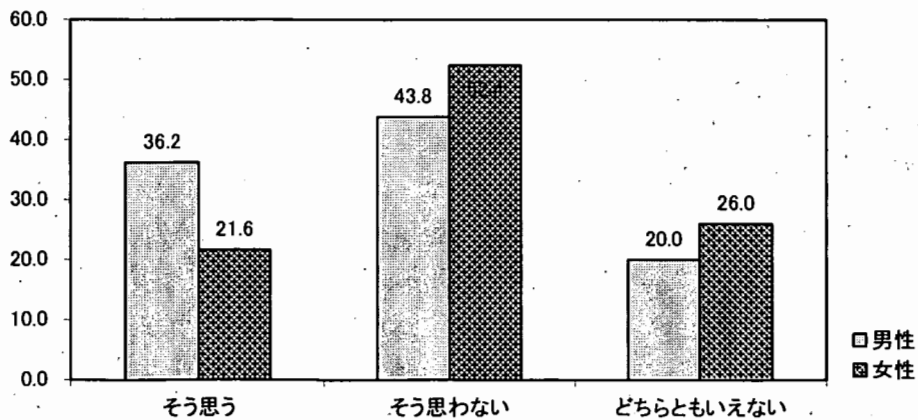


図 19 ④妻子を養うのは男の甲斐性である (男女別)



⑤「女性として最も大切なのは思いやりと優しさである」では、「そう思う」が37.8% (315人)、「そう思わない」が32.3% (269人)、「どちらとも言えない」が28.8% (240人)であった。(図20)

男女別に見ると、男性(n=716人)では「そう思う」が46.7% (49人)、「どちらとも言えない」が28.6% (30人)、「そう思わない」が24.8% (26人)であった。女性(n=716人)では「そう思う」が37.0% (266人)、「そう思わない」が33.8% (243人)、「どちらとも言えない」が29.2% (210人)であった。(図21)

図20 ⑤女性として最も大切なのは思いやりや優しさである

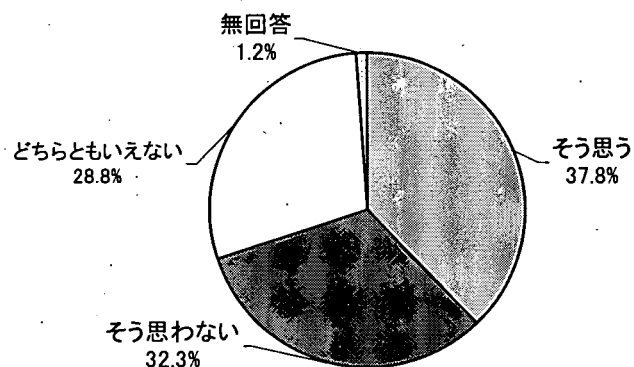
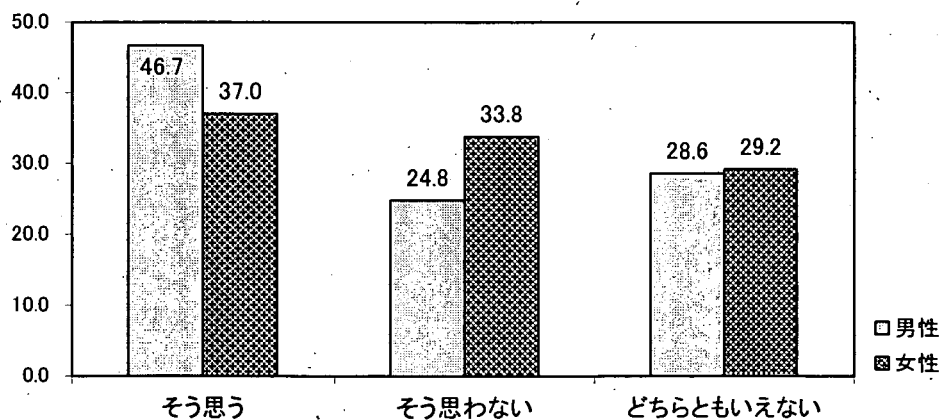


図21 ⑤女性として最も大切なのは思いやりや優しさである(男女別)



⑥「男性は弱音をはいてはいけない」では、「そう思わない」が 81.7% (681 人)、「どちらとも言えない」が 10.6% (88 人)、「そう思う」が 6.4% (53 人)であった。(図 22)

男女別で見ると、男性 (n=106 人) では「そう思わない」64.2% (68 人)が、「そう思う」が 20.8% (22 人)「どちらとも言えない」が 15.1% (16 人)であった。女性 (n=716 人) では「そう思わない」85.6% (613 人)が、「どちらとも言えない」が 10.1% (72 人)、「そう思う」が 4.3% (31 人)であった。(図 23)

図 22 ⑥男性は弱音をはいてはいけない

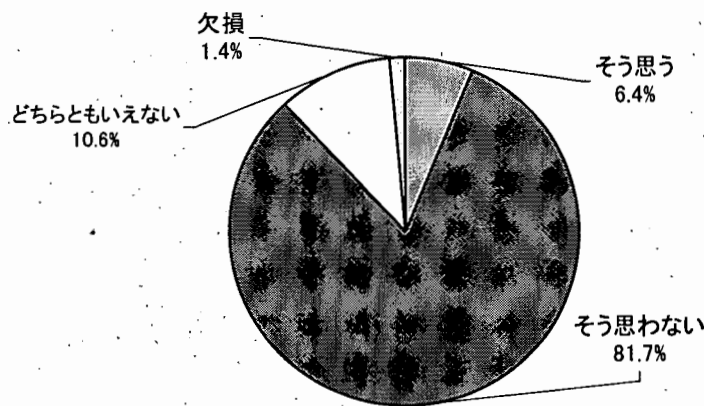
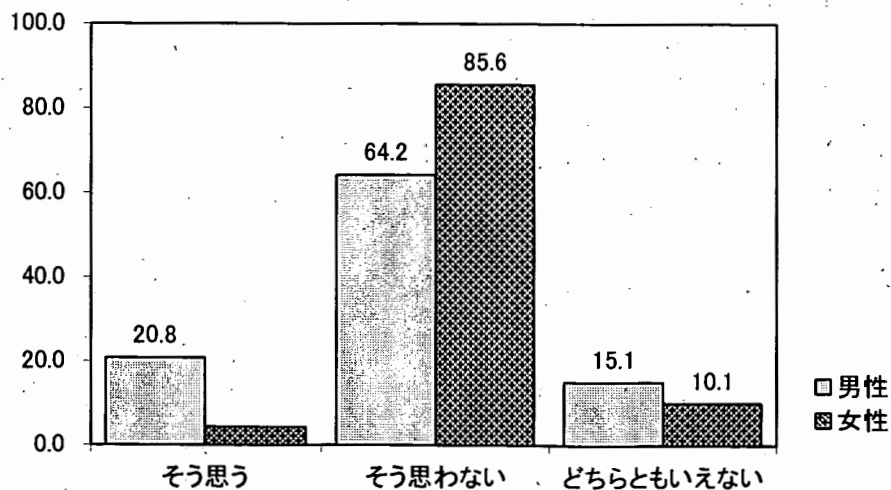


図 23 ⑥男性は弱音をはいてはいけない(男女別)



⑦「夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである」では、「そう思わない」が81.8% (682人)、「どちらともいえない」が14.1% (118人)、「そう思う」が2.5% (21人)であった。(図24)

男女別で見ると、男性(n=105人)では「そう思わない」が76.2%(80人)、「どちらともいえない」が19.0%(20人)、「そう思う」が4.8%(5人)であった。女性(n=716人)では「そう思わない」が84.1%(602人)、「どちらともいえない」が13.7%(98人)、「そう思う」が2.2%(16人)であった。(図25)

図24 ⑦夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめだ

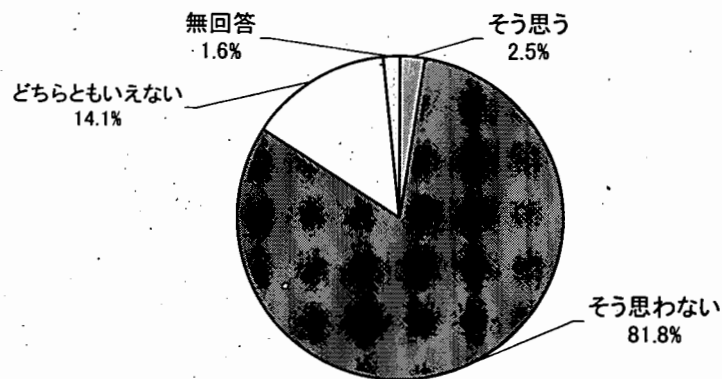
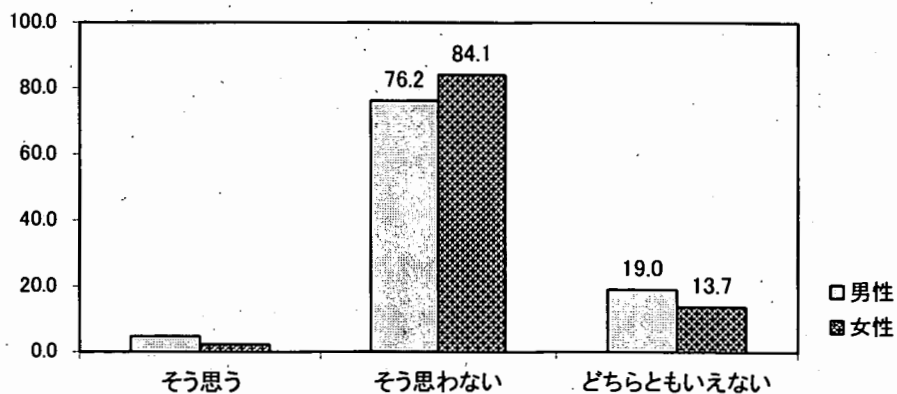


図25 ⑦夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである  
(男女別)



⑧「性的関係で主導権をにぎるのは男性である」では、「そう思わない」が72.1%（601人）、「どちらとも言えない」が20.6%（172人）、「そう思う」が5.6%（47人）であった。（図26）

男女別で見ると、男性（n=105人）では「そう思わない」が61.9%（65人）、「どちらとも言えない」が30.5%（32人）、「そう思う」が7.5%（8人）であった。女性（n=715人）では「そう思わない」が75.0%（536人）、「どちらとも言えない」が19.6%（140人）、「そう思う」が5.5%（39人）であった。（図27）

図26 ⑧性的関係で主導権をにぎるのは男性だ

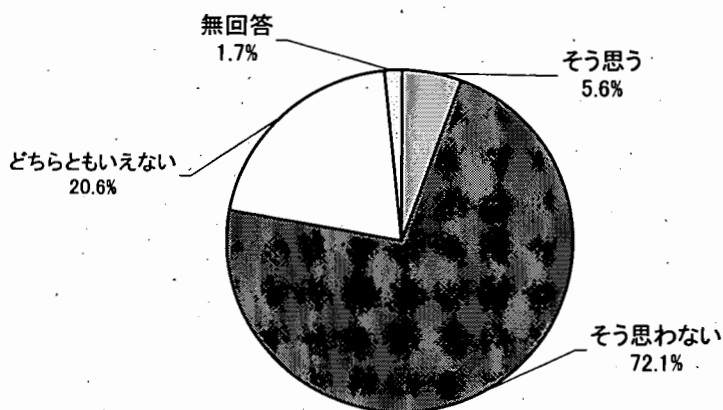
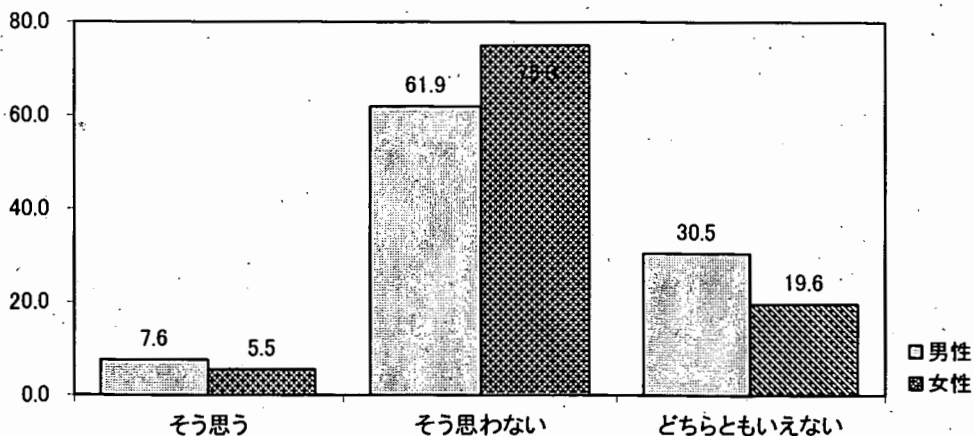


図27 ⑧性的関係で主導権をにぎるのは男性だ(男女別)



⑨「家庭内の問題は家庭間で解決すべきである」では、「そう思わない」が50.6% (422人)、「どちらとも言えない」が30.9% (258人)、「そう思う」が17.4% (145人)であった。(図28)

男女別で見ると、男性(n=106人)では「そう思う」が41.5%(44人)、「そう思わない」が32.1%(34人)、「どちらとも言えない」が26.4%(28人)であった。女性(n=719人)では「そう思わない」が54.0%(388人)、「どちらとも言えない」が32.0%(230人)、「そう思う」が14.0%(101人)であった。(図29)

図28 ⑨家庭内の問題は家庭間で解決すべき

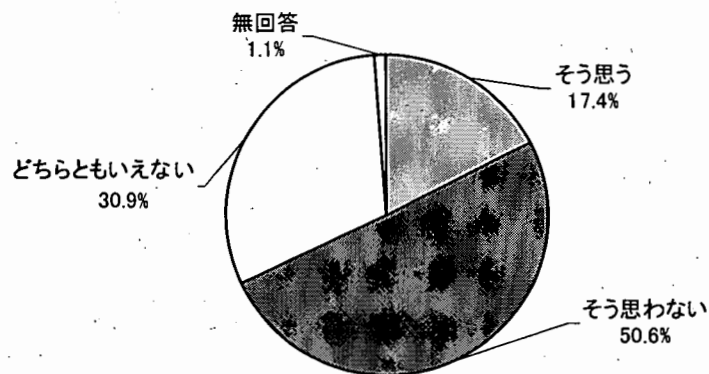
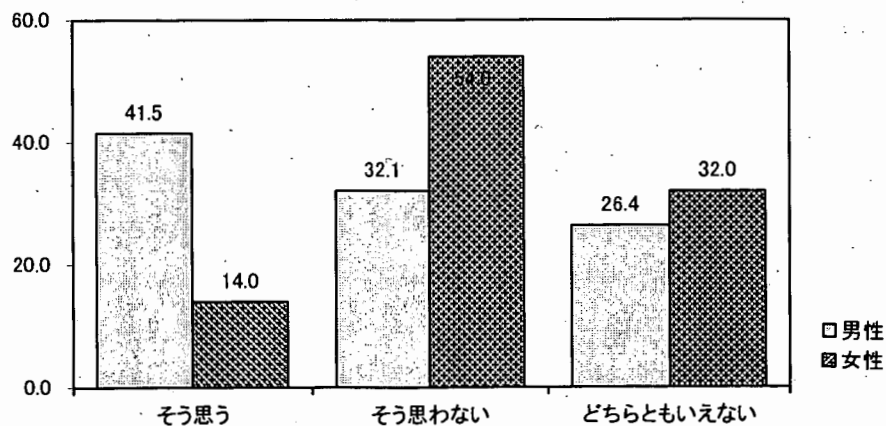


図29 ⑨家庭内の問題は家庭間で解決すべきだ(男女別)



問2「女性の結婚」についての考え方

「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」が31.2% (260人)と最も多く、次いで「子どもを産み育てるには、結婚のした方がよい」が23.0% (192人)、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」が10.0% (83人)、「結婚は、女性の自由を束縛するから、自由に生きたいと思う女性は一生結婚しない方がよい」では7.8% (65人)、「何と云っても、女性の幸福は結婚にあるのだから、結婚した方がよい」の1.1% (9人)と続く。「その他」は24.8% (207人)であった。(図30)

男女別で見ると、男性(n=103人)では「子どもを産み育てるには、結婚のした方がよい」が30.1% (31人)、「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」が26.2% (27人)、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」が12.6% (13人)、「結婚は、女性の自由を束縛するから、自由に生きたいと思う女性は一生結婚しない方がよい」が6.8% (7人)、女性の幸福は結婚にあるのだから、結婚した方がよい」が1.9% (2人)、「その他」が22.3% (23人)であった。女性(n=713人)では「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」が32.7% (233人)、「子どもを産み育てるには、結婚のした方がよい」が22.6% (161人)、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」が9.8% (70人)、「結婚は、女性の自由を束縛するから、自由に生きたいと思う女性は一生結婚しない方がよい」が8.1% (58人)、「女性の幸福は結婚にあるのだから、結婚した方がよい」が1.0% (9人)、「その他」が25.8% (184人)であった。(図31)

図30 女性の結婚についての考え方

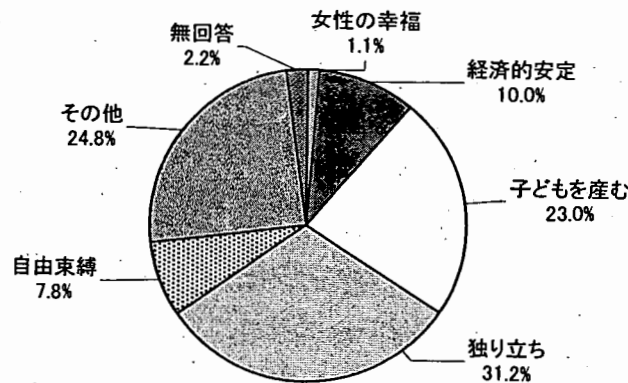
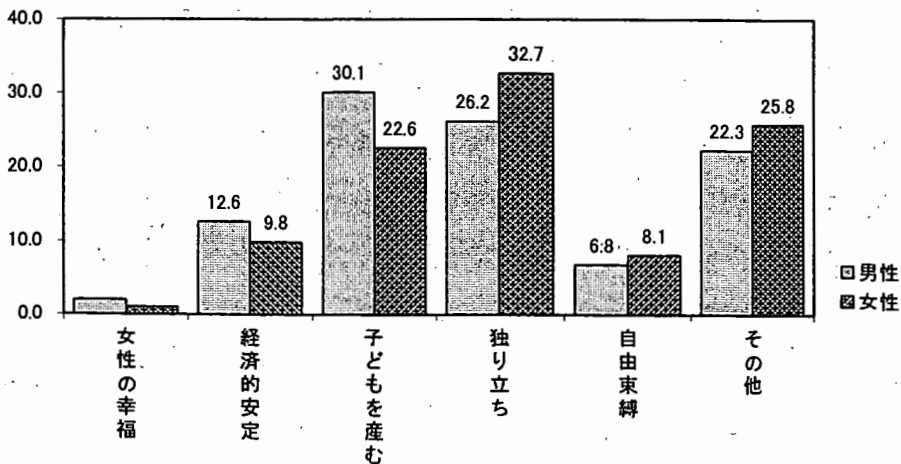


図31 女性の結婚についての考え方(男女別)



### 問3「家庭の機能」についての考え方

「家族団らんのある場である」が35.9% (299人)、「自分の心身を休める場である」が24.5% (204人)、「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である」が15.6% (130人)、「夫婦の愛情を育む場である」が9.4% (78人)、「老親介護など家族の相互援助の場である」が1.9% (16人)、「地域とのつながりをはぐくむ場である」が1.0% (8人)、「家族や家の財産を守っていく場である」が0.2% (2人)、「その他」は9.1% (76人)であった。(図32)

男女別で見ると、男性(n=105人)では「家族団らんのある場である」が36.2% (38人)、「自分の心身を休める場である」「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である」がともに16.2% (17人)、「夫婦の愛情を育む場である」が12.4% (13人)、「老親介護など家族の相互援助の場である」が5.7% (6人)、「地域とのつながりをはぐくむ場である」「家族や家の財産を守っていく場である」がともに1.0% (1人)、「その他」は11.4% (12人)であった。女性(n=708人)では「家族団らんのある場である」が36.9% (261人)、「自分の心を休める場である」が26.4% (187人)、「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である」が16.0% (113人)、「夫婦の愛情を育む場である」が9.2% (65人)、「老親介護など家族の相互援助の場である」が1.4% (10人)、「地域とのつながりをはぐくむ場である」が1.0% (7人)、「家族や家の財産を守っていく場である」が0.1% (1人)、「その他」は9.0% (64人)であった。(図33)

図32 家庭の機能についての考え方

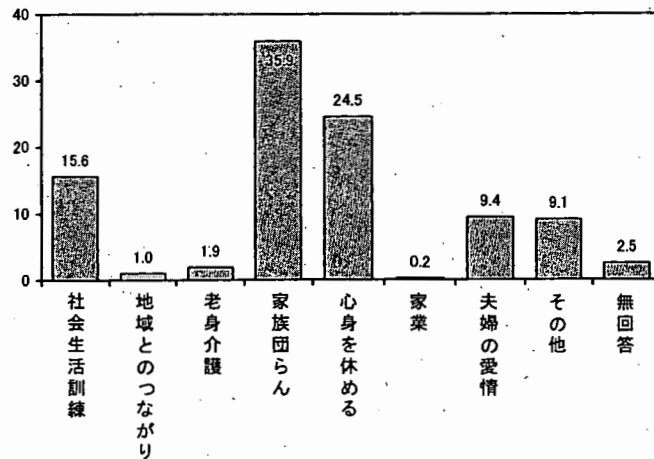
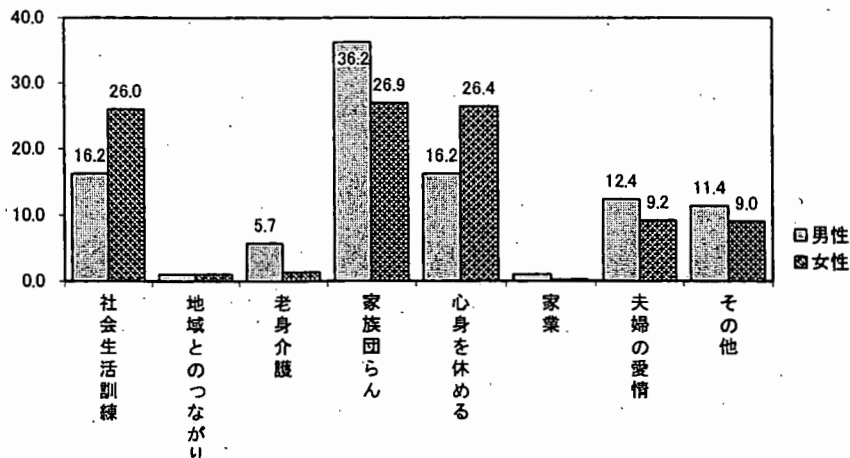


図33 家庭の機能についての考え方(男女別)





問4「夫婦の理想」についての考え方

「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」が90.8% (757人)、「夫は仕事、妻は家事・育児と分担する」が1.7% (14人)、「夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う」が1.1% (9人)、「妻は一家の主人として主導権を持ち、夫は妻に従う」が0.1% (1人)、「その他」が5.4% (45人)であった。(図34)

男女別で見ると、男性(n=107人)では「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」が84.1% (90人)、「夫は仕事、妻は家事・育児と分担する」が5.6% (6人)「夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う」が4.7% (5人)、「その他」が5.6% (6人)であった。女性(n=719人)では「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」が92.8% (667人)、「夫は仕事、妻は家事・育児と分担する」が1.1% (8人)、「夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う」が0.6% (4人)、「妻は一家の主人として主導権を持ち、夫は妻に従う」が0.1% (1人)、「その他」が5.4% (39人)であった。(図35)

図34 夫婦の理想についての考え方

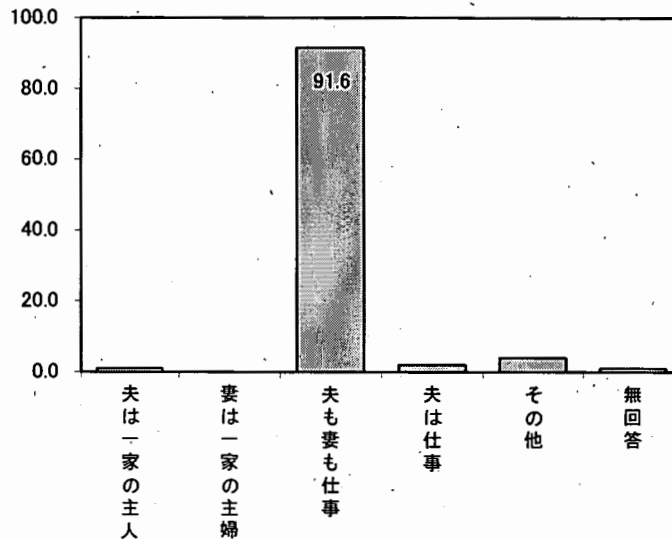
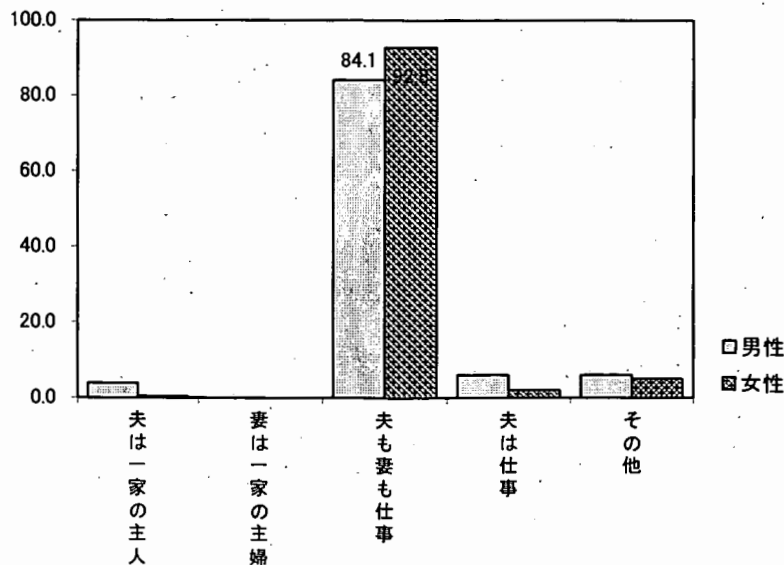


図35 理想の夫婦についての考え方(男女別)



問 5 「現在の性に生まれてよかったか」について

「よかった」が 73.9% (616 人)、「よくなかった」が 19.5% (163 人)であった。(図 36)

男女別で見ると、男性 (n=99 人) では「よかった」が 97.0% (96 人)、「よくなかった」が 3.0% (3 人)であった。女性 (n=680 人) では「よかった」が 76.5% (520 人)、「よくなかった」が 23.5% (160 人)であった。(図 37)

図 36 現在の性に生まれてよかったか

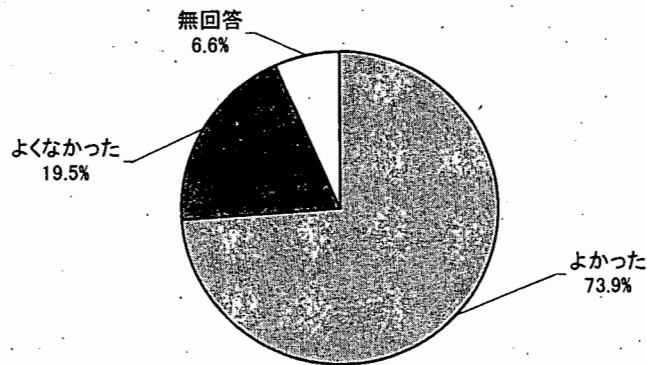
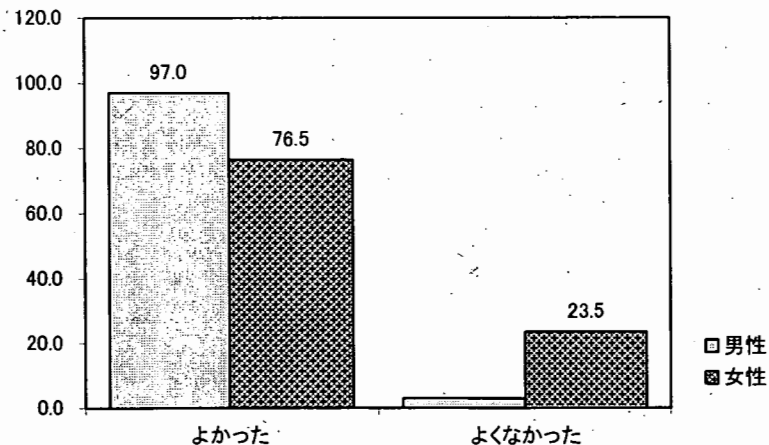


図 37 現在の性に生まれてよかったか  
(男女別)



問 6 「配偶者とパートナーとの日常生活での役割分担」について

① 「生活費を稼ぐ」では、「主として男性の役割」が 35.7% (298 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 19.8% (165 人)、「両方同じ程度の役割」が 17.7% (148 人)、「主として女性の役割」が 1.2% (10 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 0.6% (5 人)、「その他」が 2.0% (17 人)であった。(図 38)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「主として男性の役割」が 50.6% (44 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 25.3% (22 人)、「両方同じ程度の役割」が 21.8% (19 人)、「その他」が 2.3% (2 人)であった。女性 (n=556 人) では「主として男性の役割」が 45.7% (254 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 25.7% (143 人)、「両方同じ程度の役割」が 23.2% (129 人)、「主として女性の役割」が 1.8% (10 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 0.9% (5 人)、「その他」が 2.7% (15 人)であった。(図 39)

図 38 ①生活費を稼ぐ

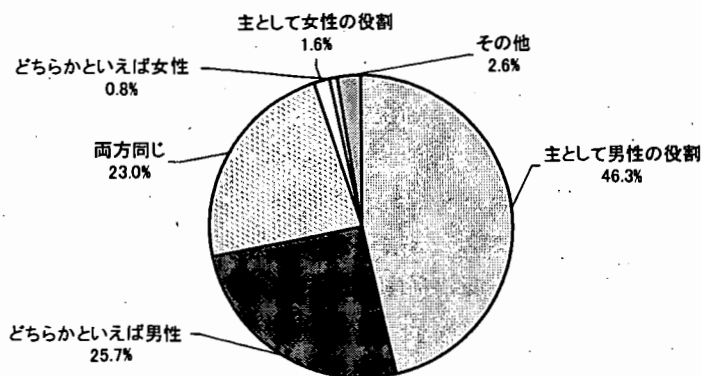
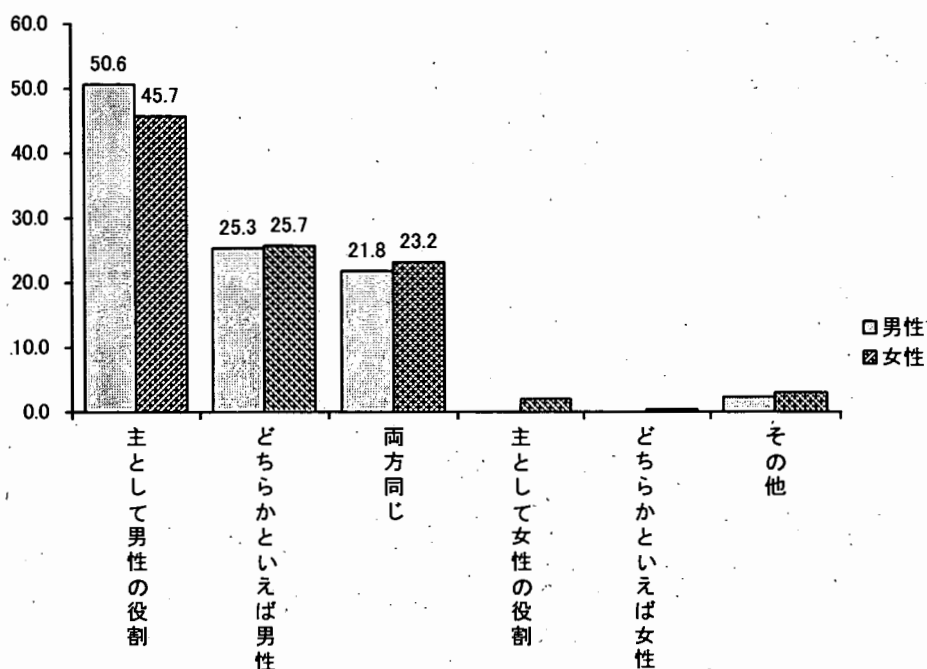


図 39 ①生活費を稼ぐ(男女別)



②「日々の家計の管理をする」では、「主として女性の役割」が 39.7% (331 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 14.7% (123 人)、「両方同じ程度の役割」が 14.6% (122 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 3.2% (27 人)、「主として男性の役割」が 2.0% (17 人)、「その他」が 2.5% (21 人)であった。(図 40)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) は「主として女性の役割」が 44.8% (39 人)、「両方同じ程度の役割」が 25.3% (22 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 20.7% (18 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 4.6% (4 人)、「主として男性の役割」が 1.1% (1 人)、「その他」が 3.4% (3 人)であった。女性 (n=554 人) では「主として女性の役割」が 52.7% (292 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 19.0% (105 人)、「両方同じ程度の役割」が 18.1% (100 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 4.2% (27 人)、「主として男性の役割」が 2.9% (16 人)、「その他」が 3.2% (18 人)であった。(図 41)

図 40 ②日々の家計の管理をする

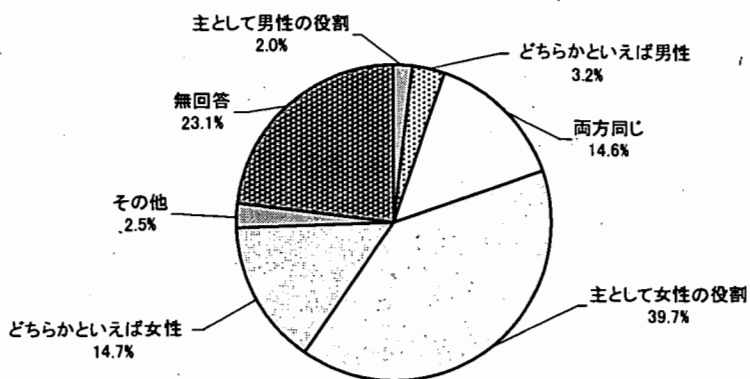
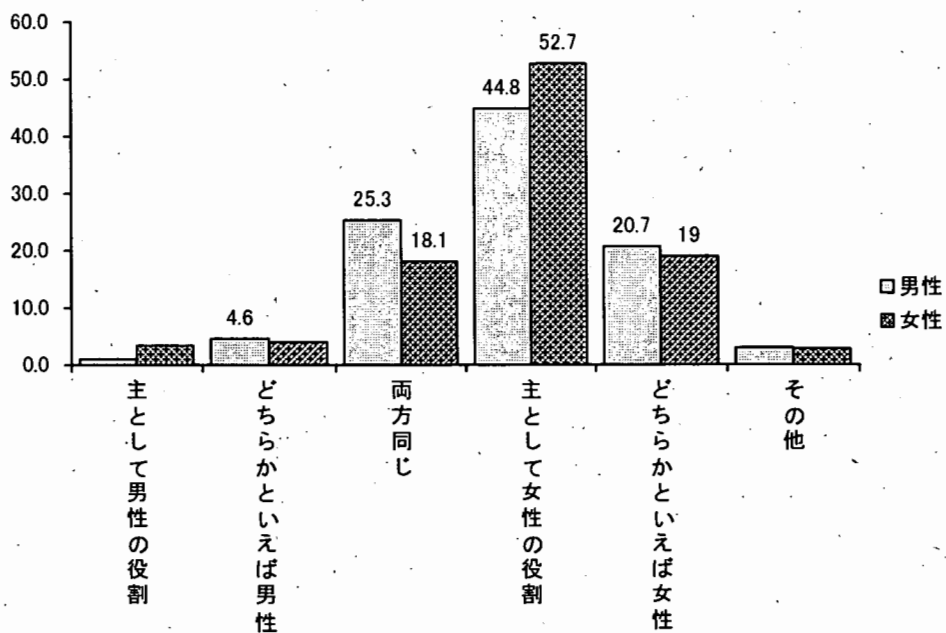


図 41 ②日々の家計の管理をする(男女別)



③「食事の支度をする」では、「主として女性の役割」が50.6%（422人）、「どちらかといえば女性の役割」が16.2%（135人）、「両方同じ程度の役割」が8.0%（67人）、「どちらかといえば男性の役割」が0.5%（4人）、「主として男性の役割」が0.4%（3人）、「その他」が1.3%（11人）であった。（図42）

男女別で見ると、男性（n=87人）は「主として女性の役割」が54.0%（47人）、「どちらかといえば女性の役割」が26.4%（23人）、「両方同じ程度の役割」が12.6%（11人）、「主として男性の役割」が3.4%（3人）、「その他」が3.4%（3人）であった。女性（n=555人）では「主として女性の役割」が67.6%（375人）、「どちらかといえば女性の役割」が20.2%（112人）、「両方同じ程度の役割」が10.1%（56人）、「どちらかといえば男性の役割」が0.4%（4人）、「その他」が1.4%（8人）であった。（図43）

図42 ③食事の支度をする

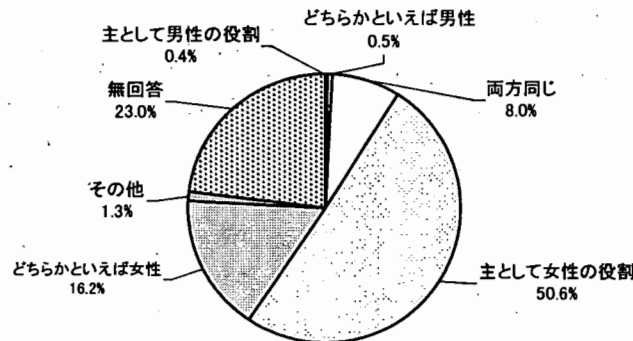
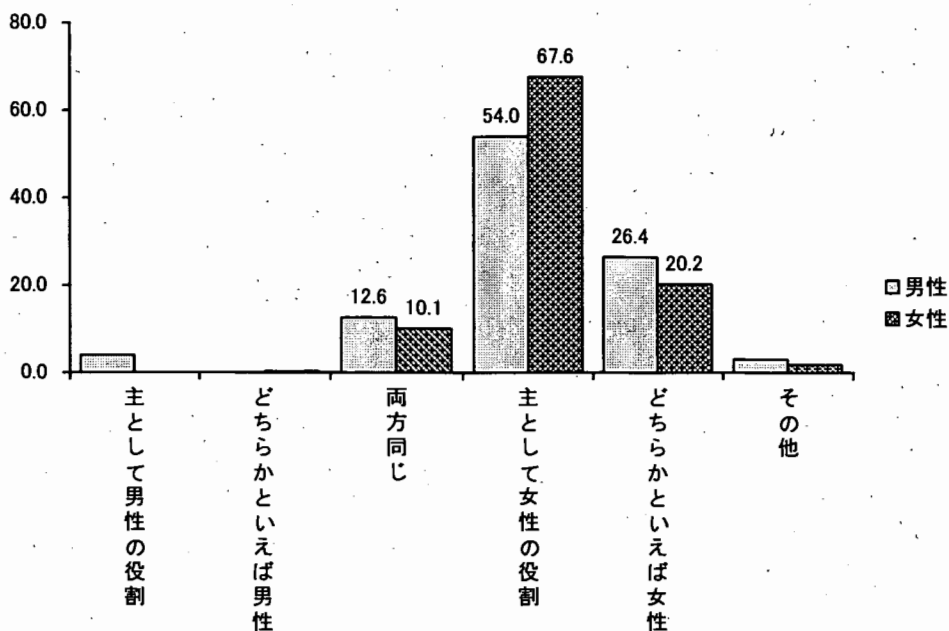


図43 ③食事の支度をする（男女別）



④「食事の後片付けをする」では、「主として女性の役割」が 43.9% (366 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 15.6% (130 人)、「両方同じ程度の役割」が 13.2% (110 人)、「どちらかといえば男性の役割」「主として男性の役割」がともに 1.3% (11 人)、「その他」が 1.7% (14 人)であった。(図 44)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「主として女性の役割」が 41.4% (36 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 27.6% (24 人)、「両方同じ程度の役割」が 19.5% (17 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 4.5% (4 人)、「主として男性の役割」が 2.3% (2 人)、「その他」が 4.6% (4 人)であった。女性 (n=555 人) では「主として女性の役割」が 59.5% (330 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 19.1% (106 人)、「両方同じ程度の役割」が 16.8% (93 人)、「主として男性の役割」が 1.6% (9 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 1.3% (11 人)、「その他」が 1.8% (10 人)であった。(図 45)

図 44 ④食事の後片づけをする

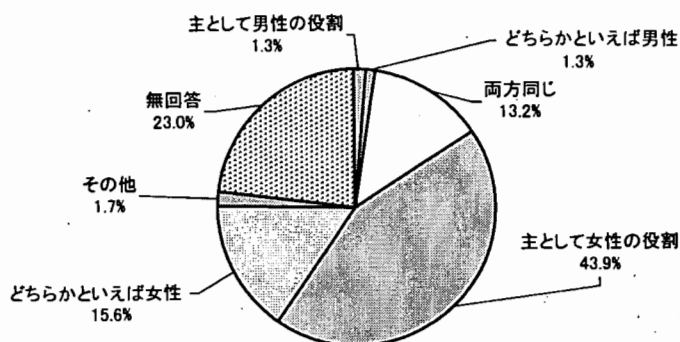
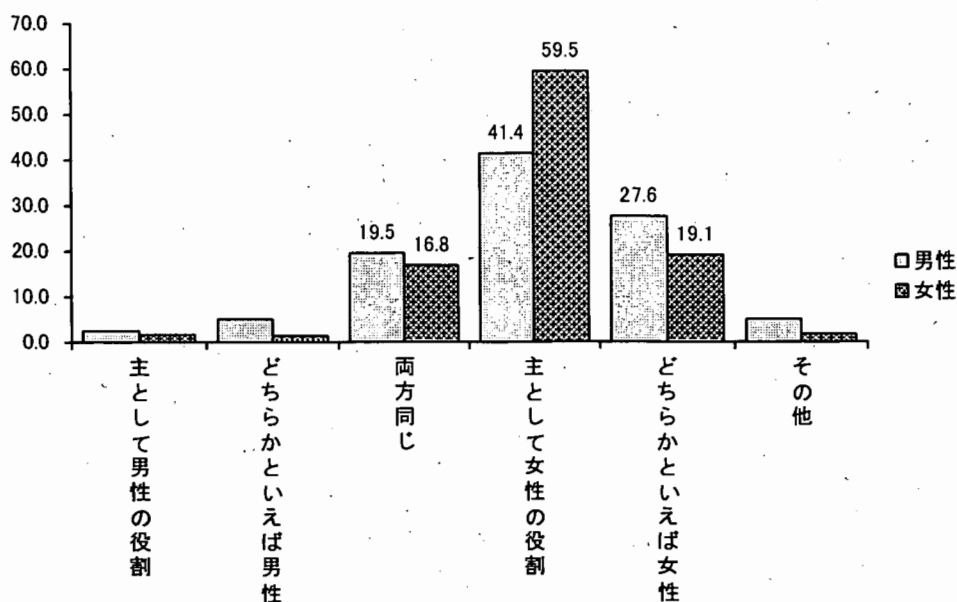


図 45 ④食事の後片づけをする(男女別)



⑤「洗濯をする」では、「主として女性の役割」が 48.9% (408 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 13.9% (116 人)、「両方同じ程度の役割」が 11.0% (92 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.7% (6 人)、「主として男性の役割」が 0.2% (2 人)、「その他」が 1.7% (14 人)であった。(図 46)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「主として女性の役割」が 50.6% (44 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 27.6% (24 人)、「両方同じ程度の役割」が 17.2% (15 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 1.1% (1 人)、「その他」が 3.4% (3 人)であった。女性 (n=551 人) では「主として女性の役割」が 66.1% (364 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 16.7% (92 人)、「両方同じ程度の役割」が 14.0% (77 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.9% (5 人)、「主として男性の役割」が 0.4% (2 人)、「その他」が 2.0% (11 人)であった。(図 47)

図 46 ⑤洗濯をする

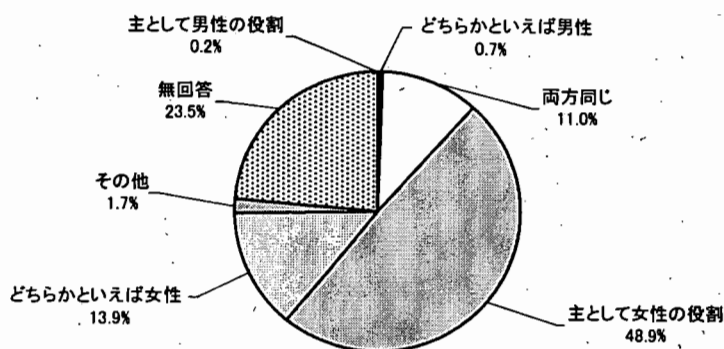
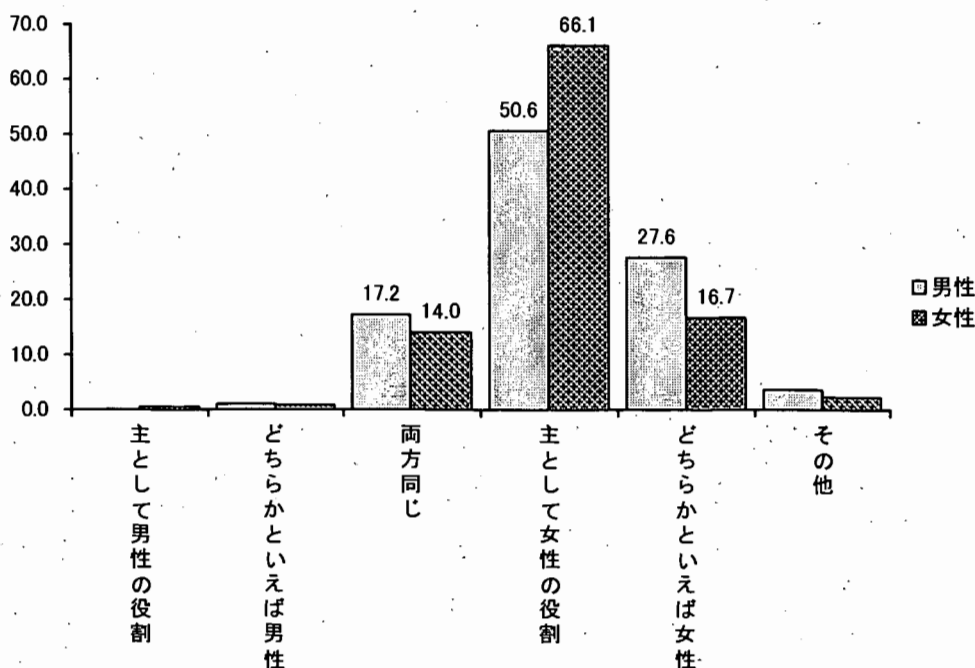


図 47 ⑤洗濯をする(男女別)



⑥「掃除をする」では、「主として女性の役割」が 43.4% (362 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 15.3% (128 人)、「両方同じ程度の役割」が 14.1% (118 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 1.4% (12 人)、「主として男性の役割」が 0.2% (2 人)、「その他」が 2.0% (17 人)であった。(図 48)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「主として女性の役割」が 40.2% (35 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 29.9% (26 人)、「両方同じ程度の役割」が 20.7% (18 人)、「どちらかといえば男性の役割」「主として男性の役割」がともに 2.3% (2 人)、「その他」が 4.6% (4 人)であった。女性 (n=554 人) では「主として女性の役割」が 54.5% (302 人)、「両方同じ程度の役割」が 23.3% (129 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 19.3% (107 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.9% (5 人)、「主として男性の役割」が 0.4% (2 人)、「その他」が 2.4% (13 人)であった。(図 49)

図 48 ⑥掃除をする

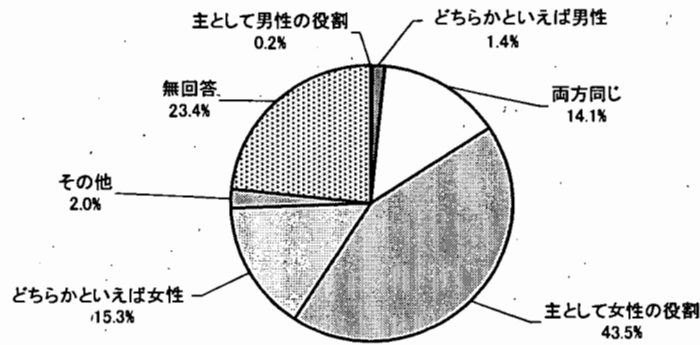
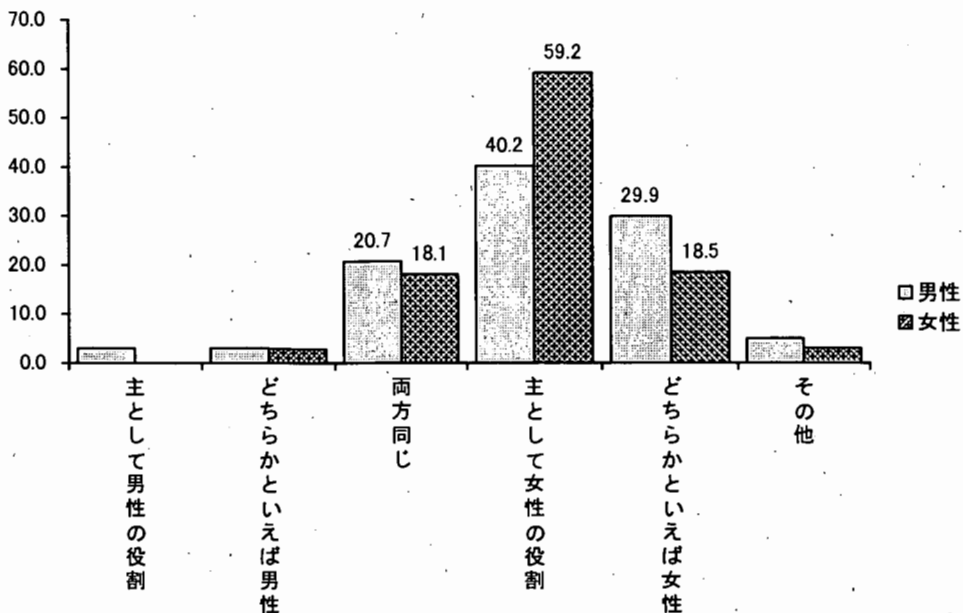


図 49 ⑥掃除をする(男女別)





⑦「買い物をする」では、「主として女性の役割」が 39.6% (330 人)、「両方同じ程度の役割」が 19.5% (163 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 15.2% (127 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.7% (6 人)、「主として男性の役割」が 0.4% (3 人)、「その他」が 1.4% (12 人)であった。(図 50)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「両方同じ程度の役割」が 39.1% (34 人)、「主として女性の役割」が 32.2% (28 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 23.0% (20 人)、「主として男性の役割」「どちらかといえば男性の役割」がともに 1.1% (1 人)、「その他」が 3.4% (3 人)であった。女性 (n=554 人) では「主として女性の役割」が 54.5% (302 人)、「両方同じ程度の役割」が 23.3% (129 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 19.3% (107 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.9% (5 人)、「主として男性の役割」が 0.4% (2 人)、「その他」が 1.6% (9 人)であった。(図 51)

図 50 ⑦買い物をする

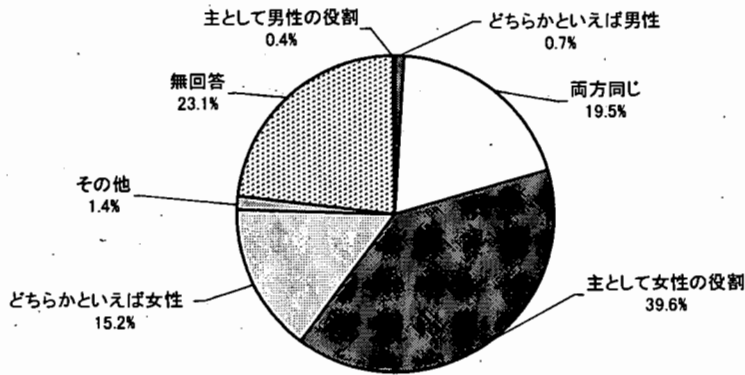
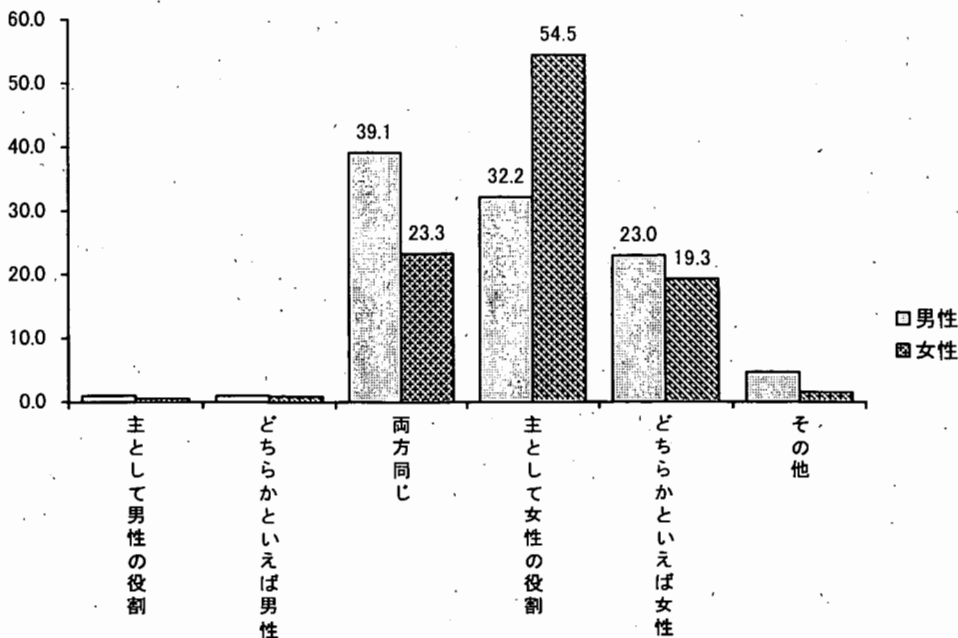


図 51 ⑦買い物をする(男女別)



⑧「老親や病身者介護や看護をする」では、「主として女性の役割」が25.7%（214人）、「両方同じ程度の役割」が20.6%（172人）、「どちらかといえば女性の役割」が11.3%（94）、「どちらかといえば男性の役割」が0.5%（4人）、「その他」が16.2%（135人）であった。（図52）

男女別で見ると、男性（n=84人）では「両方同じ程度の役割」が45.2%（38人）、「主として女性の役割」が16.7%（14人）、「どちらかといえば女性の役割」が11.9%（10人）、「どちらかといえば男性の役割」が2.4%（2人）、「その他」が23.8%（20人）であった。女性（n=535人）では「主として女性の役割」が37.4%（200人）、「両方同じ程度の役割」が25.0%（134人）、「どちらかといえば女性の役割」が15.7%（84人）、「どちらかといえば男性の役割」が0.4%（2人）、「その他」が21.5%（115人）であった。（図53）

図52 ⑧老親や病身者介護や看護をする

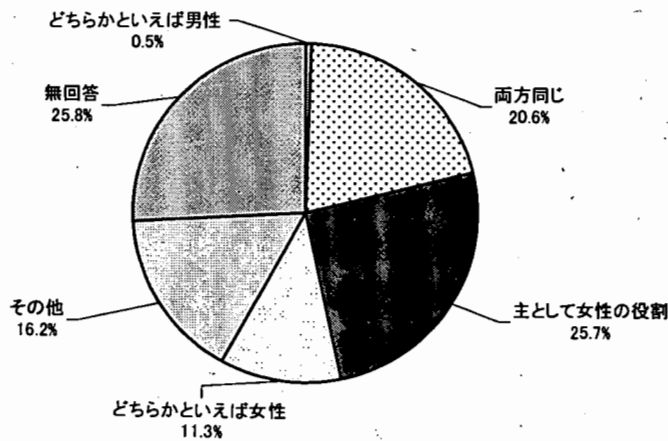
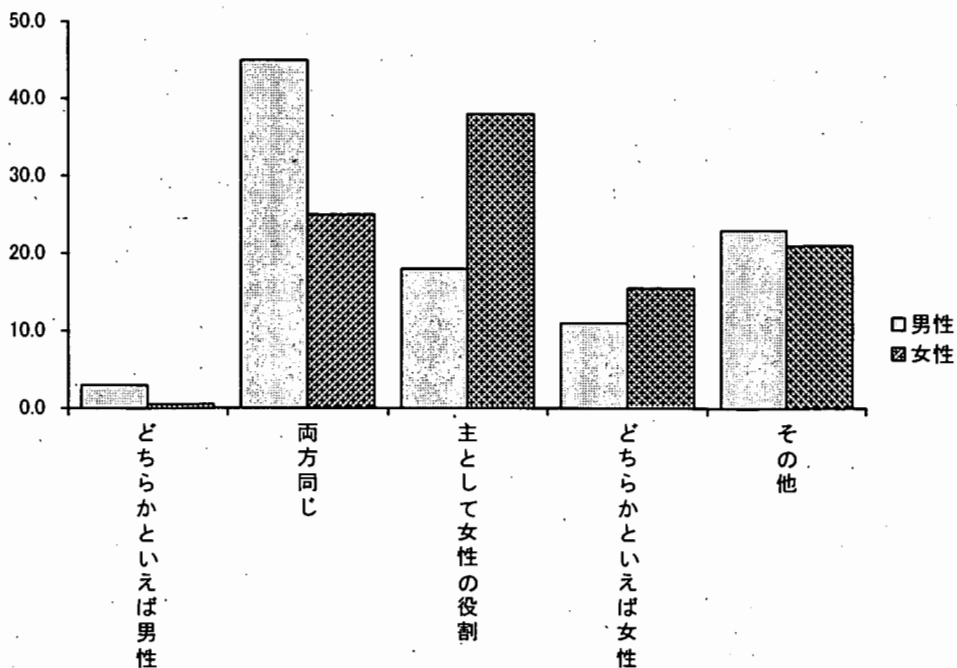


図53 ⑧老親や病身者介護や看護をする(男女別)



⑨「子どもをしつける」では、「両方同じ程度の役割」が 34.5% (288 人)、「主として女性の役割」が 21.3% (178 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 10.6% (88 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.4% (3 人)、「主として男性の役割」が 0.1% (1 人)、「その他」が 7.9% (66 人)であった。(図 54)

男女別で見ると、男性 (n=85 人) では「両方同じ程度の役割」が 72.9% (62 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 8.2% (7 人)、「主として女性の役割」が 5.9% (5 人)、「その他」が 12.9% (11 人)であった。女性 (n=539 人) では「両方同じ程度の役割」が 41.9% (226 人)、「主として女性の役割」が 32.1% (173 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 15.0% (81 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 0.6% (3 人)、「主として男性の役割」が 0.2% (1 人)、「その他」が 10.2% (55 人)であった。(図 55)

図 54 ⑨子どもをしつける

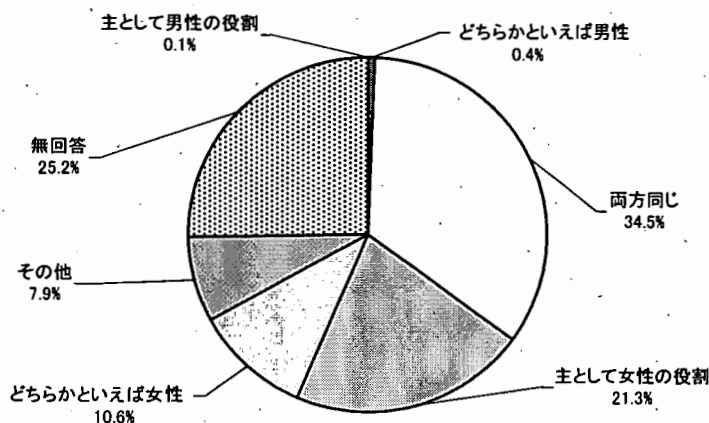
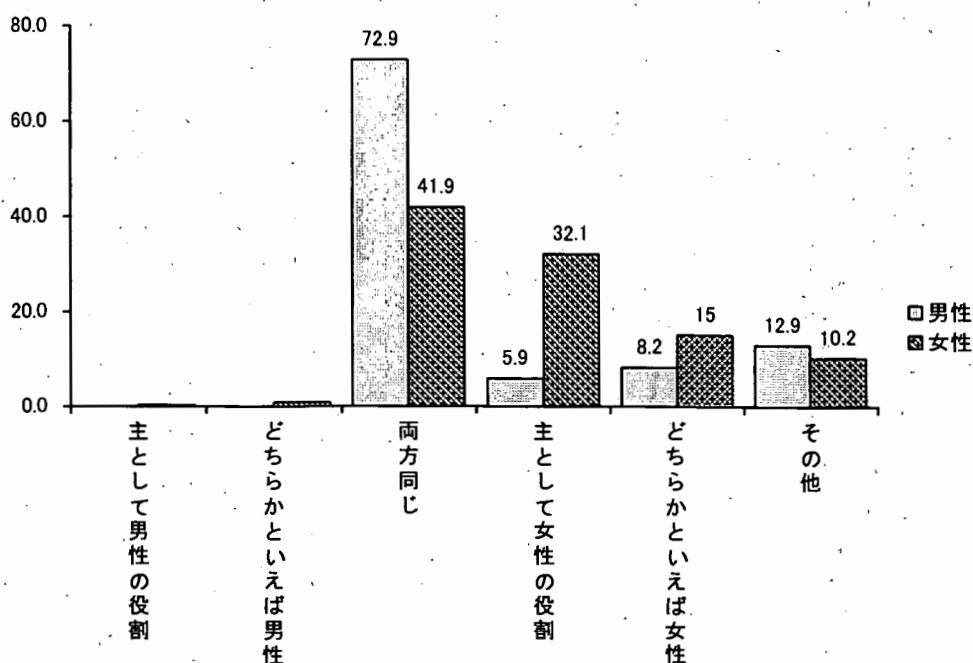


図 55 ⑨子どもをしつける



⑩「外食をするときの支払いをする」では、「主として女性の役割」が 21.2% (177 人)、「両方同じ程度の役割」が 20.4% (170 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 14.3% (119 人)、「主として男性の役割」が 10.9% (91 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 6.6% (55 人)、「その他」が 3.2% (27 人)であった。(図 56)

男女別で見ると、男性 (n=87 人) では「両方同じ程度の役割」が 33.3% (29 人)、「主として女性の役割」が 20.7% (18 人)、「主として男性の役割」が 18.4% (16 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 17.2% (15 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 8.0% (7 人)、「その他」が 2.3% (2 人)であった。女性 (n=552 人) では「主として女性の役割」が 28.8% (159 人)、「両方同じ程度の役割」が 25.5% (141 人)、「どちらかといえば男性の役割」が 18.8% (104 人)、「主として男性の役割」が 13.6% (75 人)、「どちらかといえば女性の役割」が 8.7% (48 人)、「その他」が 4.5% (25 人)であった。(図 57)

図 56 ⑩外食をする時の支払いをする

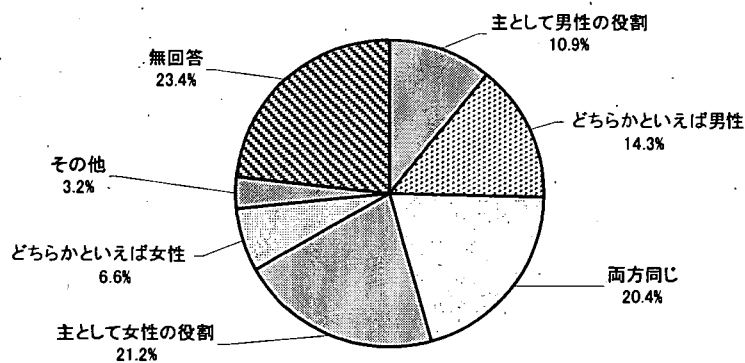
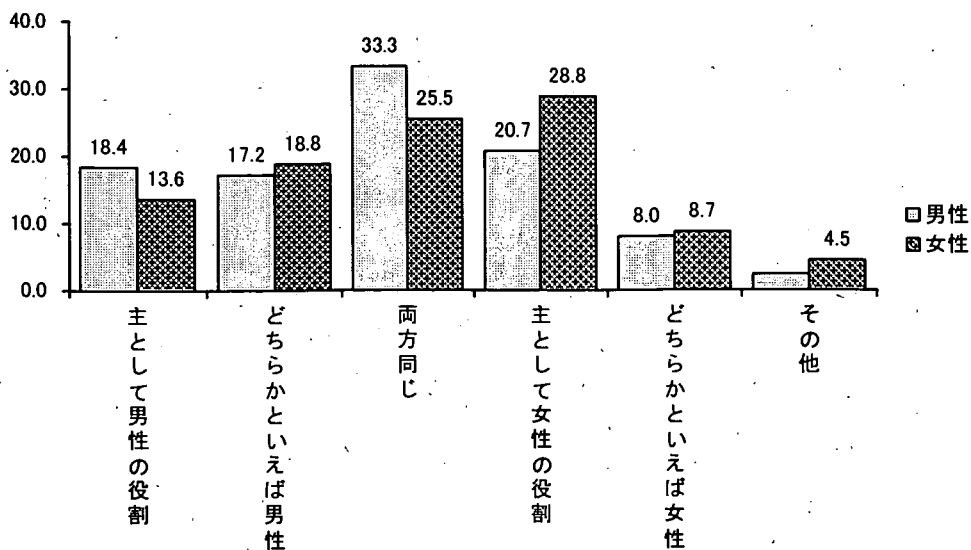


図 57 ⑩外食をする時の支払いをする(男女別)



### 3 暴力認識

ここでは、回答者の日常生活における気持ちや感じ方、また、性格や生活態度について尋ねている。そして、暴力経験によって日常生活にどのような影響があるのか、暴力被害・加害の経験者と、経験のない者との比較を行った。

[1] では、問1で暴力への欲望、問2で暴力への脱感作（刺激に対する感情・感覚が鈍化すること）、問3でいくつかの場面を想定し、対人関係についてきいた。この質問は、平成11年9月に行われた総務庁青少年対策本部による「青少年とテレビ、ゲーム等に係わる暴力性に関する調査」を参考にした。

また[2]では、問1で暴力のある人に、暴力経験の以前と以後での性格や生活態度の変化について尋ねている。経験のない人には、現在の性格や生活態度を尋ねた。この質問は、フェミニストカウンセリング堺DV研究チームによる、1998年の「夫・恋人（パートナー）などからの暴力について」調査報告書を参考にした。

#### [1] 気持ちや感じ方

##### 問1 自身の気持ちについて

①「むしように暴れたくなること」については、「ない」が65.9%（549人）と最も多く、次いで「たまにある」が30.1%（251人）、「よくある」が2.6%（22人）であった。（図58）

男女別で見ると、男性（n=107人）では「ない」が65.4%（70人）、「たまにある」が32.7%（35人）、「よくある」が1.9%（2人）であった。女性（n=715人）では「ない」が67.0%（479人）、「たまにある」が20.9%（150人）、「よくある」が2.8%（20人）であった。（図59）

図58 ①無性に暴れたくなること

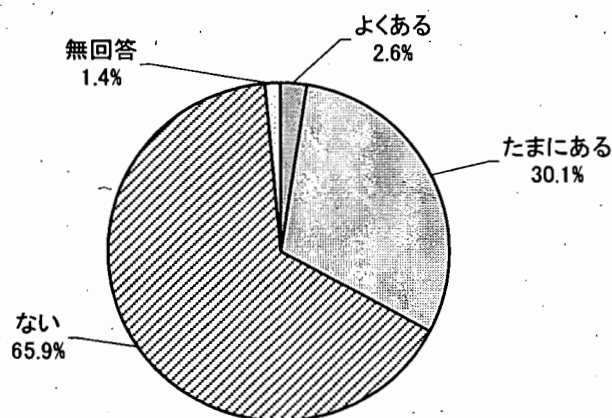
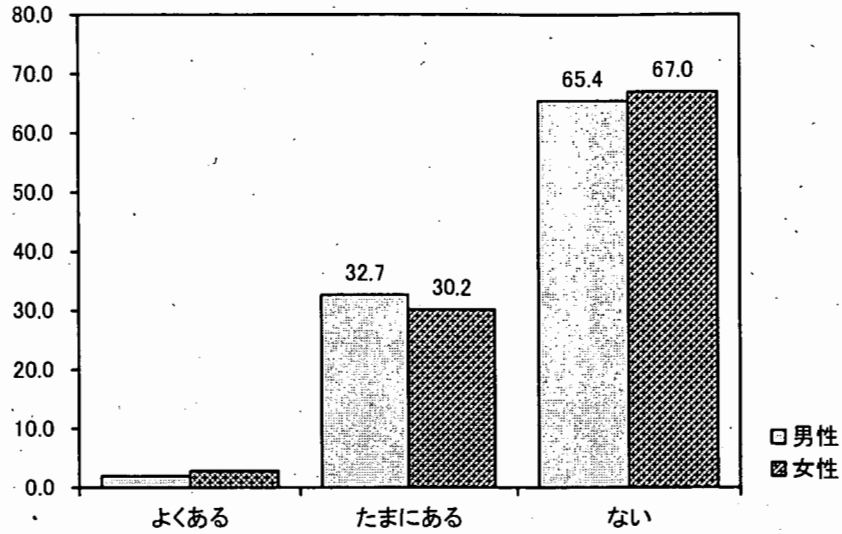


図 59 ①無性に暴れたくなること(男女別)



②「誰かを殴りたくなること」では、「ない」が76.8% (641人)で、「たまにある」が19.8% (165人)、「よくある」が2.2% (18人)であった。(図 60)

男女別に見ると、男性 (n=107人) では「ない」が84.1% (90人)、「たまにある」が14.0% (15人)、「よくある」が1.9% (2人)であった。女性 (n=717人) では「ない」が76.8% (551人)、「たまにある」が20.9% (150人)、「よくある」が2.2% (16人)であった。(図 61)

図 60 ②誰かを殴りたくなること

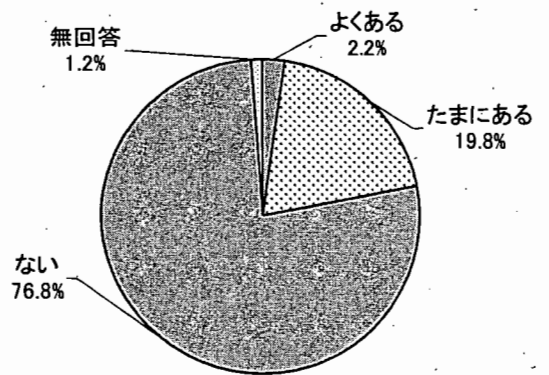
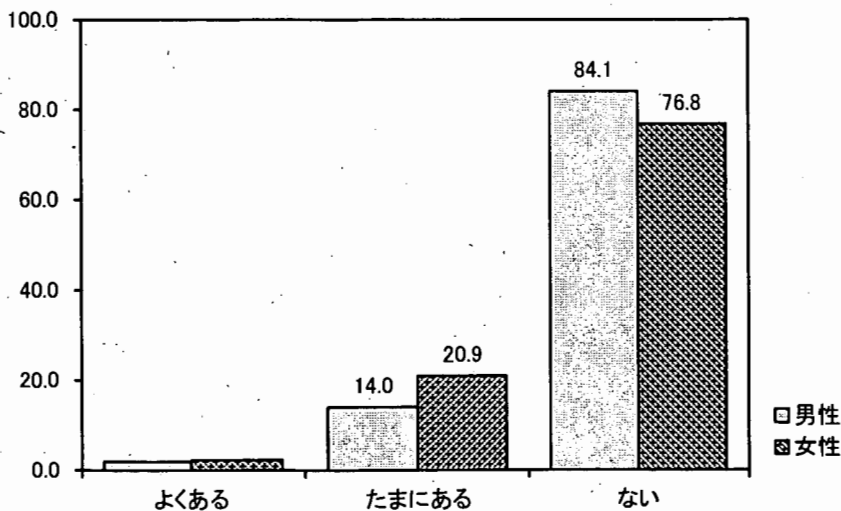


図 61 ②誰かを殴りたくなること(男女別)



③「けんかが強くなりたと思うことが」では、「ない」が 63.0% (525 人)、「たまにある」が 24.1% (201 人)、「よくある」が 11.5% (96 人)であった。(図 62)

男女別に見ると、男性 (n=107 人) では「ない」が 58.9% (63 人)、「たまにある」が 29.9% (32 人)、「よくある」11.2% (12 人)であった。女性 (n=715 人) では「ない」が 64.6% (462 人)、「たまにある」が 23.6% (169 人)、「よくある」が 11.7% (84 人)であった。(図 63)

図 62 ③ケンカが強くなりたと思うこと

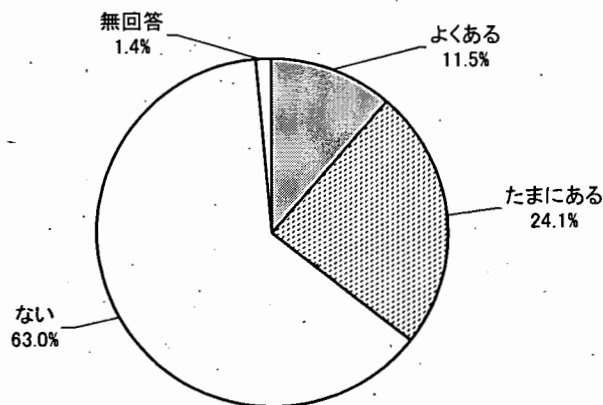
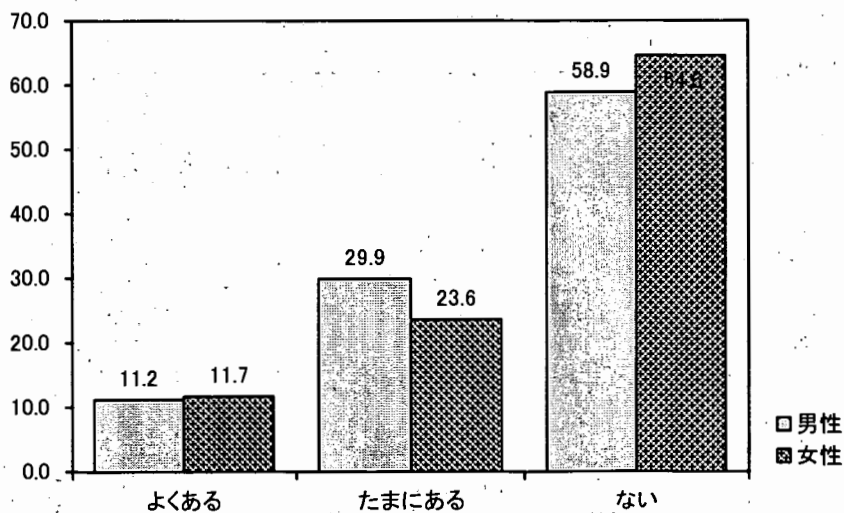


図 63 ③ケンカが強くなりたと思うこと(男女別)



④「自分を守るために、ナイフなどを持っていたいと思うことが」では、「ない」が90.3%（753人）、「たまにある」が6.0%（50人）、「よくある」が2.3%（19人）であった。（図64）

男女別で見ると、男性（n=107人）では「ない」が92.5%（99人）、「たまにある」が7.5%（8人）であった。女性（n=715人）では「ない」が91.5%（654人）、「たまにある」が5.9%（42人）、「よくある」が2.7%（19人）であった。（図65）

図64 ④自分を守るためにナイフなどを持っていたいと思うこと

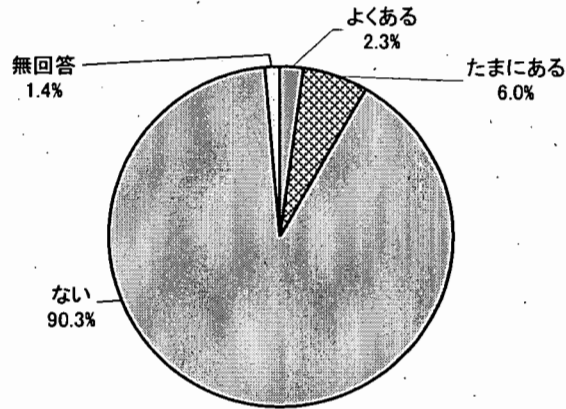
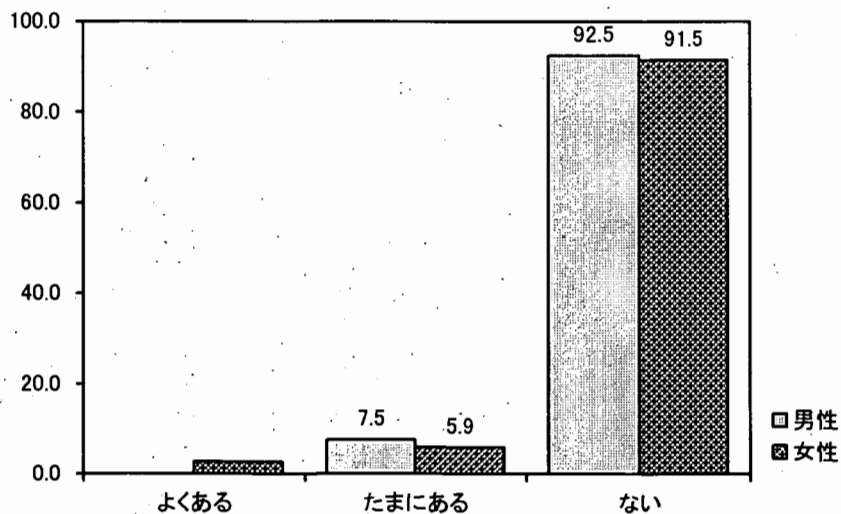


図65 ④自分を守るためにナイフを持っていたいと思うこと(男女別)





⑤「いじめ、嫌がらせをされないかと心配することが」では、「ない」が 52.1% (435 人)、「たまにある」が 31.7% (264 人)、「よくある」が 15.2% (127 人)であった。(図 66)

男女別に見ると、男性 (n=107 人) では「ない」が 73.8% (79 人)、「たまにある」が 23.4% (25 人)、「よくある」が 2.8% (3 人)であった。女性 (n=719) では「ない」が 49.5% (356 人)、「たまにある」が 33.2% (239 人)、「よくある」が 17.2% (124 人)であった。(図 67)

図 66 ⑤いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配すること

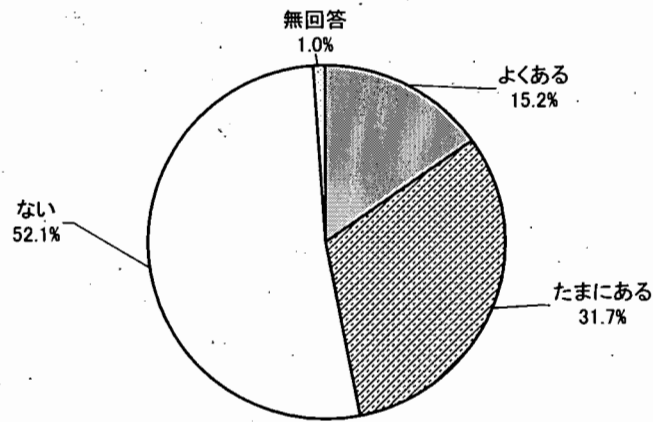
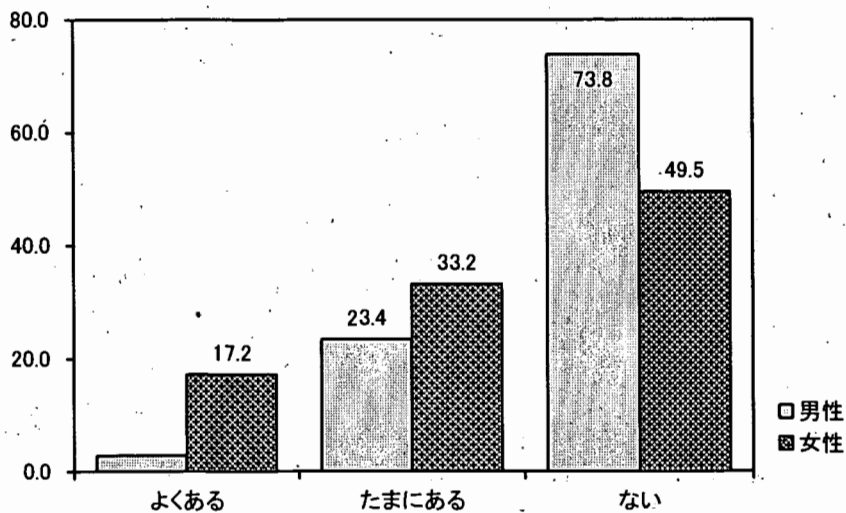


図 67 ⑤いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配すること(男女別)



問2 自身の感じ方について（テレビや映画のシーン）

①「人が殴られるシーンを見ると、嫌な気持ちになることが」では、「よくある」が57.5%（480人）、「たまにある」が32.5%（271人）、「ない」が8.8%（73人）であった。（図68）

男女別で見ると、男性（n=106人）では「たまにある」が44.3%（47人）、「よくある」が36.8%（39人）、「ない」が18.9%（20人）であった。女性（n=718人）では「よくある」が61.4%（441人）、「たまにある」が31.2%（224人）、「ない」が7.4%（53人）であった。（図69）

図68 ①人が殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになること

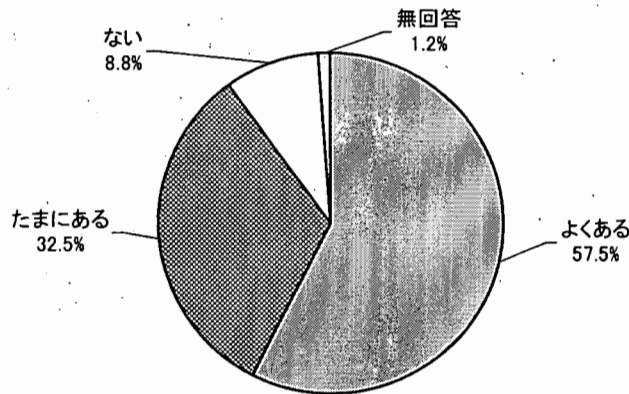
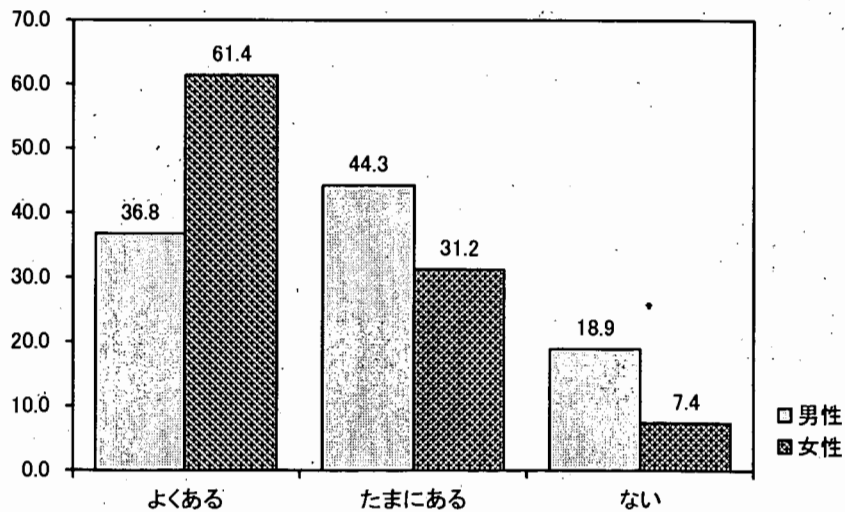


図69 ①人が殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになること（男女別）



②「血が飛び散ったりするシーンを見ると、嫌な気持ちになることが」では、「よくある」が64.9% (542人)、「たまにある」が25.8% (215人)、「ない」が8.2% (68人)であった。(図70)

男女別で見ると、男性(n=106人)では「たまにある」が47.2%(50人)、「よくある」が38.7%(41人)、「ない」が14.2%(15人)であった。女性(n=719人)では「よくある」が69.7%(501人)、「たまにある」が22.9%(165人)、「ない」が7.4%(53人)であった。(図71)

図70 ②血が飛び散ったりするシーンを見ると嫌な気持ちになること

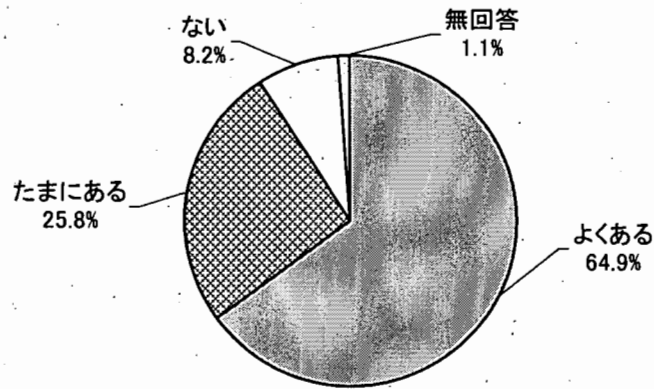
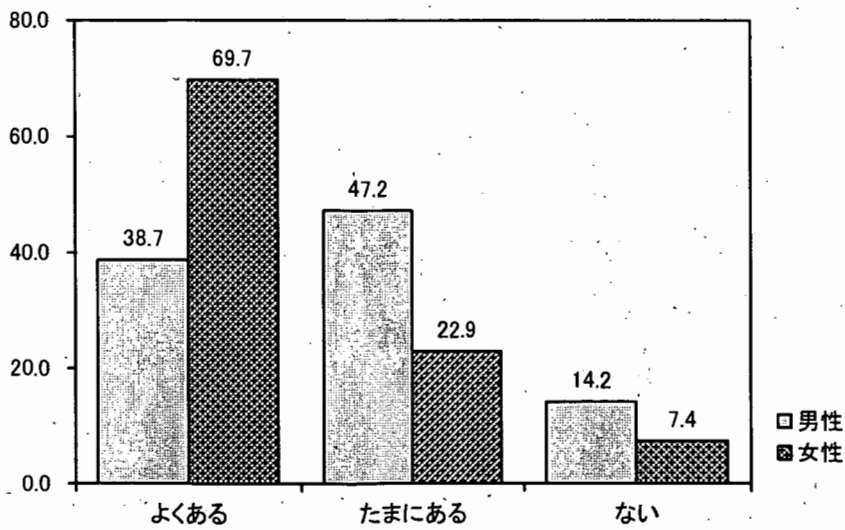


図71 ②血が飛び散ったりするシーンを見ると嫌な気持ちになること

(男女別)



③「バラエティー番組で、人をどついて笑うシーンを見ると、嫌な気持ちになることが」では、「よくある」が50.8% (424人)、「たまにある」が36.5% (304人)、「ない」が11.9% (99人)であった。(図72)

男女別で見ると、男性(n=106人)では「たまにある」が42.5% (45人)、「よくある」が30.2% (32人)、「ない」が27.4% (29人)であった。女性(n=721人)では「よくある」が54.5% (392人)、「たまにある」が35.9% (259人)、「ない」が9.7% (70人)であった。(図73)

図72 ③人をどついて笑うシーンを見ると嫌な気持ちになること

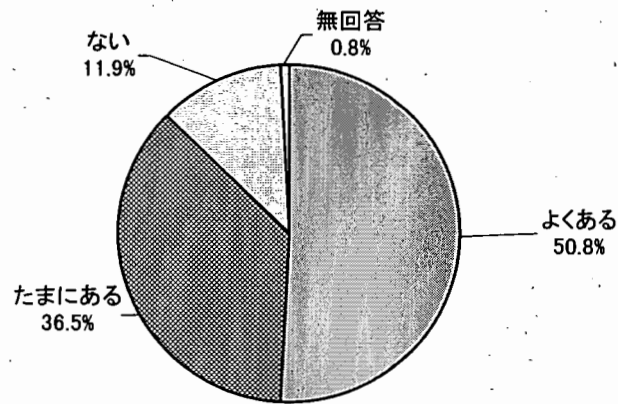
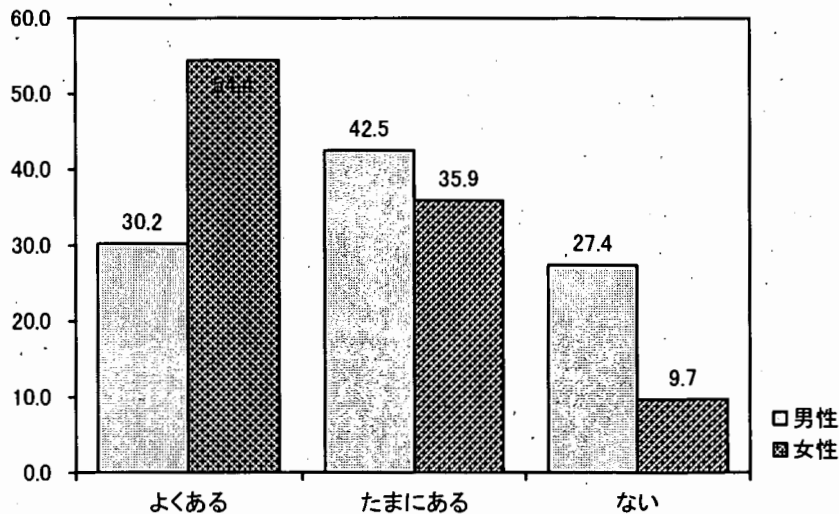


図73 ③人をどついて笑うシーンを見ると嫌な気持ちになること(男女別)



④「悪いやつが主人公に殺されるシーンを見ると、すっきりした気持ちになることが」では、「たまにある」が49.5% (413人)、「ない」が35.1% (293人)、「よくある」が13.8% (115人)であった。(図74)

男女別で見ると、男性 (n=104人) では「たまにある」が51.9% (54人)、「ない」が27.9% (29人)、「よくある」が20.2% (21人)であった。女性 (n=717人) では「たまにある」が50.1% (413人)、「ない」が36.8% (264人)、「よくある」が13.1% (94人)であった。(図75)

図74 ④悪い奴が主人公に殺されるシーンを見るとすっきりした気持ちになること

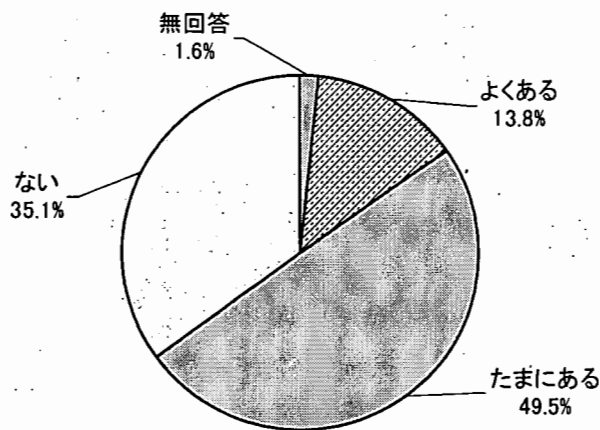
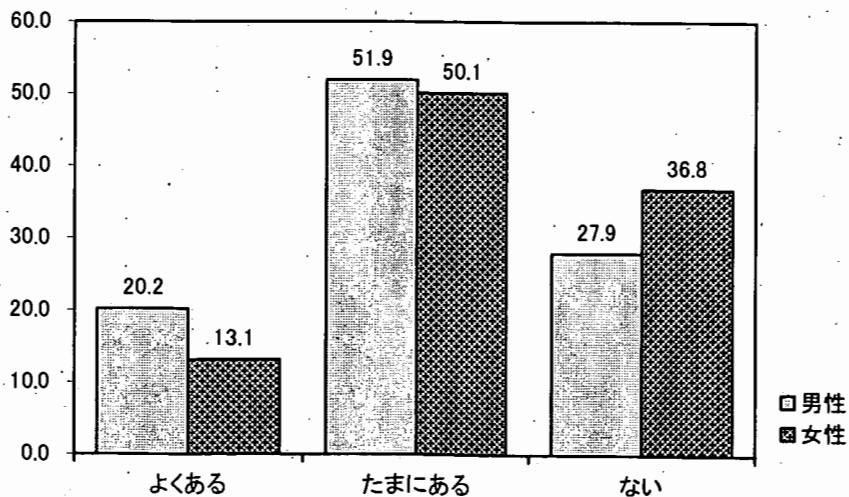


図75 ④悪い奴が主人公に殺されるシーンを見るとすっきりした気持ちになること (男女別)



問3 人との関係について（自分が悪くないのに）

①「友達に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが」では、「たまにある」が47.7%（398人）、「ない」が34.9%（291人）、「よくある」が15.5%（129人）であった。（図76）

男女別で見ると、男性（n=106人）では「ない」が49.1%（52人）、「たまにある」が44.3%（47人）、「よくある」が6.6%（7人）であった。女性（n=712人）では「たまにある」が49.3%（351人）、「ない」が33.6%（239人）、「よくある」が17.1%（122人）であった。（図77）

図76 ①友達に怒られたときうまく言葉で説明できないこと

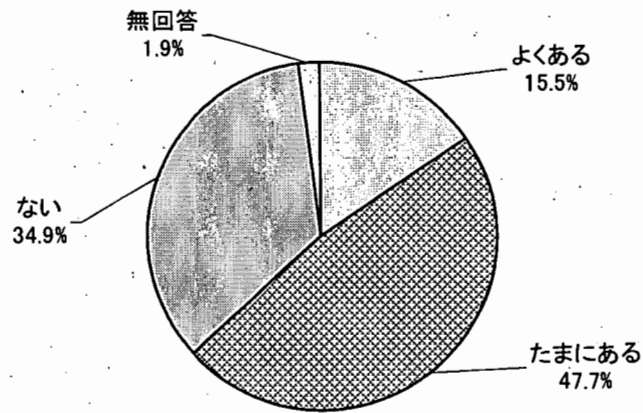
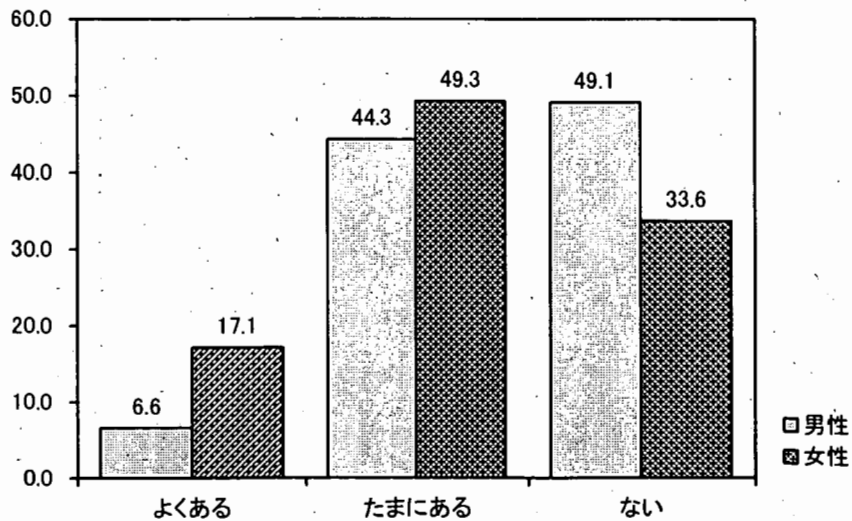


図77 ①友達に怒られたとき言葉でうまく説明できないこと（男女別）



②「目上の人に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが」では、「たまにある」が51.3% (427人)、「よくある」が24.3% (203人)、「ない」が22.4% (187人)であった。(図78)

男女別で見ると、男性(n=107人)では「たまにある」が52.3%(56人)、「ない」が32.7%(35人)、「よくある」が15.0%(16人)であった。女性(n=710人)では「たまにある」が52.3%(371人)、「よくある」が26.3%(187人)、「ない」が21.4%(152人)であった。(図79)

図78 ②目上の人に怒られたときうまく説明できないこと

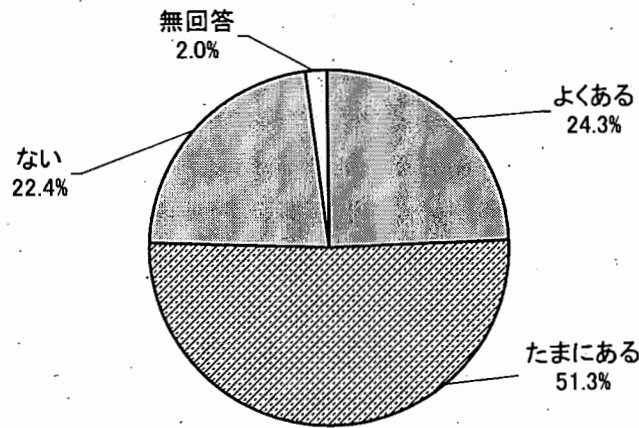
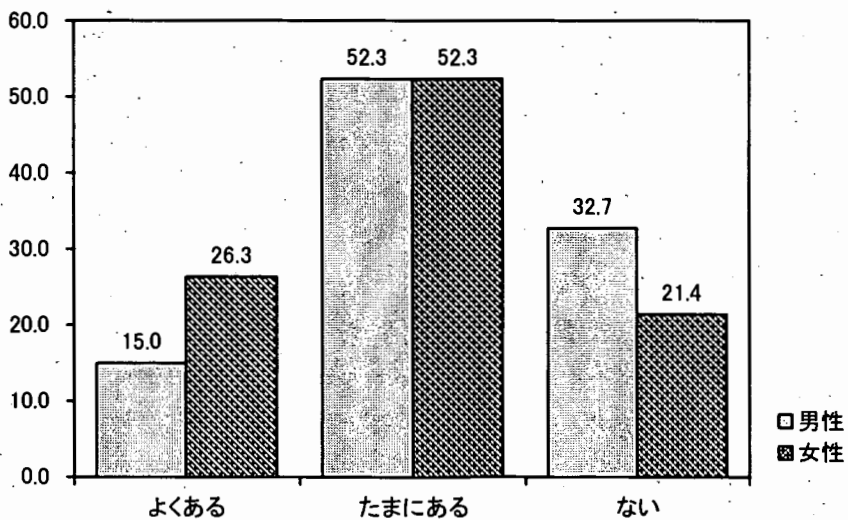


図79 ②目上の人に怒られたとき言葉でうまく説明できないこと(男女別)



③「親に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが」では、「ない」が40.2%（335人）、  
「たまにある」が38.5%（321人）、「よくある」が17.9%（149人）であった。（図80）

男女別で見ると、男性（n=105人）では「ない」が56.2%（59人）、「たまにある」が38.1%  
（40人）、「よくある」が5.7%（6人）であった。女性（n=700人）では「たまにある」が40.1%  
（281人）、「ない」が39.4%（276人）、「よくある」が20.4%（143人）であった。（図81）

図80. ③親に怒られたとき言葉でうまく説明できない

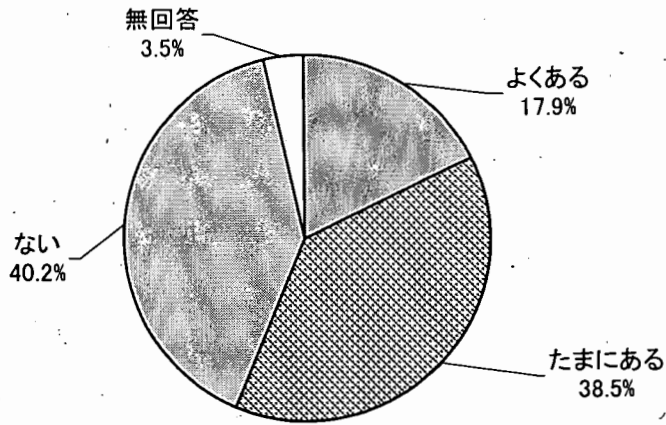
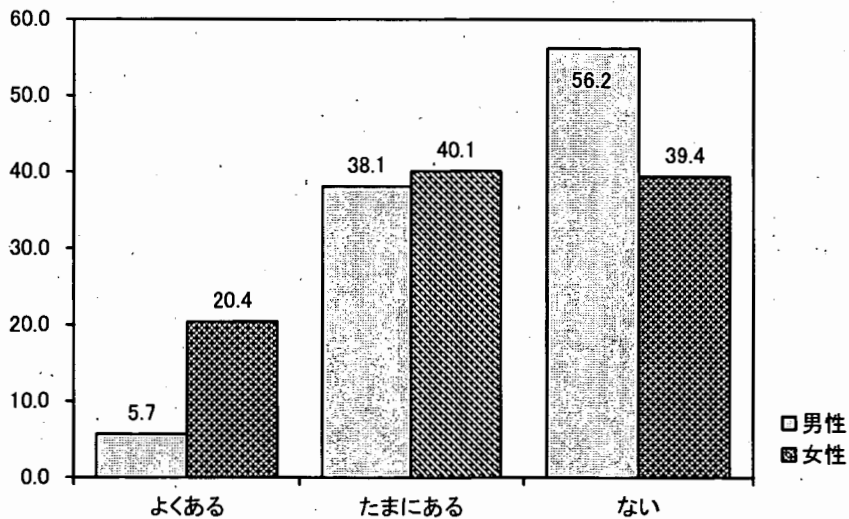


図81 ③親に怒られたとき言葉でうまく説明できないこと(男女別)





④「後輩（部下）に責められたとき言葉でうまく説明できないことが」では、「ない」が44.8%（374人）、「たまにある」が40.5%（338人）、「よくある」が10.9%（91人）であった。（図82）  
 男女別で見ると、男性（n=106人）では「ない」が57.5%（61人）、「たまにある」が35.8%（38人）、「よくある」が6.6%（7人）だった。女性（n=697人）では「ない」が44.9%（313人）、「たまにある」が43.0%（300人）、「よくある」が12.1%（84人）であった。（図83）

図82 ④後輩に責められたとき言葉でうまく説明できない

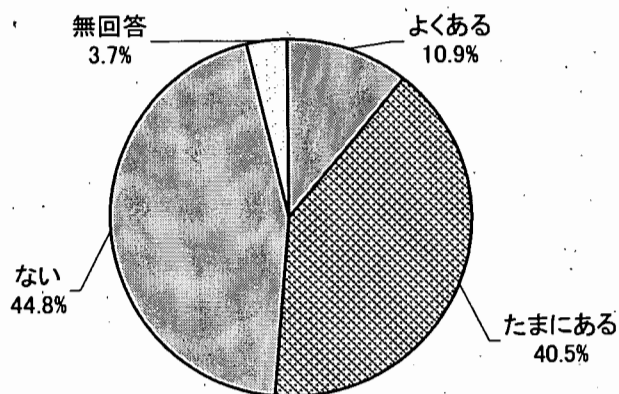
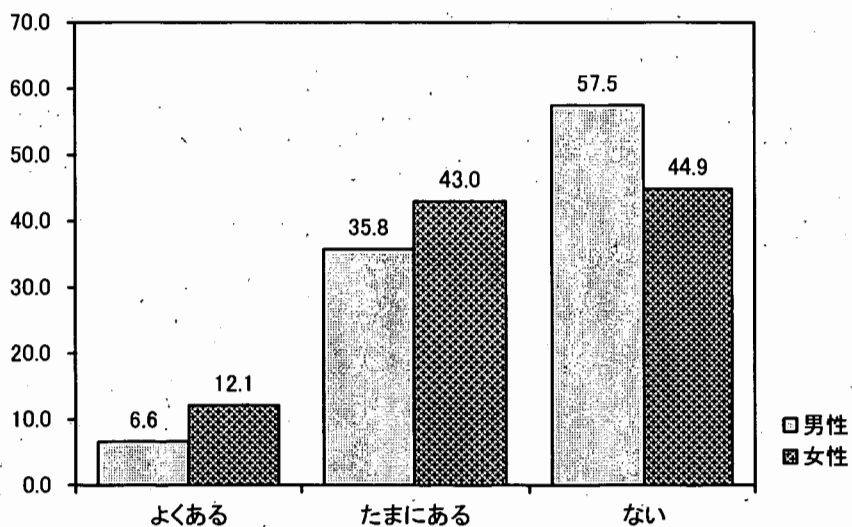


図83 ④後輩に責められたとき言葉でうまく説明できないこと(男女別)



⑤「配偶者（パートナー）に責められたとき言葉でうまく説明できないことが」では、「たまにある」が37.4%（312人）、「よくある」が29.5%（246人）、「ない」が、28.9%（241人）であった。（図84）

男女別で見ると、男性（n=102人）では「たまにある」が42.2%（43人）、「ない」が41.2%（42人）、「よくある」が16.7%（17人）であった。女性（n=697人）では「たまにある」が38.6%（269人）、「よくある」が32.9%（229人）、「ない」が28.6%（199人）であった。（図85）

図84 ⑤配偶者（パートナー）に責められたとき言葉でうまく説明できない

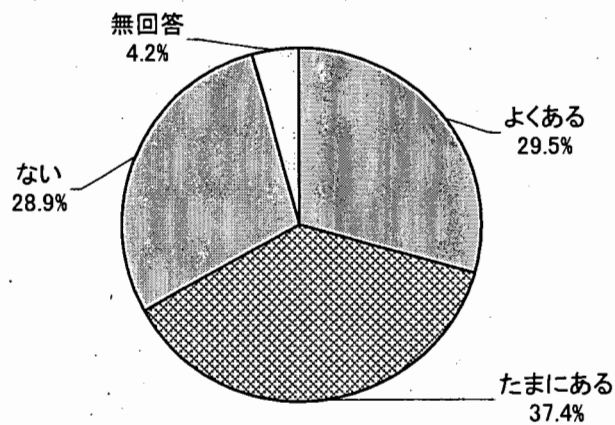
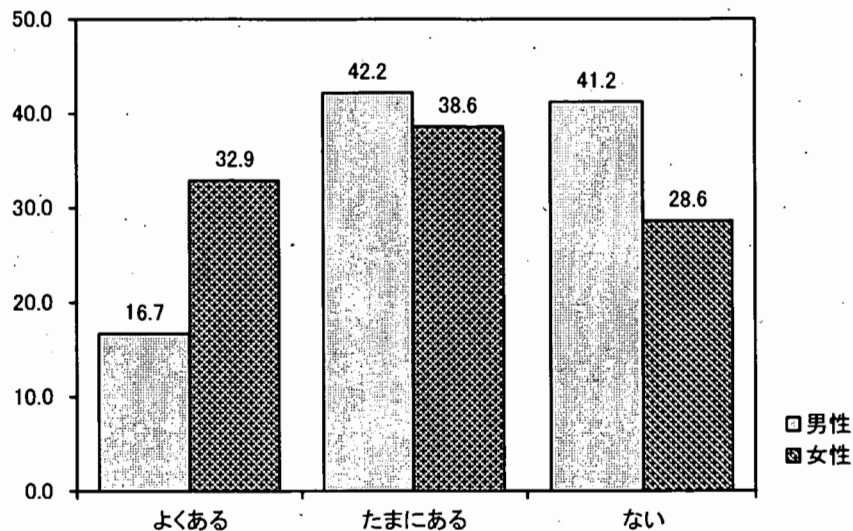


図85 ⑤配偶者（パートナー）に責められたとき言葉でうまく説明できないこと（男女別）

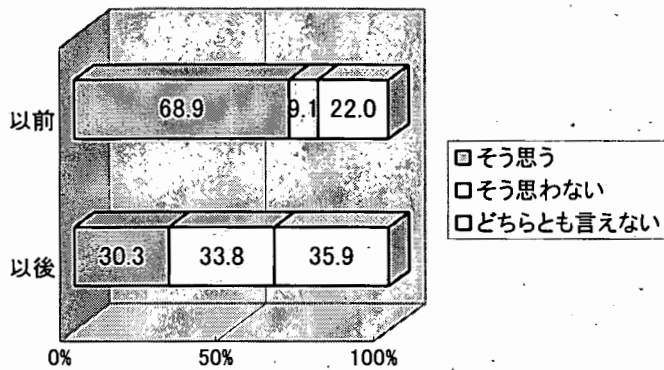


[2] 性格や生活態度

問 1 暴力の受けた経験、ふるった経験のある方で、暴力に悩むようになってからと、それ以前の性格や生活態度の変化について

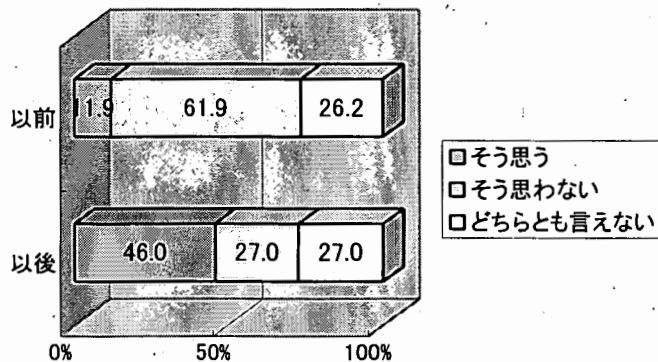
「明るく元気な方である」について、以前では「そう思う」が 68.9% (294 人)、「どちらとも言えない」は 22.0% (94 人)、「そう思わない」は 9.1% (39 人)であった。以後では「どちらとも言えない」が 35.9% (155 人)で、「そう思わない」が 33.8% (146 人)、「そう思う」が 30.3% (131 人)であった。(図 86)

図 86 ①明るく元気な方である



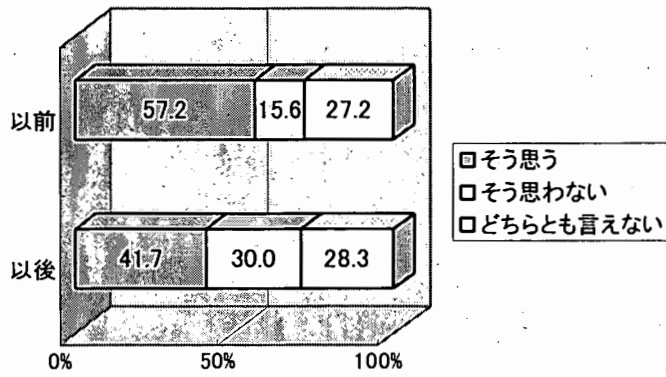
「人との付き合いがおっくうである」では、以前は「そう思わない」が 61.9% (265 人)、「どちらともいえない」が 26.2% (112 人)、「そう思う」が 11.9% (51 人)であった。以後では、「そう思う」が 46.0% (198 人)、「どちらともいえない」「そう思わない」は同じ 27.0% (116 人)であった。(図 87)

図 87 人との付き合いがおっくうである



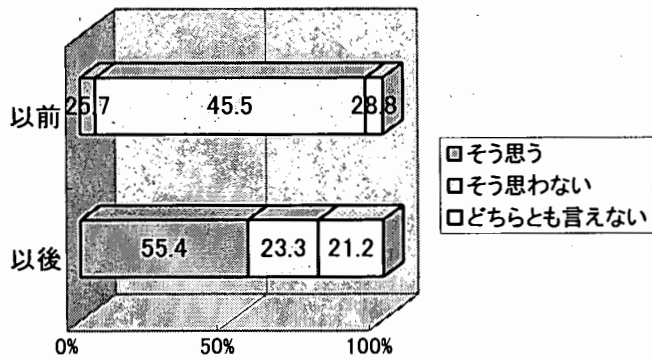
「自分を大切に感じているし、自分が好きである」では、以前は「そう思う」が 57.2% (242 人)、「どちらともいえない」は 27.2% (115 人)、「そう思わない」は 15.6% (66 人)であった。以後では、「そう思う」が 41.7% (178 人)、「そう思わない」が 30.3% (128 人)、「どちらとも言えない」は 28.3% (121 人)であった。(図 88)

図 88 ③自分を大切だと感じているし、自分が好きである



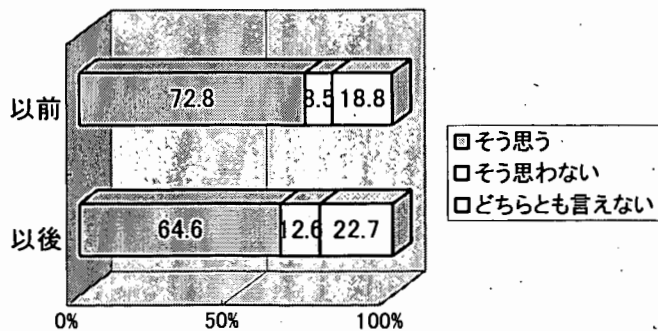
「なんとなく自信が無い」では、以前は「そう思わない」は45.5%（193人）、「どちらともいえない」は28.8%（122人）、「そう思う」は25.7%（109人）であった。以後では、「そう思う」が55.4%（235人）、「そう思わない」が23.3%（99人）、「どちらともいえない」が21.2%（90人）であった。（図 89）

図 89 ④何となく自信がない



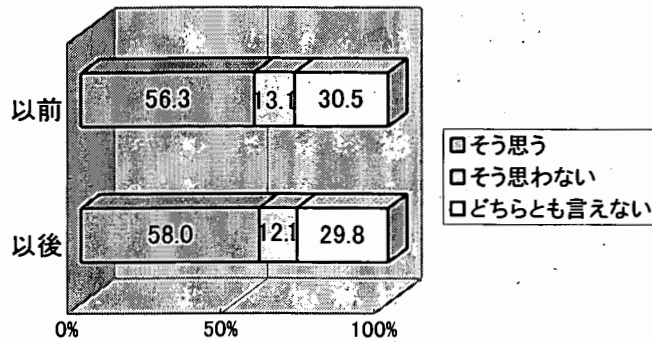
「頼られると嫌と言えないタイプ」では、以前は「そう思う」が72.8%（310人）、「どちらともいえない」が18.8%（80人）、「そう思わない」が8.5%（36人）であった。以後では、「そう思う」が64.6%（276人）、「どちらともいえない」が22.7%（97人）、「そう思わない」が12.6%（54人）であった。（図 90）

図 90 ⑤頼られると嫌と言えないタイプである



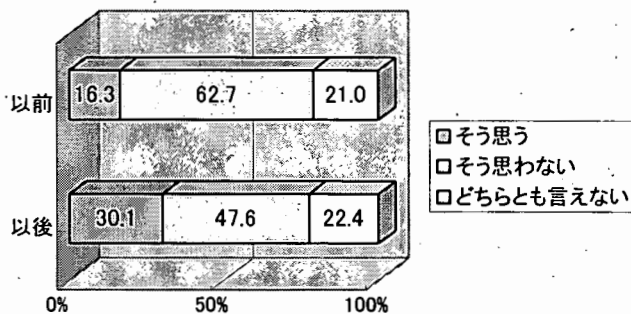
「自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い」では、以前は「そう思う」が56.3% (240人)、「どちらとも言えない」が30.5% (130人)、「そう思わない」は13.1% (56人)であった。以後では、「そう思う」が58.0% (249人)、「どちらとも言えない」が29.8% (128人)、「そう思わない」が12.1% (52人)であった。(図91)

図91 ⑥自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い



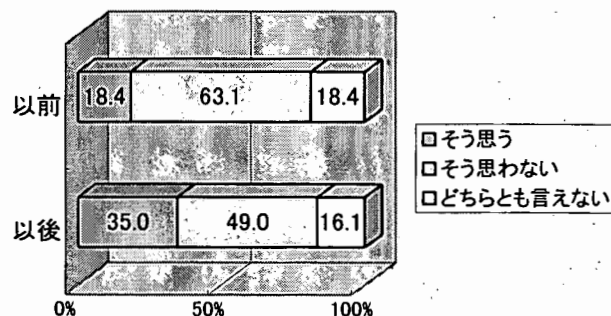
「自分で物事を決めることが苦手である」では、以前は「そう思わない」が62.7% (266人)、「どちらとも言えない」が21.0% (89人)、「そう思う」が16.3% (69人)であった。以後では、「そう思わない」が47.6% (204人)、「そう思う」が30.1% (129人)、「どちらとも言えない」が22.4% (96人)であった。(図92)

図92 ⑦自分でものごとを決めることが苦手である



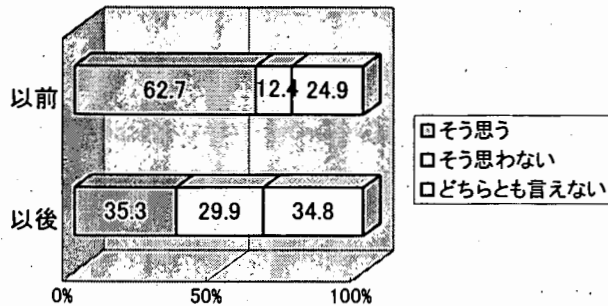
「1人でいると不安になる」では、以前は「そう思わない」が63.1% (266人)、「そう思う」「どちらとも言えない」がともに18.4% (78人)であった。以後では「そう思わない」が49.0% (210人)、「そう思う」が35.0% (150人)、「どちらとも言えない」が16.1% (69人)であった。(図93)

図93 ⑧1人でいると不安になる



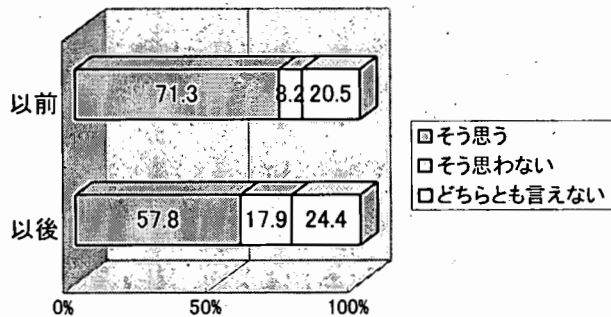
「好奇心が旺盛で、行動的である」では、以前は「そう思う」は62.7% (267人)、「どちらともいえない」は24.9% (106人)、「そう思わない」は12.4% (53人)であった。以後では、「そう思う」が35.3% (152人)、「どちらともいえない」が34.8% (15人)、「そう思わない」が29.9% (129人)であった。(図94)

図94 ⑨好奇心が旺盛で、行動的である



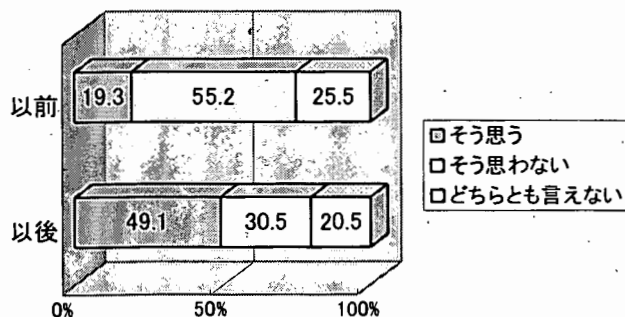
「物事にすぐ感動する方である」では、以前は「そう思う」が71.3% (303人)、「どちらともいえない」が20.5% (87人)、「そう思わない」が8.2% (35人)であった。以後では、「そう思う」が57.8% (249人)、「どちらともいえない」が24.4% (105人)、「そう思わない」が17.9% (77人)であった。(図95)

図95 ⑩物事にすぐ感動する方である



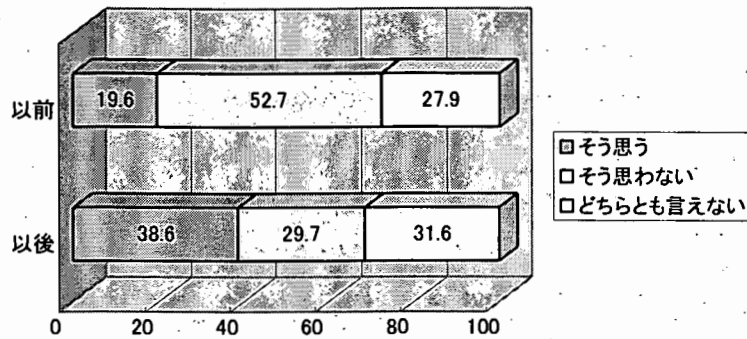
「自分が何をしたいのかよくわからないことがある」では、以前は「そう思わない」が55.2% (234人)、「どちらともいえない」が25.5% (108人)、「そう思う」が19.3% (82人)であった。以後では、「そう思う」が49.1% (211人)、「そう思わない」が30.5% (131人)、「どちらともいえない」が20.5% (88人)であった。(図96)

図96 ⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある



「最初から上手くいかない、失敗すると、あきらめることがある」では、以前は「そう思わない」が52.7% (223人)、「どちらともいえない」が27.9% (118人)、「そう思う」が19.6% (82人)であった。以後では、「そう思う」が38.6% (165人)、「どちらともいえない」が31.6% (135人)、「そう思わない」が29.7% (127人)であった。(図97)

図97 ⑫最初からうまくいかないなどとあきらめることがある



問2 暴力経験のない方の性格や生活態度について (図98)

「明るく元気な方である」について、「そう思う」が65.6% (248人)、「どちらともいえない」が27.8% (105人)、「そう思わない」が6.6% (25人)であった。

「人との付き合いがおっくうである」について、「そう思わない」が53.5% (201人)、「どちらともいえない」が34.3% (129人)、「そう思う」が12.2% (46人)であった。

「自分を大切だと感じているし、自分が好きである」について、「そう思う」が69.6% (263人)、「どちらともいえない」が22.8% (86人)、「そう思わない」が7.7% (29人)であった。

「なんとなく自信が無い」について、「そう思わない」が42.1% (159人)、「どちらともいえない」が31.7% (120人)、「そう思う」が26.2% (99人)であった。

「頼られると嫌と言えないタイプ」について、「そう思う」が66.9% (253人)、「どちらともいえない」が19.6% (74人)、「そう思わない」が13.5% (51人)であった。

「自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い」について、「どちらともいえない」が45.5% (172人)、「そう思う」が42.6% (161人)、「そう思わない」が11.9% (45人)であった。

「自分で物事を決めることが苦手である」について、「そう思わない」が59.3% (224人)、「どちらともいえない」が23.0% (87人)、「そう思う」が17.7% (67人)であった。

「1人でいると不安になる」について、「そう思わない」が63.0% (238人)、「どちらともいえない」が24.9% (94人)、「そう思う」が12.2% (46人)であった。

「好奇心が旺盛で、行動的である」について、「そう思う」が47.9% (181人)、「どちらともいえない」が36.5% (138人)、「そう思わない」が15.6% (59人)であった。

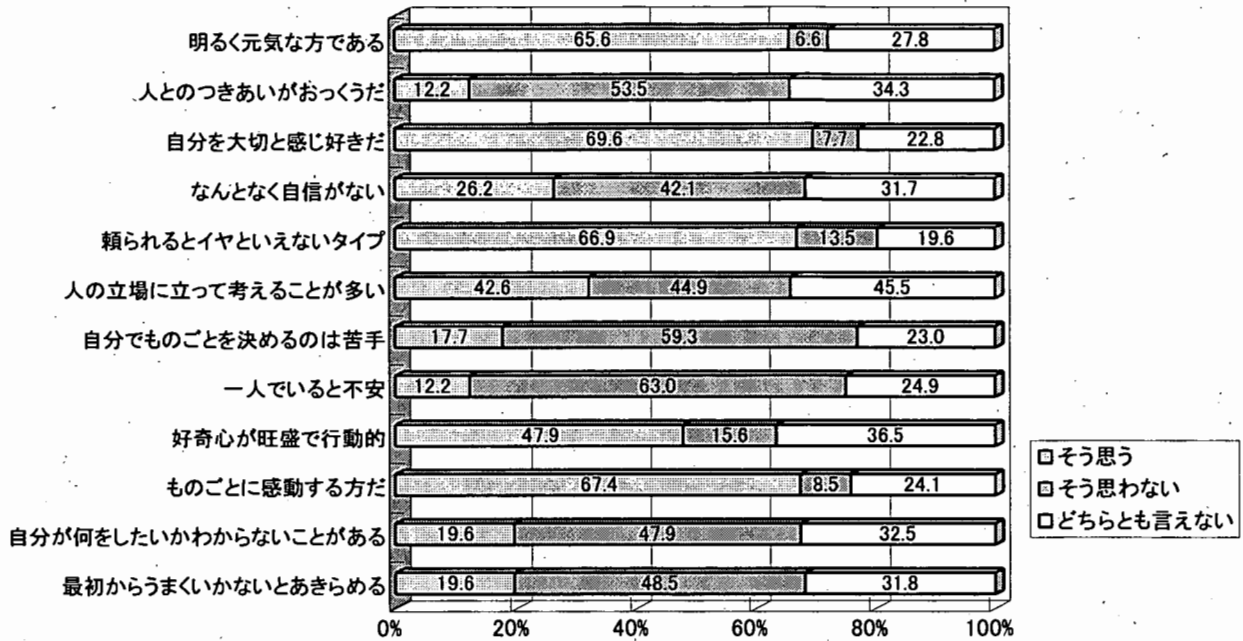
「物事にすぐ感動する方である」について、「そう思う」67.4% (254人)、「どちらともいえない」が24.1% (91人)、「そう思わない」が8.5% (32人)であった。

「自分が何をしたいのがよくわからないことがある」について、「そう思わない」が47.9% (181人)、「どちらともいえない」が32.5% (123人)、「そう思う」が19.6% (74人)であった。

「最初からうまくいかない、失敗するとあきらめてしまうことがある」について「そう思わな

が 48.5% (183 人)、「どちらともいえない」が 31.8% (120 人)、「そう思う」が 19.6% (74 人) であった。

図 98 現在の性格や生活態度





#### 4 被害の実態

##### 問1 過去の(あるいは現在の)配偶者、パートナー(恋人)との間で暴力関係について

「被害経験あり」は全体の45.4%(379人)、「加害経験あり」は全体の4.1%(34人)、「どちらもない人」が全体の49.6%(414人)であった。(図1)

男女別で見ると、男性(n=105人)では「被害経験あり」が2.9%(3人)「加害経験あり」が14.3%(15人)、「どちらもない人」が82.9%(87人)であった。

女性(n=722人)では「被害経験あり」が52.1%(376人)、「加害経験あり」が2.6%(19人)、「どちらもない人」が45.3%(327人)であった。(図2)

「被害経験あり」と回答した人が経験した暴力は、「身体的暴力」が91.8%(348人)、「精神的暴力」が98.1%(372人)、「性的暴力」が83.1%(315人)、「社会・経済的暴力」が86.8%(325人)であった。

図1 暴力関係について

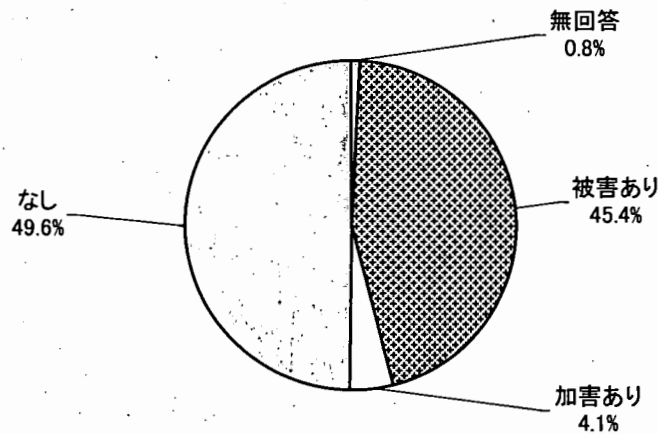
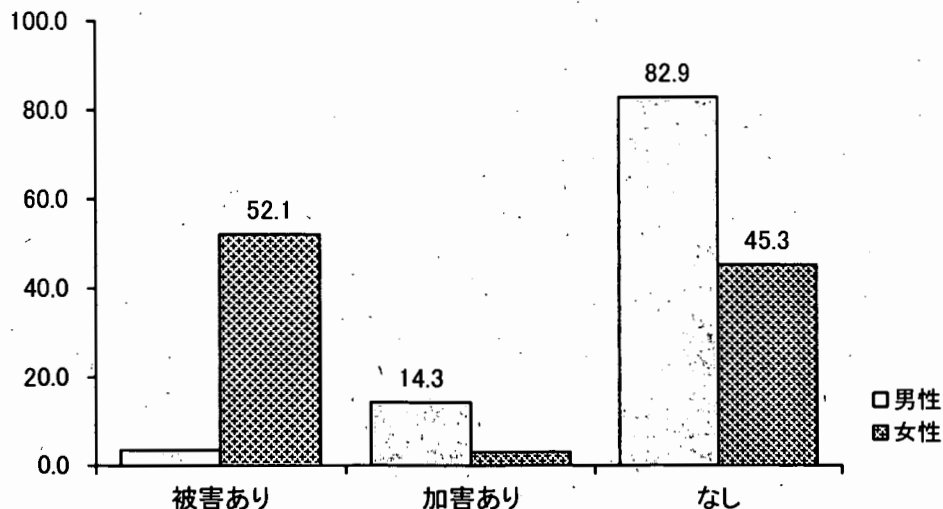


図2 暴力関係(男女別)



## 問2 被害体験について

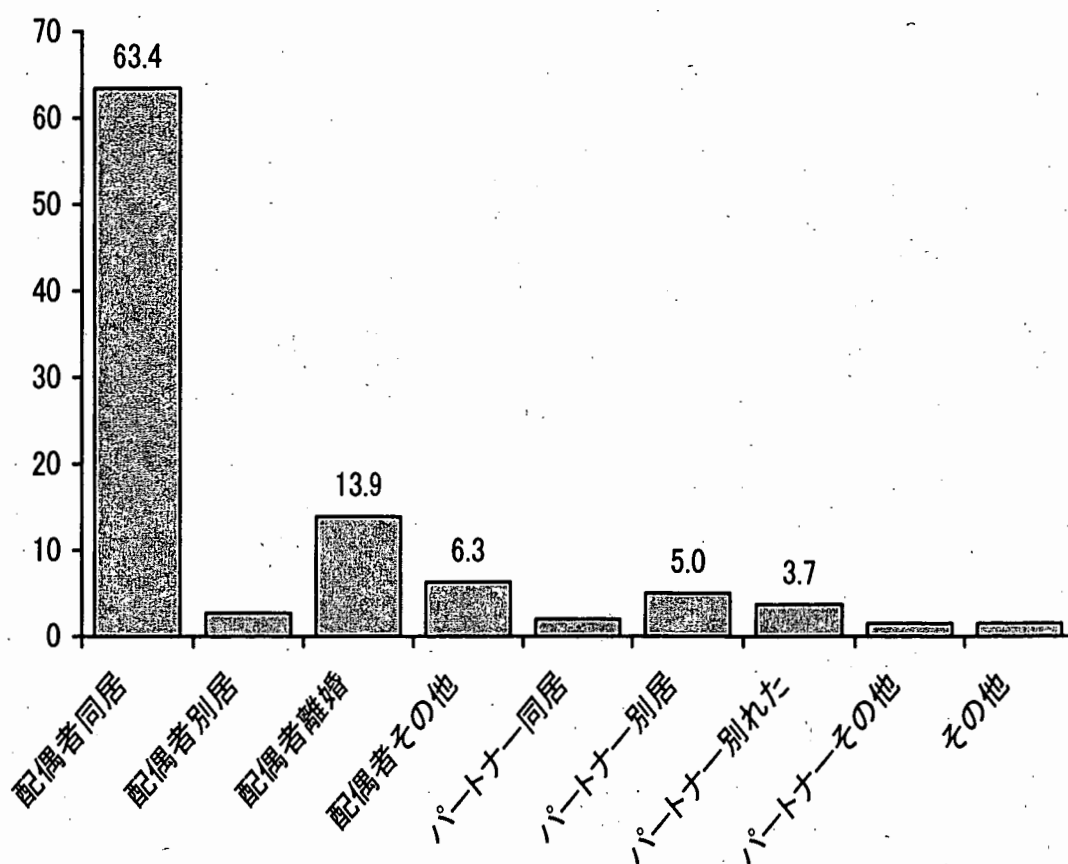
### 暴力をふるっていた（ふるっている）相手との当時の関係

①配偶者は、「同居していた（現在も同居中）」が63.4%（241人）、「離婚した」が13.9%（54人）、「別居していた（現在も別居中）」が3.2%（12人）、「その他」が6.3%（24人）であった。

②パートナーは、「別居していた（現在も別居中）」が5.0%（19人）、「別れた」が3.7%（14人）、「同居していた（現在も同居中）」が2.4%（9人）、「その他」が1.1%（4人）であった。

③その他は、1.1%（4人）である。（図3）

図3 暴力をふるっていた相手との当時の関係



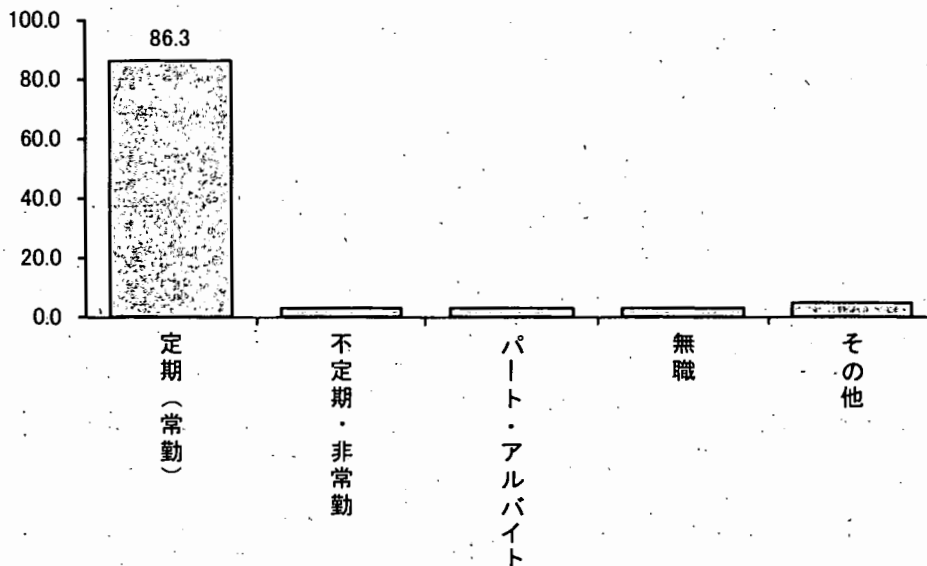
### 問3 暴力をふるっていた（ふるっている）相手の職業

「お勤めの場合」、「事務職、販売・サービス職・営業職」が23.4%（87人）、「専門・技術職」が17.5%（65人）と最も多く、次いで「労務・技能職、土木・建築業」が18.5%（69人）、「経営・管理職」が14.5%（54人）、「派遣社員」が0.5%（2人）、「勤め：その他」が4.0%（15人）であった。「自営業・家族従業の場合」、「商工・サービス業」が7.8%（29人）、「自由業」が2.2%（8人）、「財産・不動産利用」が1.1%（4人）、「自営・家族：その他」が4.0%（15人）であった。「その他の場合」、「無職」が3.5%（13人）、「学生」が2.4%（9人）、「専業主婦（夫）」が0.3%（1人）であった。

問 4 勤務の形態

「定期（常勤）」が 86.3%（314 人）と最も多く、次いで「不定期（非常勤）」、「パート・アルバイト」が各々 3.3%（12 人）、「無職」が 3.0%（11 人）「その他」が 4.1%（15 人）であった。（図 4）

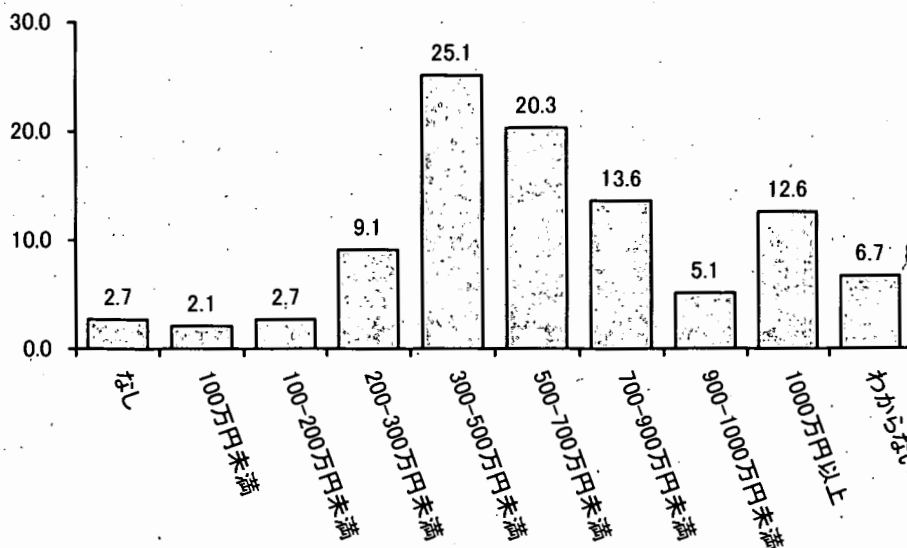
図 4 勤務形態



問 5 暴力をふるっていた（ふるう）相手の年収

年収「300万～500万円未満」が 25.1%（94 人）と最も多く、次いで「500万～700万円未満」が 20.3%（76 人）、「700万～900万円未満」が 13.6%（51 人）、「1000万円以上」が 12.6%（47 人）、「200万～300万円未満」が 9.1%（34 人）、「わからない」が 6.7%（25 人）、「900万～1000万円未満」が 5.1%（19 人）、「100万～200万円未満」「なし」がともに 2.7%（10 人）、「100万円未満」が 2.1%（10 人）であった。（図 5）

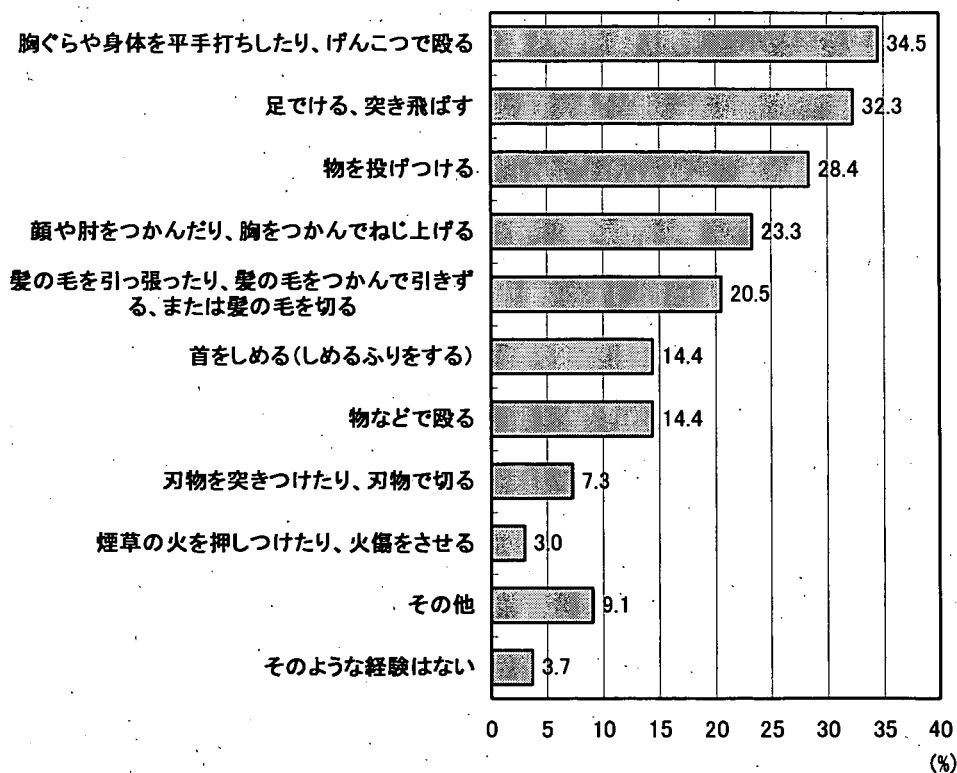
図 5 暴力をふるっていた相手の年収



## 問 6 身体的暴力についての行為

「顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる」が34.5% (288人)と最も多く、次いで「足でける、突き飛ばす」が32.3% (269人)、「物を投げつける」が28.4% (237人)、「胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる」が23.3% (194人)、「髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る」が20.5% (171人)、「物などでなぐる」、「首をしめる(しめるふりをする)」が各々14.4% (120人)、「刃物を突きつけたり、刃物で切る」が7.3% (61人)、「煙草の火を押しつけたたり、火傷をさせる」が3.0% (25人)、「その他」が9.1% (76人)、「そのような経験はない」が3.7% (31人)であった。(図6)

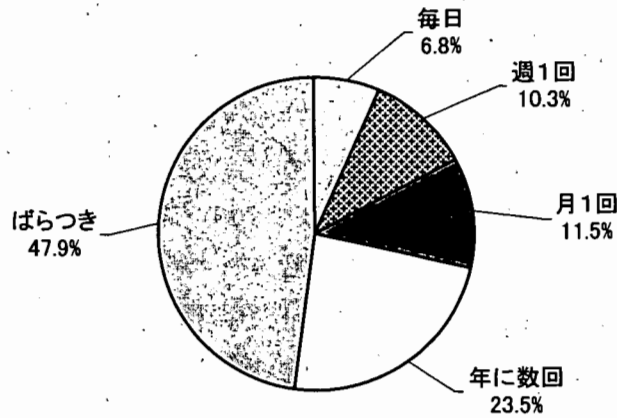
図6 被害経験あり 身体的暴力



### 問 6-1 身体的暴力が起こっていた(起こる)割合

「ばらつきがある」が47.9% (163人)と最も多く、次いで「年に数回」が23.5% (80人)、「月に一回程度」が11.5% (39人)、「週に一回程度」が10.3% (35人)、「ほぼ毎日」が6.8% (23人)であった。(図7)

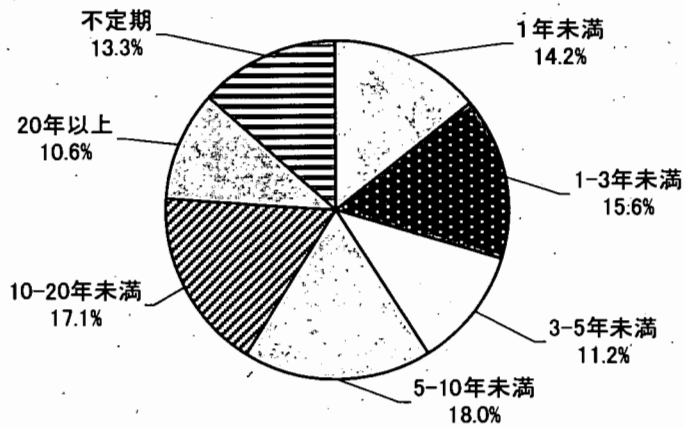
図7 身体的暴力が起こった割合



問6-2 身体的暴力が続いた(続いている)期間

「5年～10年未満」が18.0% (61人)と最も多く、次いで「10～20年未満」が17.1% (58人)、「1年～3年未満」が15.6% (53人)、「1年未満」が14.2% (48人)、「不定期」が13.3% (44人)、「3年～5年未満」が11.2% (38人)、「20年以上」が10.6% (36人)であった。(図8)

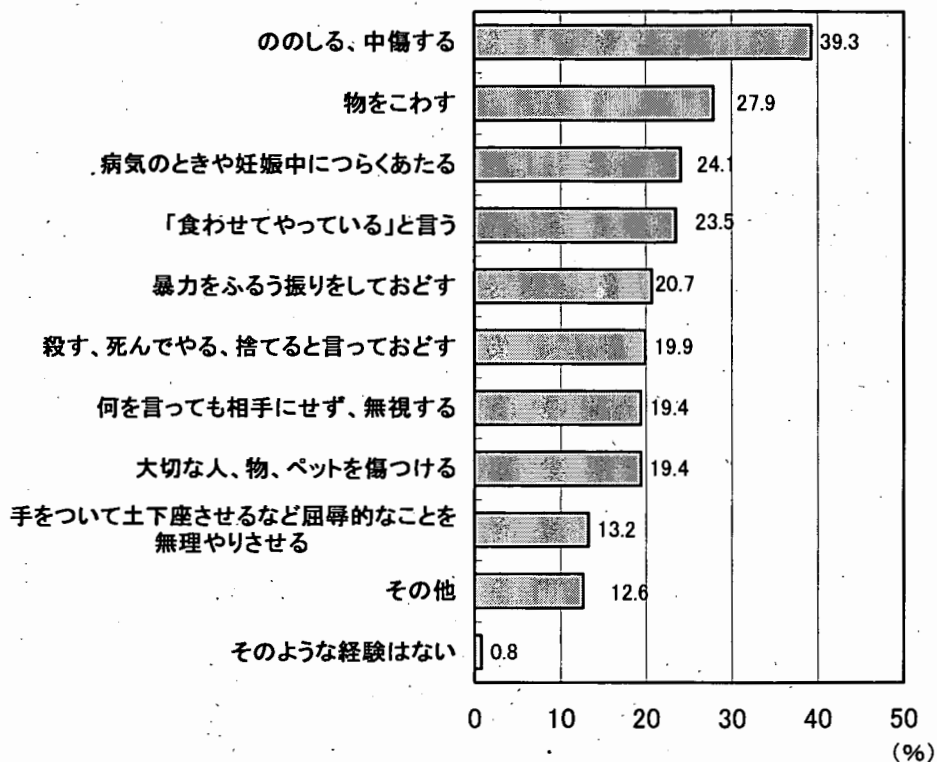
図8 身体的暴力が起こった期間



### 問 7 精神的暴力についての行為

「ののしる・中傷する」が 39.3% (328 人) と最も多く、次いで「物をこわす」が 27.9% (233 人)、「病気の時や妊娠中につらくあたる」が 24.1% (201 人)、「食わせてやっていると言う」が 23.5% (196 人)、「暴力をふるう振りをしておどす」が 20.7% (173 人)、「殺す、死んでやる、捨てる」といっておどす」が 19.9% (166 人)、「大切な人・物・ペットを傷つける」「何を言っても相手にせず、無視する」が各々 19.4% (162 人)、「手をついて土下座させるなど屈辱的なことをむりやりさせる」が 13.2% (110 人)、「その他」が 12.6% (105 人)、「そのような経験はない」が 0.8% (7 人) であった。(図 9)

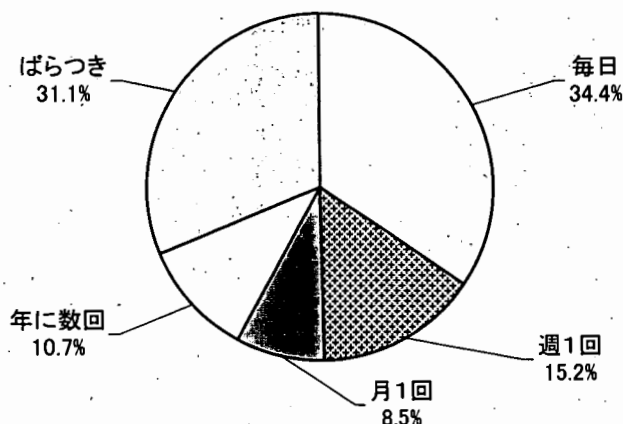
図 9 被害経験あり 精神的暴力



### 問 7-1 精神的暴力が起こっていた（起こる）割合

「ほぼ毎日」が 34.4% (125 人)、「ばらつきがある」が 31.1% (113 人)、「週に一回程度」が 15.2% (55 人)、「月に一回程度」が 8.5% (31 人)、「年に数回」が 10.7% (39 人) であった。(図 10)

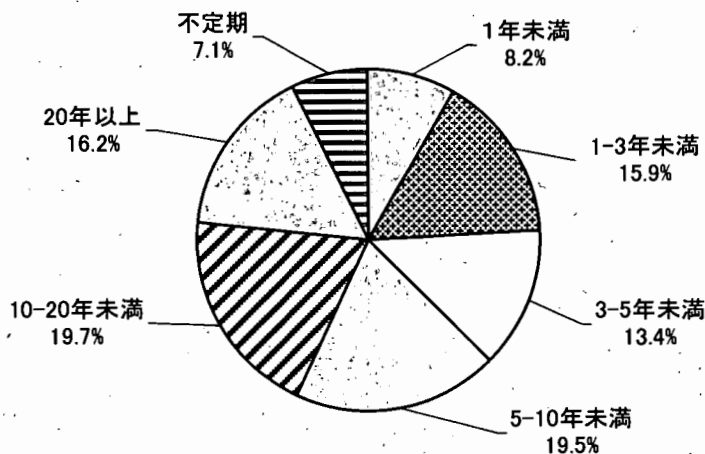
図 10 精神的暴力が起こった割合



問 7-2 精神的暴力が続いた（続いている）期間

「10年～20年未満」が19.7%（72人）、「5年～10年未満」が19.5%（71人）、「20年以上」が16.2%（59人）、「1年～3年未満」が15.9%（58人）、「3年～5年未満」が13.4%（49人）、「1年未満」が8.2%（30人）、「不定期」が7.1%（26人）であった。（図 11）

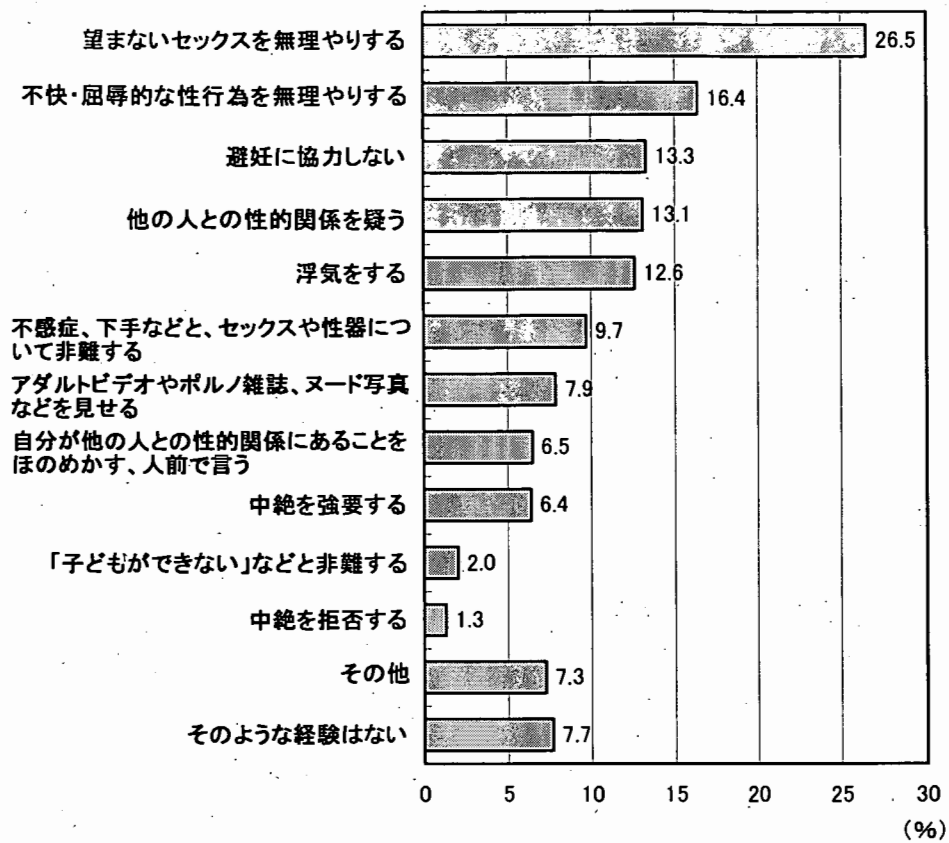
図 11 精神的暴力が起こった期間



問 8 性的暴力についての行為

「望まないセックスをむりやりする」が最も多く26.5%（221人）、「不快・屈辱的な性的行為をむりやりする」が16.4%（137人）、「避妊に協力しない」が13.3%（111人）、「他の人との性的関係を疑う」が13.1%（109人）、「浮気をする」が12.6%（105人）、「不感症、下手などと、セックスや性器について非難する」が9.7%（81人）、「アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる」が7.9%（66人）、「自分が、他の人と性的関係にあることをほのめかず、人前で言う」が6.5%（54人）、「中絶を強要する」が6.4%（53人）、「子どもができないなどと非難する」が2.0%（17人）、「中絶を拒否する」が1.3%（11人）、「その他」が7.3%（61人）、「そのような経験はない」が7.7%（64人）であった。（図 12）

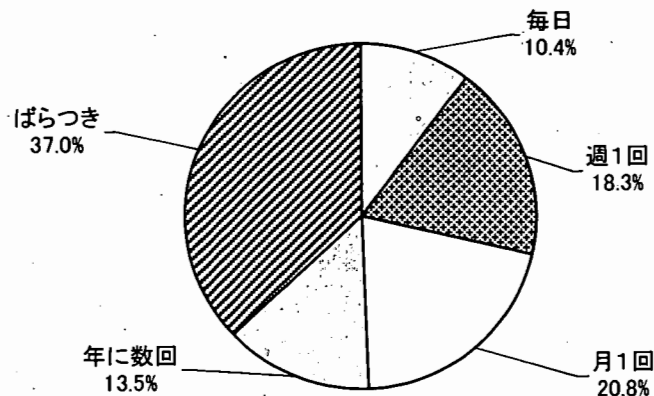
図 12 被害経験あり 性的暴力



問 8-1 性的暴力が起こっていた（起こる）割合

「ばらつきがある」が 37.0% (107 人)、「月に 1 回程度」が 20.8% (60 人)、「週に 1 回程度」が 18.3% (53 人)、「年に数回」が 13.5% (39 人)、「ほぼ毎日」10.4% (30 人)であった。(図 13)

図 13 性的暴力が起こった割合

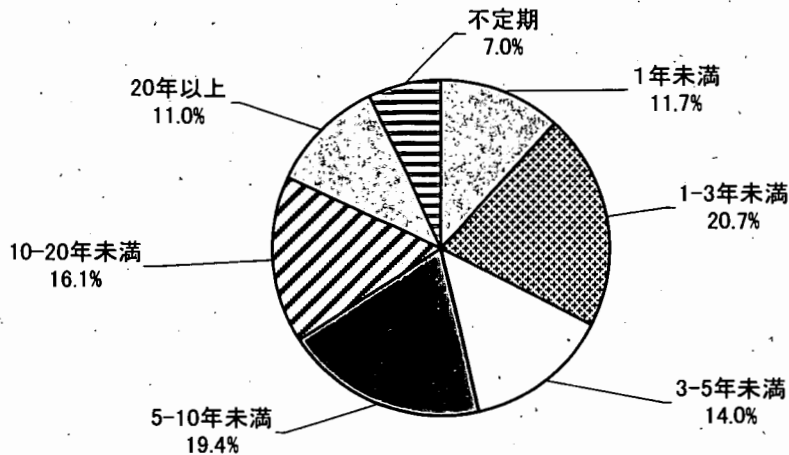




問 8-2 性的暴力が続いた（続いている）期間

「1年～3年未満」が20.7%（62人）、「5年～10年未満」が19.4%（58人）、「10年～20年未満」が16.1%（48人）、「3年～5年未満」が14.0%（42人）、「1年未満」が11.7%（35人）、「20年以上」が11.0%（33人）、「不定期」が7.0%（21人）であった。（図14）

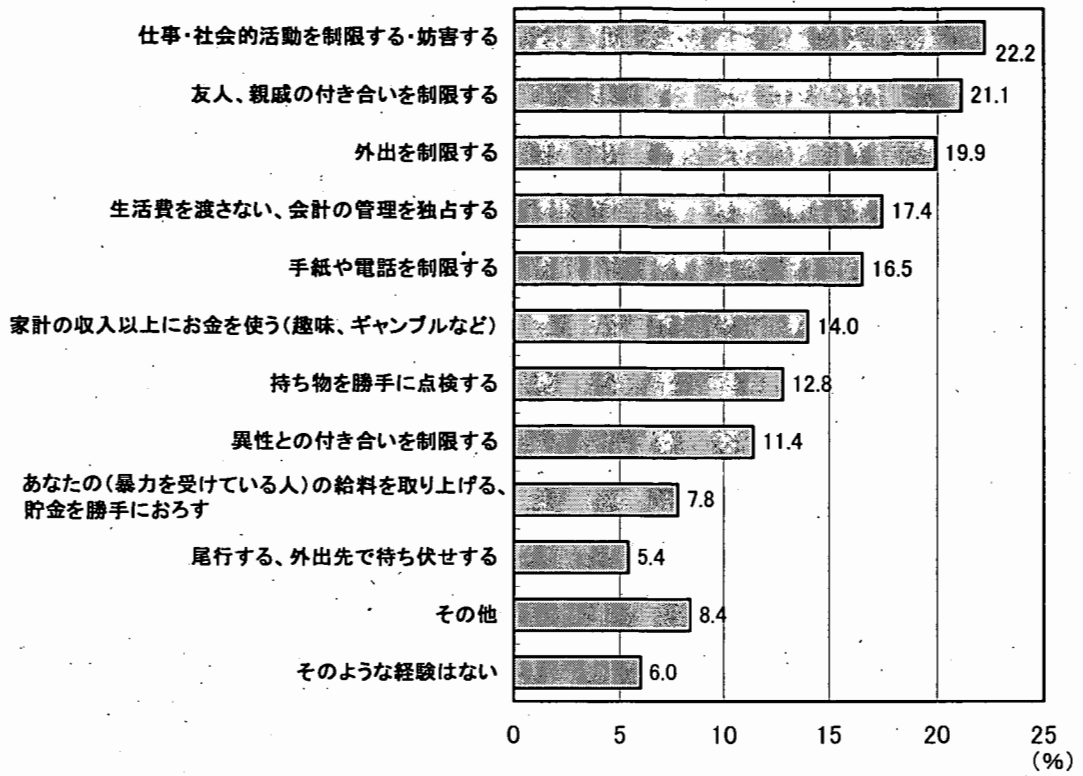
図 14 性的暴力が起こった期間



問 9 社会・経済的暴力についての行為

「仕事・社会的活動を制限・妨害する」が最も多く22.2%（185人）、次いで「友人、親戚のつきあいを制限する」が21.1%（176人）、「外出を制限する」が19.9%（166人）、「生活費を渡さない、会計の管理を独占する」が17.4%（145人）、「手紙や電話を制限する」が16.5%（138人）、「会計に収入以上に、お金を使う（趣味、ギャンブルなど）」が14.0%（117人）、「持ち物を勝手に点検する」が12.8%（107人）、「異性との付き合いを制限する」が11.4%（95人）、「あなた（暴力を受けている人）の給料を取りあげたり、貯金を勝手におろす」が7.8%（65人）、「尾行する、外出先で待ち伏せする」が5.4%（45人）、「その他」が8.4%（70人）、「そのような経験はない」が6.0%（50人）であった。（図15）

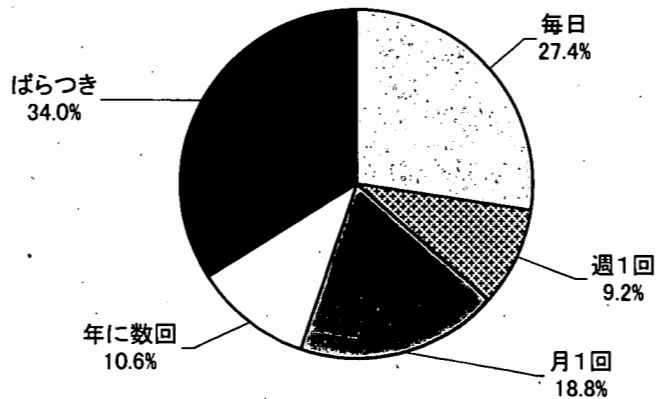
図 15 被害経験あり 社会・経済的暴力



問 9-1 社会・経済的暴力が起こっていた(起こる)割合

「ばらつきがある」が 34.0% (103 人)、「ほぼ毎日」27.4% (83 人)、「月に 1 回程度」が 18.8% (57 人)、「年に数回」が 10.6% (32 人)、「週に 1 回程度」が 9.2% (28 人)であった。(図 16)

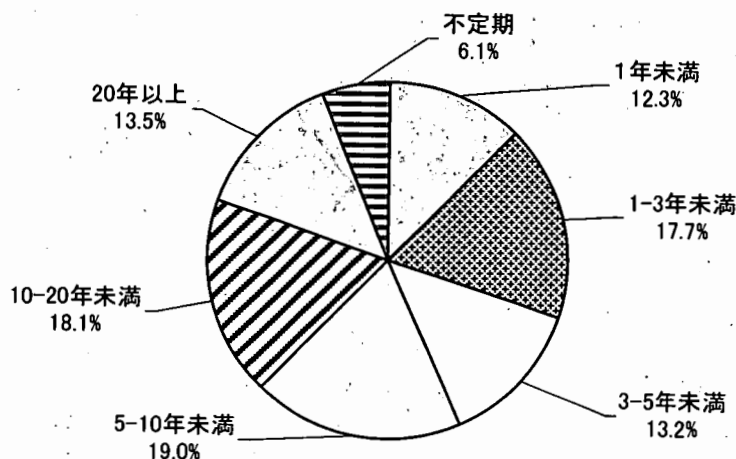
図 16 社会・経済的暴力が起こった割合



問 9-2 社会・経済的暴力が続いた（続いている）期間

「5年～10年未満」が19.0%（59人）、「10年～20年未満」が18.1%（56人）、「1年～3年未満」が17.7%（55人）、「20年以上」が13.5%（42人）、「3年～5年未満」が13.2%（41人）、「1年未満」が12.3%（38人）、「不定期」が6.1%（19人）であった。（図17）

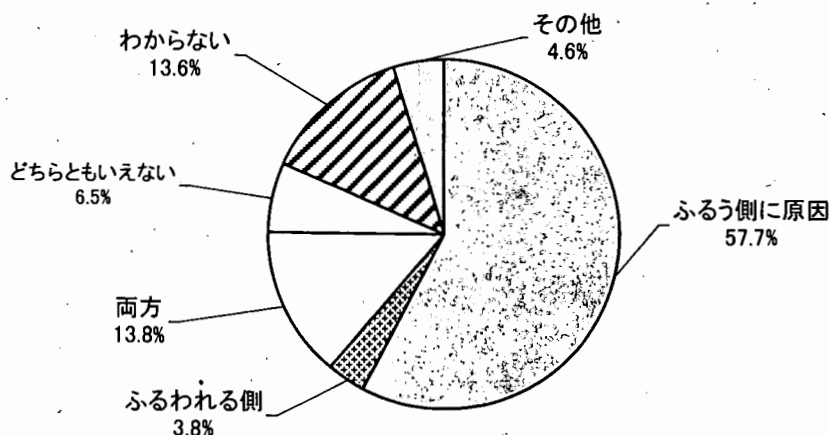
図 17 社会・経済的暴力が起こった期間



問 10 相手が暴力をふるった時の原因

「暴力をふるう側に原因がある」と答えた人が57.7%（213人）と最も多く、次いで「両方に原因がある」が13.8%（51人）、「わからない」が13.6%（50人）、「どちらともいえない」が6.5%（24人）、「暴力をふるわれる側に原因がある」が3.8%（14人）「その他」が4.6%（17人）であった。（図18）

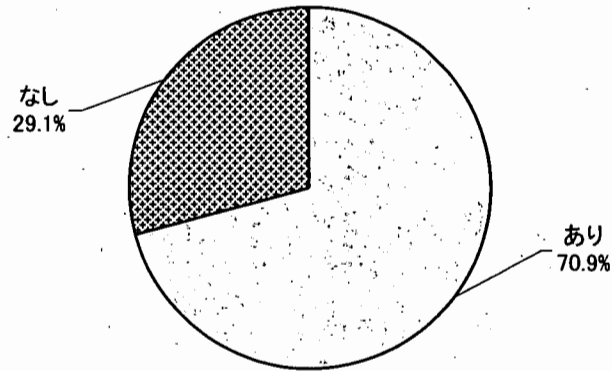
図 18 相手が暴力をふるった原因



問 11 暴力による身体的影響

「けががあった」と答えた人は 70.9% (261 人)、「けががなかった」が 29.1% (107 人)であった。(図 19)

図 19 暴力による身体的影響



問 12 一番初めに暴力を受けたときに最も強く感じた気持ち

「情けなかった、みじめだった」が 18.5% (69 人)、「こわかった」が 16.9% (63 人)、「啞然とした、何が起こったかわからなかった」15.8% (59 人)、「ショックだった」が 15.3% (57 人)、「腹が立った」「くやしかった」がともに 4.8% (18 人)、「相手のことがにくいと思った」が 3.8% (14 人)、「相手を軽蔑した、かわいそうだと思った」が 2.9% (11 人)、「自分が悪いと思った」が 1.3% (5 人)「その他」が 4.3% (16 人)であった。またデータ上は無効回答になっているが複数回答した人が 40 人いた。

## 5 加害の実態

### 加害体験について

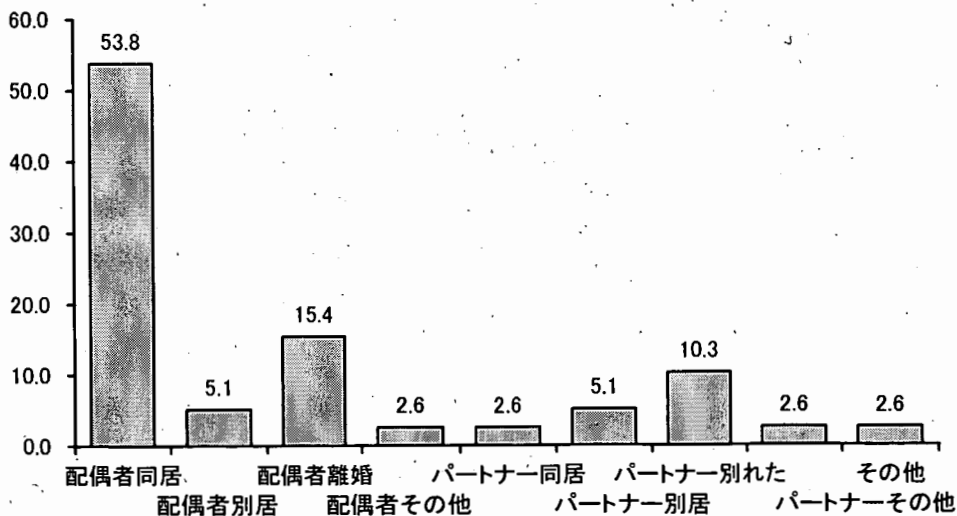
「加害経験あり」は全体のうち 4.1% (34 人) であった。男女別で見ると、男性 14.3% (15 人)、女性は 2.6% (19 人) であった。

「加害経験あり」と回答した人の中で加えた暴力は、「身体的暴力」が 77.5% (25 人)、「精神的暴力」が 91.1% (31 人)、「性的暴力」が 29.4% (10 人)、「社会・経済的暴力」が 26.5% (9 人) であった。ここでの「加害経験あり」4.1% (34 人) は、過去 (現在) の体験の中で、配偶者、パートナーとの間で「暴力をした (している)」と回答した人を対象としている。また、以下の項目での分析の際、過去 (現在) の体験の中で配偶者、パートナー以外でも「暴力をした (している)」と回答した人をも対象としているため、母集団の数に変化している場合がある。母集団が変わる場合は、その都度明記している。

### 問 1 暴力をふるっていた (ふるっている) 相手との関係 (n=39 人)

- ① 配偶者は、「同居していた (現在も同居中)」が 53.8% (21 人)、「離婚した」が 15.4% (6 人)、「別居していた (現在も別居中)」が 5.1% (2 人)、「その他」が 2.6% (1 人) であった。(図 20)
- ② パートナーは、「別れた」が 10.3% (4 人)、「別居していた (現在も別居中)」が 5.1% (2 人)、「同居していた (現在も同居中)」 「その他」がともに 2.6% (1 人) であった。(図 20)
- ③ その他は、2.6% (1 人) であった。

図 20 暴力をふるっていた相手との関係



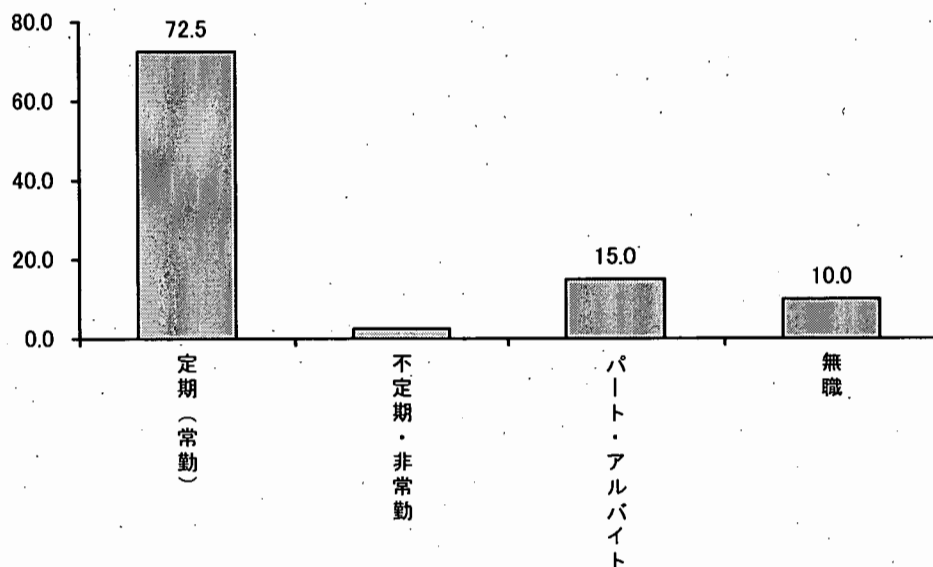
## 問2 暴力をふるっていた（ふるっている）相手の職業（n=40人）

「お勤めの場合」、「事務職、販売・サービス職・営業職」が30.0%（12人）と最も多く、次いで「専門・技術職」「労務・技能職、土木、建築職」がともに17.5%（7人）、「経営・管理職」2.5%（1人）、「勤め：その他」が5.0%（2人）であった。「自営業・家族従業の場合」、「商工・サービス業」が10.0%（4人）、「農林漁業」が2.5%（1人）、「自営・家族：その他」が2.5%（1人）であった。「その他の場合」、「専業主婦（夫）」が10.0%（4人）、「学生」が2.5%（1人）であった。

## 問3 勤務の形態（n=40人）

「定期（常勤）」が72.5%（29人）、「パート・アルバイト」が15.0%（6人）、「無職」が10.0%（4人）、「不定期（非常勤）」が2.5%（1人）であった。（図21）

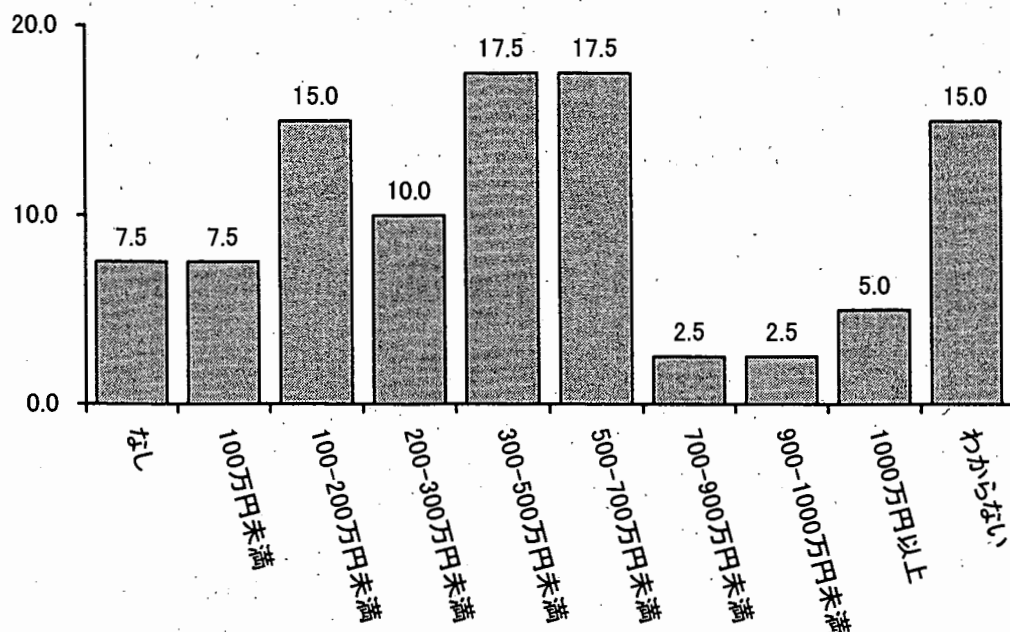
図21 勤務形態



## 問4 暴力をふるっていた（ふるう）相手の年収（n=40人）

年収「500～700万円未満」「300～500万円未満」がともに17.5%（7人）、「100～200万円未満」「わからない」がともに15.0%（6人）、「200～300万円未満」が10.0%（4人）、「なし」「100万円未満」とともに7.5%（3人）、「1000万円以上」が5.0%（2人）、「700～900万円未満」「900～1000万円以上」がともに2.5%（1人）であった。（図22）

図 22 年 収



問 5 身体的暴力についての行為

「顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる」が 2.6% (22 人) と最も多く、次いで「物を投げつける」が 2.3% (19 人)、「足でける、突き飛ばす」が 2.2% (18 人)、「胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる」が 1.3% (11 人)、「髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る」が 1.1% (9 人)、「物などでなぐる」が 1.0% (8 人)、「首をしめる (しめるふりをする)」が 0.5% (4 人)、「刃物を突きつけたり、刃物で切る」が 0.4% (3 人)、「煙草の火を押しつける、火傷をさせる」が 0.2% (2 人)、「その他」が 0.1% (1 人)、「そのような経験はない」が 1.1% (9 人) であった。(表 1)

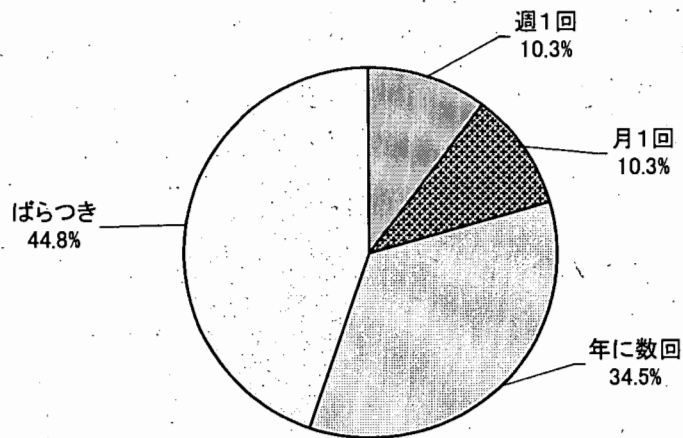
表 1 加害経験あり 身体的暴力行為

暴力行為	%
顔や身体を平手打ちしたり、げんこつで殴る	2.6
物を投げつける	2.3
足でける、突き飛ばす	2.2
胸ぐらや身体を平手打ちしたり、げんこつで殴る	1.3
髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る	1.1
物などで殴る	1.0
首をしめる(しめるふりをする)	0.5
刃物を突きつけたり、刃物で切る	0.4
煙草の火を押し付けたり、火傷をさせる	0.2
その他	0.1
そのような経験はない	1.1

### 問 5-1 身体的暴力が起こっていた（起こる）割合

「ばらつきがある」が 44.8%（13 人）と最も多く、次いで「年に数回」が 34.5%（10 人）、「週に一回程度」「月に一回程度」がともに 10.3%（3 人）であった。（図 23）

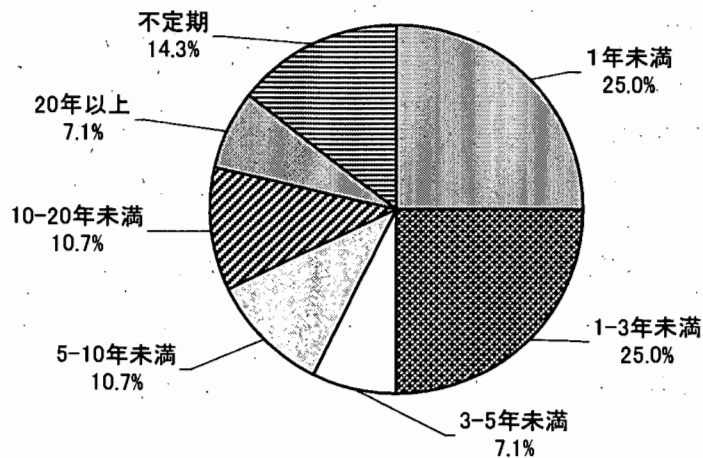
図 23 身体的暴力が起こっていた割合



### 問 5-2 身体的暴力が続いた（続いている）期間

「1年未満」「1年～3年未満」がともに 25.0%（7 人）、「不定期」が 14.3%（4 人）、「5年～10年未満」「10～20年未満」がともに 10.7%（3 人）、「3年～5年未満」「20年以上」がともに 7.1%（2 人）であった。（図 24）

図 24 身体的暴力が起こっていた期間





問6 精神的暴力についての行為

「ののしる、中傷する」が2.6% (22人)、「何を言っても相手にせず無視をする」が2.0% (17人)、「物をこわす」が1.7% (14人)、「殺す、死んでやる、捨てると言っておどす」が1.1% (9人)、「暴力をふるうふりをしておどす」が0.7% (6人)、「大切な人、物、ペットを傷つける」「食わせてやっていると言う」がともに0.5% (4人)、「病気の時や妊娠中につらくあたる」が0.4% (3人)、「手をついて土下座させるなど、屈辱的なことを無理やりさせる」「その他」がともに0.2% (2人)、「そのような経験はない」が0.4% (3人)であった。(表2)

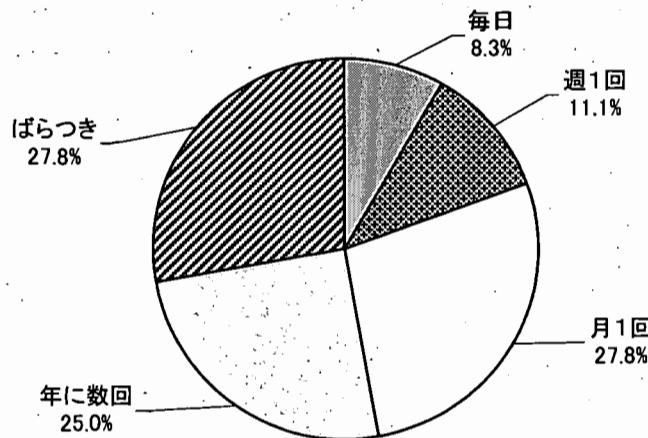
表2 加害経験あり 精神的暴力行為

暴力行為	%
ののしる、中傷する	2.6
何を言っても相手にせず、無視する	2.0
物をこわす	1.7
殺す、死んでやる、捨てると言っておどす	1.1
暴力をふるう振りをしておどす	0.7
大切な人、物、ペットを傷つける	0.5
「食わせてやっている」と言う	0.5
病気のときや妊娠中につらくあたる	0.4
手をついて土下座させるなど屈辱的なことを無理やりさせる	0.2
その他	0.2
そのような経験はない	0.4

問6-1 精神的暴力が起こっていた(起こる)割合

「ばらつきがある」「月に1回程度」がともに27.8% (10人)、「年に数回」が25.0% (9人)、「週に1回程度」が11.1% (4人)、「ほぼ毎日」が8.3% (3人)であった。(図25)

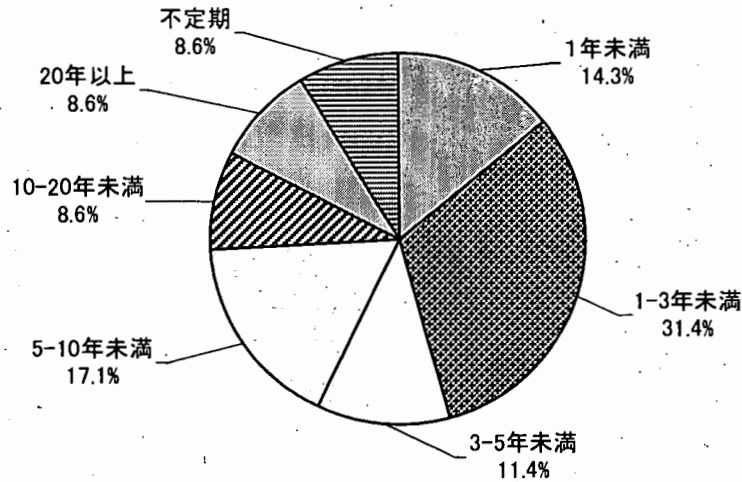
図25 精神的暴力が起こっていた割合



問 6-2 精神的暴力が続いた（続いている）期間

「1年～3年未満」が31.4%（11人）、「5年～10年未満」が17.1%（6人）、「3年～5年未満」が11.4%（4人）、「10年～20年未満」「20年以上」「不定期」各々が8.6%（3人）であった。（図26）

図 26 精神的暴力が起こっていた割合



問 7 性的暴力についての行為

「望まないセックスを無理やりする」「浮気をする」がともに0.7%（6人）と最も多く、次いで「不快・屈辱的な性的行為を無理やりする」が0.4%（3人）、「避妊に協力しない」「中絶を拒否する」「自分が、他の人と性的関係にあることをほのめかす、公言する」「他の人との性的関係を疑う」「子供が出来ないなどと非難する」は各々0.1%（1人）、「そのような経験はない」2.9%であった。（表3）

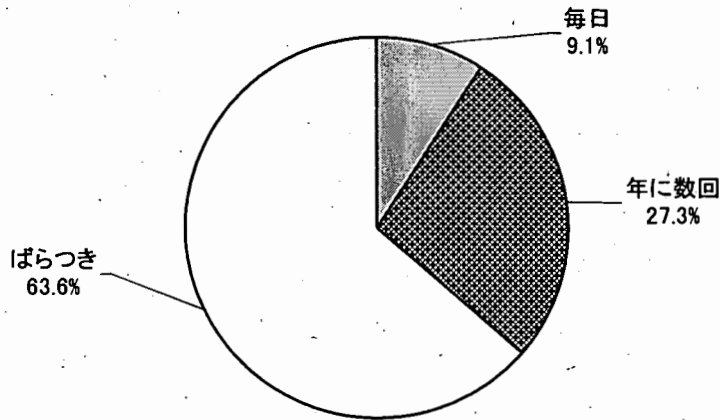
表 3 加害経験あり 性的暴力行為

暴力行為	%
望まないセックスを無理やりする	0.7
浮気をする	0.7
不快・屈辱的な性的行為を無理やりする	0.4
避妊に協力しない	0.1
中絶を拒否する	0.1
自分が他の人との性的関係にあることをほのめかす、人前で言う	0.1
他の人との性的関係を疑う	0.1
「子どもができない」などと非難する	0.1
中絶を強要する	0.0
アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる	0.0
不感症、下手などと、セックスや性器について非難する	0.0
その他	0.0
そのような経験はない	2.9

問 7-1 性的暴力が起こっていた（起こる）割合

「ばらつきがある」が 63.6%（7人）、「年に数回」が 27.3%（3人）、「ほぼ毎日」が 9.1%（1人）であった。（図 27）

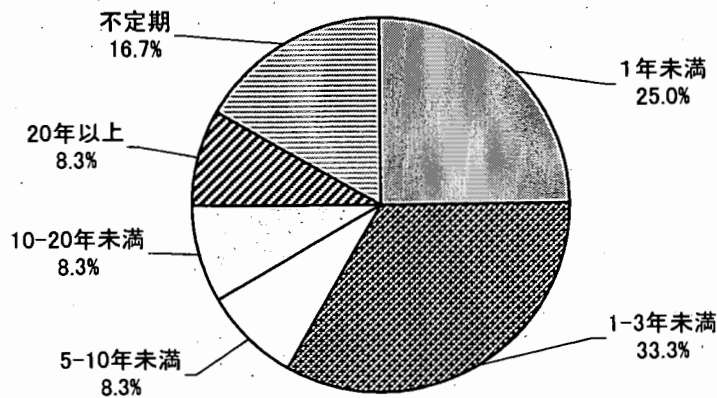
図 27 性的暴力が起こっていた割合



問 7-2 性的暴力が続いた（続いている）期間

「1年～3年未満」は 33.3%（4人）、「1年未満」が 25.0%（3人）、「不定期」が 16.7%（2人）、「5年～10年未満」「10～20年未満」「20年未満」が各々 8.3%（1人）であった。（図 28）

図 28 性的暴力が起こっていた期間



問 8 社会・経済的暴力についての行為

「仕事、社会的活動を制限する、妨害する」「生活費を渡さない、家計の管理を独占する」がともに0.5%（4人）、「持ち物を勝手に点検する」「手紙や電話を制限する」「友人、親類のつきあいを制限する」「異性との付き合いを制限する」各々0.4%（3人）、「外出を制限する」「尾行する、外出先で待ち伏せをする」がともに0.2%（2人）、「家計の収入以上に、お金を使う（趣味、ギャンブルなど）」「相手（暴力を受けている人）の給料を取りあげる、貯金を勝手におろす」ともに0.1%（1人）、「そのような経験はない」が3.0%（25人）であった。（表4）

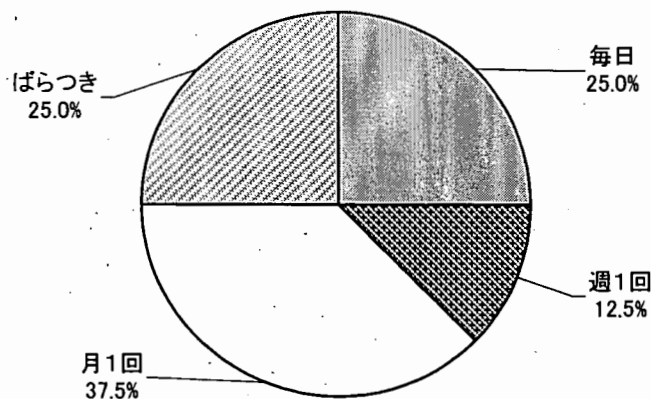
表 4 加害経験あり 社会的・経済的暴力行為

暴力行為	%
仕事、社会的活動を制限する、妨害する	0.5
生活費を渡さない、家計の管理を独占する	0.5
持ち物を勝手に点検する	0.4
手紙や電話を制限する	0.4
友人、親類との付き合いを制限する	0.4
異性との付き合いを制限する	0.4
外出を制限する	0.2
尾行する、外出先で待ち伏せする	0.2
家計の収入以上にお金を使う(趣味、ギャンブルなど)	0.1
相手(暴力を受けている人)の給料を取り上げる、貯金を勝手におろす	0.1
その他	0.0
そのような経験はない	3.0

問 8-1 社会・経済的暴力が起こっていた（起こる）割合

「月に1回程度」が37.5%（3人）、「ほぼ毎日」「ばらつきがある」がともに25.0%（2人）、「週に1回程度」が12.5%（1人）であった。（図29）

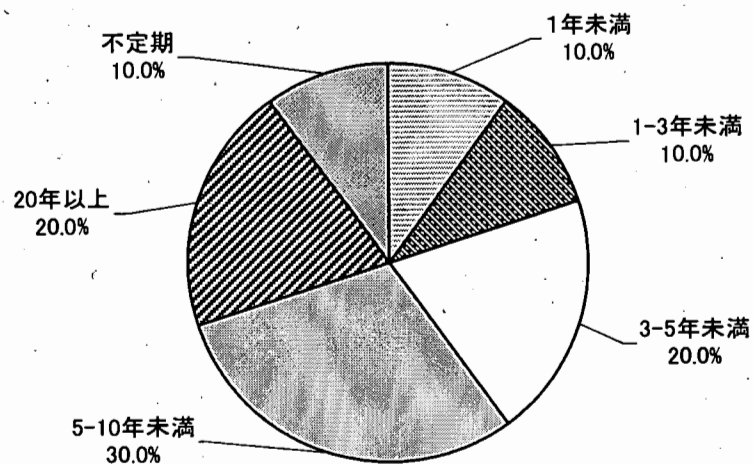
図 29 社会・経済的暴力が起こっていた割合



問 8-2 社会・経済的暴力が続いた（続いている）期間

「5年～10年未満」が30.0%（3人）、「3年～5年未満」「20年以上」がともに20.0%（2人）、「1年未満」「1年～3年未満」「不定期」が各々10.0%（1人）であった。（図30）

図 30 社会・経済的暴力が起こっていた期間



## 6 子どものころの経験

### [1] 体験

「子どものころの暴力体験がある」と回答した人の中で経験した虐待は、「身体的暴力（虐待行為）」が85.0%（267人）、「心理的暴力（虐待行為）」が80.9%（254人）、「性的暴力（虐待行為）」が27.7%（87人）、「養育の怠慢・拒否の行為」が32.8%（103人）であった。

問1 子どものころ、家庭内の暴力経験が「ある」は37.6%（314人）、「ない」は61.9%（516人）、無回答は0.5%（4人）であった。（図31）

男女別で見ると、男性（n=107人）では「ある」が23.4%（25人）、「ない」が76.5%（82人）であった。女性（n=723人）では「ある」が40.0%（289人）、「ない」が60.0%（434人）であった。（図32）

図31 子どものころ 暴力を受けた経験

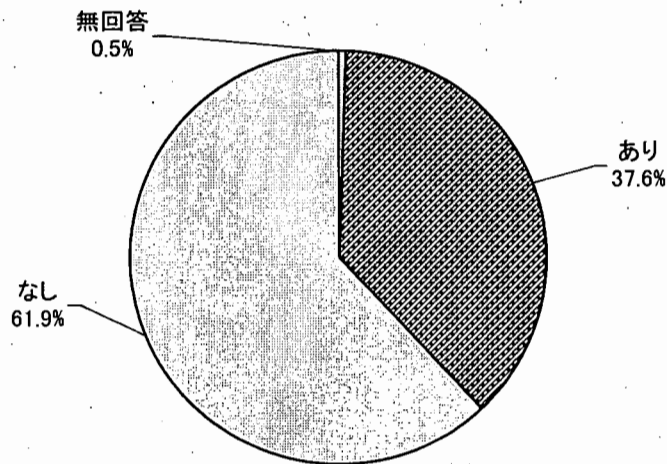
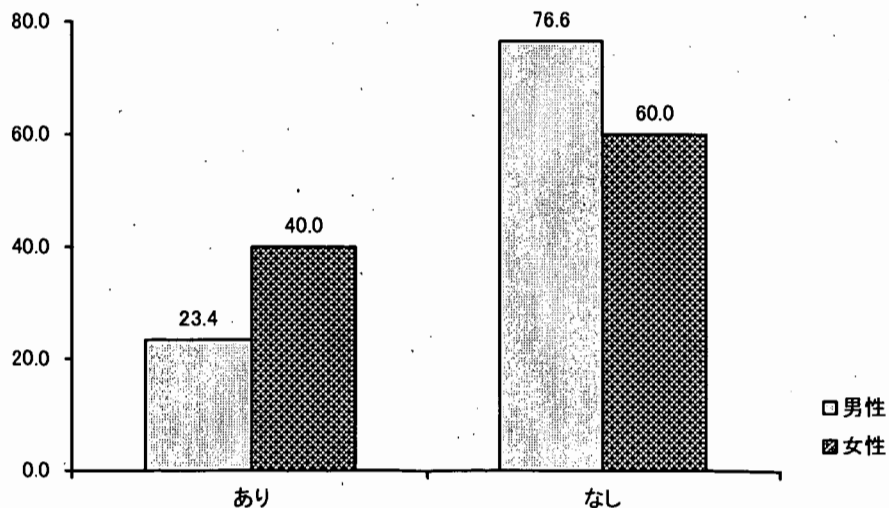
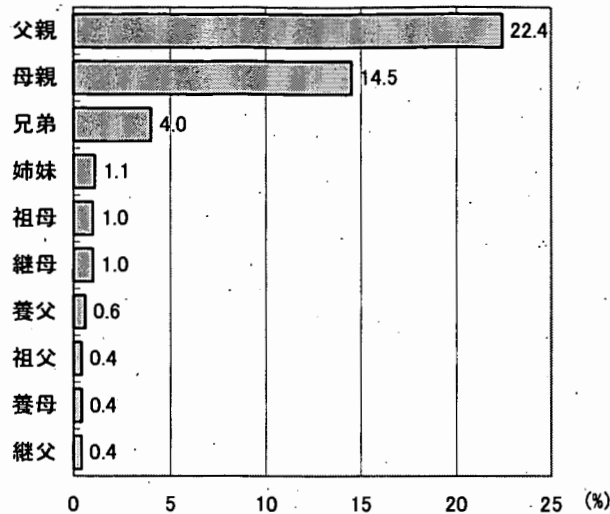


図32 子どものころの暴力を受けた経験(男女別)



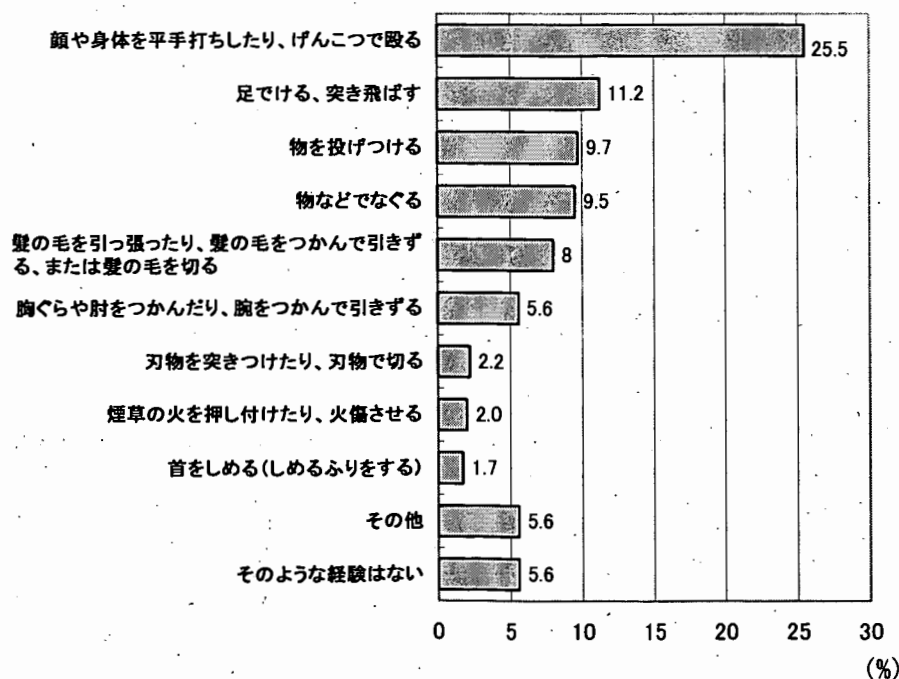
問2「ある」と回答した人へ、虐待をしていた人は、「父親」が22.4%（187人）、「母親」が14.5%（121人）、「兄弟」が4.0%（3人）、「姉妹」が1.1%（9人）、「継母」が1.0%（8人）、「養父」が0.6%（5人）、「継父」「養母」「祖父」各々が0.4%（3人）、「その他」が1.6%（13人）であった。（図33）

図33 子どものころ暴力していた人



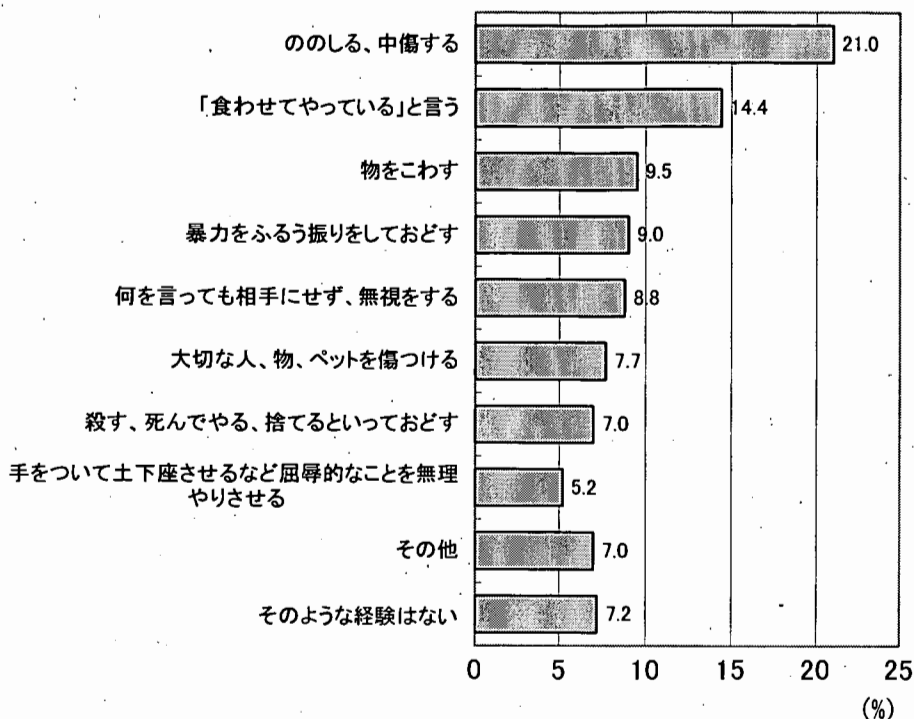
問3 身体的虐待について、「顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる」が最も多く25.5%（213人）、次いで「足でける、突き飛ばす」が11.2%（93人）、「物を投げつける」が9.7%（81人）、「物などでなぐる」が9.5%（79人）、「髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る」が8.0%（67人）、「胸ぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる」が5.6%（47人）、「刃物を突きつけたり、刃物で切る」が2.2%、「煙草の火を押し付けたり、火傷をさせる」が2.0%（17人）、「首をしめる（しめるふりをする）」が1.7%（14人）、「その他」「そのような経験はない」各々が5.6%（47人）であった。（図34）

図34 子どものころ暴力を受けた経験あり 身体的暴力



問4 心理的虐待について、「ののしる・中傷する」が21.0%（175人）、「食わせてやると言う」が14.4%（120人）、「物をこわす」が9.5%（79人）、「暴力をふるう振りをしておどす」が9.0%（75人）、「何を言っても相手にせず、無視をする」が8.8%（73人）、「大切な人・物・ペットを傷つける」が7.7%（64人）、「殺す、死んでやる、捨てると言っておどす」が7.0%（58人）、「手をついて土下座させるなど、屈辱的なことを無理やりさせる」が5.2%（43人）、「その他」が7.0%（58人）、「そのような経験はない」が7.2%（60人）であった。（図35）

図35 子どものころ暴力を受けた経験あり 心理的暴力



問5 性的虐待について、「性器に触る」が4.0%（33人）、「親密なキスをする、身体に触る」が2.0%（17人）、「入浴やトイレの時などにのぞく」が1.9%（16人）、「大人の性器を見せる」が1.6%（13人）、「性行為を無理やりする」が0.8%（7人）、「大人の性器を触らせる」が0.7%（6人）、「性行為を見せる」が0.6%（5人）、「アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる」が0.5%（4人）、「その他」が3.0%（25人）、「そのような経験はない」が27.2%（227人）であった。（表5）

表5 子どものころ暴力を受けた経験あり 性的暴力行為

暴力行為	%
性器に触る	4.0
親密なキスをする、身体に触る	2.0
入浴やトイレの時などにのぞく	1.9
大人の性器を見せる	1.6
性行為を無理やりする	0.8
大人の性器を触らせる	0.7
性行為を見せる	0.6
アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる	0.5
その他	3.0
そのような経験はない	27.2



問6 養育の怠慢・拒否について、「外出を制限・家に入れたい」が6.7% (56人)、「食事を与えない」が3.0% (25人)、「病気になっても、怪我をしても病院に連れて行かない」が2.5% (21人)、「養育させない(例:着替えをさせない、風呂に入れたいなど)」が0.8% (7人)、「学校に行かせない」が0.7% (6人)、「その他」が3.5% (29人)、「そのような経験はない」が25.3% (211人)であった。(表6)

表6 子どものころ暴力を受けた経験あり 養育の怠慢・拒否

暴力行為	%
外出を制限・家に入れたい	6.7
食事を与えない	3.0
病気になっても、怪我をしても病院に連れて行かない	2.5
養育させない(例:着替えをさせない、風呂に入れたいなど)	0.8
学校に行かせない	0.7
その他	3.5
そのような経験はない	25.3

[2] 目撃

「子どものころの暴力目撃がある」と回答した人の中で目撃した暴力は、「身体的暴力」が89.6% (24人)、「心理的暴力」が90.0% (242人)、「性的暴力」が16.7% (45人)、「養育の怠慢・拒否」が29.0% (78人)であった。

問1 子どものころ家庭内で暴力(虐待)をしたりされたりしている場面を見たことが「ある」と答えた人は32.3% (269人)、「ない」は65.8% (549人)、無回答は1.9% (16人)であった。

(図36)

男女別で見ると、男性(n=104人)では「ある」が16.3% (17人)、「ない」が83.7% (87人)であった。女性(n=714人)では「ある」が35.3% (252人)、「ない」が64.7% (462人)であった。(図37)

図36 子どものころ 暴力を見た経験

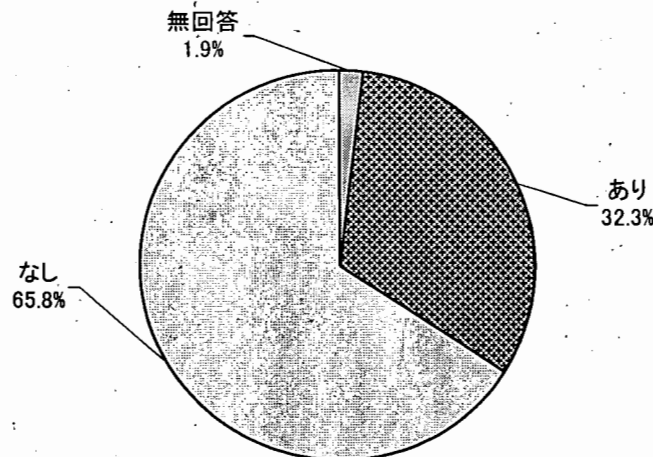
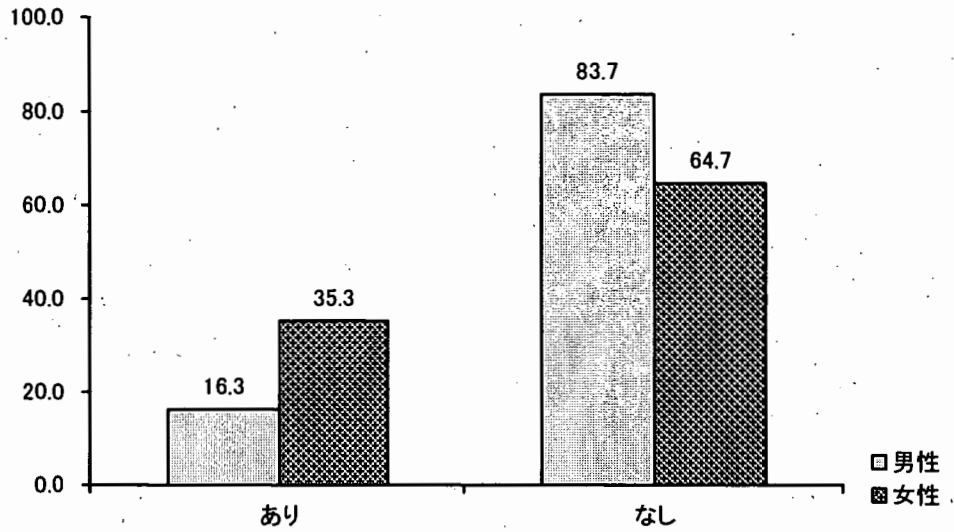
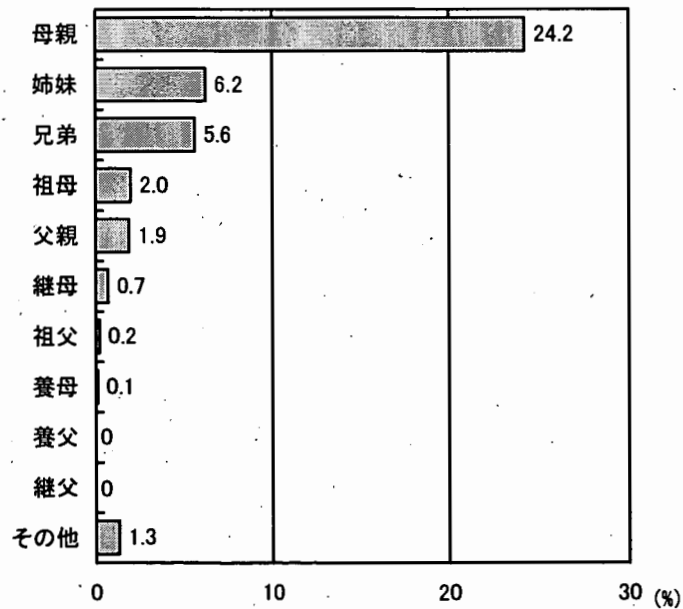


図 37 子どものころの暴力を見た経験(男女別)



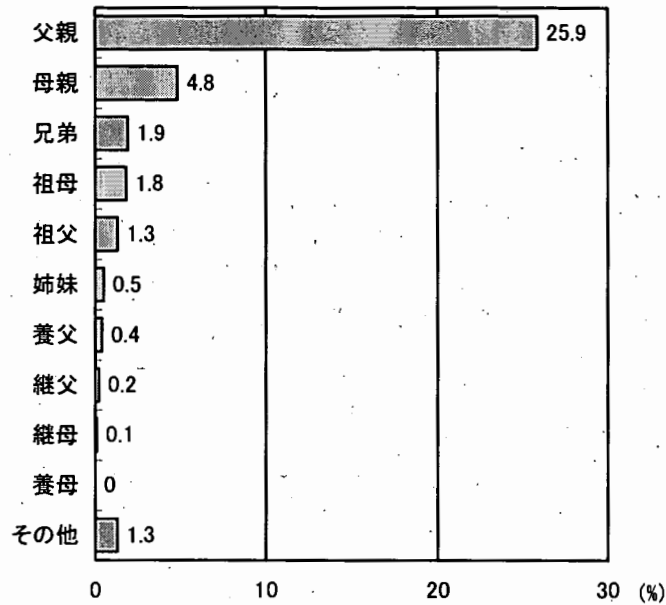
問 2 暴力(虐待)をされていた人(被害者)は、「母親」が 24.2% (202 人)、「姉妹」が 6.2% (52 人)、「兄弟」が 5.6% (47 人)、「祖母」が 2.0% (17 人)、「父親」が 1.9% (16 人)、「継母」が 0.7% (6 人)、「祖父」が 0.2% (2 人)、「養母」が 0.1% (1 人)「その他」が 1.3% (11 人)であった。(図 38)

図 38 子どものころ暴力を見た経験あり 被害者



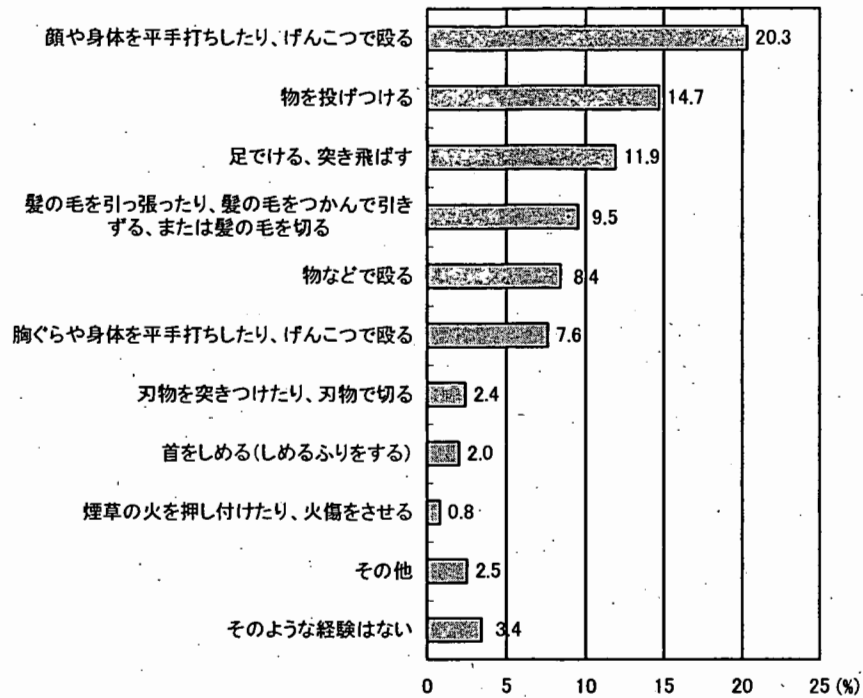
問3 暴力（虐待）をしていた人（加害者）は、「父親」が25.9%（216人）、「母親」が4.8%（40人）、「兄弟」が1.9%（16人）、「祖母」が1.8%（15人）、「祖父」が1.3%（11人）、「姉妹」が0.5%（4人）、「養父」が0.4%（3人）、「継父」が0.2%（2人）、「継母」が0.1%（1人）、「その他」1.3%（11人）がであった。（図39）

図39 子どものころ暴力を見た経験あり 加害者



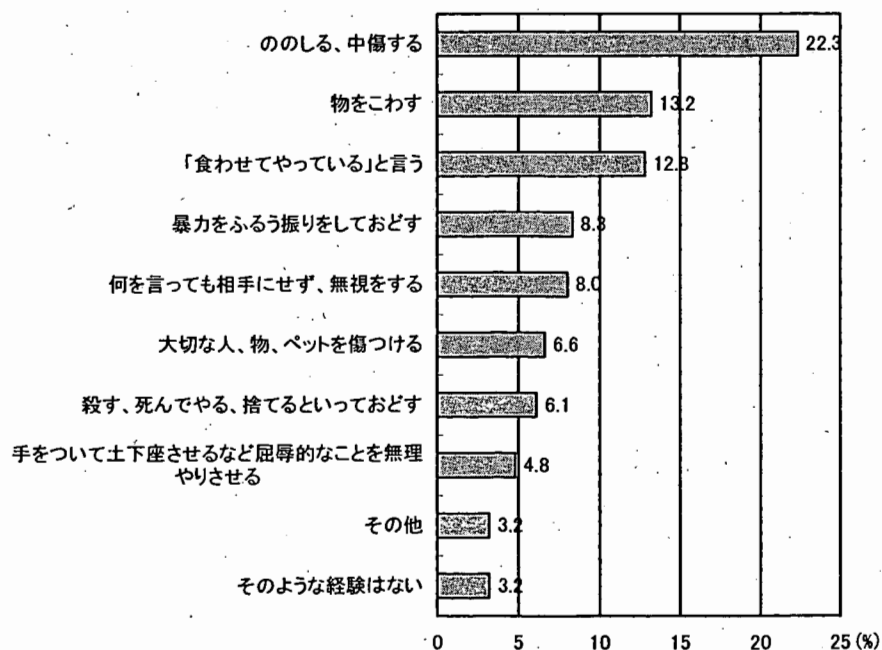
問4 身体的暴力について、「顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる」が最も多く20.3%（169人）、次いで「物を投げつける」が14.7%（123人）、「足でける、突き飛ばす」が11.9%（99人）、「髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る」が9.5%（79人）、「物などでなぐる」が8.4%（70人）、「胸ぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる」が7.6%（63人）、「刃物を突きつけたり、刃物で切る」が2.4%（20人）、「首をしめる（しめるふりをする）」が2.0%（17人）、「煙草の火を押しつける、火傷をさせる」が0.8%（7人）、「その他」が2.5%（21人）、「そのような経験はない」が3.4%（28人）であった。（図40）

図 40 子どものころ暴力を見た経験あり 身体的暴力



問 5 心理的暴力について、「ののしる・中傷する」が 22.3% (186 人)、「物をこわす」が 13.2% (110 人)、「食わせてやると言う」が 12.8% (107 人)、「暴力をふるう振りをしておどす」が 8.3% (69 人)、「何を言っても相手にせず、無視をする」が 8.0% (67 人)、「大切な人・物・ペットを傷つける」が 6.6% (55 人)、「殺す、死んでやる、捨てると言っておどす」が 6.1% (51 人)、「手をついて土下座させるなど、屈辱的なことを無理やりさせる」が 4.8% (40 人)、「その他」「そのような経験はない」がともに 3.2% (27 人) であった。(図 41)

図 41 子どものころ暴力を見た経験あり 心理的暴力



問6 性的暴力について、「入浴やトイレの時などにのぞく」が1.0%（8人）、「性行為を無理やりする」が0.7%（6人）、「大人の性器を見せる」が0.6%（5人）、「性器に触る」0.5%（4人）、「大人の性器を触らせる」「アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる」各々が0.4%（3人）、「親密なキスをする、身体に触る」が0.1%（1人）、「その他」が0.5%（4人）、「そのような経験はない」が26.9%（224人）であった。（表7）

表7 子どものころ暴力を見た経験あり 性的暴力行為

暴力行為	%
入浴やトイレの時などにのぞく	1.0
性行為を無理やりする	0.7
大人の性器を見せる	0.6
性器に触る	0.5
大人の性器を触らせる	0.4
性行為を見せる	0.4
アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる	0.4
親密なキスをする、身体に触る	0.1
その他	0.5
そのような経験はない	26.9

問7 養育の怠慢・拒否について、「外出を制限・家に入れない」が3.7%（31人）、「病気になっても、怪我をしても病院に連れて行かない」が1.9%（16人）、「食事を与えない」が1.8%（15人）、「養育させない（例：着替えをさせない、風呂に入れられないなど）」が0.6%（5人）、「学校に行かせない」が0.4%（3人）、「その他」が1.6%（13人）、「そのような経験はない」が22.9%（191人）であった。（表8）

表8 子どものころ暴力を見た経験あり 養育の怠慢・拒否

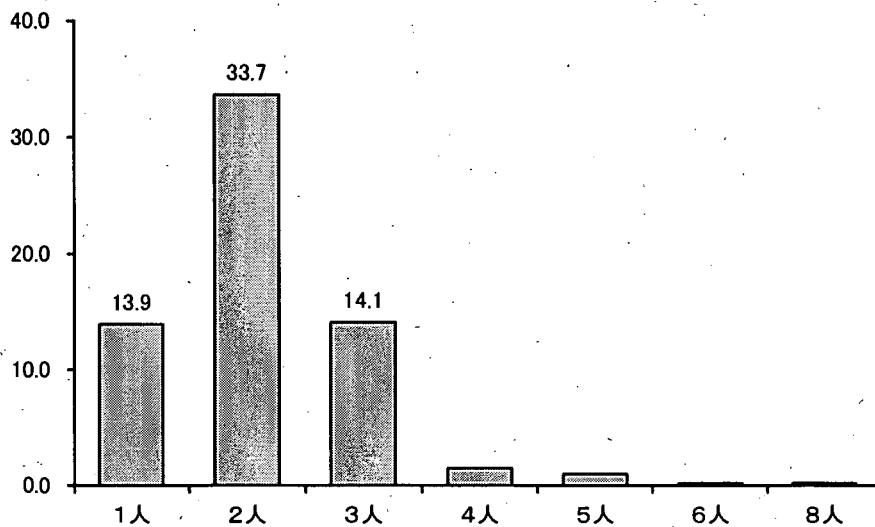
暴力行為	%
外出を制限・家に入れない	3.7
病気になっても、怪我をしても病院に連れて行かない	1.9
食事を与えない	1.8
養育させない（例：着替えをさせない、風呂に入れられないなど）	0.6
学校に行かせない	0.4
その他	1.6
そのような経験はない	22.9

## 7 子どもへの虐待

アンケート回答者 834 人の中で、子どもがいると回答した人は 531 人おり、その中で「子どもへの虐待がある」と回答した人は 362 人であった。虐待別で見ると、「身体的虐待」は 59.3% 「心理的虐待」は 57.4%、「性的虐待」は 9.8%、「養育の怠慢・拒否」は 19.0%であった。

問1 子どもがいると回答した人の子どもの人数について、「2人」が最も多く 33.7% (281人)、次いで「3人」が 14.1% (118人)、「1人」が 13.9% (116人)、「4人」が 1.0% (8人)、「5人」が 0.7% (6人)、「6人」「8人」がともに 0.1% (1人)であった。(図1)

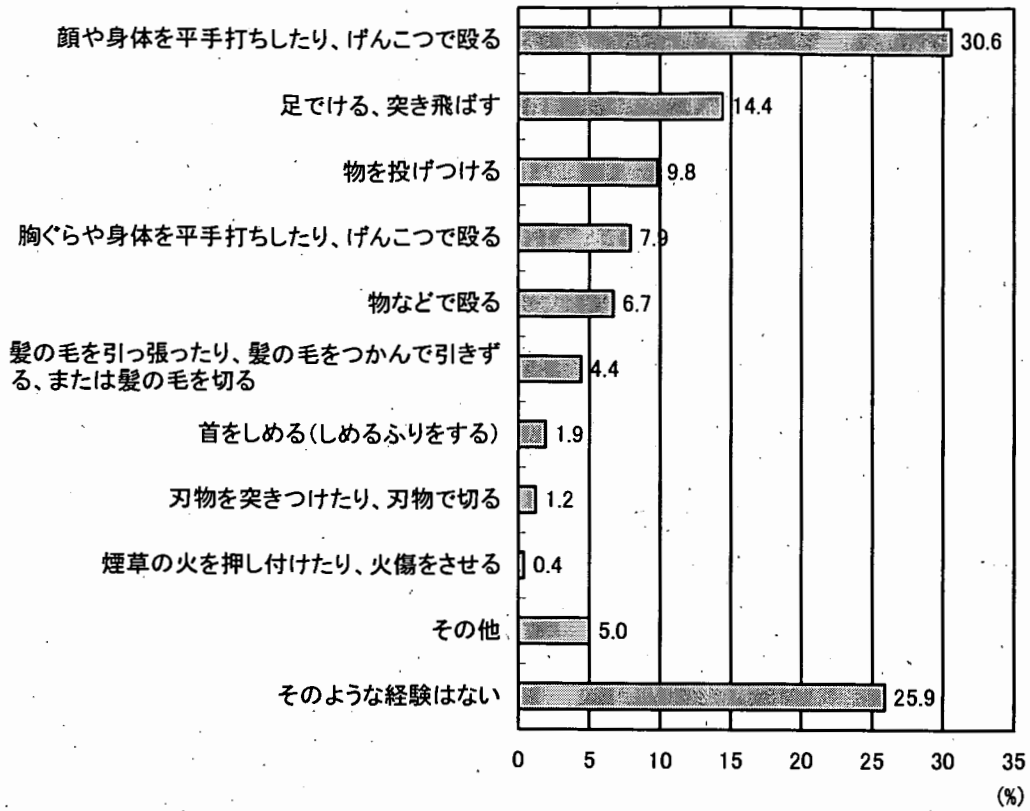
図1 子どもの人数



### 問2 子どもへの身体的虐待

「顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる」が最も多く 30.6% (255人)、次いで「足でける、突き飛ばす」が 14.4% (120人)、「物を投げつける」が 9.8% (82人)、「胸ぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる」が 7.9% (66人)、「物などでなぐる」が 6.7% (56人)、「髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る」が 4.4% (37人)、「首をしめる(しめるふりをする)」が 1.9% (16人)、「刃物を突きつけたり、刃物で切る」が 1.2% (10人)、「煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる」が 0.4% (3人)、「その他」が 5.0% (42人)、「そのような経験はない」が 25.9% (216人)であった。(図2)

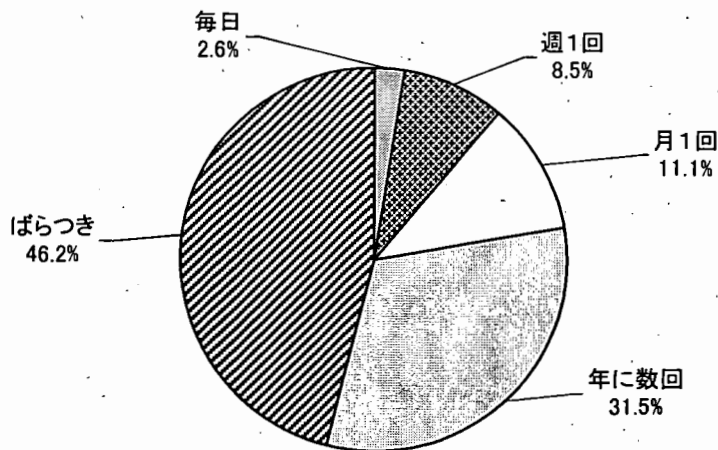
図2 子どもへの虐待あり 身体的虐待



問2-1 身体的虐待が起こっていた(起こる)割合

「ばらつきがある」が46.2% (141人)、「年に数回」が31.5% (96人)、「月に一回程度」が11.1% (34人)、「週に1回程度」が8.5% (26人)、「ほぼ毎日」が2.6% (8人)であった。(図3)

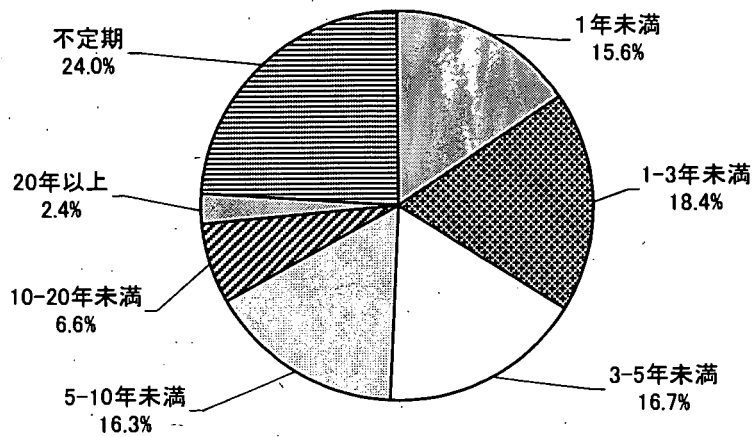
図3 子どもへの身体的虐待の場合



問 2-2 身体的虐待が続いた（続いている）期間

「不定期」が 24.0% (69 人)、「1 年～3 年未満」が 18.4% (53 人)、「3 年～5 年未満」が 16.7% (48 人)、「5 年～10 年未満」が 16.3% (47 人)、「1 年未満」が 15.6% (45 人)、「10 年～20 年未満」が 6.6% (19 人)、「20 年以上」が 2.4% (7 人) であった。(図 4)

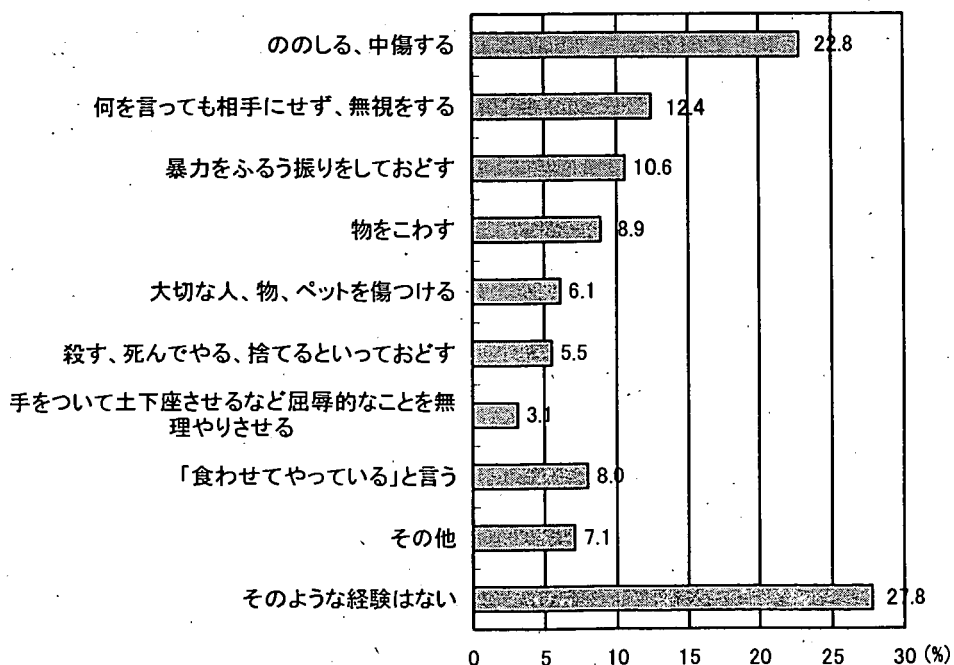
図 4 子どもへの身体的虐待の期間



問 3 子どもへの心理的虐待

「ののしる・中傷する」が 22.8% (190 人)、「何を言っても相手にせず、無視をする」が 12.4% (103 人)、「暴力をふるう振りをしておどす」が 10.6% (88 人)、「物をこわす」が 8.9% (74 人)、「食わせてやると言う」が 8.0% (67 人)、「大切な人・物・ペットを傷つける」が 6.1% (51 人)、「殺す、死んでやる、捨てると言っておどす」が 5.5% (46 人)、「手をついて土下座させるなど、屈辱的なことを無理やりさせる」が 3.1% (26 人)、「その他」が 7.1% (59 人)、「そのような経験はない」が 27.8% (232 人) であった。(図 5)

図 5 子どもへの虐待あり 心理的虐待

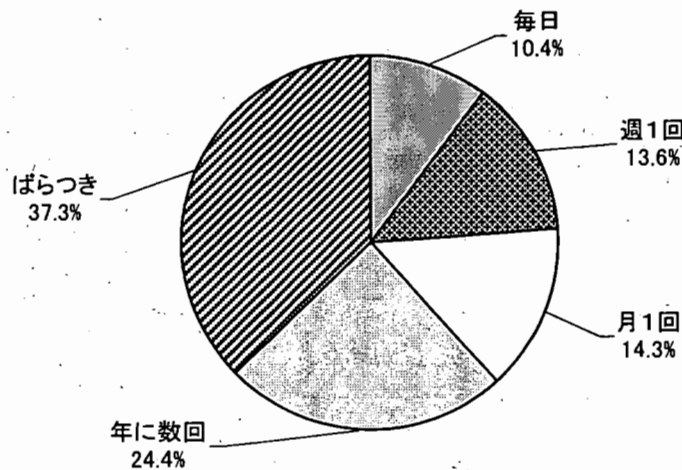




### 問 3-1 心理的虐待が起こっていた（起こる）割合

「ばらつきがある」が 37.3%（104 人）、「年に数回」が 24.4%（68 人）、「月に一回程度」が 14.3%（40 人）、「週に 1 回程度」が 13.6%（38 人）、「ほぼ毎日」が 10.4%（29 人）であった。（図 6）

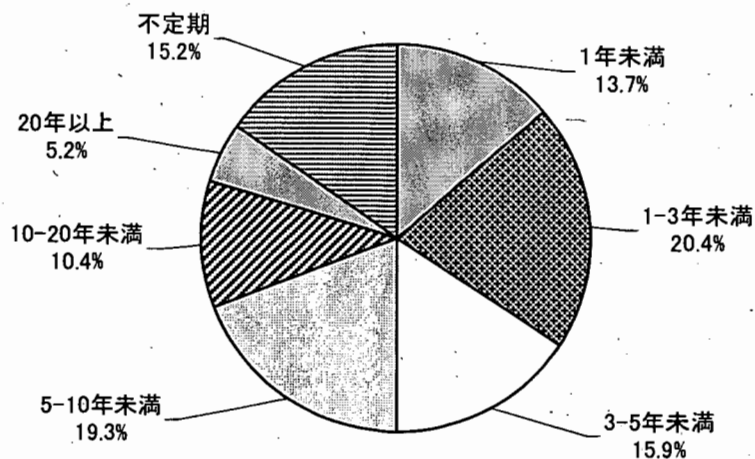
図 6 子どもへの心理的虐待の割合



### 問 3-2 心理的虐待が続いた（続いている）期間

「1 年～3 年未満」が 20.4%（55 人）、「5 年～10 年未満」が 19.3%（52 人）、「3 年～5 年未満」が 15.9%（43 人）、「不定期」が 15.2%（41 人）、「1 年未満」が 13.7%（37 人）、「10 年～20 年未満」が 10.4%（28 人）、「20 年以上」が 5.2%（14 人）であった。（図 7）

図 7 子どもへの心理的虐待の期間



#### 問 4 子どもへの性的虐待

「体のことを言う」が 1.9% (16 人)、「入浴やトイレの時などにのぞく」が 0.7% (6 人)、「親密なキスをする、身体に触る」「性器に触る」がともに 0.6% (5 人)、「大人の性器を見せる」「アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる」がともに 0.2% (2 人)、「大人の性器を触らせる」「性行為を無理やりする」がともに 0.1% (1 人)、「その他」が 1.2% (10 人)、「そのような経験はない」が 57.4% (479 人)であった。(表 1)

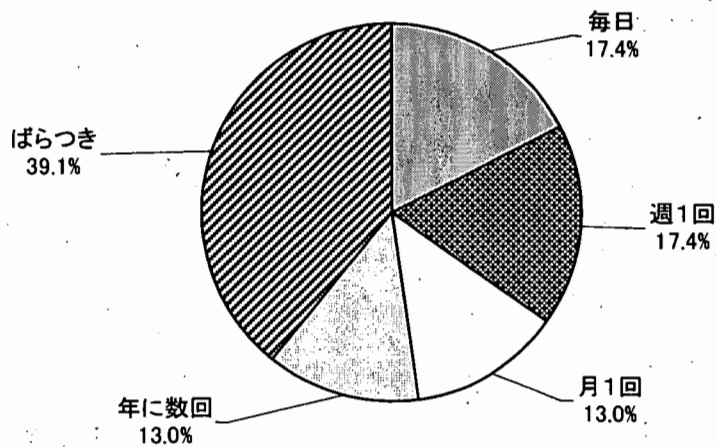
表 1 子どもへの虐待あり 性的虐待

虐待行為	%
からだのことをいう	1.9
入浴やトイレの時などにのぞく	0.7
性器に触る	0.6
親密なキスをする、身体に触る	0.6
大人の性器を見せる	0.2
アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる	0.2
性行為を無理やりする	0.1
大人の性器を触らせる	0.1
その他	1.2
そのような経験はない	57.4

#### 問 4-1 性的虐待が起こっていた(起こる)割合

「ばらつきがある」が 39.1% (9 人)、「週に 1 回程度」「ほぼ毎日」がともに 17.4% (4 人)、「月に一回程度」「年に数回」がともに 13.0% (3 人)であった。(図 8)

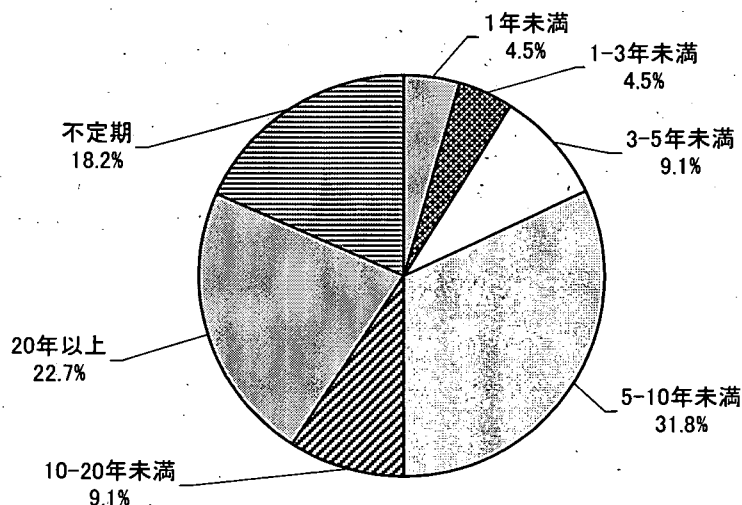
図 8 子どもへの性的虐待の割合



#### 問 4-2 性的虐待が続いた（続いている）期間

「5年～10年未満」が31.8%（7人）、「20年以上」が22.7%（5人）、「不定期」が18.2%（4人）、「3年～5年未満」「10年～20年未満」がともに9.1%（2人）、「1年～3年未満」「1年未満」がともに4.5%（1人）であった。（図9）

図9 子どもへの性的虐待の期間



#### 問 5 養育の怠慢・拒否

「外出を制限・家に入れない」が5.6%（47人）、「食事を与えない」が3.2%（27人）、「病気になっても、けがをしても病院に連れて行かない」が2.0%（17人）、「養育させない（例：着替えをさせない、風呂に入れないなど）」が0.8%（7人）、「学校に行かせない」が0.5%（4人）、「その他」が3.7%（31人）、「そのような経験はない」が51.6%（430人）であった。（表2）

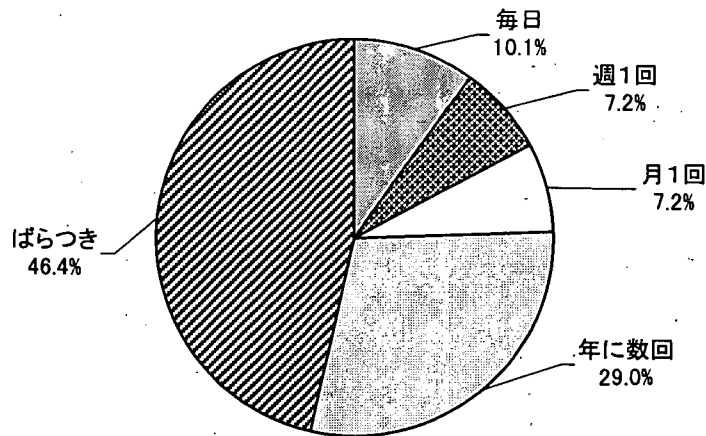
表2 子どもへの虐待あり 養育の怠慢・拒否の行為

虐待行為	%
外出を制限・家に入れない	5.6
食事を与えない	3.2
病気になっても、怪我をしても病院に連れて行かない	2.0
養育させない（例：着替えをさせない、風呂に入れないなど）	0.8
学校に行かせない	0.5
その他	3.7
そのような経験はない	51.6

### 問 5-1 養育の怠慢・拒否が起こっていた（起こる）割合

「ばらつきがある」が46.4%（32人）、「年に数回」が29.0%（20人）、「ほぼ毎日」が10.1%（7人）、「週に1回程度」「月に1回程度」がともに7.2%（5人）であった。（図10）

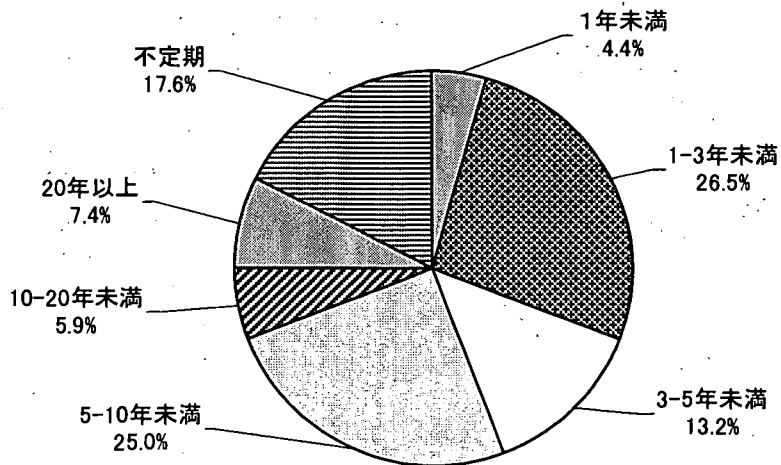
図10 子どもへの養育の怠慢・拒否などの割合



### 問 5-2 教育の怠慢・拒否が続いた（続いている）期間

「1年～3年未満」が26.5%（18人）、「5年～10年未満」が25.0%（17人）、「不定期」が17.6%（12人）、「3年～5年未満」が13.2%（9人）、「20年以上」が7.4%（5人）、「10年～20年未満」が5.9%（4人）、「1年未満」が4.4%（3人）である。（図11）

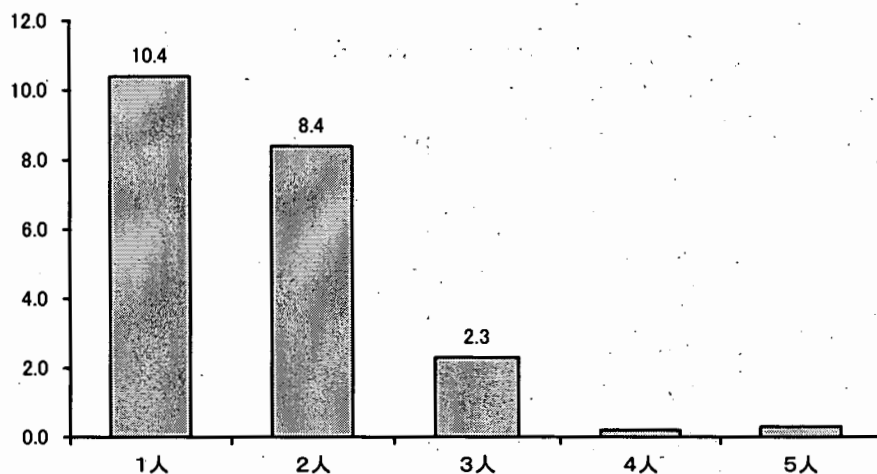
図11 子どもへの養育の怠慢・拒否などの期間



### 問 6 虐待を受けていた子どもの人数

「1人」が48.1%（87人）、「2人」が38.7%（70人）、「3人」が10.5%（19人）、「5人」が1.7%（3人）、「4人」が14.1%（2人）であった。（図12）

図12 虐待を受けていた子どもの人数

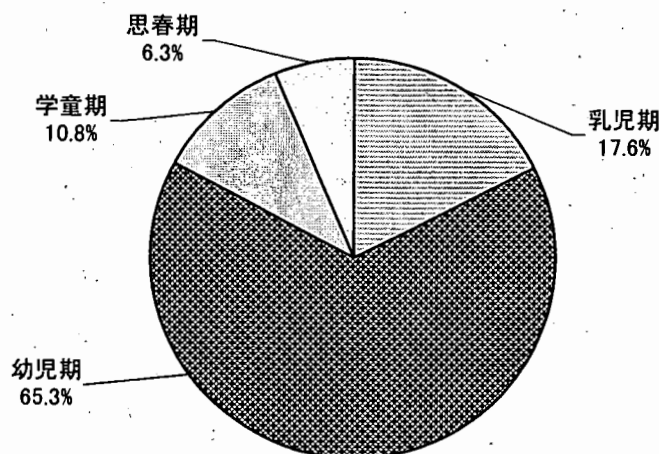


### 問 7 一番初めに虐待が起こった子どもの成長時期

「幼児期（乳児期以後、6歳頃まで）」が65.3%（115人）と最も多く、次いで「乳児期（生後1年まで）」が17.6%（31人）、「学童期（幼児期以後、12歳頃まで）」が10.8%（19人）、「思春期（12歳以後、15歳頃まで）」が6.3%（11人）であった。

被虐待児のほとんどは5歳以下の乳幼児であると他の調査では述べられているが、今回の結果でも「乳児期」「幼児期」合わせると82.9%（146人）と、ほぼ8割以上がこの時期に虐待が始まっている。（図13）

図13 子どもへの成長時期

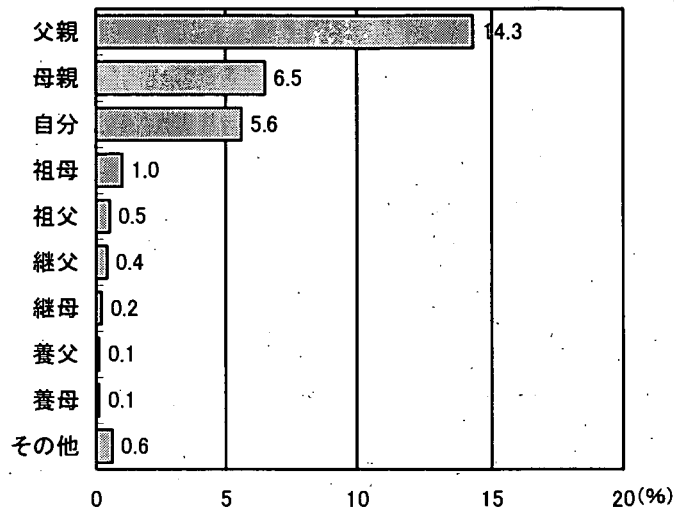


### 問 8 虐待をしていた人

「父親」が 14.3% (119 人) と最も多く、次いで「母親」が 6.5% (54 人)、「自分」が 5.6% (47 人)、「祖母」が 1.0% (8 人)、「祖父」が 0.5% (9 人)、「継父」が 0.4% (3 人)、「継母」が 0.2% (2 人)、「養母」「養父」がともに 0.1% (1 人)、「その他」が 0.6% (5 人)であった。

(図 14)

図 14 虐待をしていた人



### 問 9 子どもへの虐待の始まったきっかけ

多数ある意見の中から一部分記載する。

- ・成長による子どもの反抗
- ・どうしても言うことを聞かないとき (親の言うことを聞かなかったとき、言葉で言ってもわからないとき)
- ・私に暴力をふるい、子どもが私をかばうといっそう暴力となった
- ・夫のわがまま
- ・両親、夫から受けた抑圧に対する疲れが立場の弱い子どもへ移行
- ・子どもの父親が子どもへ暴力をふるったのは妻である私への不満がたまったから
- ・夫婦関係が上手くいっていないとき、お互いの当てつけのため
- ・子どもが言葉を話すようになり、その言葉が気に入らなくて
- ・わからない
- ・トイレトレーニングが上手くいかなかった
- ・自分の思い通りにならない
- ・子どもが学友と行動をとり、家族と一緒に外出しなくなった、塾・部活を優先したため、夫 (親) の行動に批判したりする
- ・近所の奥さんに嫌な態度をとられ、子供に当たった (一回のみ息子に)、夫に対して不快感から (娘に一回のみ) などがあげられていた。

#### 問 10 相談した人、機関（また今現在相談しているかどうか）

「相談したことがない」が 21.3%（178 人）で最も多く、次いで「友人・知人」が 15.9%（133 人）、「両親」が 12.4%（103 人）、「兄弟姉妹」が 9.5%（79 人）、「婦人相談センター・女性センター」が 6.2%（52 人）、「舅・姑」が 5.5%（46 人）、「電話相談」が 5.4%（45 人）、「学校・幼稚園・保育所関係者」が 5.3%（44 人）、「病院」が 4.6%（38 人）、「児童相談所」が 4.3%（36 人）、「その他の知り合い」が 4.1%（34 人）、「義兄弟姉妹」が 3.7%（31 人）、「福祉事務所」が 3.0%（25 人）、「弁護士」が 2.9%（24 人）、「民間の相談機関」が 2.8%（23 人）、「宗教団体」が 2.4%（20 人）、「警察」が 2.3%（19 人）、「保健所」が 1.7%（14 人）、「民生委員」が 0.6%（5 人）、「インターネット」が 0.4%（3 人）、「その他」2.4%（20 人）であった。

相談については、相談所や施設などの機関よりも「友人、知人」「両親、兄弟姉妹」と身近な人への相談が 59.1%（493 人）と半数を超えていた。

（報告 藤田千恵子・友田尋子）

## III章 被害像・加害像



### Ⅲ章 被害像・加害像

#### 1 被害者・加害者の人となり

被害者、加害者像をアンケートの結果から浮き彫りにする。

アンケートでは、回答者自身について質問すると同時に、暴力関係にあった相手についても質問をしており、それをもとに被害者および加害者の属性を概観する。

ここでは、次のように回答者を分類する。

第1群：「被害経験あり」・・・「暴力の被害を受けた（受けている）」と回答した人たち

第2群：「加害経験あり」・・・「暴力をした（している）」と回答した人たち

第3群：「経験なし」・・・「暴力を受けた経験も、した経験もない」と回答した人たち

さらに、本調査を通じて被害者、加害者像を探るために、「被害経験あり」「加害経験あり」と回答した人の暴力の相手については、それぞれ「加害者（相手）」「被害者（相手）」とする。ここでいう第2群の「加害経験あり」は、過去（現在）の体験の中で「暴力をした（している）」と答えた人たちをさしている。

また、子どもごろの暴力の体験・目撃があったと回答した人、また、現在子どもがいる人で虐待があると回答した人については第Ⅲ章4で分析する。

分析の際、母集団の数が変わる場合はその都度記している。

#### (1) 暴力経験

アンケート回答者のうち650人（%）が、現在および過去に親密な関係において、何らかの暴力経験があることが示された。ここには、「被害経験あり」、「加害経験あり」、「子どもごろの経験（体験・目撃）」、「子どもへの虐待」を含む（内訳は、「単純集計」を参照のこと）。

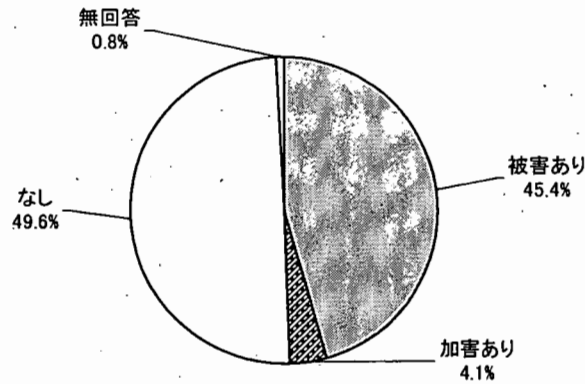
#### (2) 被害・加害の男女差（図1）

過去のDV調査では、被害者の多くが女性であり、加害者の多くは男性であることが指摘されている。今回の調査においては、次のような結果が示された。

「過去（現在）の被害体験」についての問いで、「被害経験あり」と答えたのは、379人で、そのうち99.2%（376人）が女性であり、0.8%（3人）が男性であった。

また、「過去（現在）の被害体験」において、「加害経験あり」と回答した女性のうち、23人が配偶者への暴力を行ったとしている（「パートナー」への加害を含めると28人。また、ここでは延べ人数）。このように、本調査においては若干であるが男性の被害者もみられ、女性から男性への暴力が皆無ではないことがわかる。しかし、本調査においても被害者の9割は女性であり、親密な関係における暴力の多くは、男性から女性へのものであることが指摘できるだろう。

図1 過去の暴力関係の有無

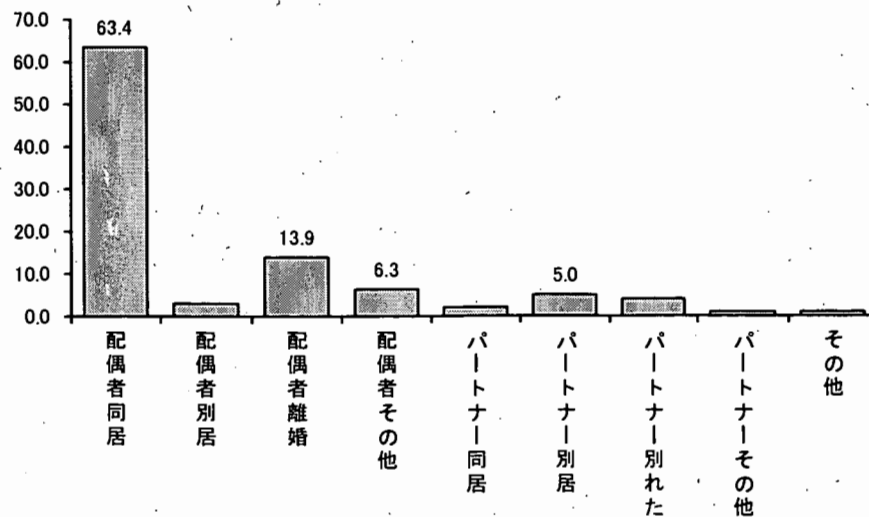


(3) 暴力の相手 (図2)

「被害経験あり」(n=379人)と回答した人の「加害者(相手)」は、98.9%(376人)が「配偶者・パートナー」である。当時、「同居していた」と回答した人は「配偶者同居」が63.4%(241人)、「パートナー同居」が2.4%(9人)と、6割以上の人々が、同居している相手からの暴力を受けていた。

また、「加害経験あり」(n=34人)と回答した人の「被害者(相手)」は、94.9%(38人)が「配偶者・パートナー」であり、「同居」は「配偶者」「パートナー」をあわせると、56.4%(22人)である。

図2 暴力をふるっていた相手との関係



#### (4) 年代別

被害者を年代別にみると、30代がもっとも多く38.9% (147人)、続いて40代の24.1% (91人)、50代の20.1% (76人)、20代の9.5% (36人)となっている。この内訳はアンケート回答者全体の比率とほぼ同じであるが、全体では、20代が17.2% (142人)となっており、30代、40代に続いて3番目に多い。他方で、最年少では19歳、最高齢では86歳が暴力の被害を訴えており、年代を超えて被害の広がりが見られる。

また、「加害経験あり」と回答した人を年代別に見ると、40代が32.4% (11人)、20代、30代が同じ数で23.5% (8人)、50代が20.6% (7人)となっており、ほとんど偏りはみられなかった。

#### (5) 学歴・職業 (図3, 図4, 図5, 図6)

##### ☆被害者の場合

学歴でみると、「被害経験あり」では、「高校卒」28.7% (108人)がもっとも多い。ついで「大学卒」の24.7% (93人)であるが、これに「短大・高専」および「大学院卒」をあわせると、44.4% (167人)となり、ほぼ半数が高学歴(短大・高専卒以上)であるといえる。また、「在学中・その他」の人は6.3% (52人)であり、その中には放送大学などの修了者も含んでいる。

「被害経験あり」(n=378人)の職業をみると、「専業主婦(夫)」が28.8% (109人)でもっとも多く、「無職」6.9% (26人)を含めると35.7% (135人)となっている。ついで「事務・サービス職」が22.5% (85人)、「専門・技能職」が14.8% (56人)となっており、6割以上が就業しているといえる。

しかし、勤務形態でみると、「定期」であると回答した人は32.3% (120人)であり、「アルバイト・パート」および「不定期・非常勤」はそれぞれ24.7% (92人)、7.8% (29人)となる。これは、「無職」の25.3% (94人)という数字よりは、やや多いものの、被害者の多くが経済的に不安定か、あるいは自立していないということを示しているといえる(n=372人)。

このことを年収からみると、アンケート回答者全体では「なし~100万円未満」が37.1% (294人)であるのに対し、「被害経験あり」(n=362人)では50.3% (186人)であることからわかる。だが、被害者で年収「700万円以上」の人が3.4% (12人)であり、被害者が暴力から逃れられない、あるいは暴力に遭遇してしまう原因が必ず経済的なものと関連しているとは言い切れないだろう。

##### ☆加害者の場合

「加害経験あり」と回答した人の学歴は、「大学卒」がもっとも多く(38.2%)13人、ついで「高校卒」が26.5% (9人)であるが、短大・高専卒以上としてまとめると、49.9% (19人、「在学中・その他」含む)であり、ほぼ半数が高学歴であるといえる。

また、同様に職業は「専門・技能職」が35.3% (12人)であり、ついで「専業主婦(夫)・無職」の20.6% (7人)であるが、定期(常勤)で働いている人は52.9% (18人)とほぼ半数以上がフルタイムで就労している。また年収では「700万円以上」が26.4% (9人)と2割を占めている。

ここで、「被害経験あり」と回答した人の「加害者(相手)」の属性をみてみよう。

図3 最終学歴 被害者・加害者別

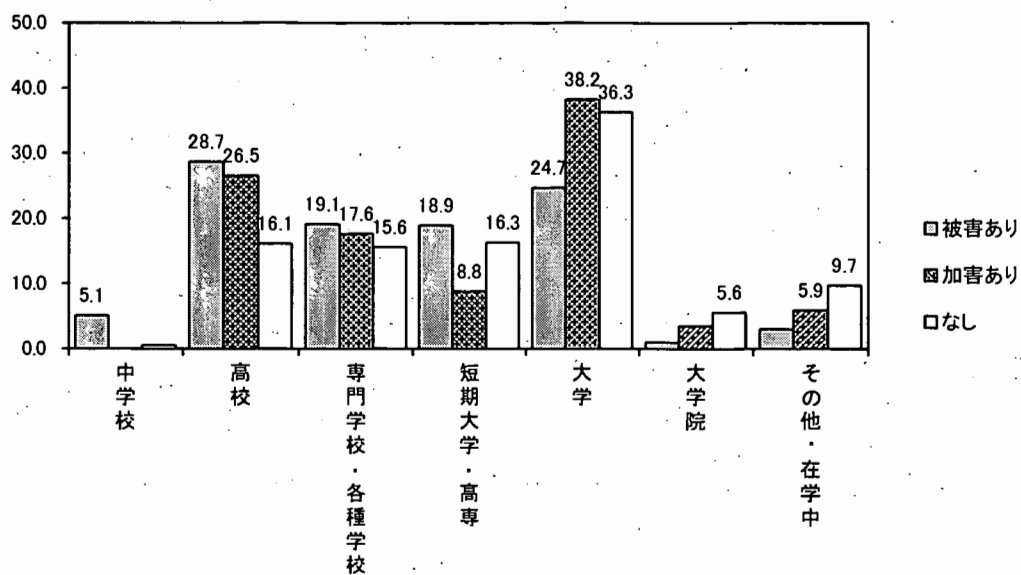


図4 職業 被害者・加害者別

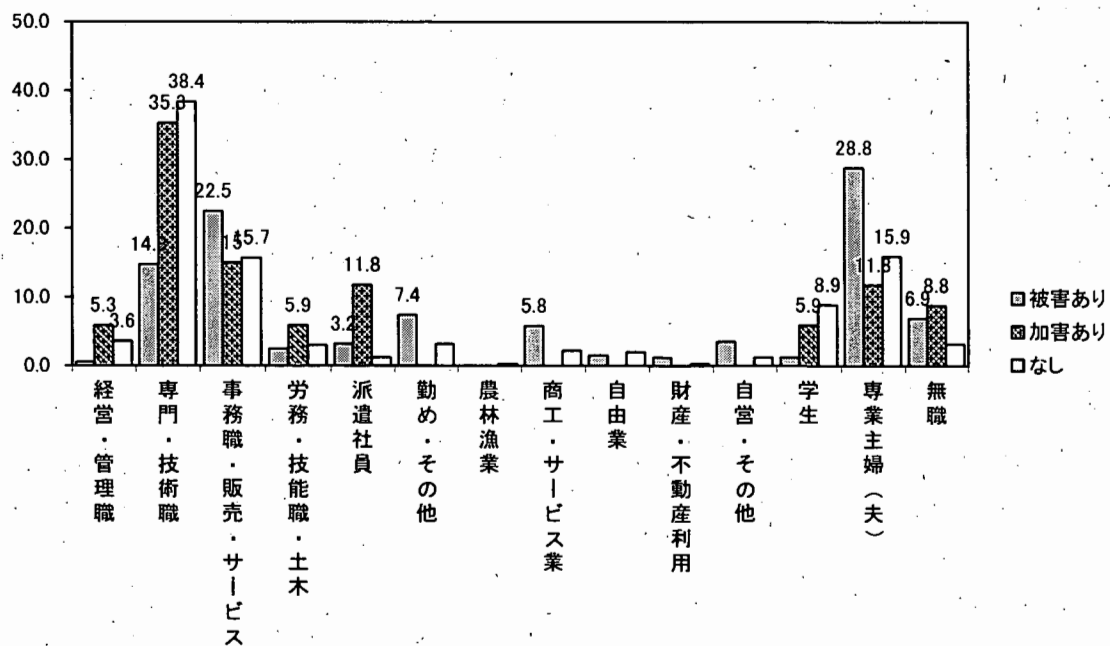


図5 勤務形態 被害者・加害者別

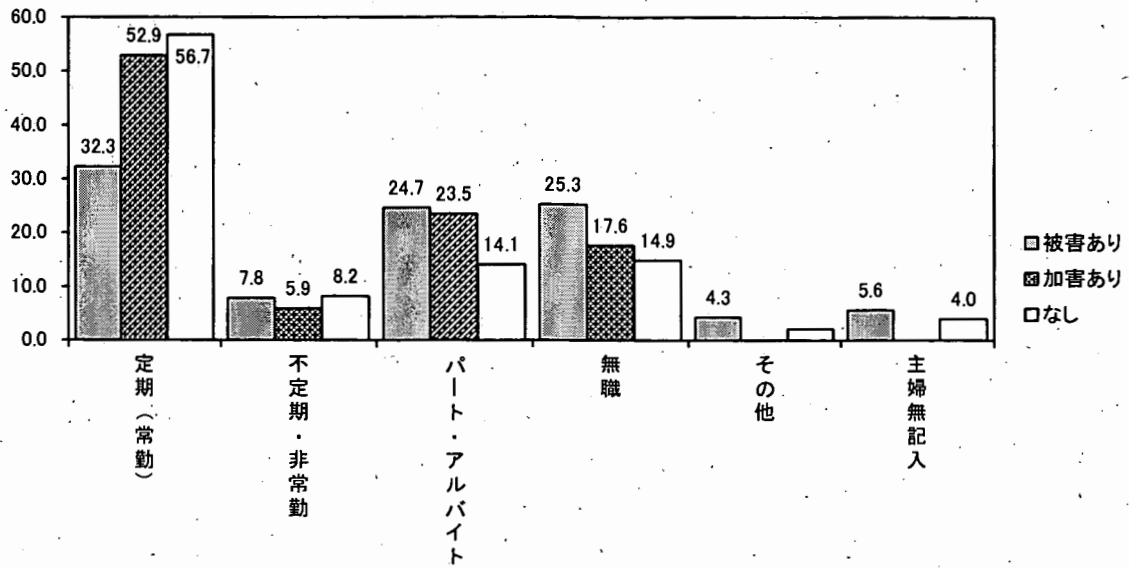
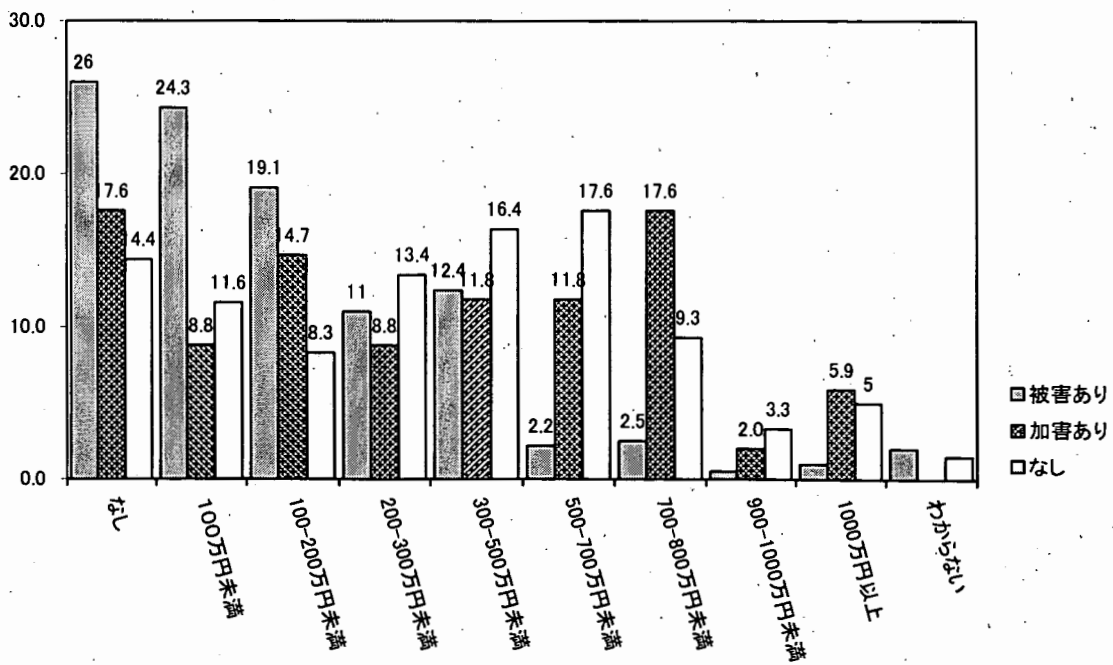


図6 年収 被害者・加害者別



年齢、学歴に関しては質問していないので不明である。

職業について、「事務・営業・サービス職」が23.4%（87人）ともっとも多く、ついで「労務・技能・土木職」の18.5%（69人）となる。しかし、「経営・管理職」「専門・技術職」をあわせると、32.0%（119人）であり、「事務・営業・サービス職」と合わせると半数以上がいわゆるホワイトカラーであるといえる（n=373人）。

また、勤務形態でみると86.3%（314人）が定期（常勤）であるとされ、「無職」および「不定期・非常勤」「パート・アルバイト」をあわせても9.6%（35人）と1割にも満たないことがわかった（n=364人）。さらに、年収でみると、「700万円以上」は62.0%（232人）であり、6割以上が高所得者層であるといえる（n=374人）。このことから、被害者と加害者の経済的な格差が認められる。すなわち、多くの被害者は加害者に経済的に依存しているといえるだろう。

（報告 坂なつこ）

## 2 暴力認識や性格・生活態度

### (1) 気持ちや感じ方

「気持ちや感じ方」では、回答者の日常生活における気持ちや感じ方、また、性格や性格態度についてきいた。

[1] では、問1で暴力への欲望、問2で暴力への脱感作（刺激に対する感情・感覚が鈍化すること）、問3で対人関係における暴力と言葉の関係についてきいた。この質問は、平成11年9月に行われた総務庁青少年対策本部による「青少年とテレビ、ゲーム等に係わる暴力性に関する調査」を参考にした。

また、[2] では、問1で暴力で悩んだ経験を持っている人に、暴力で悩む以前と以後での性格や生活態度の変化についてきいた。暴力経験を持たない人には、現在の性格や生活態度をきいた。この質問は、フェミニストカウンセリング堺 DV 研究チームによる、1998年の「夫・恋人（パートナー）などからの暴力について」調査報告書を参考にした。

### 問1 暴力への欲望

#### 1) 「むしように暴れたくなることがある」(図7-①)

ここでは「加害経験あり」で、「よくある」と「たまにある」を合わせるともっとも多く50% (17人)であった (n=34人)。これは、「被害経験あり」(n=368人)の34.3% (130人)、「経験なし」(n=413人)の29.9% (123人)と比べると、非常に高い数字であることがわかる。

また、「ない」と答えた人は、「経験なし」でもっとも多く70.2% (290人)であった。

#### 2) 「誰かを殴りたくなる」(図7-②)

「よくある」「たまにある」ともに、「被害経験あり」でもっとも多く、それぞれ3.5% (13人)、25.1% (93人)であった (n=370人)。「加害経験あり」では、「よくある」が2.9% (1人)、「たまにある」は20.6% (7人)と、「被害経験あり」よりも少ないポイントを示した。「ない」と答えた人がもっとも多かったのは、「経験なし」の群で83.8% (346人)だった。

#### 3) 「ケンカに強くなりたと思う」(図7-③)

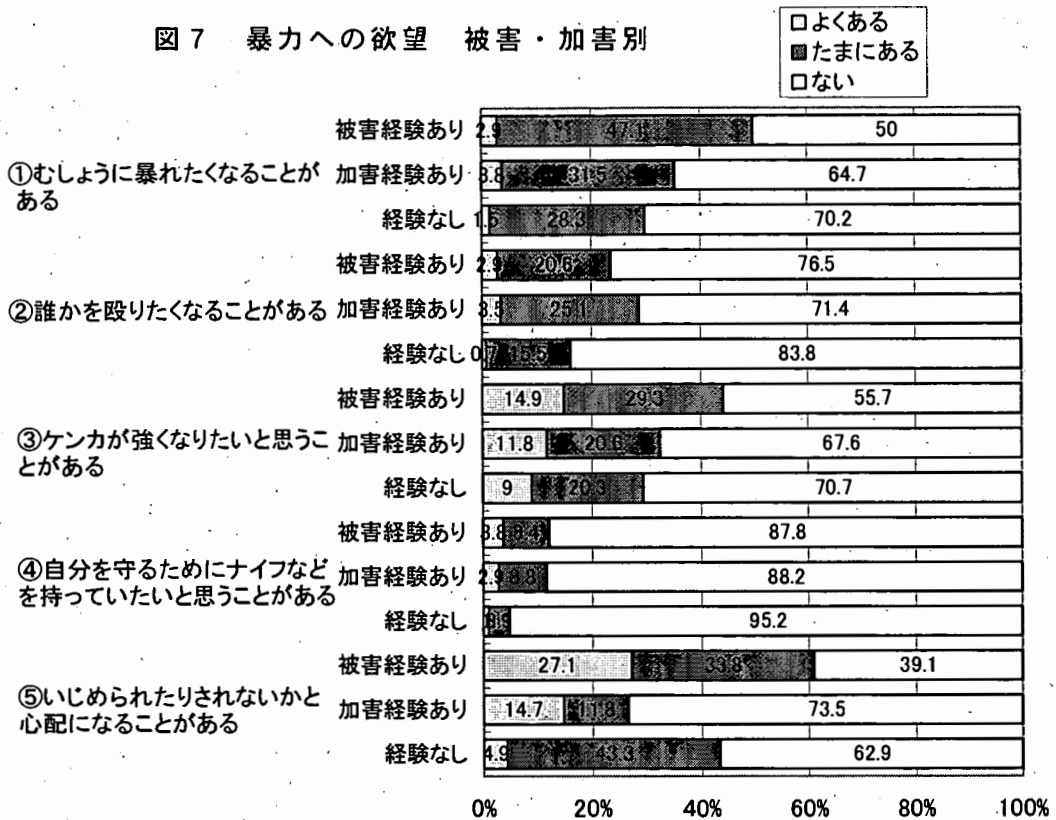
「よくある」「たまにある」で、もっとも多かったのは「被害経験あり」であり、それぞれ14.9% (55人)、29.3% (108人)という数字を示した (n=368人)。つぎには「加害経験あり」で、「よくある」は11.8% (4人)であり、「経験なし」では9.0% (37人)であった。しかし、「加害経験あり」、「経験なし」とも「たまにある」では、ほとんど差はなかった。

#### 4) 「自分を守るために、ナイフなどをもっていたい」(図7-④)

ここでもまた、「被害経験あり」において、「よくある」「たまにある」を合わせると12.2% (45人)もっとも高いポイントが示された。「加害経験あり」では11.7% (4人)、「経験なし」では4.9% (20人)であった。

5)「イジメられるのではないかと心配することがある」(図7-⑤)

「よくある」でもっとも多かったのは「被害経験あり」で27.1%(101人)であった(n=373人)。「加害経験あり」の14.7%(5人)、「経験なし」(n=412)の4.9%(20人)と比べると非常に顕著であった。また、「被害経験あり」で「たまにある」と答えた人は33.8%(126人)であり、「よくある」「たまにある」をあわせると6割以上あった。「ない」でもっとも高いのは「加害経験あり」で、73.5%(25人)であった。



問1を概観すると、1)「むしように暴れたくなることがある」、2)「誰かを殴りたくなる」という質問から、「加害経験あり」と答えた人で怒りやいらつきなどを感じてる人が多いことがわかる。しかし、そのような感情のはけ口は「殴る」という具体的な行為に結びついているというより、「暴りたい」という気持ちにつながっているように思われる。他方で、「被害経験あり」と答えた人では、2)「誰かを殴りたくなる」や、3)「ケンカに強くなりたと思う」、4)「自分を守るために、ナイフなどを持っていたい」という、「強さ」や「加害」などをより具体的なイメージで示している問において、「そう思う」と答えている人が多く、被害者の「強くなりた」「抵抗したい」という気持ちの表れと考えられる。また、5)「イジメられるのではないかと心配することがある」で「被害経験あり」に「そう思う」という答えが多かったのは、暴力をふるわれた経験が影響しているものと思われる。



## 問2 暴力の脱感作

### 1) 「殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになる」(図8-①)

「被害経験あり」で、「よくある」と答えた人は67.7% (251人)で、3群中ではもっとも多く、「たまにある」は26.1% (97人)であった (n=371人)。暴力にもっとも敏感に反応している様子が見られる。

「加害経験あり」では、「よくある」50.1% (17人)と3群中もっとも少なかった。「経験なし」では「よくある」58.1% (206人)、「たまにある」は38.4% (158人)であった。

### 2) 「血が飛び散るシーンを見ると嫌な気持ちになる」(図8-②)

「被害経験あり」では、「よくある」が75.0% (279人)であり、問2中ではもっとも大きな数字であった (n=374人)。「たまにある」の18.0% (67人)を合わせると、「被害経験あり」のほぼ9割の人が「血が飛び散る」というリアルな表現に反応していることがわかる。

また、「加害経験あり」では、「よくある」が55.9% (19人)と、3群中ではもっとも低い数字であったが、「たまにある」は44.1% (15人)であり、「ない」と答えた人はいなかった。

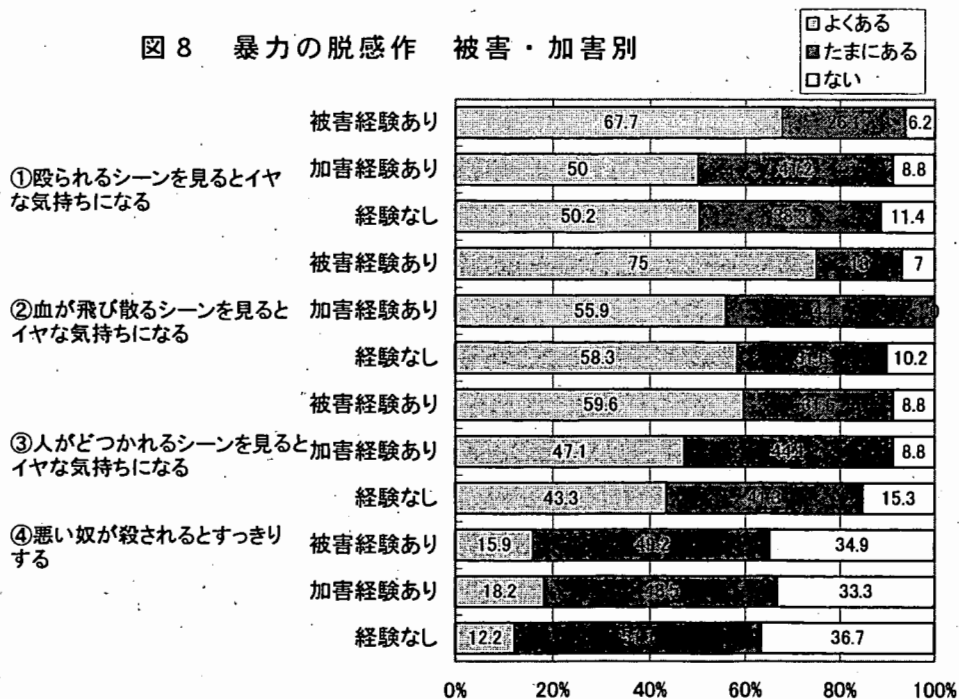
「経験なし」では、「よくある」が65.7% (239人)、「たまにある」は31.6% (130人)であり、「ない」と答えた人は10.2% (42人)と、3群中ではもっとも多かった。

### 3) 「人がどつかれるシーンをみると嫌な気持ちになる」(図8-③)

「被害経験あり」では、「よくある」と答えた人が59.6% (223人)で3群中もっとも多かった (n=374人)。「たまにある」は31.6% (118人)で、「加害経験あり」の、「よくある」が47.1% (16人)、「たまにある」は44.1% (16人)、「経験なし」の「よくある」43.3% (178人)、「たまにある」は41.4% (170人)と比較すると、ここでも「被害経験あり」がもっとも多く、暴力に反応しているといえる。

### 4) 「悪い奴が主人公に殺されるとすっきりする」(図8-④)

「すっきりする」と答えた人では、「加害経験あり」がもっとも多く(18.2%、6人:n=33人)、「被害経験あり」が15.9% (59人:n=370人)、「経験なし」が12.2% (50人:n=411人)となった。



問2全体として、「被害経験あり」と回答した人は暴力に対して他の2群よりも敏感に反応していることがわかる。特に、「どつく」など比較的軽度のものより、「殴る」「血が飛び散る」などよりリアルな暴力表現に多く反応していることがわかる。比較すると、「加害経験あり」と自ら回答している人に若干の暴力への脱感作が生じていることが見て取れる。しかし、1)「殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになる」では、「ない」(暴力に対する鈍化)では「加害経験あり」よりも「経験なし」でもっとも多いポイントであった。他者に対して暴力をふるう人は暴力を好む傾向があると考えられることが多いが、ここでは加害経験と暴力の脱感作に、それほどの関連性が見えるとはいえない結果となった。

### 問3 対人関係 次の場合、言葉でうまく説明できないことがあるか

#### 1)「友達に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」(図9-①)

「よくある」でもっとも多かったのは、「被害経験あり」で22.0%(81人)であった(n=368人)。これは、「加害経験あり」の14.7%(5人)、「経験なし」の10.5%(43人)と比べると大きな開きがあった(n=409人)。しかし、「たまにある」を比べると、「経験なし」がもっとも多く52.2%(213人)であった。

#### 2)「目上の人に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」(図9-②)

「よくある」がもっとも多かったのは「被害経験あり」で31.1%(114人)である(n=367人)。「加害経験あり」は20.6%(7人)、「経験なし」では19.9%(81人:n=409人)であった。しかし、「たまにある」では、「加害経験あり」が55.9%(19人)ともっとも多く、ついで「経験なし」の54.7%(223人)、「被害経験あり」の49.0%(180人)となった。

#### 3)「親に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」(図9-③)

「被害経験あり」は「よくある」がもっとも多く、24.5%(88人)、「たまにある」が37.3%(134人)であり、6割以上の人が経験があると回答している(n=359人)。また、「経験なし」では、「たまにある」がもっとも多く42.6%(172人)であり、「よくある」は13.1%(53人)と、ここでも5割以上の人が経験ありとしている(n=405人)。

#### 4)「後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できない」(図9-④)

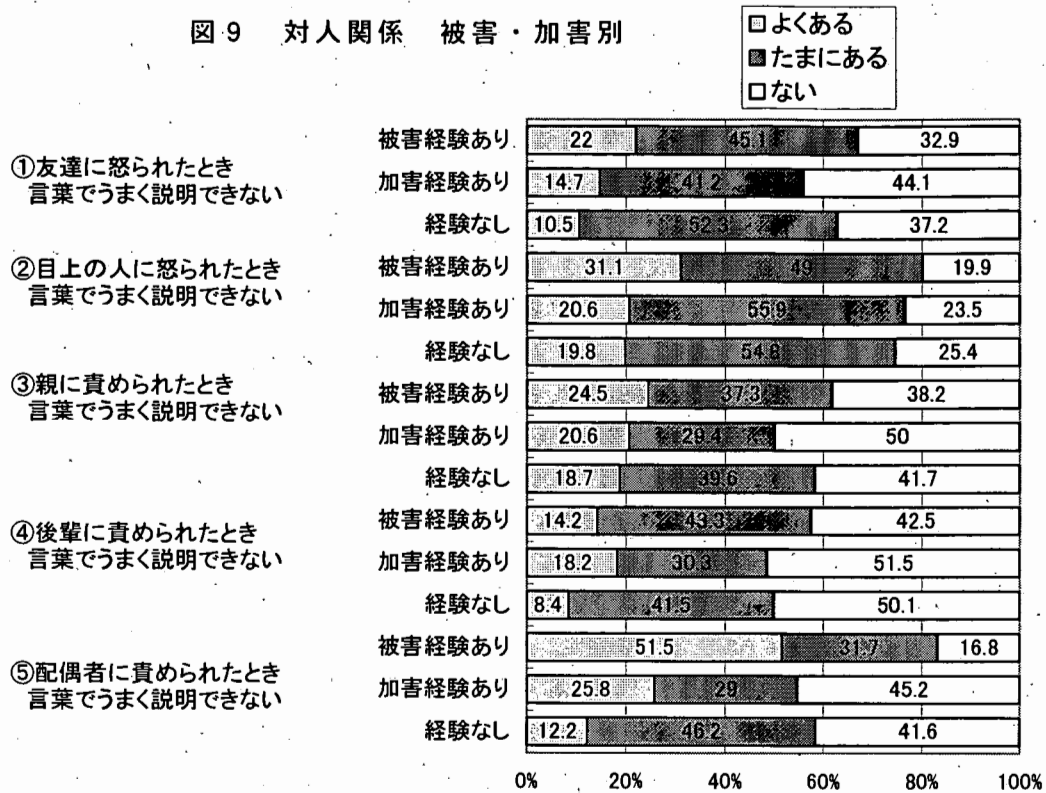
「よくある」でもっとも多かったのは、「加害経験あり」であり18.2%(6人)であった(n=33人)。しかし、「よくある」「たまにある」を合わせた場合では、「被害経験あり」がもっとも多くそれぞれ14.2%(51人)、43.3%(155人)であり、6割近くの人が経験があるとしている(n=358人)。「経験なし」では、「よくある」は8.4%(34人)であった。

#### 5)「配偶者(パートナー)に責められたとき言葉でうまく説明できない」(図9-⑤)

ここでは、もっとも顕著な結果がでた。「よくある」と回答した人は、「被害経験あり」でもっとも多く、51.5%(190人)であり、「たまにある」の31.7%(117人)と合わせると、8割以上の人が言葉でうまく説明できないと感じている(n=369人)。他方、「加害経験あり」では「よくある」が25.8%(8人)、「たまにある」が29.0%(9人)と、合わせると約5割の人が経験して

いる (n=31 人)。また、「経験なし」でも「よくある」は 12.2% (48 人) と 3 群中もっとも低い  
 が、「たまにある」では 46.2% (181 人) と、ここでも合わせて 6 割近くの人が経験していると  
 している (n=392 人)。

図 9 対人関係 被害・加害別



問 3 全体として、「被害経験あり」の人は、自分が責められた時に相手がどのような立場にある人でも、言葉では説明できないと感じる経験が多くみられた。とりわけ、「配偶者・パートナー」という親密でありかつ対等であるはずの関係において、自分の気持ちを言葉で説明できないと感じる経験が多いということは、暴力によって対等な人間関係が崩れているということを示しているといえる。

また、「加害経験あり」では、特に「目上の人」という自分よりも社会的立場が上の人に、言葉による説明が困難な様子が見て取れる。また、「配偶者・パートナー」に対して 5 割程度の人  
 が言葉で説明できないと感じると回答している。

他方で、現在暴力関係にないと回答している人たちにも、対人関係やコミュニケーションに何らかの問題や葛藤を抱えていることが示された。そのことは、「経験なし」群でも、「配偶者・パートナー」関係において約 6 割の人が「自分の気持ちを言葉で説明できない」と感じていることから読みとることができる。

このような結果は、どのような人にも暴力を使用する可能性があることを示しており、暴力に至ってしまう関係、暴力へは結びつかない関係とはどのようなものなのか、あるいはどのような要因が暴力関係を引き起こすのかについて考えることが必要であろう。

## (2) 性格や生活態度

問1、問2を通じて、①「明るく元気な方である」、③「自分を大切に感じているし、自分が好きである」、⑨「好奇心が旺盛で、行動的である」、⑩「ものごとすぐに感動する方である」は「自分自身への肯定的な評価、感情や意欲の豊かさ」についてきいている。

また、②「人とのつきあいがおっくうである」、④「何となく自信がない」、⑧「一人だと不安になる」、⑪「自分が何をしたいのかよくわからないことがある」、⑫「最初から「うまくいかない、失敗する」とあきらめることがある」は「対人関係、能力、欲求における自信のなさ」についてきいている。

さらに、⑤「頼られると嫌といえないタイプ」、⑥「自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い」は「他者との関わり方における他者優先の傾向」について質問している。

⑦「自分でものごとを決めることが苦手である」は「自己を尊重しているか」をきく質問である。

ここでは、被害、加害の有無にかかわらず、「暴力経験のあった(ある)」群と、「ない」群に分けて考察する。その際、前者を「経験あり」、後者を「経験なし」とする。

### 1) 「自分自身への肯定的な評価、感情や意欲の豊かさ」

①「明るく元気な方である」では、「経験あり」と回答した人の68.9%(294人)が暴力経験以前には、「そう思う」としていた(n=427人)。これは、「経験なし」の65.6%(248人)とほぼ同じ比率であった。しかし、暴力経験以後には30.3%(131人)と大きく減っており、「そう思わない」が9.1%(39人)から33.8%(146人)へと大きく増加した(n=432人)。(図10)

③「自分を大切に感じているし、自分が好きである」では自己肯定感についてきいているが、「経験あり」では、暴力経験以前(n=423人)には「そう思う」が57.2%(242人)から、暴力経験以後(n=427人)の41.7%(178人)へと減少しており、「そう思わない」という回答は15.6%(66人)から30.3%(128人)に増加している。「経験なし」(n=378人)では、69.6%(263人)が自己肯定感を持ち、「そう思わない」は7.7%(29人)としており、暴力経験以後の自己肯定感の低下が目立っている。(図11)

⑦では「自分でものごとを決めることが苦手である」かどうかをきいている。ここでは、「経験あり」で暴力経験以前(n=424人)に「そう思う」は16.3%(69人)であり、「経験なし」(n=378人)の17.7%(67人)とほぼおなじ割合である。しかし、暴力経験以後(n=429人)には「そう思う」は30.1%(129人)と増加しており、自分で物事を決定できないと考えている人が多いことがわかる。(図12)

⑨「好奇心旺盛で、行動的である」や、⑩「ものごとすぐに感動するほうである」といった感情や意欲の豊かさについての問いでは、暴力経験以前の「経験あり」(n=425人)ではそれぞれ62.7%(267人)、71.3%(303人)と、「経験なし」(n=377人)の47.9%(181人)、67.4%(254人)よりも高い割合を示した。しかし、暴力経験以後(n=431人)には「そう思う」と回答した人は35.3%(152人)、57.8%(249人)と、大きく減少している。暴力の経験により、あきらめの気持ちが強まり、ものごとに対する積極的な働きかけや豊かな情緒が失われていく様子が見られる。また、自由記述全体では、自己肯定感の低下、無力感などを記している例がもっとも多く、暴力経験が自己の尊厳を損なっていくことが読みとれる。(図13、14)

《自由記述から》

「(今はいくらか被害の前に戻っていますが) 自分は価値ある人間とは思えなくなった。すべてのことが自分が悪いと感じるようになった。(中略) 自信がなくなった。一時的に(何度も)感情がショックでなくなった」

「行動が制限するようになってしまった。というか夫から制限させられているような・・あと無気力さが増えてきたような気がする」

「笑うことが少なくなった。精神的に緊張している状態がよくあるようになった。暴力をふるわれそうになるとパニック状態になる」

「他者から見るとおどおどおしていたと言われた。(＊暴力から逃れた後) 私自身毎日びくびくしなくてもよく、解放感があり服装も変わったことを自らも認識しています。また、読む本の内容は変わりました。精神分析関係の本が多かったのですが、離婚後は幅広く趣味にも力が入るようになりました。新しいものへの挑戦への意欲が旺盛になりました」

「暴力を受けた時期及びその直後は無気力になったが、開き直った後は以前よりも前向きに物事を考えられるようになった」

図 10 ①明るく元気な方である

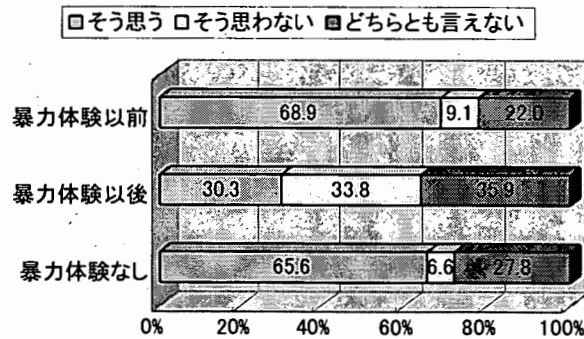


図 12 ③自分を大切に感じ自分が好きだ

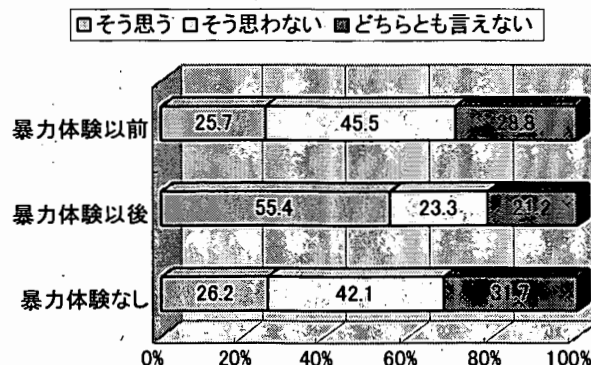


図 12 ⑦自分でものごとを考えるのは苦手だ

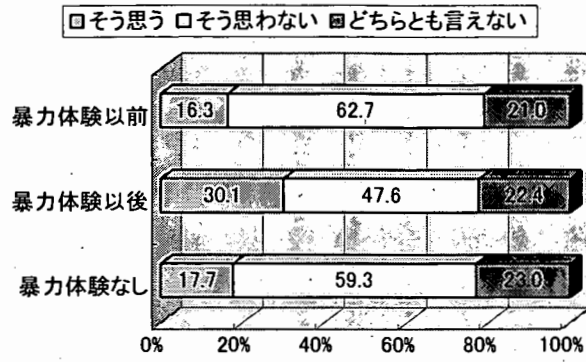


図 13 ⑨好奇心が旺盛で、行動的である

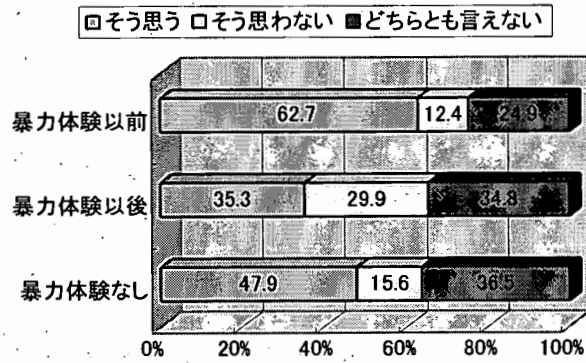
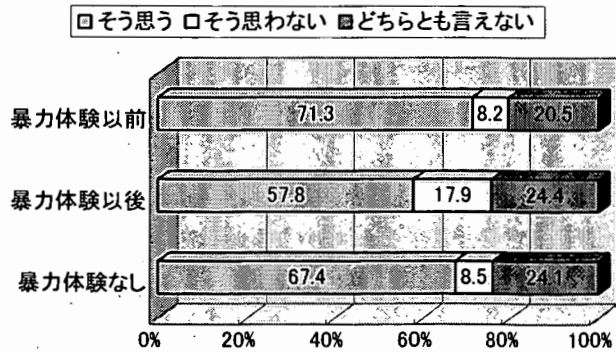


図 14 ⑩ものごとに感動する方である



## 2) 「対人関係、能力、欲求における自信のなさ」

②「人とのつきあいがおっくうである」では、「そう思う」が、暴力経験以前の「経験あり」(n=428人)は11.9%(51人)、「経験なし」(n=376人)は12.2%(46人)とほぼ同じ割合であった。それに対し、暴力経験以後(n=430人)には46.0%(198人)と大きく増加しており、対人関係において消極的な様子がわかる。(図15)

また、⑧「一人でいると不安である」という問では、「経験あり」の暴力経験以前(n=423人)は18.4%(78人)が「そう思う」であるが、暴力経験以後(n=429人)には35.0%(150人)と増加している。(図16)

暴力経験によって、対人関係が制限されていく一方で、一人でいることへの不安感が増している様子が示されている。また、他者との円滑な関係構築が困難になることが、自分に対する肯定感をさらに低下させているともいえるのである。

これは、④「何となく自信がない」という問への答えにおいて顕著であった。「経験あり」では暴力経験以前(n=424人)には25.7%(109人)であり、「経験なし」(n=378人)の26.2%(99人)とほぼ変わらないのに対し、暴力経験以後(n=424人)には55.4%(235人)と、ここでも増加している。(図17)

⑩「自分が何をしたいのかわからないことがある」、⑫「最初から『うまくいかない、失敗する』とあきらめることがある」では、「経験あり」の暴力経験以前にはそれぞれ19.3%(82人)(n=424人)、19.4%(82人)(n=423人)で、「経験なし」(⑩n=378人、⑫n=377人)の割合とほぼ同じである(それぞれ19.6%-74人、19.6%-74人)。しかし、暴力経験以後にはそれぞれ、30.5%(131人)、38.6%(165人)と、増加している。(図18、19)

以上のことから、暴力経験により自分への自信の低下、他者との関係の不安定さが増しているといえよう。

### 《自由記述から》

「簡単なことでも、自分には出来ないのではないかと思い、手につかない(ずっと、主人に何をやっても『だめだめ』と言われつづけ、その延長線上で殴られてきたので)」

「暴力を受けていた時期は、自分の行動全てに自信がなかった。男性や男性の声をきくと怖くて体が動かなかった。自分が被害者になるのではとこわくてテレビやアニメの暴力シーンがみられない。犯罪にまきこまれるのでは・・・と不安に思い、何回も閉じまりを確認するようになった」

「②と似ていますが、以前に比べて人に関わるのが嫌いになり、人を信用、信頼できず、疑ってしまう」

「主人に対して限定されることですが、(主人と関わる全て)、行動や判断が正しいと思っても行動に移すことが出来なくなった。どう言われるか、主人の反応が気になってしかたがない。何かもめごとがおこらないように対応するし、また、問題を自分で何とか解決してしまおうとする(かくす)ようになった。」

図 11 ②人とのつきあいがおっくうである

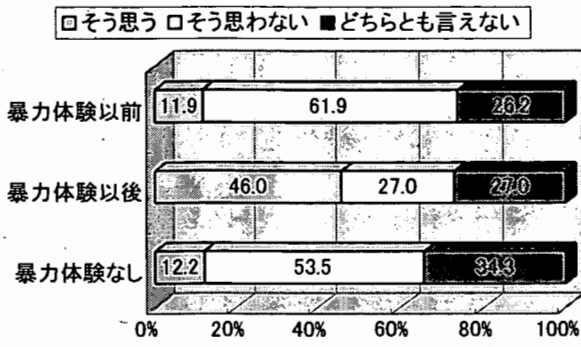


図 17 ⑧一人でいると不安になる

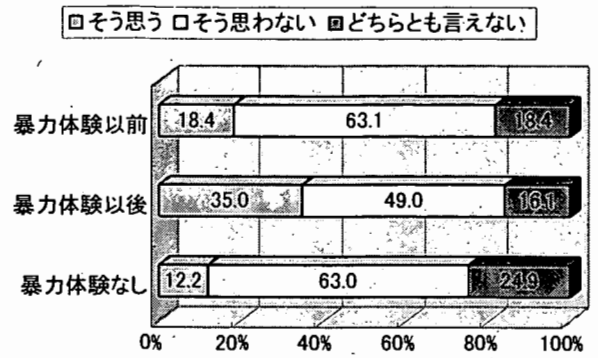


図 13 ④何となく自信がない

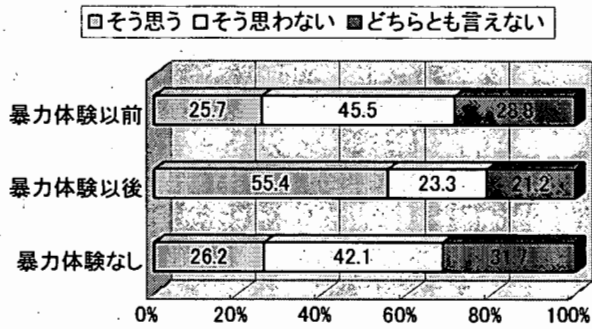


図 20 ⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある

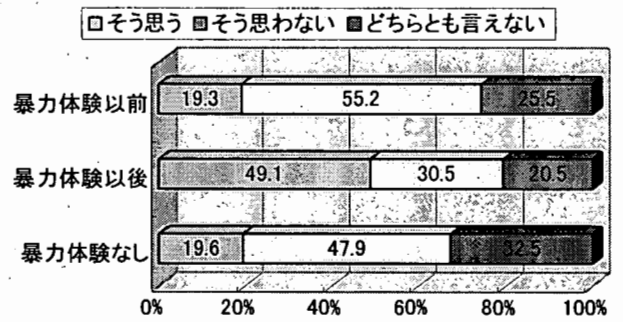
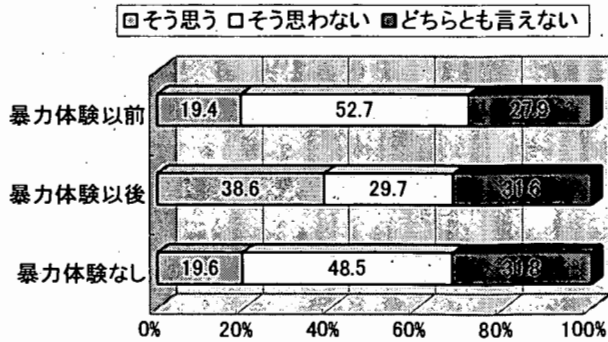


図 21 ⑫最初からうまくいかないときあきらめることがある





### 3) 「他者との関わり方における他者優先の傾向」

①「頼られると嫌といえないタイプ」という質問では、「経験あり」の暴力経験以前は 72.8% (310 人) と、「経験なし」の 66.9% (253 人) より高い割合が示された。また、⑥「自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い」でも、「経験あり」の暴力経験以前は 56.3% (240 人) であり、「経験なし」の 42.6% (161 人) よりも多い。このような回答は、暴力経験以後においても、それぞれ 64.6% (276 人)、58.0% (249 人) とほぼ変化はなく、親密な関係における暴力が他者優先の考えにほとんど影響を与えない、あるいは⑥にみられるように、よりその傾向になる。(図 20、21)

ここでは、一概にはいえないが、暴力経験をする人には、他者優先的な傾向が見られるといえる。暴力を受けても、「原因は自分にあるのではないか」と考え、逃げずに何とかしようとすることによって暴力関係を解消できないことが多くなる。そのような「他者への配慮」は、「暴力のサイクル」にはまりやすく、暴力相手との依存関係がますます解消できにくくなるということがいえる。

#### 《自由記述から》

「人の顔をうかがい、相手が不機嫌な態度をしていると自分が何か悪いことをしたかと心の中がパニックになり、いつまでもそのことで頭の中が一杯になってしまいます。自分が言った言葉で受け入れてもらえない時、そのことが、心配になってしまい、色々と考えてああいえばよかったとかとても気になります」

「いつも人の顔色をうかがってしまう。嫌なことを我慢してしまう。言葉で自分が思うことやこうしたいと考えることをはっきり表せない。人とうまく話ができない。人間恐怖症(特に男性)傍にいと緊張する」

「被害にあってから、相手の怒りを受けないためにおこらせないような行動、言葉を選ぶようになった。時々どうしてこんなに相手に気を遣って生活しなければならないのだろうと悲しくなる」

「物事を決めるときに相手の考えを優先するようになった」

「子どもに被害が及んだらどうしようと思うので、夫に対して気をつけるようになった」

「初めて(新婚旅行から帰って2日目か3日目くらい)足げりされ、結婚してから主人がこれほど変わるのか、ショックで何も言えなかった。それ以来主人の顔色をうかがうようになってしまった」

図 20 ⑤頼られるとイヤといえないタイプ

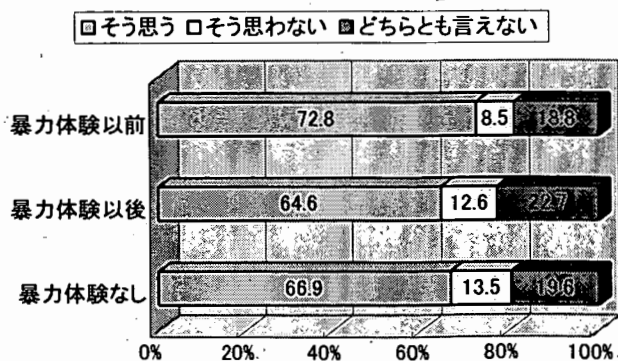
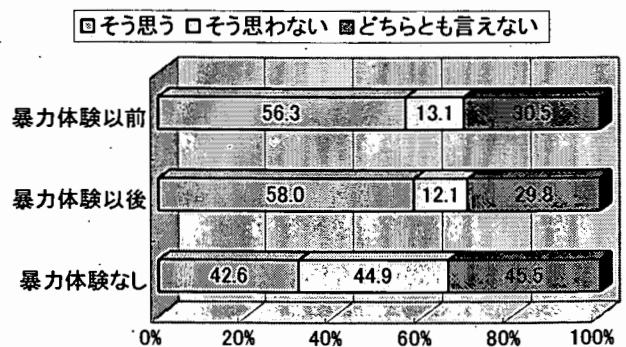


図 21 ⑥人の立場にたって考えることが多い



(2) 全体として、自由記述からも、上記のようなさまざまな影響が単一、あるいは個別にあらわれている例は少なく、ほとんどが自己肯定感の低下や自信のなさ、無気力感などが複雑に入り交じって生じていることが分かった。

その他の自由記述では、それ以外にも様々な影響について書かれている。フラストレーションが他者や自分自身への攻撃、あるいは男性不信（人間不信）へとむかう様子も記されていた。

「ガードしてくれるものが、何も無いという無力感が深まり、孤立していった。女であることに憎悪を覚えた」

「夫に私の考え方や行動を否定されり（大声で怒鳴られたり）近所への気恥ずかしさなどから、消極的になったり、しばらくは無気力、無関心、無感動になったりして、生活がぐちゃぐちゃになる。（中略）私は気をつけてもそんなフラストレーションを子どもにぶつけ、やたらと怒りっぽく、手を挙げたりしてしまう自分によけい落ち込む」

「子どもの行動にイライラしたりカッとなりやすくなった。すぐ怒鳴ったり、手を挙げたりして、後で“ハッ”と我に返ったことがあった」

「暴力を受けていた時は相手にやり返すとかできなかったが、離婚し、今のパートナーと一緒にいて言い合いになったりしてうまく伝わらないと相手に対して手をだしてしまうことがある。自分も人をたたいてしまうようになっている」

「夫に対して憎しみの気持ちがあります。でもそれを表面になるべく出さないようにと思いますが。つい表に出てしまい、また、そのことで言われてしまうということで顔をうかがったりしています。以前は家庭の中で笑っていたのにそれがなくなりました。事故かなんかで死んでしまえばいいと思います。そしてそう思う自分も嫌で自己嫌悪になります」

「寝つきが非常に悪くなった。夜中に何度も目がさめる。夫が就寝中に殺しに来るのではないかと思う。いつか殺されるのでは？と思う。夫が事故で死んでくれないかと思う。子どもを連れて行ってしまうのではという恐怖」

性格や生活態度だけではなく、「夢でうなされるようになった」「思い出して眠れなくなる」など身体的な影響を訴える人もいた。

「神経質で敏感になって、大声や大きな音など聞くと震える」

「『ガタッ』と物音がただけでピクッと体が反応し、こわばってしまうようになった。電話がなくてもこわくてなかなかでられない（訪問者がきても同じ）」

「夜になるとたたかれたり、殴られたことを急に思い出して、眠れなくなる（不安になる）」

「恐怖感で不眠になり、いつも疲労感に悩まされるため積極性、自発性が極度に衰えた（17年間、3年は別居）。朝起きられなくなり、生活全体が不規則になった（ただし、暴力夫から離婚した今（20年後）、定職にもつき元気に生活している）」

また、幼いころからあるいは長期にわたって暴力の被害にさらされていることで、暴力経験の以前・以後という区別がつかないという答えも多数あった。

「20年に渡る夫の暴力なので、以前以後と自分でも区別できません。（中略）夫の暴力で悩んでいた時期は自分に自身がなく、充実感を感じられず自分を好きになれず、暗い気持ちでした」

「子どものころ（小学生低学年）、母親から暴力を受けていたので『変化』ははっきりわから

ないが、すぐに妹や弟をたたいたり、けったりしていたのと、かっとして服とか物を散らかしたりした」

「私の場合、子どもころ（幼少あり）は父親から。現在は夫から精神的暴力を受けているので（父親からは肉体的暴力も）以前と以後の区別が難しい」

「『以前』というのは、『暴力だと気が付く前』の意、『以後』というのは『これは暴力というものだから私はどうやって助けをもとめたらよいのか悩むようになってから後』の意」

暴力による性格、生活態度への影響についての調査結果で、特に注目すべきことは、「経験あり」と回答した人では、暴力経験以前にはほとんどが「経験なし」と変化のない割合であったということである。それらは、暴力経験以後にはそれぞれが大きく変化をしており、暴力経験が、性格や生活全般に強く影響を与えることがわかる。例えば、「暴力夫と離婚をしてから、顔の表情が明るくなった。積極的な性格になった」という記述からも、暴力経験による影響が深刻であることがわかる。

他方で、このような暴力による性格・生活態度などへの影響を見ていると、暴力経験をする人というのが特別な性質を持っていたり特殊な人間関係の中にいたりするわけではないことがわかる。誰もがそのような経験をする可能性のあることを示唆しているのである。

（報告 坂なつこ）

### 3 ジェンダー認識や男女の関係、役割

アンケートの結果を「被害経験あり」「加害経験あり」「暴力経験なし」の3つのグループに分けて分析し、家庭内の暴力の有無によって回答者のジェンダー意識に差が見られるか、また、暴力の加害・被害経験が結婚観などに影響を与えているかどうかをさぐった。他の2グループに比べると「加害経験あり」の回答者の数は少なく、分析の対象とするにはサンプル数が不足している感は否めないが、加害経験者の意識の傾向を知る一助とするため、可能な限り分析を行い、他グループとの比較を試みたことを付け加えておきたい。

#### (1) 男女の役割意識

家庭内の男女の関係や役割について意見を尋ねたところ、全般的にいわゆる「性的役割分業」を否定する意見が大半を占めた。つまり回答者には概して男女平等の意識が強いことがうかがえるが、暴力の「加害経験あり」「被害経験あり」、そして「暴力経験なし」のグループ間で比較すると、若干の意識の差が見られた。

まず、「『男は仕事・女は家庭』と分担するのがよい」と回答したのは、「被害経験あり」(n=375人)の2.9%(11人)、「暴力経験なし」(n=409人)の3.7%(15人)と少数派だったが、「加害経験あり」(n=34人)では11.8%(4人)と全体の一割を越え、従来 of 性的役割分業を支持する人がやや多いことがわかった。また、性的な問題に関しても、「夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである」と考えているのは「加害経験あり」が5.9%(2人)に対して、「被害経験あり」は2.9%(11人)、「暴力経験なし」は2.0%(8人)と差が出ている。

さらに、「妻子を養うのは『男の甲斐性』である」と回答した人は、「被害経験あり」(n=373人)の23.3%(87人)、「暴力経験なし」(n=407人)の23.1%(94人)に比べ、「加害経験あり」(n=34人)では35.3%(12人)と比較的多く、「男性は弱音をはいてはいけない」についても、「被害経験あり」の4.3%(16人)、暴力経験なしの7.4%(30人)が「そう思う」と回答しているのに対し、「加害経験あり」では17.6%(6人)という結果になった。これは、加害経験のある人のほうが「男らしさ」の概念に縛られる傾向があることを示唆しているといえよう。

一方、「性的関係で主導権をにぎるのは男性である」の問いに対して、「被害経験あり」の7.3%(27人)が「そう思う」と答えているが、「加害経験あり」は2.9%(1人)、「暴力経験なし」は4.7%(19人)で、被害経験者の中に「夫が主導権をにぎっている」と感じている人が比較的多いことがわかった。

また、「家庭内の問題は家庭内で解決すべきである」と答えた人は、「加害経験あり」が20.6%(7人)、「暴力体験なし」が24.0%(98人)だが、「被害経験あり」では10.1%(38人)であり、被害経験者のほうが、問題を家庭内で解決することに限界を感じていることがうかがえる。参考までに、この質問に対する回答の男女差を見ると、「家庭内で解決すべき」と回答した男性は41.5%(44人)にもものぼっており、女性は14.0%(10人)と、男性のほうが家庭を閉鎖的なものと考えていることがわかる。

さらに、他の質問における男女差を見ると、「男性は弱音をはいてはいけない」に対して、「そう思わない」と回答した女性は85.6%(613人)だったのに対して、男性は64.2%(68人)と

20%近くの差が出ている。「女性として最も大切なのは思いやりと優しさである」にも、46.7% (99人)と男性の約半数が「そう思う」と回答しているのに対して、女性では37% (266人)であり、男性のほうに、女性に対し思いやりや優しさを求める気持ちが強いことがうかがえる結果となった。

## (2) 「女性と結婚」についての考え方

女性が結婚することの意義について尋ねたところ、自身の考え方に近いものとして、どのグループも「独り立ちできれば、あえて結婚しなくてもよい」を選んだ人が最も多かった。2番目に多かったのは、「加害経験あり」と「暴力経験なし」では「子どもを産み育てるには、結婚したほうがいい」だったのに対し、「被害経験あり」では「その他」となっており、多種多様な意見の記述が見られた。その他、「被害経験あり」では「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがいい」を選んだ人が少なく(5.6%、21人)、他のグループとの差が見られた。(「加害経験あり」は15.6% (5人)、「暴力体験なし」が14.1% (57人))

## (3) 家族の機能について

家族の役割や機能に関する質問では、「被害経験あり」(n=372人)では4割強の人(157人)が「家族団らんの場」と回答しており、次に「自分の心身を休める場」(20.2%、75人)、「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場」(16.9%、63人)と続いている。また、「暴力体験なし」(n=402人)でも傾向は同じで、順位は「被害経験あり」と同じだが、「家族団らんの場」が32.1% (129人)、「心身を休める」が29.6% (119人)と、ほぼ拮抗している。

これに対し、「加害経験あり」では、第3位に「夫婦の愛情をはぐくむ場」(21.2%、7人)が浮上しており、「子どもを産み育て、社会訓練をする場」を選んだ人が少ない(9.1%、3人)のが特徴的である。「被害経験あり」、「暴力体験なし」では「夫婦の愛情」をあげた人はともに9%強だったことを考えると、加害経験者は結婚生活において、子どもの養育や社会的な役割よりも夫婦の強い愛情を求める傾向があるといえよう。

## (4) 理想の夫婦像について

どのような夫婦を理想だと考えるかについては、どのグループでもほとんどの人が「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」を選んでおり、暴力経験の有無によって大きな差は見られなかった。特に、「加害経験あり」では「その他」を選択した一人を除き、34人中33人がこれを選んでいる。一方、暴力体験なしでは「夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う」「夫は仕事、妻は育児・家事と分担する」を選択した人も若干見られた。

## (5) 現在の性に対する満足度

どのグループでも、現在の性に生まれて「よかった」と回答した人が大半を占めるものの、「被害経験あり」では「よかった」が7割、「よくなかった」が3割なのに対して、「加害経験あり」

(n=30) では「よかった」が 93.3% (28 人) にも達している。加害経験のある人のほうが、現在の自分の性に満足しているといえるだろう。

#### (6) 現在の日常生活における役割について

回答者の日常生活における役割について、項目別に「男性の役割」か「女性の役割」か、あるいは「両方同じ程度」かを尋ねた。全般的な傾向としては、家事などが女性側の負担となっており、1の結果のように、理想としては男女の役割分業を否定しつつも、現実の日常生活では性的な分業が行われていることが見て取れる。

まず、「生活費を稼ぐ」に関しては、「主として」「どちらかといえば」を合わせると、「被害経験あり」(n=302 人) の 8 割以上 (244 人) が「男性の役割」であると答えているものの、「加害経験あり」(n=25 人) では「両方同じ」が 4 割 (10 人) にも達している。一方、「加害経験あり」、「被害経験あり」ともに 6 割程度の人が、「日々の家計の管理をする」のは「主に女性の役割」だと回答しているが、「暴力体験なし」では 45% (138 人、n=307 人) にとどまっているのも目を引いた。さらに、「外食をするときの支払いをする」では、「被害経験あり」と「暴力経験なし」の約 3 分の 1 が「男性の役割」(「主として」「どちらかといえば」を合わせた数値) としているのに対して、「加害経験あり」では「男性の役割」は 2 割にとどまり、約半数が「女性の役割」と答えている。また、「両方同じ」と答えたのは、「暴力経験なし」では約 3 分の 1 に達したが、「被害経験あり」では 2 割に満たなかった。

次に、家事に関する項目では、暴力のある家庭とそうでない家庭ではっきりとした差が現われた。たとえば「食事の支度をやる」では、「被害経験あり」の 77.5% (234 人、n=302 人)、「加害経験あり」の 62.5% (15 人、n=24 人) が「主に女性の役割」と回答しているのに対し、「暴力体験なし」では 54.4% (168 人、n=309 人)。一方、「食事の後かたづけをする」では「被害経験あり」の 67.8% (204 人、n=301 人)、「加害経験あり」の 64% (16 人、n=25 人) が「主に女性の役割」なのに対して、「暴力体験なし」では「主に女性の役割」が 45.6% (141 人、n=309 人) で、「両方同じ」が 2 割を越える (68 人) など、男女が家事を分担していることがうかがえる。

同様の傾向は、「洗濯」「掃除」でも見られ、特に「買い物をする」では、「主として」「どちらかといえば」を合わせて 82.7% (249 人) が「女性の役割」とした「被害経験あり」(n=301 人) に対し、「暴力体験なし」では「女性の役割」は 6 割 (185 人、n=308 人) にとどまり、「両方同じ」が 36% (111 人) にも達している(「被害経験あり」では「両方同じ」は 14.6% (44 人))。こうしたことから、ドメスティック・バイオレンスのある家庭では、女性により家事労働の負担がかかっていることがうかがえる。

さらに、介護や子どものしつけでも、「被害経験あり」は女性側の負担をより重く認識していることがわかる。「老親や病身者介護や看護をする」を「主として女性の役割」とした被害経験者は半数近くにのぼる (142 人、n=291 人) が、「加害経験あり」と「暴力体験なし」では 2 割強に

とどまる。また、「子どもをしつける」では、「主として」「どちらかといえば」を合わせて「被害経験あり」の61.7%（182人、n=295人）が「女性の役割」と答えているのに対して、「加害経験あり」と「暴力体験なし」では、それぞれ33.4%（8人、n=24人）、24.7%（74人、n=299人）と比較的少なく、「両方同じ」がともに6割程度を占めている（「被害経験あり」の「両方同じ」は3割弱）。「被害経験あり」が圧倒的に女性であることを考えると、子どものしつけという役割が自分ひとりにのしかかっていると認識している人が多いことがうかがえるといえよう。

（報告 梶山寿子）

#### 4 子どもへの虐待

回答者の暴力経験の有無が回答者の子どもへの虐待にどのくらい影響を及ぼしているかをみるために、回答者を「被害経験あり」「加害経験あり」「暴力経験なし」に分けて検討した。

##### (1) 「被害経験あり」と回答した人の子どもへの虐待 (図1、2、3)

「被害経験あり」と回答した(n=379人)中で、「子どもがいる」と回答した人は、79.9%(303人)であった。そのうち、「子どもへの虐待経験(目撃および虐待)がある」と回答した人は、77.2%(234人)、「虐待経験がない」と回答した人は、22.8%(69人)であった。

「子どもへの虐待経験がある」(n=234人)と回答した人のうち、「子どもへの身体的虐待がある」と回答した人は、84.6%(198人)、「子どもへの心理的虐待がある」と回答した人は、85.5%(200人)、「子どもへの性的虐待がある」と回答した人は、9.0%(21人)、「子どもへの養育の怠慢・拒否がある」と回答した人は、31.2%(73人)であった。以上のことより、「被害経験あり」で、子どもへの虐待経験があると回答した人は7割を超えていた。また、虐待経験の内容別にみた子どもへの虐待は、身体的虐待と心理的虐待の差はほとんどなく、ともに8割を超えていたことがわかった。養育の怠慢・拒否についても3割を超えていたことがわかった。

子どもへの虐待について加害者別でみると、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は14.3%(119人)で、母親(自分)が「子どもを虐待している」と回答した人は、11.9%(99人)であった。「被害経験あり」と回答した人のうち、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は、89.9%(107人)で、母親(自分)が「子どもを虐待している」と回答した人は、70.7%(70人)であった。なお、子どもへの虐待をしている相手の選択肢で「自分」と答えた人は、すべて女性であったことから、「母親」と「自分」は同一人物であることがわかった。「被害経験あり」では、子どもへの虐待の加害者は母親よりも父親のほうが多いことがわかった。

##### (2) 「加害経験あり」と回答した人の子どもへの虐待 (図1、2、3)

「加害経験あり」と回答した(n=34人)中で、「子どもがいる」と回答した人は、52.9%(18人)であった。そのうち、「子どもへの虐待経験(目撃および虐待)がある」と回答した人は、66.7%(12人)、「虐待経験がない」と回答した人は、33.3%(6人)であった。

「子どもへの虐待経験がある」(n=12人)と回答した人のうち、「子どもへの身体的虐待がある」と回答した人は、100%(12人)、「子どもへの心理的虐待がある」と回答した人は、66.7%(8人)、「子どもへの性的暴力がある」と回答した人は、16.7%(2人)、「子どもへの養育の怠慢・拒否がある」と回答した人は、8.3%(1人)であった。以上のことより、「加害経験あり」と回答した人は少ないが、「加害経験あり」で「子どもへの虐待がある」と回答した人は、約6割であった。また、虐待の内容別にみると、身体的虐待については全員に虐待経験があり、心理的虐待よりも身体的虐待のほうが多かった。また、養育の怠慢・拒否よりも性的虐待のほうが多かった。

子どもへの虐待について加害者別でみると、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は14.3%(119人)、母親(自分)が「子どもを虐待している」と回答した人は、11.9%(99人)であった。「加害経験あり」と回答した人のうち、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は、1.7%(2人)で、母親が「子どもを虐待している」と回答した人は、4.0%(4人)であった。



子どもへの虐待の加害者については、父親よりも母親であるほうがわずかに多かった。

(3) 「暴力経験なし」と回答した人の子どもへの虐待 (図1, 2, 3)

「暴力経験なし」と回答した (n=414 人) 中で、「子どもがいると回答した人」は、49.3% (204 人) であった。そのうち、「子どもへの虐待経験 (目撃および虐待) がある」と回答した人は、54.9% (112 人)、「虐待経験がない」と回答した人は、45.1% (92 人) であった。

「子どもへの虐待経験がある」 (n=112 人) と回答した人のうち、「子どもへの身体的虐待がある」と回答した人は、76.8% (86 人)、「子どもへの心理的虐待がある」と回答した人は、69.6% (78 人)、「子どもへの性的虐待がある」と回答した人は、3.6% (4 人)、「子どもへの養育の怠慢・拒否がある」と回答した人は、5.3% (6 人) であった。以上のことより、「暴力経験なし」では、「子どもへの虐待経験がある」と回答した人と「虐待経験がない」と回答した人はともに半数であった。また、虐待の内容別にみると身体的虐待と心理的虐待は7割であったが、性的虐待、養育の怠慢・拒否については1割にも満たなかった。

子どもへの虐待について加害者別でみると、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は14.3% (119 人) で、母親 (自分) が「子どもを虐待している」と回答した人は11.9% (99 人) であった。「暴力経験なし」と回答した人のうち、父親が「子どもを虐待している」と回答した人は、8.4% (10 人) で、母親 (自分) が「子どもを虐待している」と回答した人は、25.3% (25 人) であった。「暴力経験なし」では、子どもへの虐待の加害者は父親より母親のほうが多く、差がでていた。

図1 子どもへの虐待経験

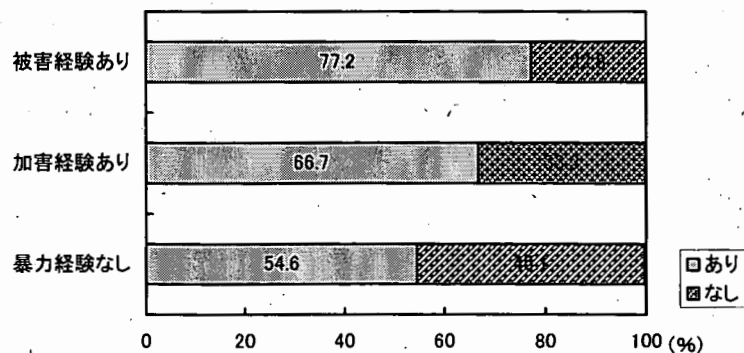


図2 暴力経験の有無と虐待の内容

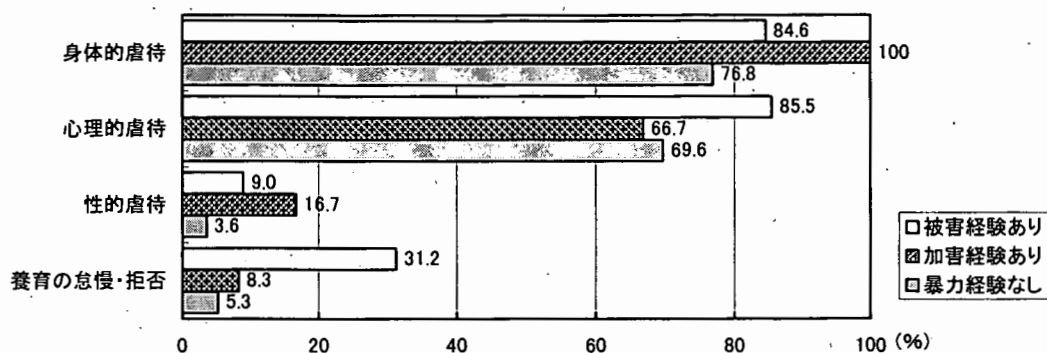
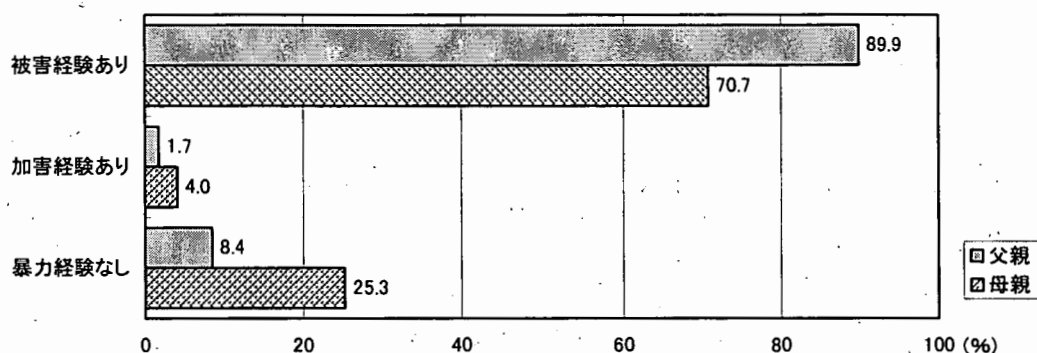


図3 加害者別子どもへの虐待



(1)(2)(3)の結果より、暴力経験別に子どもへの虐待経験についてみると、「被害経験がある」と回答した人の約7割、「加害経験がある」と回答した人の6割、「暴力経験がない」と回答した人の約半数が、子どもへの虐待経験があった。男女の親密な関係において暴力経験がある場合のほうが、子どもへの虐待経験は多くなり、暴力が連鎖していく可能性があるということが考えられる結果となった。しかし、暴力経験が全くない場合においても子どもへの虐待経験が半数あるという結果から、2人に1人が子どもへの虐待経験があるということがわかった。つまり、子どもへの虐待は暴力経験があるという特別な家庭だけに存在するとはいえない結果であった。子どもへ虐待をする人は特定できず誰もが虐待をするという可能性をもっているということが考えられた。

また、虐待の内容別に、「被害経験あり」と「加害経験あり」を比較すると、身体的虐待と性的虐待については、加害経験があるほうが、子どもへの虐待が多かった。これは、加害経験がある人は、その被害者と同じように、子どもにも暴力をふるっていることが考えられた。心理的虐待と、養育の怠慢・拒否については、被害経験があるほうが、子どもへの虐待が多かった。これについては、被害者が加害者から心理的な圧力を受けた結果、子どもにも同じように心理的負担を与えるような虐待や、子どもを養育せず、放任してしまうという結果がでたのではないだろうか。

加害者別にみると、被害経験がある場合、子どもへの虐待は、母親よりも父親からの虐待が多い。しかし、暴力経験がない場合には父親よりも母親からの虐待が多いことがわかった。

(報告 菅田貴子)

## IV章 子どものころの経験

## IV章 子どものころの経験

暴力や虐待には世代間連鎖があると言われていたことも多く、今回の調査では、子どものころの暴力体験の有無、暴力目撃の有無により、暴力がおこると考えられている背景である、ジェンダー認識、暴力認識に違いがないかを比較した。

### 1. 暴力経験

#### (1) ジェンダー認識

子どものころに「暴力(虐待)体験あり」と回答した人(311人)と「暴力体験なし」と回答した人(510人)のジェンダー認識について比較した。

#### 問1 家庭内の男女の関係や役割意識について(図1)

##### 1) 「男は仕事・女は家庭と分担するのがよい」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」が最も多く、それぞれ、76.2% (237人)、75.5% (385人)であった。一方、「そう思う」と回答した人は、「暴力体験あり」が2.6% (8人)、「暴力の体験なし」では、4.3% (22人)であった。

##### 2) 「女性は働く場合、家事に支障のないようにすべきだ」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ54.0% (168人)、56.9% (290人)であった。

##### 3) 「家族が快適に暮らせるように配慮するのは妻のつとめである」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ59.6% (186人)、53.9% (275人)であった。

##### 4) 「妻子を養うのは男の甲斐性である」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、51.9% (160人)、50.7% (258人)であった。

##### 5) 「女性としてもっとも大切なのは思いやりや優しさである」

子どものころに「暴力体験あり」と「暴力体験なし」の回答に違いが見られた。

子どものころに「暴力体験あり」では、「そう思わない」がもっとも多く、38.5% (120人)で、次に多かったのが、「そう思う」で33.3% (104人)であった。

一方、「暴力体験なし」でもっとも多かったのは「そう思う」と回答した人で、41.3% (210人)、次いで「どちらとも言えない」と回答した人で、29.7% (151人)であった。「そう思わない」と回答した人は、28.9% (147人)であった。

6) 「男性は弱音をはいてはいけない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、83.5% (259人)、82.3% (413人)であった。

7) 「夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、76.5% (237人)、71.1% (360人)であった。

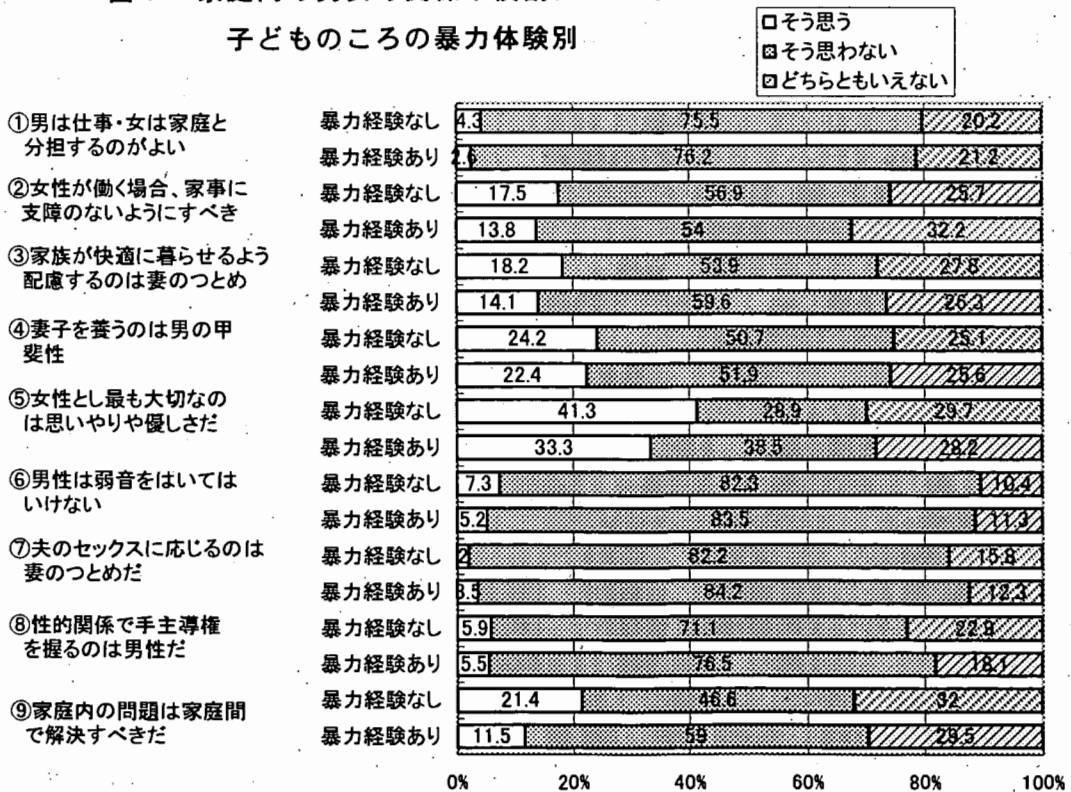
8) 「性的関係で主導権をにぎるのは男性である」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、76.5% (237人)、71.1% (360人)であった。

9) 「家庭内の問題は家庭間で解決すべきである」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、59.0% (184人)、46.6% (237人)であった。

図1 家庭内の男女の関係や役割について  
子どものころの暴力体験別

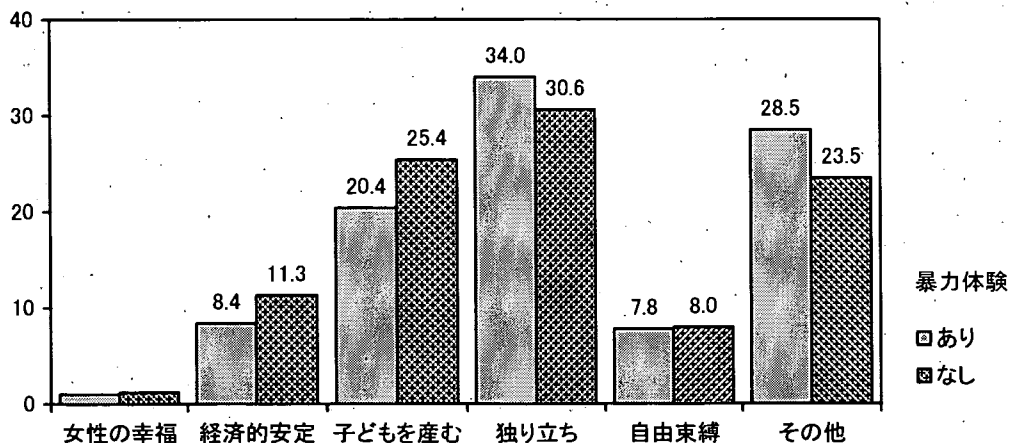


以上の結果より、子どものころに「暴力経験あり」と「暴力体験なし」での家庭内での男女の役割や関係についての意識には、ほとんど差が見られず、両者とも従来の「男女の役割」については否定している者が多かった。

## 問2 女性の結婚についての考え方 (図2)

「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と回答している人がもっとも多く、子どものころに「暴力体験あり」は34.0% (105人)、「ない人」は30.6% (154人)であった。次いで、「子どもを産み育てるには結婚した方がよい」で子どものころに「暴力体験あり」は20.4% (63人)、「暴力体験なし」25.4% (128人)、「精神的にも経済的にも安定するから結婚した方がよい」では、子どものころに「暴力体験あり」は8.4% (26人)、「暴力体験なし」11.3% (57人)、「結婚は女性の自由を束縛するから、自由に生きたいと思う女性は一生結婚しない方がよい」では子どものころに「暴力体験あり」は20.4% (63人)、「暴力体験なし」25.4% (128人)であったが、もっとも少なかったのは、「何と云っても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい」で、子どものころに「暴力体験あり」は1.0% (3人)、「暴力体験なし」1.2% (6人)であった。

図2 女性の結婚についての考え方  
子どものころの暴力体験別

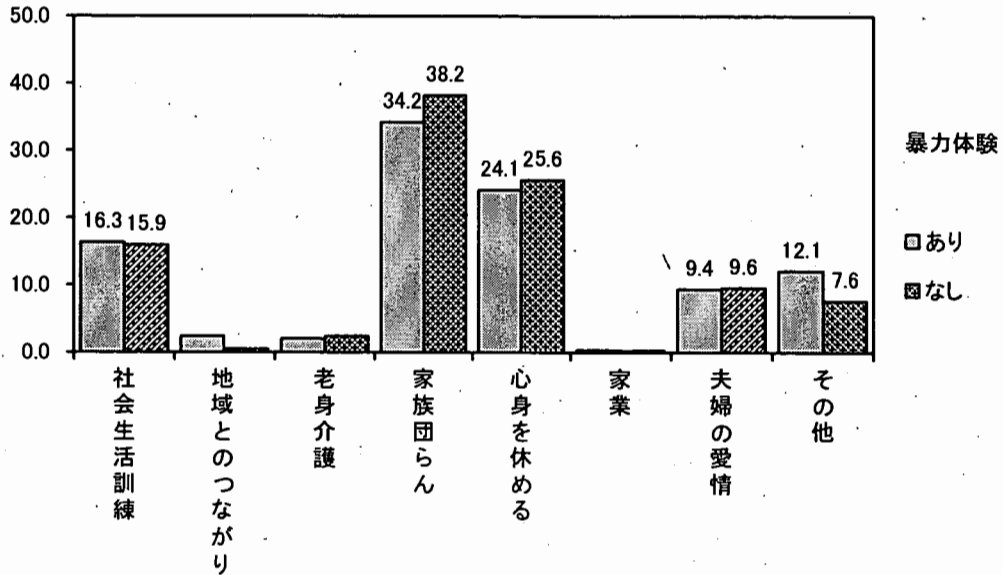


## 問3 家庭の機能についての考え方 (図3)

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「家族団らん」の場であるで、「暴力体験あり」は34.2% (105人)、「暴力体験なし」は38.2% (192人)、ついで、「自分の心身を休める場である」で、「暴力体験あり」は24.1% (74人)、「暴力体験なし」25.9% (130人)、「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である」では、「暴力体験あり」は16.3% (50人)、「暴力体験なし」15.9% (80人)、「その他」では、「暴力体験あり」は12.1% (37人)、「暴力体験なし」7.6% (38人)、「夫婦の愛情をはぐくむ場である」では、「暴力体験あり」は9.4% (29人)、「暴力体験なし」9.6% (48人)、「老親の介護など家族の相互援助の場である」では、「暴力体験あり」は1.6% (5人)、「暴力体験なし」2.2% (11人)、「地域とのつながりをはぐくむ場である」では、「暴力体験あり」は2.0% (6人)、「暴力体験なし」2.2% (11人)。

「家業や家の財産を守っていく場である」では、「暴力体験あり」は0.3% (1人)、「暴力体験なし」0.2% (1人)であった。

図3 家庭の機能についての考え方  
子どものころの暴力体験別

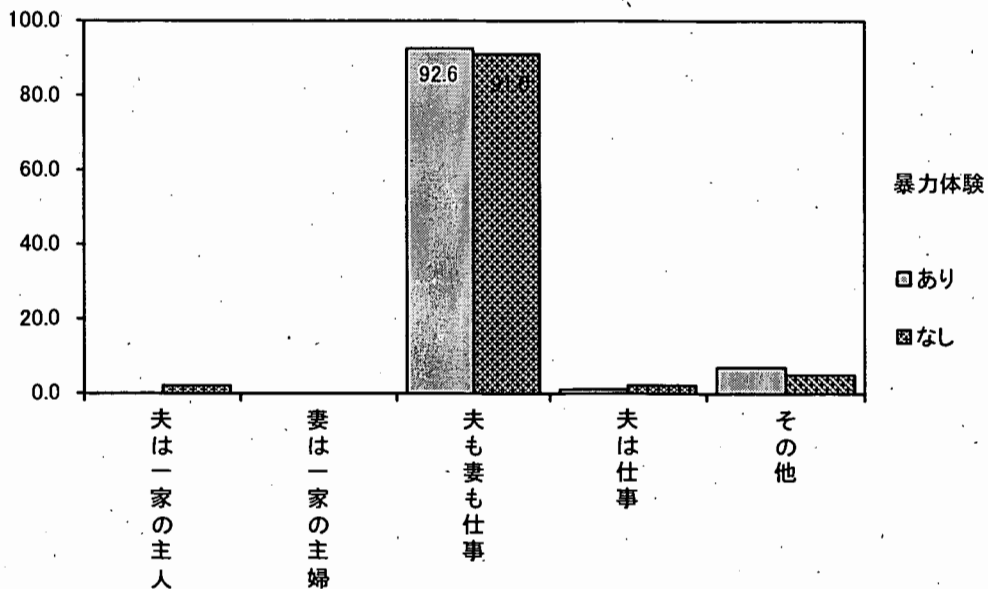


問4 理想の夫婦についての考え方 (図4)

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」で、子どものころに「暴力体験あり」は91.4% (244人)、「暴力体験なし」は91.5% (497人)であった。

「夫は仕事、妻は家事・育児を分担する」と回答した人は少数で、子どものころに「暴力体験あり」は1.1% (3人)、「暴力体験なし」2.0% (11人)であった。

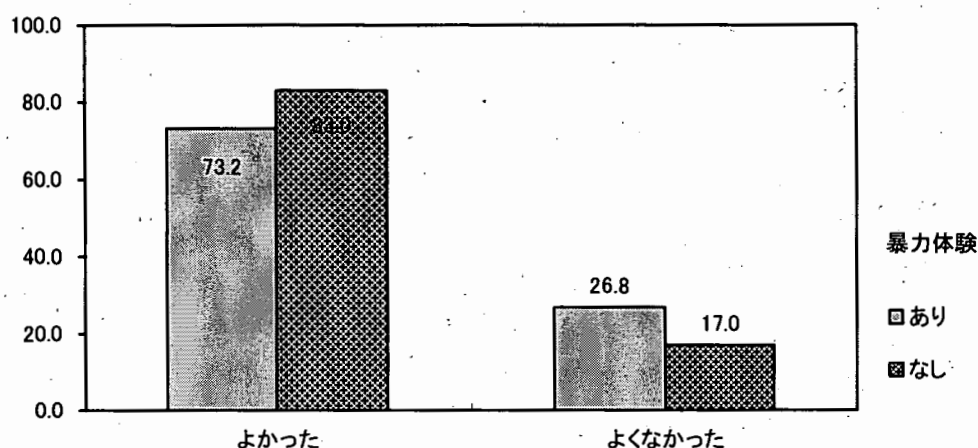
図4 理想の夫婦についての考え方  
子どものころの暴力体験別



### 問 5 現在の性に対する満足度 (図 5)

「現在の性でよかった」と回答した人は、子どものころに「暴力体験あり」では 75.8% (197 人)、「暴力体験なし」では 81.5% (411 人) と、「経験のない人」の方が現在の性を肯定的にとらえていた。一方、「よくなかった」と回答した人は、子どものころに「暴力体験あり」は 24.2% (63 人)、「暴力体験なし」は 18.5% (93 人)であった。

図 5 現在の性でよかったか  
子どものころの暴力体験別



### 問 6 現在の日常生活における役割について (図 6)

現在の日常生活における男女の役割について、配偶者かパートナーのいる人で、子どものころに「暴力体験あり」と「暴力体験なし」とで比較してみた。

比較に際しては、「主として男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせて「男性の役割」とし、「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせて「女性の役割」とした。

#### 1) 「生活費を稼ぐ」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「男性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、71.9% (169 人)、71.9% (292 人)であった。

#### 2) 「日々の家計を管理する」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、69.6% (162 人)、71.4% (290 人)であった。

#### 3) 「食事の支度をする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっ



とも多く、それぞれ、86.5% (204人)、86.9% (351人)であった。

4) 「食後の後かたづけをする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、76.7% (181人)、77.4% (313人)であった。

5) 「洗濯をする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、79.0% (185人)、83.4% (337人)であった。

6) 「掃除をする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、77.8% (182人)、76.1% (307人)であった。

7) 「買い物をする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、73.8% (174人)、69.7% (281人)であった。

8) 「老親や病身者介護や看護をする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、55.0% (1126人)、46.4% (180人)であった。

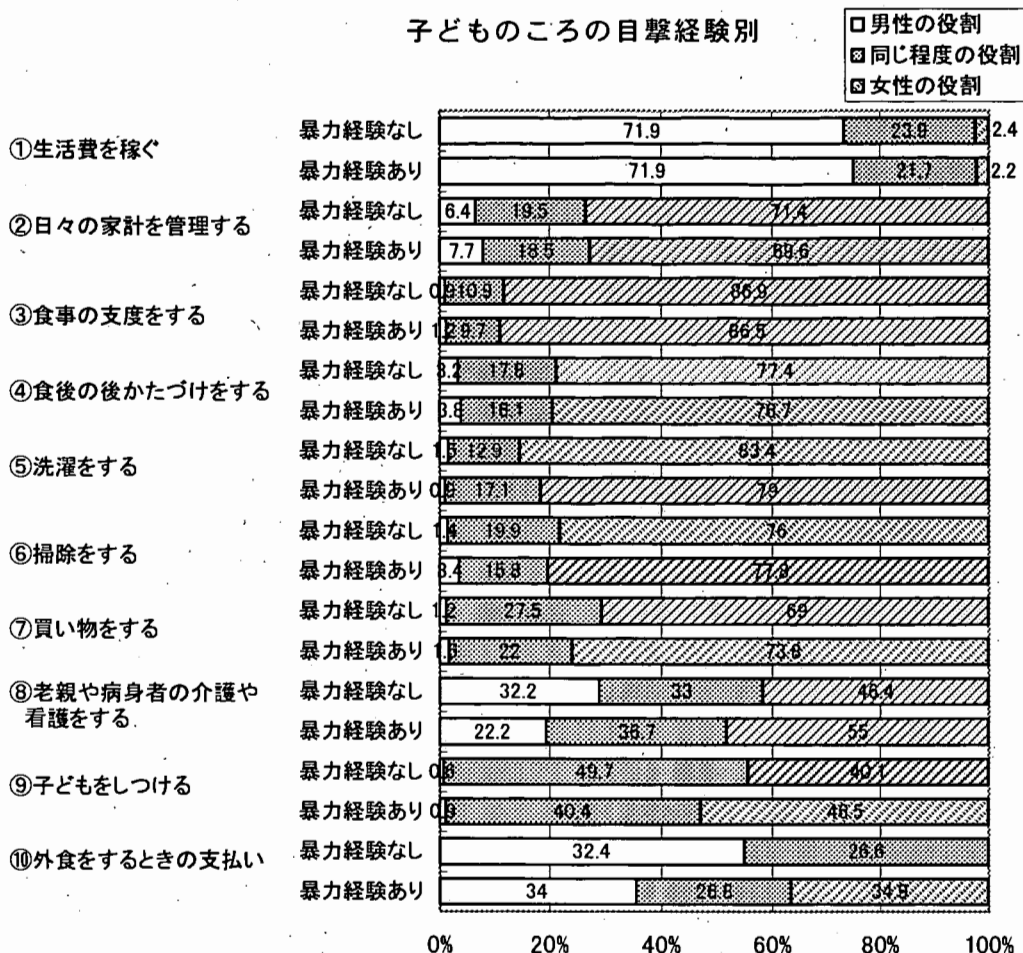
9) 「子どもをしつける」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、34.9% (82人)、36.8% (148人)であった。

10) 「外食をするときの支払いをする」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもつとも多く、それぞれ、34.9% (82人)、36.8% (148人)であった。と同時に、「男性の役割」と回答した人もそれぞれ、34.0% (80人)、32.4% (130人)であった。

図6 現在の日常における役割



問1では、「家庭内の男女の関係や役割」について、また、問2では「女性の結婚についての考え方」について聞いており、問6では、「実際の役割」について比較した。

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」との比較では差が見られなかったが、全体として、理想としては、「男は仕事・女は家庭と分担するのがよい」とは思っていないにも関わらず、実際の生活に置いては、「食事の支度をする」、「食後の後かたづけをする」、「洗濯をする」、「掃除をする」、「買い物をする」、「老親や病身者介護や看護をする」などは、「女性の役割」と回答した人が多く、理想としている「男女助け合う」という関係とはかけ離れているといえる。

## (2) 暴力認識

### 問1 暴力への欲望 (図7)

#### 1) 「むしように暴れたくなることがある」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、58.7% (182人)、71.7% (365人)であった。一方、子どものころに「暴力体験あり」で「たまにある」と回答した人は、37.1% (115人)で、「暴力体験なし」の26.7% (136人)より多かった。

#### 2) 「誰かを殴りたくなることがある」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「ない」であ

り、それぞれ、68.9% (213人)、83.4% (427人)であった。一方、子どものころに「暴力体験あり」で「たまにある」と回答した人は、27.8% (86人)で、「暴力体験なし」の15.2% (78人)より多かった。

3) 「ケンカが強くなりたと思うことがある」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、58.4% (180人)、67.1% (343人)であった。一方、子どものころに「暴力体験あり」で「たまにある」と回答した人は、26.0% (80人)で、「暴力体験なし」の23.7% (121人)より多かった。

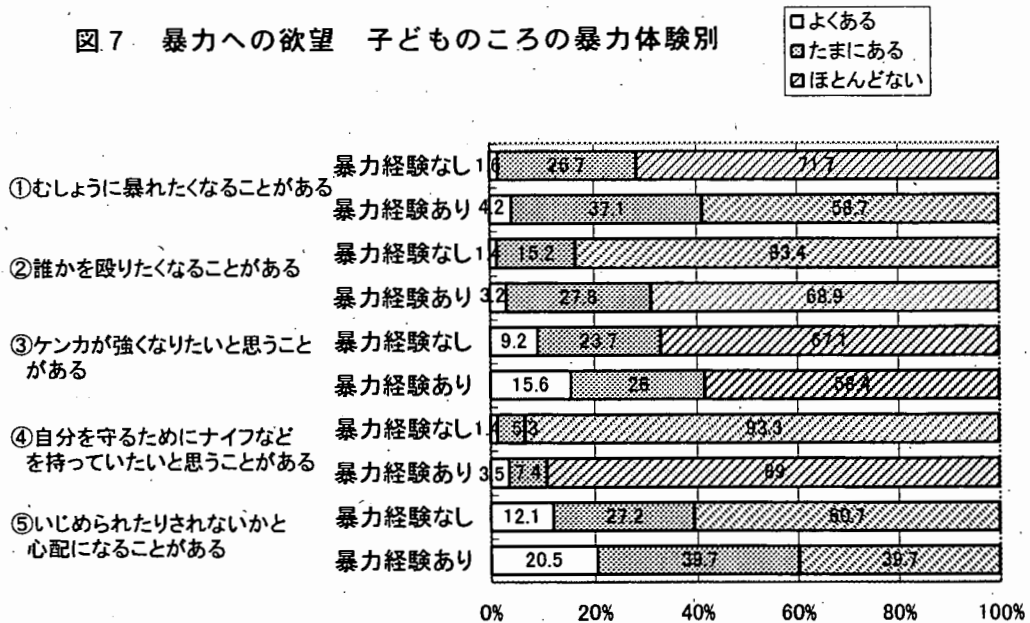
4) 「自分を守るために、ナイフなどを持っていたいと思うことがある」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、89.0% (276人)、93.3% (475人)であった。

5) 「いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することがある」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」との比較において差が見られた。子どものころに「暴力体験あり」では、「たまにある」、「ない」とも同数で、39.4% (124人)であった。一方、「暴力体験なし」では、「ない」がもっとも多く、60.7% (310人)であった。

図7 暴力への欲望 子どものころの暴力体験別



問2 暴力の脱感作 (図8)

1) 「殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになる」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「よくある」で、それぞれ、58.4% (181人)、58.1% (297人)であった。

2) 「血が飛び散るシーンを見ると嫌な気持ちになる」

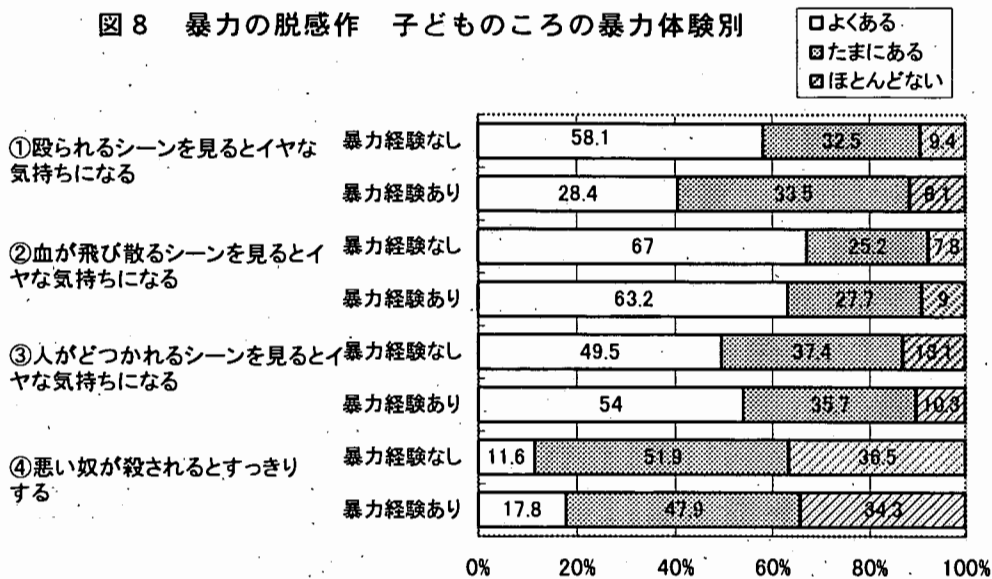
子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「よくある」で、それぞれ、63.2% (196人)、67.0% (343人)であった。

3) 「人がどつかれるシーンを見ると嫌な気持ちになる」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「よくある」で、それぞれ、54.0% (168人)、49.5% (254人)であった。

4) 「悪い奴が主人公に殺されるとすっきりする」については、子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが「たまにある」で、それぞれ 47.9% (48人)、47.9% (242人)であった。

図8 暴力の脱感作 子どものころの暴力体験別



問3 対人関係 (図9)

1) 「友達に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが「たまにある」で、それぞれ、50.0% (155人)、47.9% (242人)であった。

2) 「目上の人に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが「たまにある」で、それぞれ、50.2% (155人)、53.7% (271人)であった。

3) 「親に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」との比較において差が見られた。

子どものころに「暴力体験あり」では、「たまにある」がもっとも多く、40.1% (123人)であっ

た。一方、「暴力体験なし」では、「ない」がもっとも多く、47.5% (235人)であった。

4) 「後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」との比較では差が見られた。

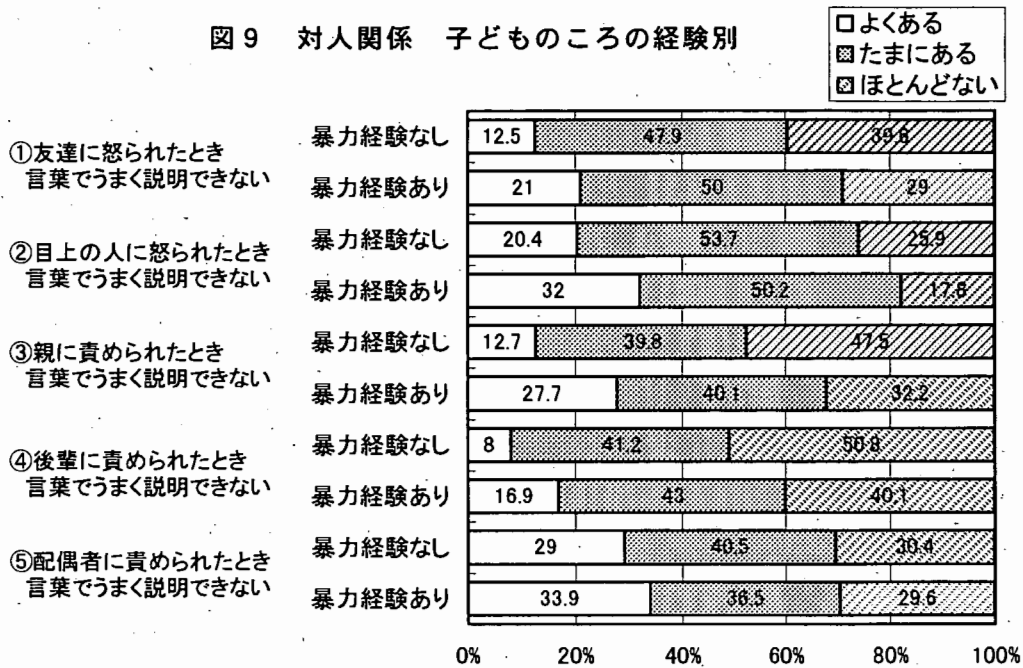
子どものころに「暴力体験あり」では、「たまにある」がもっとも多く、43.0% (130人)であった。

一方、「暴力体験なし」では、「ない」がもっとも多く、50.8% (253人)であった。

5) 「配偶者(パートナー)に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」とももっとも多かったのが、「たまにある」で、それぞれ、36.5% (110人)、40.5% (201人)であった。

図9 対人関係 子どものころの経験別



以上より、暴力の欲望については、子どものころに「暴力体験あり」の方が「暴力体験なし」より、「むしように暴れたいことがある」、「誰かを殴りたくなることがある」、「ケンカが強くなりたいたいと思うことがある」において、「たまにある」と回答している人が多く、子どものころに暴力を受けた経験が「暴力認識」に影響していることがうかがえる。また、「いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することがある」においても、子どものころに「暴力体験あり」の方が、「ある」「たまにある」合わせて約6割であり、これも、子どものころの暴力の経験により、いじめられないかとの不安を感じていることがうかがえる。

暴力の脱感作については、子どものころに「暴力体験あり」、「暴力体験なし」の両者ではほとんど差が見られず、今回の調査では、子どものころの暴力の経験にかかわらず、すべての項目において暴力表現に反応していることがわかった。

対人関係では、特に、「親に責められたとき言葉でうまく説明できない」において、子どものころに「暴力体験あり」の方が「暴力体験なし」より多かった。その時の加害者は「父親」、「母親」がほとんどであり、暴力(虐待)の経験がいまだ、血縁関係内での弱者としての立場が続いていることが伺える。

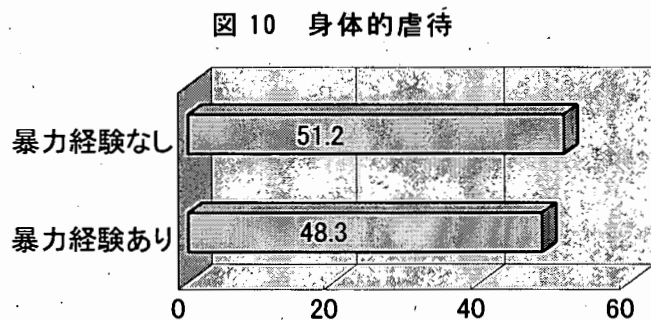
また、「後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できない」においても、子どものころに「暴力体験あり」の方が「暴力体験なし」より多く、一方、「友達」、「目上の人」、「配偶者(パートナー)」に対しては、うまく説明できないことが「たまにある」と回答している人が両者とももっとも多く、対人関係での問題を含んでいるのではないかと考える。

### (3) 子どもへの虐待

子どもへの虐待をしていると回答した人のうち、それぞれの暴力について、子どものころに「暴力体験あり」と回答した人(146人)と「暴力体験なし」(153人)を比較してみた。

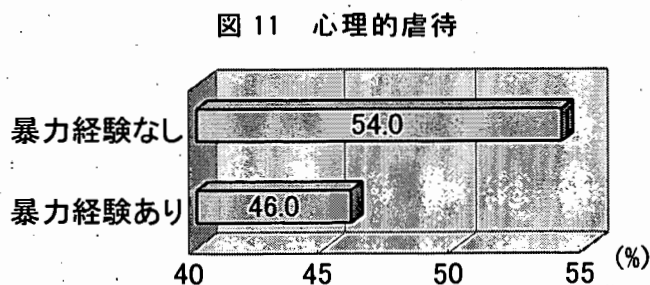
#### 問1 身体的虐待の有無 (図10)

身体的虐待が「あり」は299人で、そのうち、子どものころに「暴力体験あり」は48.8%(130人)で、「暴力体験なし」は51.2%(153人)と、「暴力体験なし」の方が多かった。



#### 問2 心理的虐待の有無 (図11)

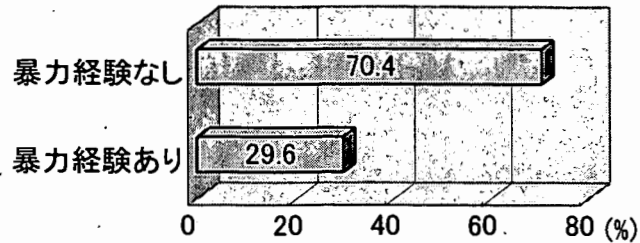
心理的虐待が「あり」は289人で、そのうち、子どものころに「暴力体験あり」は46.0%(133人)で、「暴力体験なし」は54.0%(156人)と、「暴力体験なし」の方が多かった。



#### 問3 性的虐待の有無 (図12)

性的虐待が「あり」は27人で、そのうち、子どものころに「暴力体験あり」は29.6%(8人)で、「暴力体験なし」は70.4%(19人)と、「暴力体験なし」の方が多かった。

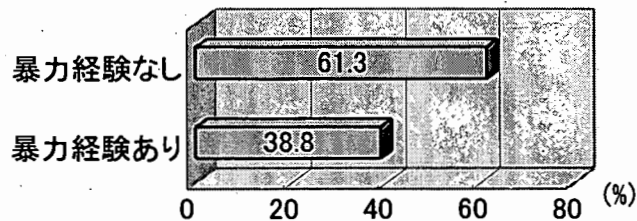
図 12 性的虐待 子どもの頃の目撃経験別



問 4 養育の怠慢・拒否の有無 (図 13)

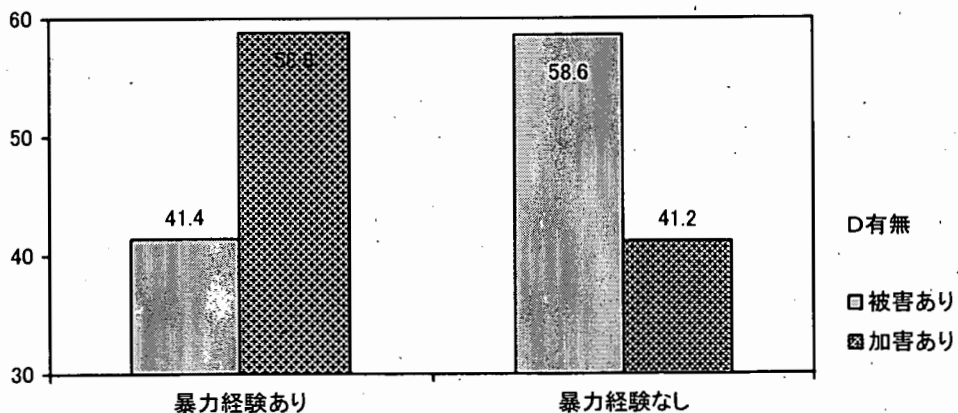
養育の怠慢・拒否の有無が「あり」と回答した人は 80 人で、そのうち、子どものころに「暴力体験あり」の人は 38.8% (31 人)、「暴力体験なし」の人は 61.3% (49 人)と、「暴力体験なし」の方が多かった。

図 13 教育の拒否・怠慢 子どもの頃の目撃経験別



以上の結果から、子どものころに受けた暴力経験が、子どもへの虐待に移行する世代間連鎖は、今回の調査では特にみられなかった。しかし、子どものころに暴力を受けた経験ある人の被害経験加害経験を見てみると、子どものころに暴力を受けた経験ある人のうち、58.8%、約 6 割の人は、「加害経験あり」であった。また、41.4%の人は「被害経験あり」であった。(図 14)

図 14 被害・加害者別 子どもの頃の目撃経験別



このことより、子どものころの暴力経験が、現在または過去においての暴力経験に影響を及ぼしている可能性があることがうかがえた。

## 2. 暴力目撃

### (1) ジェンダー認識

子どものころに「暴力目撃あり」と回答した人 202 人と「暴力目撃なし」と回答した人 428 人のジェンダー認識について比較してみた。

#### 問 1 家庭内の男女の関係や役割意識について (図 1)

##### 1) 「男は仕事・女は家庭と分担するのがよい」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、77.4% (206 人)、74.8% (406 人)であった。

##### 2) 「女性は働く場合、家事に支障のないようにすべきだ」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、56.4% (150 人)、55.6% (302 人)であった。

##### 3) 「家族が快適に暮らせるように配慮するのは妻のつとめである」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ 60.9% (162 人)、53.3% (290 人)であった。

##### 4) 「妻子を養うのは男の甲斐性である」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、50.6% (133 人)、51.3% (278 人)であった。

##### 5) 「女性としてもっとも大切なのは思いやりや優しさである」

子どものころに「暴力目撃あり」と「暴力目撃なし」の回答に違いが見られた。

子どものころに「暴力目撃あり」では、「そう思わない」がもっとも多く、38.2% (102 人)であった。次に多かったのが「そう思う」で、32.6% (87 人)、「どちらとも言えない」は 29.2% (78 人)であった。一方、「暴力目撃なし」でもっとも多かったのは「そう思う」で、41.2% (223 人)、次いで「そう思わない」は、30.1% (163 人)であった。「どちらとも言えない」は、28.7% (155 人)であった。

##### 6) 「男性は弱音をはいてはいけない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、84.2% (223 人)、82.4% (446 人)であった。

##### 7) 「夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、84.8% (224 人)、82.4% (446 人)であった。



8) 「性的関係で主導権をにぎるのは男性である」

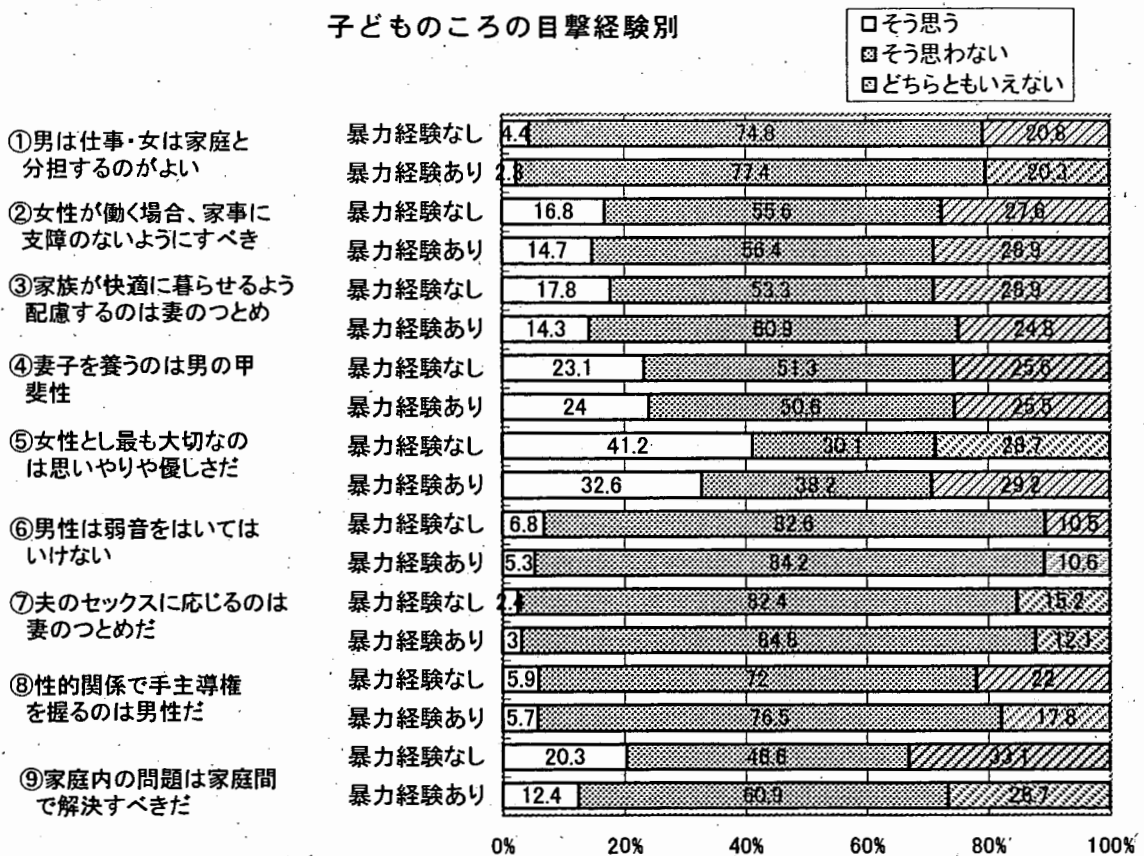
子どもに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、76.5% (202人)、72.0% (389人)であった。

9) 「家庭内の問題は家庭間で解決すべきである」

子どもに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「そう思わない」がもっとも多く、それぞれ、60.9% (162人)、46.6% (253人)であった。

図1 家庭内の男女の関係や役割について

子どもにの目撃経験別



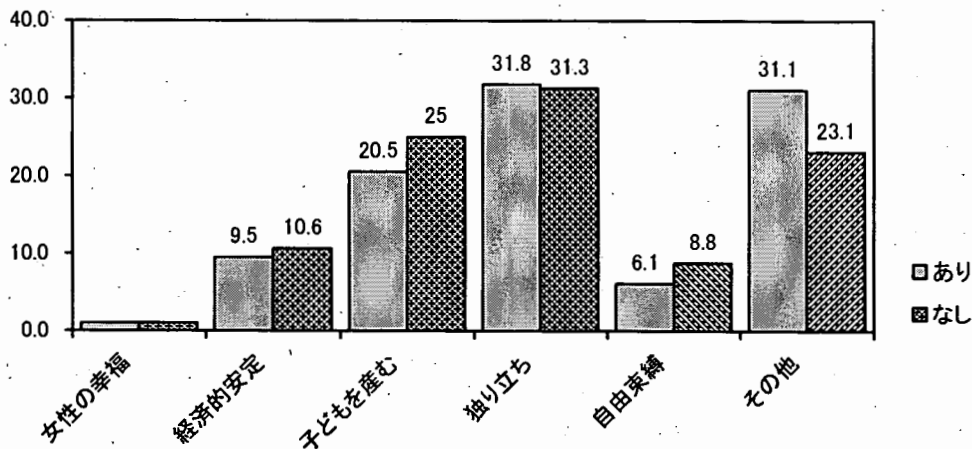
以上の結果より、子どもにの「暴力目撃あり」と「暴力目撃なし」での家庭内での男女の役割や関係についての意識には、ほとんど差が見られず、両者とも従来の「男女の役割」については否定している者が多かった。

問2 女性の結婚についての考え方 (図2)

「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と回答している人がもっとも多く、子どもに「暴力目撃あり」は31.8% (84人)、「暴力目撃なし」は31.3% (168人)であった。

次いで、「子どもを産み育てるには結婚した方がよい」で子どもに「暴力目撃あり」は20.5% (54人)、「暴力目撃なし」25.0% (134人)、「精神的にも経済的にも安定するから結婚した方がよい」では、子どもに「暴力目撃あり」は9.5% (25人)、「暴力目撃なし」10.6% (57人)、「結婚は女性の自由を束縛するから、自由に生きたいと思う女性は一生結婚しない方がよい」では子どもに「暴力目撃あり」は6.1% (16人)、「暴力目撃なし」8.8% (47人)であった。もっとも少なかったのは、「何と云っても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい」で、子どもに「暴力目撃あり」は1.1% (3人)、「暴力目撃なし」1.1% (6人)であった。

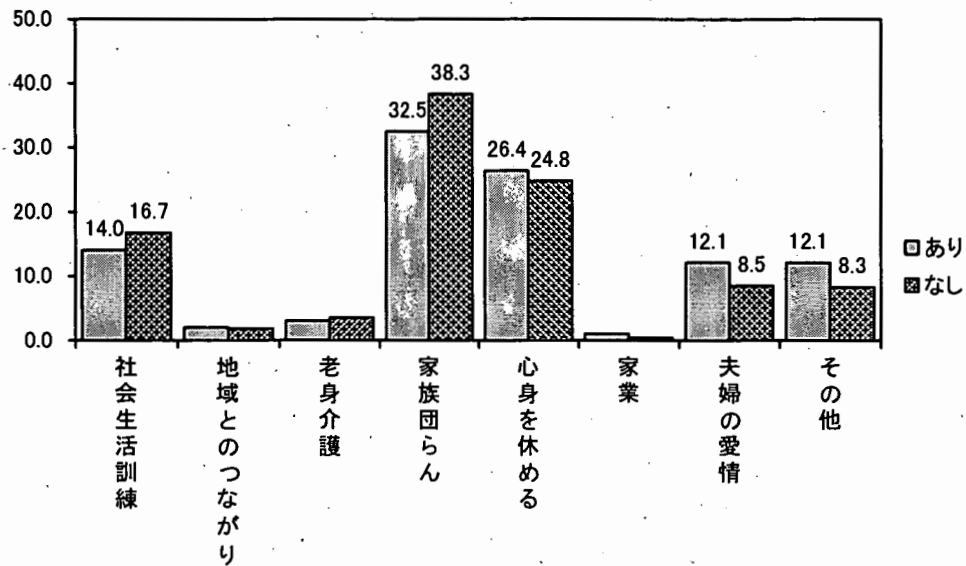
図2 女性の結婚についての考え方  
子どものころの目撃経験別



問3 家庭の機能についての考え方 (図3)

子どもに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「家族団らん」である。子どもに「暴力目撃あり」は32.5% (86人)、「暴力目撃なし」は38.3% (204人)であった。次いで、「自分の心身を休める場である」で、子どもに「暴力目撃あり」は26.4% (70人)、「暴力目撃なし」24.8% (132人)、「子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である」では、子どもに「暴力目撃あり」は14.0% (37人)、「暴力目撃なし」16.7% (89人)、「その他」では、子どもに「暴力目撃あり」は12.1% (32人)、「暴力目撃なし」8.3% (44人)、「夫婦の愛情をはぐくむ場である」では、子どもに「暴力目撃あり」は12.1% (32人)、「暴力目撃なし」8.5% (45人)、「老親の介護など家族の相互援助の場である」では、子どもに「暴力目撃あり」は1.5% (4人)、「暴力目撃なし」2.3% (12人)、「地域とのつながりをはぐくむ場である」では、子どもに「暴力目撃あり」は1.1% (3人)、「暴力目撃なし」0.9% (5人)、「家業や家の財産を守っていく場である」では、子どもに「暴力目撃あり」は0.4% (1人)、「暴力目撃なし」0.2% (1人)であった。

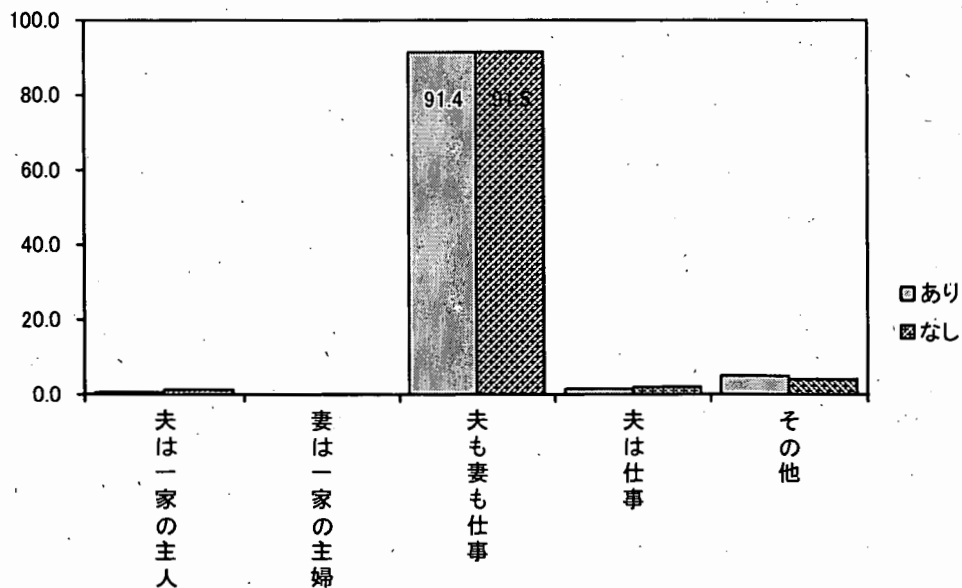
図3 家庭の機能についての考え方  
子どものころの目撃経験別



問4 理想の夫婦についての考え方 (図4)

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する」で、子どものころに「暴力目撃あり」は92.6% (287人)、「暴力目撃なし」は91.0% (466人)であった。「夫は仕事、妻は家事・育児を分担する」と回答した人もいるが、少数で、子どものころに「暴力目撃あり」は1.0% (3人)、「暴力目撃なし」2.1% (11人)であった。一方、「夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う」、「妻は一家の主人として主導権を持ち、夫は妻に従う」と回答した人は、「暴力目撃なし」のみで、それぞれ、1.8% (9人)、0.2% (1人)がいた。

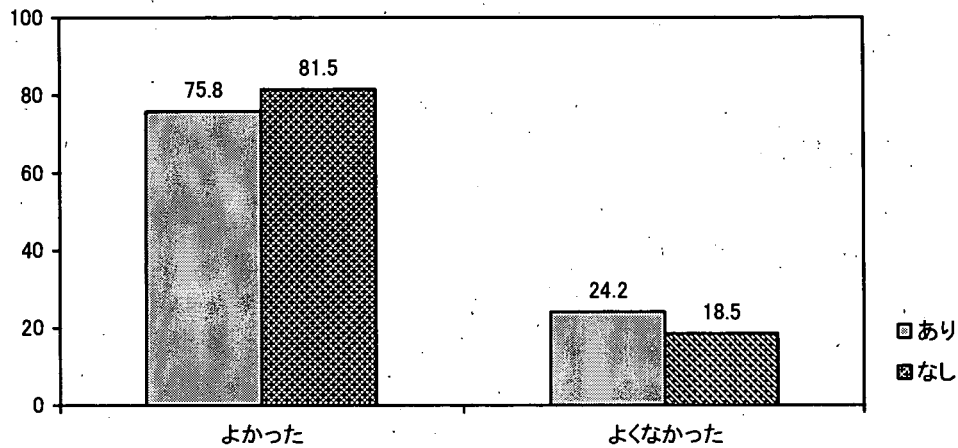
図4 理想の夫婦についての考え方  
子どものころの目撃経験別



### 問 5 現在の性に対する満足度 (図 5)

「現在の性でよかった」と回答した人は、子どものころに「暴力目撃あり」では 73.2% (218 人)、「暴力目撃なし」では 83.0% (396 人) と、「暴力目撃なし」の方が多かった。一方、「よくなかった」と回答した人は子どものころに「暴力目撃あり」は 26.8% (80 人)、「暴力目撃なし」は 17.0% (80 人)であった。

図 5 現在の性でよかったか  
子どものころの目撃経験別



### 問 6 現在の日常生活における役割について (図 6)

現在の日常生活における男女の役割について、配偶者かパートナーのいる人の、子どものころに「暴力目撃あり」と「暴力目撃なし」とで比較した。

比較に際し、「主として男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせて「男性の役割」とし、「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせて「女性の役割」とした。

#### 1) 「生活費を稼ぐ」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「男性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、75.2% (152 人)、70.3% (301 人)であった。

#### 2) 「日々の家計を管理する」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、68.7% (138 人)、71.7% (306 人)であった。

#### 3) 「食事の支度をする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、84.6% (170 人)、87.9% (376 人)であった。

4) 「食後の後かたづけをする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、76.2% (150人)、78.6%(336人)であった。

5) 「洗濯をする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、79.7% (161人)、83.7%(354人)であった。

6) 「掃除をする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、77.7% (157人)、76.9%(326人)であった。

7) 「買い物をする」については、子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、76.2% (154人)、69.1%(294人)であった。

8) 「老親や病身者介護や看護をする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とも、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、それぞれ、53.3% (105人)、47.9%(196人)であった。

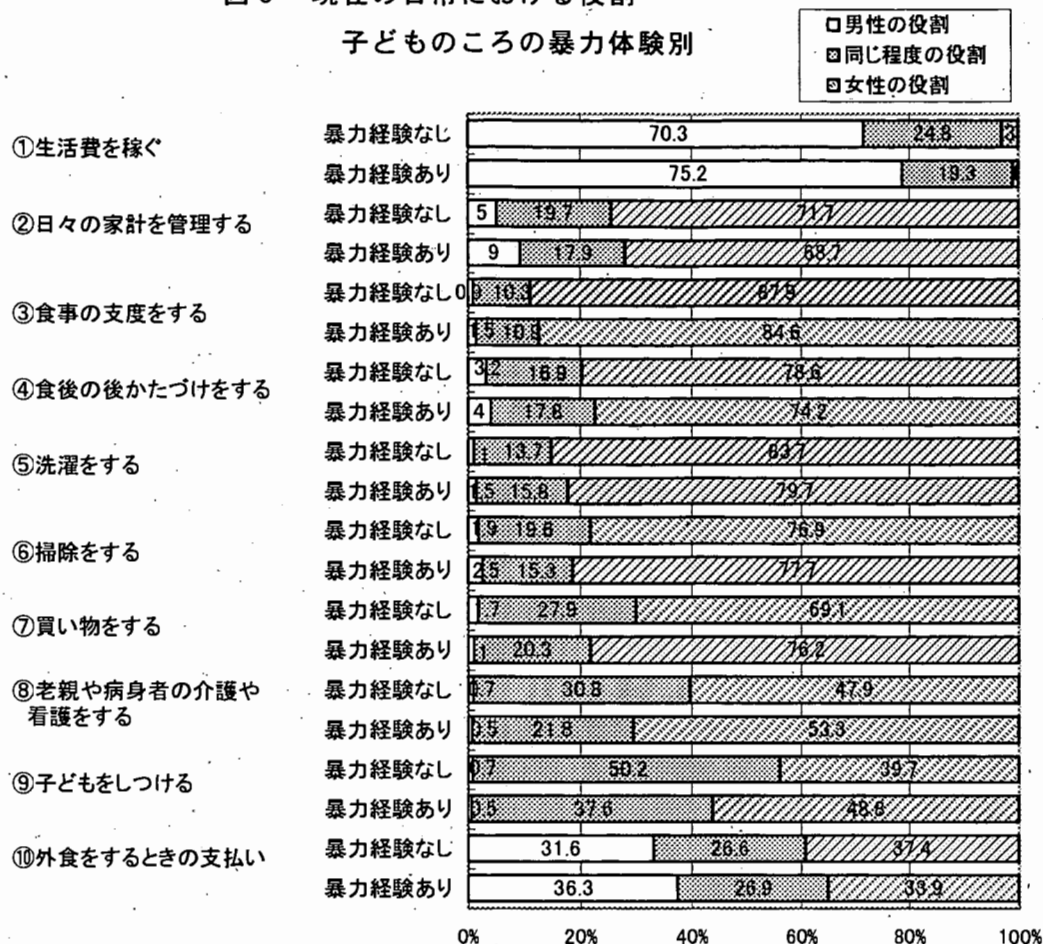
9) 「子どもをしつける」

子どものころに「暴力目撃あり」では「女性の役割」と回答した人がもっとも多く48.8% (96人)、「暴力目撃なし」では「両方とも同じ」と回答した人がもっとも多く、50.2%(208人)であった。

10) 「外食をするときの支払いをする」

子どものころに「暴力目撃あり」では、「男性の役割」と回答した人がもっとも多く、36.3% (73人)、「暴力目撃なし」では、「女性の役割」と回答した人がもっとも多く、37.4%(159人)であった。

図6 現在の日常における役割



子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」との比較では差が見られなかったが、全体として、理想としては、「男は仕事・女は家庭と分担するのがよい」とは思っていないにも関わらず、実際の生活に置いては、「食事の支度をする」、「食後の後かたづけをする」、「洗濯をする」、「掃除をする」、「買い物をする」、「老親や病身者介護や看護をする」などは、「女性の役割」と回答した人が多く、理想としている「男女助け合う」という関係とはかけ離れているといえる。子どものころの暴力体験の有無と同様、子どものころの暴力目撃の有無によるジェンダー認識の差は見られなかった。

## (2) 暴力認識

### 問1 暴力への欲望 (図7)

#### 1) 「むしように暴れたいことがある」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、58.8% (157人)、70.7% (382人)であった。

#### 2) 「誰かを殴りたくなることがある」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、68.4% (182人)、82.3% (447人)であった。一方、子どものころに「暴力目撃あり」で「たまにある」と回答した人は、28.6% (76人)で、「暴力目撃なし」の16.0% (87人)

より多かった。

3) 「ケンカが強くなりたと思うことがある」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、54.3% (144人)、69.0% (374人)であった。一方、子どものころに「暴力目撃あり」で「たまにある」と回答した人は、30.2% (80人)で、「暴力目撃なし」の21.4% (116人)より多かった。

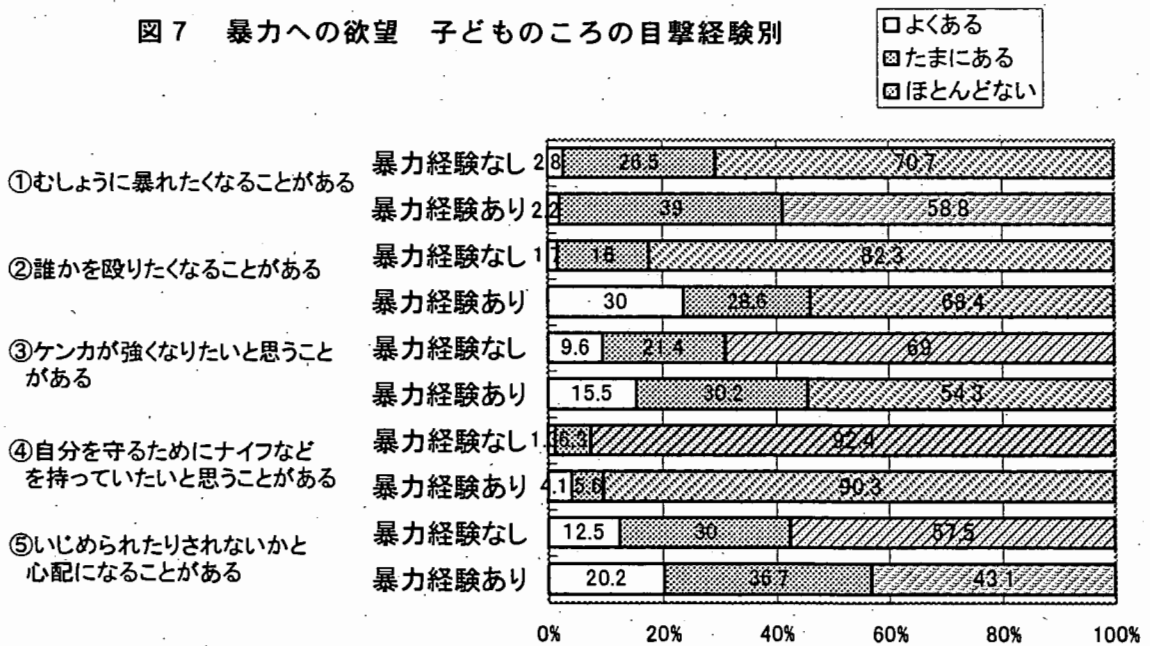
4) 「自分を守るために、ナイフなどを持っていたいと思うことがある」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、90.3% (241人)、92.4% (499人)であった。

5) 「いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することがある」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「ない」であり、それぞれ、43.1% (115人)、57.5% (313人)であった。

図7 暴力への欲望 子どものころの目撃経験別



問2 暴力の脱感作 (図8)

1) 「殴られるシーンを見ると嫌な気持ちになる」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「よくある」で、それぞれ、62.2% (166人)、56.5% (306人)であった。

2) 「血が飛び散るシーンを見ると嫌な気持ちになる」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「よくある」

で、それぞれ、69.2% (184人)、64.5% (351人)であった。

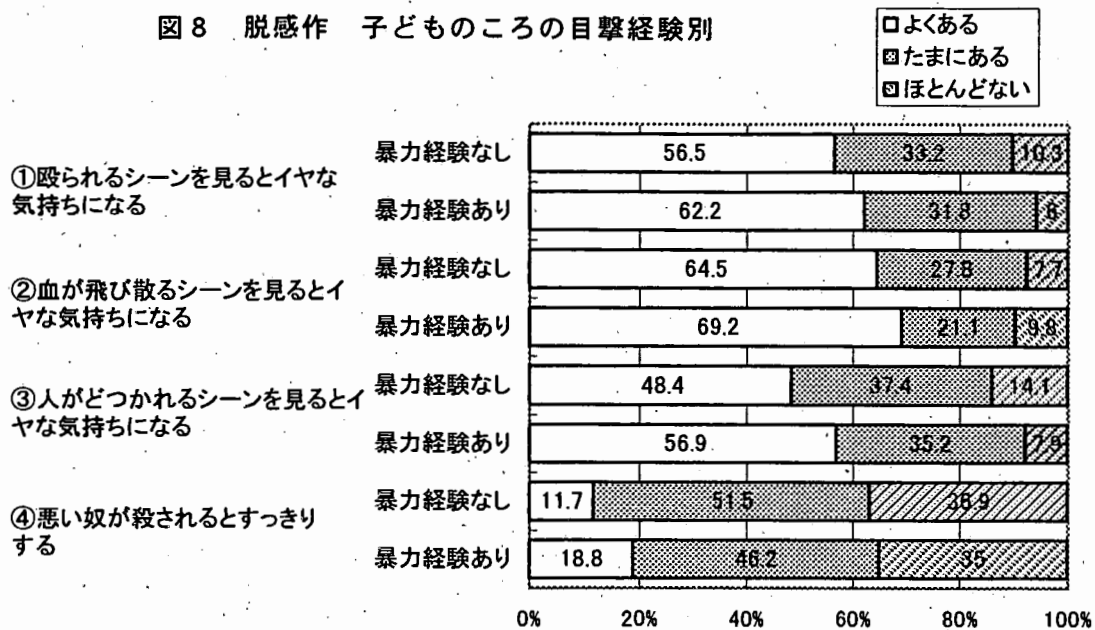
3) 「人がどつかれるシーンを見ると嫌な気持ちになる」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「よくある」で、それぞれ、56.9% (152人)、48.4% (264人)であった。

4) 「悪い奴が主人公に殺されるとすっきりする」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「たまにある」で、それぞれ、46.2% (123人)、51.5% (278人)であった。

図8 脱感作 子どものころの目撃経験別



問3 対人関係 (図9)

1) 「友達に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「たまにある」で、それぞれ、46.4% (124人)、49.5% (266人)であった。

2) 「目上の人に怒られたとき、言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「たまにある」で、それぞれ、48.7% (129人)、53.8% (289人)であった。

3) 「親に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」との比較において差が見られた。

子どものころに「暴力目撃あり」では、「たまにある」がもっとも多く、38.0% (100人)であった。一方、「暴力目撃なし」では、「ない」がもっとも多く、47.3% (250人)であった。



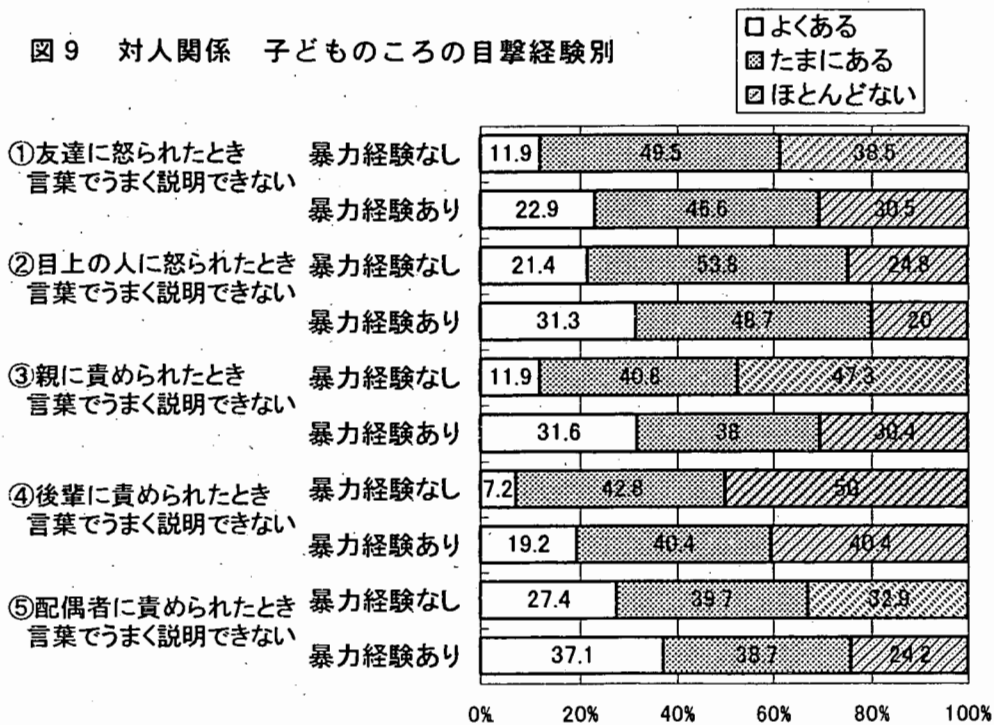
4) 「後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」との比較において差が見られた。

子どものころに「暴力目撃あり」では、「たまにある」と「ない」がもっとも多く同数で、40.4% (105 人)であった。一方、「暴力目撃なし」では、「ない」がもっとも多く、50.0% (264 人)であった。

5) 「配偶者(パートナー)に責められたとき言葉でうまく説明できない」

子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」とももっとも多かったのが、「たまにある」で、それぞれ、38.7% (99 人)、39.7% (210 人)であった。



以上より、暴力の欲望については、子どものころに「暴力目撃あり」の方が「暴力目撃なし」より、「誰かを殴りたくなることがある」、「ケンカが強くなりたと思うことがある」において、「たまにある」と回答してる人が多く、子どものころに暴力を目撃した経験が「暴力認識」影響していることがうかがえる。また、「いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することがある」においても、子どものころに「暴力目撃あり」の方が、「ある」「たまにある」合わせて約6割であり、これも、子どものころの暴力の目撃経験により、いじめられないかとの不安を感じていることがうかがえる。

暴力の脱感作については、子どものころに「暴力目撃あり」、「暴力目撃なし」の両者ではほとんど差が見られず、今回の調査では、子どものころの暴力の目撃経験にかかわらず、すべての項目において暴力表現に反応していることがわかった。

対人関係では、特に、「親に責められたとき言葉でうまく説明できない」において、「子どものころに「暴力目撃あり」の方が「暴力目撃なし」より多かった。その時の加害者は「父親」がほとんどであり、子どものころの暴力(虐待)経験と同様、目撃経験があることにおいても、いまだ、血縁関係内での弱者としての立場が続いていることがうかがえる。

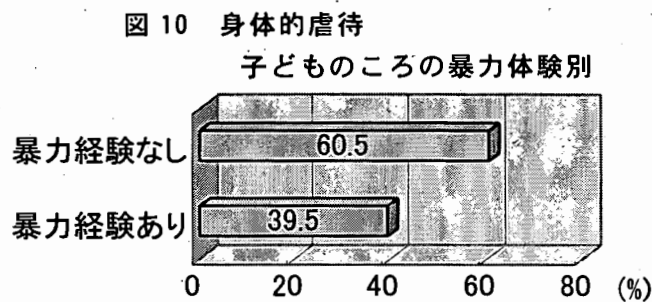
また、「後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できない」においても、子どものころに「暴力目撃あり」の方が「暴力目撃なし」より多く、一方、「友達」、「目上の人」、「配偶者(パートナー)」に対しては、うまく説明できないことが「たまにある」としているものが両者とももっとも多く、全体として対人関係での問題を含んでいるのではないかと考える。

### (3) 子どもへの虐待

子どもへの虐待をしていると回答した人のうち、それぞれの暴力について、子どものころに「暴力目撃あり」と回答した人 115 人と「暴力目撃なし」と回答した 176 人を比較してみた。

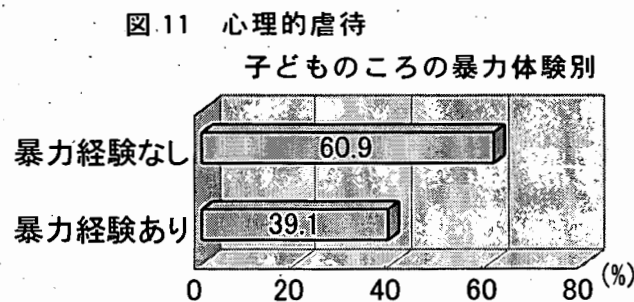
#### 問 1 身体的虐待の有無 (図 10)

身体的虐待が「あり」は 291 人で、そのうち、子どものころに「暴力目撃あり」は 39.5% (115 人)で、「暴力目撃なし」は 60.5% (176 人)と、「暴力目撃なし」の方が多かった。



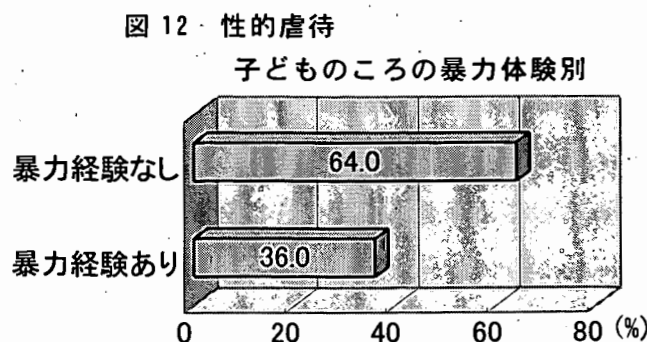
#### 問 2 心理的虐待の有無 (図 11)

心理的虐待が「あり」は 284 人で、そのうち、子どものころに「暴力目撃あり」は 39.1% (111 人)で、「暴力目撃なし」は 60.9% (173 人)と、「暴力目撃なし」の方が多かった。



#### 問 3 性的虐待の有無 (図 12)

性的虐待が「あり」は 25 人で、そのうち、子どものころに「暴力目撃あり」は 36.0% (9 人)で、「暴力目撃なし」は 64.0% (16 人)と、「暴力目撃なし」の方が多かった。

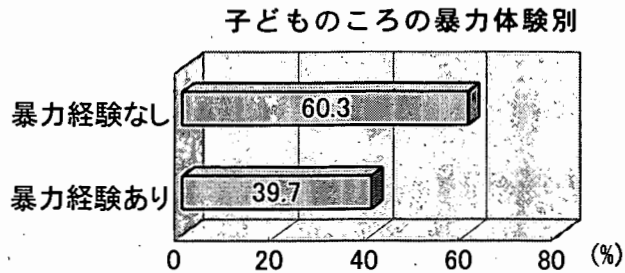


問 4 養育の怠慢・拒否の有無 (図 13)

養育の怠慢・拒否の有無が「あり」は 78 人で、そのうち、子どものころに「暴力目撃あり」は 39.7%

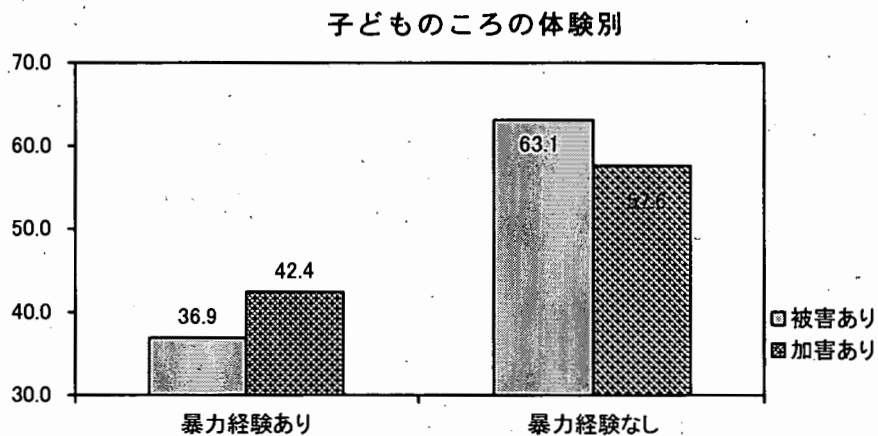
(31 人)で、「暴力目撃なし」は 60.3%(47 人)と、「暴力目撃なし」の方が多かった。

図 13 養育の拒否・怠慢



以上より、子どものころの暴力の目撃経験が、子どもへの虐待に移行することは、今回の調査ではみられなかった。しかし、子どものころに暴力を目撃経験のある人の被害経験、加害経験を見てみると、子どものころに暴力を目撃した経験のある人のうち、36.9%の人は、「被害経験あり」であった。また、42.4%の人が「加害経験あり」とあった。(図 14)

図 14 被害・加害別



このことより、子どものころの暴力の経験ほどではないが、目撃経験が、現在または過去においての暴力経験に、少なからず影響を及ぼしている可能性があることがうかがえた。

(報告 玉上麻美)

# V章 まとめ —総括—

## V章 まとめ ー総括ー

### 1 回収率

今回の調査の回収率は、53.4% (835人) である。有効回収率は、99.9% (834人) である。

### 2 回答者について

回答者は、女性 87.2% (727人)、男性 12.8% (107人) である。年代別に見ると、全体では 30 歳代が最も高い。男女別で見ると、女性は 30 歳代が、男性は 40 歳代が高いものの回答者の男女別にそれほど差はない。男性よりも女性のほうが回答者の年代の幅は広く、10 代から 80 代までである。配偶者やパートナーの有無は、「あり」は 78.8%、「なし」は 21.0% である。勤務形態をみると、全体は「定期 (常勤)」が高い。しかし男女別で見ると、女性は 4 割が「定期 (常勤)」、男性は 7 割が「定期 (常勤)」と、男女に差がある。

### 3 暴力の経験

回答者のうち、何らかの暴力経験がある (被害の経験、加害の経験、子ども頃の暴力経験) と回答したのは、77.9% である。回答者の 10 人に 7 人は暴力の経験がある。

「被害の経験がある」と回答したのは、45.4% である。「加害の経験がある」と回答したのは、4.1% である。

「子ども頃の暴力経験がある」と回答したのは、37.6% である。「子ども頃の暴力目撃経験がある」と回答したのは、32.3% である。

「子どもへの虐待がある」と回答したのは、子どもがいる回答者 (531人) のうち、68.2% (362人) である。回答者の子どもの 7 割弱は、暴力の被害を受けている。

### 4 男女別暴力の経験

女性の「被害経験あり」は 52.1%、「加害経験あり」は 2.6% である。

男性の「被害経験あり」は 2.9%、「加害経験あり」は 14.3% である。

男女差で見ると、被害経験あり (379人) と回答したうち、女性は 99.2%、男性は 0.8% である。加害経験あり (34人) と回答したうち、女性は 55.9%、男性は 44.1% である。

### 5 被害像

暴力を振るわれた相手は、98.9% が「配偶者・パートナー」である。「同居していた関係であった」と回答したのは 65.8% と、6 割以上が同居している相手から暴力を受けている。被害者の年代を見ると、30 歳代から 40 歳代が高い。学歴で見ると、「高学卒」28.7% と高いが、「短大・高専」と「大学卒」と「大学院卒」をあわせると 44.4% が高学歴である。職業を見ると、「専業主婦」が

最も高く、28.8%である。勤務形態で見ると、「定期（常勤）である」と回答したのは32.3%である。年収を見ると、「なし～100万円未満」は37.1%と高いが、「700万円以上」は3.4%である。

暴力の被害は、「身体的暴力」が91.8%、「精神的暴力」が98.1%、「性的暴力」が83.1%、「社会・経済的暴力」が86.8%である。ケガがあった回答者は70.9%である。

## 6 加害像

暴力を振るった相手は、94.9%が「配偶者・パートナー」である。「同居していた関係である」と回答したのは56.4%である。年代を見ると、年代の偏りがほとんどなく、回答者全体の比率とほぼ同じである。学歴で見ると、「大学卒」が最も高く38.2%、ここでも「短大・高専」と「大学卒」と「大学院卒」をまとめると49.9%が高学歴である。職業を見ると、「専門・技能職」が35.3%であり、ついで「専業主婦（夫）・無職」の20.6%である。勤務形態で見ると、「定期（常勤）である」と回答したのは52.9%である。年収を見ると、「700万円以上」が26.4%である。

暴力の加害は、「身体的暴力」が77.5%、「精神的暴力」が91.1%、「性的暴力」が29.4%、「社会・経済的暴力」が26.5%である。

## 7 子どものころの暴力体験

子どものころ、「家庭内で暴力を受けた経験がある」と回答した人は37.6%である。女性は40.0%、男性は23.4%である。虐待者は両親が最も高く、「父親」が22.4%、「母親」が14.5%である。

## 8 子どものころの暴力目撃

子どものころ、「家庭内で暴力をしたりされたりしている場面を目撃した経験がある」と回答した人は、32.3%である。女性は35.3%、男性は16.3%である。虐待者は両親が最も高く、「父親」が22.4%、「母親」が14.5%である。

目撃の被害は、「身体的暴力」が89.6%、「心理的暴力」が90.0%、「性的暴力」が16.7%、「養育の怠慢・拒否」が29.0%である。

## 9 子どもへの虐待

「子どもへの虐待がある」と回答したのは、子どもがいる回答者（531人）のうち、68.2%（362人）である。10人に6人は暴力の経験がある子どもとなる。虐待者は両親が最も高く、「父親」が14.3%、「母親」が6.5%である。

子どもへの虐待には、「身体的虐待」が59.3%、「心理的虐待」が57.4%、「性的虐待」が9.8%、「養育の怠慢・拒否」が19.0%である。

一番初めに虐待が起こったときの子どもの年齢は、「幼児期（乳児期以降、6歳ころまで）」が65.3%である。次いで「乳児期（生後1歳まで）」が17.6%である。乳幼児期に虐待が始まっていたのが、82.9%である。

## 10 暴力による性格、生活態度への影響

「暴力の経験がある」との回答者は、暴力の経験以前の性格や生活態度が「暴力の経験がない」との回答者と、変化のない割合である。暴力の経験以後には、それぞれが大きく変化をしている。これらの結果は、1つに暴力の経験が性格や生活態度に強く影響を与えることを示唆している、2つに「暴力の経験がある」人が特別な性格や特殊な人間関係のなかにいるわけではないといえる。

(報告 友田尋子)

## 担当者

本調査は、「女性と子どもに対するDV研究会」によって実施しました。統計処理および分析は藤田千恵子、誉田貴子、坂なつこ、玉上麻美および友田尋子が行いました。

なお、調査にあたっては、「夫・恋人からの暴力を考える研究会」のメンバーに多大な協力、助言をいただきました。

まとめにあたっては、以下の者で分担し、行いました。

- I 章 友田尋子（大阪市立大学看護短期大学部助教授）
- II 章 藤田千恵子（立命館大学産業社会学部学生）・友田尋子
- III 章 1、坂なつこ（立命館大学産業社会学部非常勤講師）  
2、坂なつこ  
3、梶山寿子（ジャーナリスト）  
4、誉田貴子（大阪市立大学看護短期大学部助手）
- IV 章 玉上麻美（大阪市立大学看護短期大学部助手）
- V 章 友田尋子



## 夫・恋人からの暴力を考える研究会メンバー

名 前	所 属 ・ 役 職
青木直子	大阪市中央児童相談所・ケースワーカー
明石知子	大阪厚生年金病院・助産婦
秋元寛	大阪府三島救命救急センター・外科医長
井上万寿江	情緒障害児短期治療施設 希望の杜・看護婦
井ノ崎敦子	大阪大学大学院博士後期課程・大学院生
泉 薫	淀屋橋法律事務所・弁護士
今田博子	北母子生活支援施設・保母
今中基晴	大阪市立大学看護短期大学部・教授（産婦人科医師）
大岩尚美	大阪府衛生会「健康の里」・保健婦
岡本由美	あおぞらグループホーム・職員
荻田幸雄	大阪市立大学医学部附属病院・病院長
片山三喜子	関西テレビ・アナウンサー
川上慶子	看護婦
川上寿美子	東母子生活支援施設・母子指導員
川喜田好恵	ドーンセンター・企画推進グループコーディネーター
木村千幸	大念仏寺母子寮・指導員
小西宏樹	大阪市住吉区役所健康福祉サービス課・母子担当職員
坂 なつこ	立命館大学社会学研究科・立命館大学非常勤講師
誉田貴子	大阪市立大学看護短期大学部・助手（看護婦）
斉藤恵美	生野学園・スタッフ
坂上洋平	大阪府女性相談センター・主査
沢田 薫	大阪市女性協会・総務・企画
渋谷元宏	淀屋橋法律事務所・弁護士
清水訓夫	大阪府警察本部
杉田善久	大念仏寺母子寮・施設長
高田昌代	神戸大学医学部保健学科・母性看護学助教授（助産婦）
高橋弘枝	大阪厚生年金病院・病棟婦長（助産婦）
瀧 薫子	大阪市鶴見区福祉事務所・ケースワーカー
竹村摩佐巳	日本DV防止情報センター・事務局・運営委員
津崎哲郎	大阪市中央児童相談所・副所長
網本幸子	生駒市家庭児童相談室・カウンセラー
友田尋子	大阪市立大学看護短期大学部・小児看護学助教授（看護婦）
中村 彰	メンズセンター・代表
長谷 豊	大阪市生野保健センター・所長
濱家敦子	児童虐待防止協会・スクールカウンセラー及び臨床心理士
林 功	生野学園・園長

藤田	千恵子	立命館大学産業社会学・学生
前東	はぎ子	大阪府女性自立支援センター・相談員
向市	真知子	大阪厚生年金病院・MSW
森村	美奈	大阪市立大学医学部婦人科教室・産婦人科医師

## おわりに

予備調査を含めると、本調査に取り組みだしてから二年半が経過しました。調査には多額な費用を必要とします。アジア女性基金は、様々な活動をされている中で、DVについての深い感心とDV防止への取り組みの必要性を重視していたことから、本調査への協力を申し出てくださり、このような大がかりな調査が可能となりました。また、調査を実施するにあたっては、調査票の検討、調査票の配布に、多くの方々と機関が協力くださいました。その間には、様々な方々からのご意見とご助言を沢山いただき、その時に話し合った時間は研究会として貴重で、意義深いものでした。調査を橋渡しに、様々な人々と機関とが出会い、官民の壁を越えた関係作りと連携がとれたことは、これからどのようなことを認識し、専門家として取り組んでいく必要があるのかなどの理解が深まりました。

そして、本調査に協力いただき、質問に回答を寄せてくださった方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。設問に対して、丁寧にかつ貴重なご意見を紙面一杯にご記入くださいました方々も少なくありませんでした。今回の報告で全てのご意見を反映させるには至りませんでした。これからの活動で公表し、また還元していきたいと考えております。

「女性と子どもに対するDV研究グループ」一同

「夫・恋人からの暴力を考える研究会」一同

# 添付資料

- 1、アンケート票
- 2、調査結果表一覧
- 3、自由記述

# 資料 1 アンケート票

このアンケートは、次のような方を対象としています。

- ①配偶者、パートナー(恋人など)から暴力を受けていた方  
(受けている方)
- ②配偶者、パートナー(恋人など)、あるいは子どもへ暴力を  
ふるっていた方(ふるっている方)
- ③子どもの頃に親の暴力を目撃した方
- ④親から虐待を受けていた方
- ⑤以上のような経験のない方

つまり、ご協力くださるという意志のある方すべてが対象になる、  
ということです。

本調査では、「暴力」を次の4つの定義に分類し、使用しています。

- 1 なぐる、けるなどの身体に加えられる「身体的暴力」
- 2 ののしったり、中傷されたりする「精神的暴力」
- 3 意思に反し、セックスを強要されるなどの性に関する「性的暴力」
- 4 社会的に孤立させられたり、生活費を渡さないなどの「経済的・社会的暴力」

ただし、これらの分類はあくまでも便宜上のものでありますから、判断がつかない場合には、「その他」の欄などに自由にご記入ください。

また、ここで配偶者とは「法律上の結婚をしている相手」、パートナー(恋人)とは「法律上の手続きをしていない結婚相手」あるいは「一定期間、親密な関係にある相手」をさします(以下同)。

#### 【アンケートの回答方法】

\* 調査票は全部で22ページあります。1ページのはじめから順にご記入をお願いします。

\* 質問のお答えは、数字が並んでいる場合には数字に、マス目がある場合には空いているマス目に○をつけてください。

\* ( ) の場合には、( ) 内に、直接お答えをご記入ください。

\* 「あてはまるものすべてに」とある質問にはいくつでも○をつけてください。

\* アンケート内容は、各人にとって該当しないものもあります。その場合は指示に従って、該当する質問へ移ってください。ただし、最後までお進み下さい。該当する内容がその都度ありますので、注意してお進み下さい。

\* あなたの答えられる範囲で、できるだけくわしくご回答ください。

お忙しいところ、大変申し訳ありませんが、9月15日までにご投函いただきたくお願いいたします。なお、期日がすぎました場合でも、貴重なご意見として参考にさせていただきますので、ぜひご投函くださいますようお願い申し上げます。

**回答が終わりましたら、添付の封筒に入れて、ご投函ください。**

## ドメスティック・バイオレンス調査へのご協力をお願い

配偶者、パートナー(恋人)など、親密な関係における暴力(身体的、精神的、社会・経済的、性的なものを含む)を、ドメスティック・バイオレンス(DV)と呼びます。このような暴力は、これまで夫婦間や恋人間の「痴話げんか」や「家庭内の暴力」と考えられ、問題視されることはほとんどありませんでした。しかし、最近では、プライベートな関係における暴力も、犯罪や社会的問題であるとの認識が高まりつつあります。

さらに、暴力・虐待の被害は、パートナー間だけではなく、子どもにもその影響が及びます。本人が直接被害を受けた場合はもちろんのこと、ドメスティック・バイオレンスのある家庭で育ち、親が暴力を受ける場面を目撃した子どもたちは、直接に暴力を受けていなくても、心に大きな傷を負います。それが次世代の暴力へとつながっていること(「暴力の連鎖」)は、欧米の研究などで明らかにされているのです。その結果、暴力加害者のなかには、かつて被害者であったという人もいることがわかってきています。

しかし、残念ながら日本社会において、ドメスティック・バイオレンスと子どもたちの直面する問題の関連性を指摘する声は少なく、それを実証する本格的な調査・研究はほとんど行われていません。

「暴力の連鎖」を断ち切るために、私たちにできること、やらねばならないことは何か。この問いの具体的な対策の参考とするため、私たち、「女性および子どもに対するDV研究グループ」は、アジア女性基金の委託を受け、ドメスティック・バイオレンスの被害についてプレ調査(1999年11月実施、報告書はアジア女性基金発行)を行いました。今回、その結果を踏まえ、本調査を実施することになりました。

回答していただきたい方は、今これを読んでくださっているあなたです。それは、被害・加害の有無ではなく、ドメスティック・バイオレンスに関心のあるすべての方に回答していただきたいからです。

この調査が、暴力のない社会を実現するための礎(いしずえ)になればと、研究者一同、祈るような気持ちです。

質問には答えにくい内容も含まれておりますが、できる範囲でお答えいただければ結構です。調査票はご本人が記名されない限り、無記名でご回答いただき、結果はすべて統計的に処理いたしますので、ご迷惑をおかけすることは一切ありません。また、プライバシーは厳守されることをお約束いたします。

趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 連絡先

〒545-0061 大阪市阿倍野区旭町1-5-17  
大阪市立大学看護短期大学部 友田研究室  
TEL & FAX : 06-6645-3538  
「女性および子どもに対するDV研究グループ」  
代表 友田 尋子(ともだ ひろこ)

**【A】全員の方におたずねします。**

選択の場合は、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。また、記述の場合は、( )内に答えをお書きください。

問1 あなたの性別は、 ①男 ②女

問2 あなたの年齢は、 満( )歳[2000年 7月1日現在]

問3 あなたの居住地は、 ( )都道府県

問4 あなたの最終学歴は、

- ①小学校 ②中学校 ③高校 ④専門学校・各種学校 ⑤短期大学・高専  
⑥大学 ⑦大学院 ⑧その他・在学中( )

問5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか。①～⑯の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

**【お勤めの方】**

- ①経営・管理職(会社、団体、官公庁の課長級以上)  
②専門・技術職(教員、研究員、技術者、勤務医など)  
③事務職(事務系会社員、事務系公務員など)  
④労務・技能職(工場等の生産工程従業者、運転士など)  
⑤土木・建築職  
⑥販売・サービス職、営業職(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑦派遣社員  
⑧その他( )

**【自営業・家族従業の方】**

- ⑨農林漁業  
⑩商工・サービス業(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑪自由業(開業医、弁護士、著述業、音楽家など)  
⑫財産・不動産利用  
⑬その他( )

**【その他】**

- ⑭学生  
⑮専業主婦(夫)  
⑯無職( )





【B】全員の方におたずねします。

問1 家庭内の男女の関係や役割についてあなたはどのように思いますか。①～⑨の項目のそれぞれについて、最も近いと思うものをア～エの中から1つ選び、マス目に○をつけてください。

	ア そう思う	イ そう思わない	ウ どちらともいえない
①「男は仕事・女は家庭」と分担するのがよい			
②女性は働く場合、家事に支障のないようにするべきだ			
③家族が快適に暮らせるよう配慮するのは、妻のつとめである			
④妻子を養うのは「男の甲斐性」である			
⑤女性として最も大切なのは思いやりや優しさである			
⑥男性は弱音をはいてはいけない			
⑦夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである			
⑧性的関係で主導権をにぎるのは男性である			
⑨家庭内の問題は家庭間で解決すべきである			

問2 「女性の結婚」についてのあなたの考え方に、最も近いと思うものを①～⑥の項目の中から1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ①何と言っても、女性の幸福は結婚にあるのだから、結婚した方がよい
- ②精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい
- ③子どもを産み育てるには、結婚した方がよい
- ④独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい
- ⑤結婚は、女性の自由を束縛するから、自由に生きていたいと思う女性は一生結婚しない方がよい
- ⑥その他( )

問3 「家庭の機能」についてのあなたの考え方に、最も近いと思うものを①～⑧の項目の中から1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ①子どもを産み育て、社会生活の訓練をする場である
- ②地域とつながりをはぐくむ場である
- ③老親の介護など家族の相互援助の場である
- ④家族団らんの場である
- ⑤自分の心身を休める場である
- ⑥家業や家の財産を守っていく場である
- ⑦夫婦の愛情をはぐくむ場である
- ⑧その他( )

問4 あなたは、どのような夫婦を理想と考えていますか。最も近いと思うものを、①～⑤の項目の中から1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ①夫は一家の主人として主導権を持ち、妻は夫に従う
- ②妻は一家の主婦として主導権を持ち、夫は妻に従う
- ③夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち、家庭のことは協力する
- ④夫は仕事、妻は家事・育児と分担する
- ⑤その他( )

問5 あなたは、現在の性に生まれてよかったと思いますか。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。また、その理由もお書きください。

- ①よかった 理由( )
- ②よくなかった 理由( )

問6 配偶者かパートナーのいる方におたずねします。(いらっしやらない方は5ページの【C】[あなたの気持ちや感じ方]にお進みください)

あなたが配偶者やパートナーと2人有的时候、次のような日常的なことは、どなたの役割ですか。①～⑨の項目のそれぞれについて最も近いと思うものを、ア～カの中から1つ選び、マス目に○をつけてください。

	ア 主として男性の役割	イ どちらかといえば男性の役割	ウ 両方同じ程度の役割	エ 主として女性の役割	オ どちらかといえば女性の役割	カ その他
①生活費を稼ぐ						
②日々の家計の管理をする						
③食事の支度をする						
④食後の後かたづけをする						
⑤洗濯をする						
⑥掃除をする						
⑦買い物をする						
⑧老親や病身者介護や看護をする						
⑨子どもをしつける						
⑩外食をするときの支払いをする						

【C】全員の方におたずねします。

[1]あなたの気持ちや感じ方についておたずねします。

問1 あなたの気持ちについてお聞きます。①～⑤の項目のそれぞれについて、最も近いと思うものをア～ウの中から1つを選び、○をつけてください。

	ア よくある	イ たまにある	ウ ない
①むしように暴れたいと思うことが			
②誰かを殴りたいと思うことが			
③ケンカが強くなりたいと思うことが			
④自分を守るために、ナイフなどを持っていたいと思うことが			
⑤いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することが			

問2 次のような場合の、あなたの感じ方についてお聞きます。①～⑤の項目のそれぞれについて、最も近いと思うものをア～ウの中から1つを選び、○をつけてください。

次のようなテレビや映画のシーンについて、

	ア よくある	イ たまにある	ウ ない
①人が殴られるシーンを見ると、嫌な気持ちになることが			
②血が飛び散ったりするシーンを見ると、嫌な気持ちになることが			
③バラエティ番組で、人をどついて笑うシーンを見ると、嫌な気持ちになることが			
④悪いやつが主人公に殺されるシーンを見ると、すっきりした気持ちになることが			

問3 次のような場合の、人との関係についてお聞きます。①～⑤の項目のそれぞれについて、最も近いと思うものを、ア～ウの中から1つを選び、○をつけてください。

自分が悪くないのに、

	ア よくある	イ たまにある	ウ ない
①友達に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが			
②目上の人に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが			
③親に怒られたとき、言葉でうまく説明できないことが			
④後輩(部下)に責められたとき言葉でうまく説明できないことが			
⑤配偶者(パートナー)に責められたとき言葉でうまく説明できないことが			

[ 2 ]あなたの性格や生活態度についてお聞きします。

問1 暴力を受けた経験のある方や、暴力をふるった経験のある方におたずねします。

\*暴力経験がない方は7ページの間2へお進みください。

暴力に悩むようになってからと、それ以前とで、あなたの性格や生活態度に変化はありましたか(ありますか)。①～⑫の項目のそれぞれについて、以前と以後とで、最も近いと思うものをア～ウの中から1つを選び、○をつけてください。

	以前			以後		
	ア そう思う	イ そう思わない	ウ どちらともいえない	ア そう思う	イ そう思わない	ウ どちらともいえない
①明るく元気な方である						
②人とのつきあいがおっくうである						
③自分を大切だと感じているし、自分が好きである						
④何となく自信がない						
⑤頼られるとイヤといえないタイプ						
⑥自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い						
⑦自分でものごとを決めることが苦手である						
⑧一人でいると不安になる						
⑨好奇心が旺盛で、行動的である						
⑩ものごとすぐに感動する方である						
⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある						
⑫最初から「うまくいかない、失敗する」とあきらめることがある						

⑬その他、上記以外で暴力の被害・加害で変化があった性格や生活態度があれば書いてください。  
具体的に:

問2 暴力関係の経験がない方に、現在のあなたの性格や生活態度についてお聞きします。①～⑫の項目のそれぞれについて、最も近いと思うものを、ア～ウの中から1つを選び、○をつけてください。

	現在		
	ア そう思う	イ そう思わない	ウ どちらともいえない
①明るく元気な方である			
②人とのつきあいがおっくうである			
③自分を大切だと感じているし、自分が好きである			
④何となく自信がない			
⑤頼られるとイヤといえないタイプ			
⑥自分の気持ちより、人の立場にたって考えることが多い			
⑦自分でものごとを決めることが苦手である			
⑧一人でいると不安になる			
⑨好奇心が旺盛で、行動的である			
⑩ものごとにすぐ感動する方である			
⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある			
⑫最初から「うまくいかない、失敗する」とあきらめることがある			

【D】全員の方におたずねします。

あなたの過去(または現在)の体験についておたずねします

問1 過去の(あるいは現在の)配偶者、パートナー(恋人)との間で、暴力関係がありましたか(または、現在ありますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①あり a. 暴力をふるわれていた(ふるわれている)→このページの間2へお進みください  
b. 暴力をふるった(ふるっている)  
→12ページの【E】(暴力加害)へお進みください

②なし →15ページの【F】(あなたの子どもの頃の体験)へお進みください

過去に(または現在)暴力をふるわれていた(ふるわれている)とお答えの方へ

あなたの過去(または現在)の被害体験についておたずねします。

問2 暴力をふるっていた(ふるっている)相手との当時の関係は、次のどれにあたりますか。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①配偶者 → a. 同居していた(現在も同居中)  
b. 別居していた(現在も別居中)  
c. 離婚した  
d. その他( )
- ②パートナー → a. 同居していた(現在も同居中)  
b. 別居していた(現在も別居中)  
c. 別れた  
d. その他( )
- ③その他( )

問3 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の職業は、次のどれにあたりますか。①～⑯の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

【お勤めの方】

- ①経営・管理職(会社、団体、官公庁の課長級以上)  
②専門・技術職(教員、研究員、技術者、勤務医など)  
③事務職(事務系会社員、事務系公務員など)  
④労務・技能職(工場等の生産工程従業者、運転士など)  
⑤土木・建築職  
⑥販売・サービス職、営業職(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑦派遣社員  
⑧その他( )

【自営業・家族従業の方】

- ⑨農林漁業  
⑩商工・サービス業(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑪自由業(開業医、弁護士、著述業、音楽家など)  
⑫財産・不動産利用  
⑬その他( )

【その他】

- ⑭学生  
⑮専業主婦(夫)  
⑯無職( )

問4 勤務の形態は次のどれにあたりますか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ① 定期(常勤)      ② 不定期(非常勤)      ③ パート・アルバイト      ④ 無職  
⑤ その他( )

問5 暴力をふるっていた(ふるう)相手の年収は、次のどれにあたりますか。①～⑩の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ① なし    ② 100万円未満    ③ 100万円～200万円未満    ④ 200万円～300万円未満  
⑤ 300万円～500万円未満    ⑥ 500万円～700万円未満    ⑦ 700万円～900万円未満  
⑧ 900万円～1000万円未満    ⑨ 1000万円以上    ⑩ わからない

問6 身体的暴力について、次のような行為をされたことがありますか。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ① 顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる  
② 胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる  
③ 髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る  
④ 足でける、突き飛ばす  
⑤ 物などでなぐる  
⑥ 物を投げつける  
⑦ 煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる  
⑧ 首をしめる(しめるふりをする)  
⑨ 刃物を突きつけたり、刃物で切る  
⑩ その他(具体的に )  
⑪ そのような経験はない → 次の問7(精神的暴力)へお進みください

問6-1 身体的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ① ほぼ毎日    ② 週に一回程度    ③ 月に一回程度    ④ 年に数回(      回程度)  
⑤ ばらつきがある(具体的に )

問6-2 身体的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ① 1年未満    ② 1年～3年未満    ③ 3年～5年未満    ④ 5年～10年未満  
⑤ 10年～20年未満    ⑥ 20年以上    ⑦ 不定期( )

問7 精神的暴力について、次のような行為をされたことがありますか。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ① 物をこわす  
② 大切な人・物・ペットを傷つける  
③ ののしる・中傷する  
④ 何を言っても相手にせず、無視する  
⑤ 殺す、死んでやる、捨てるといっておどす  
⑥ 「食わせてやっている」と言う  
⑦ 暴力をふるうふりをしておどす  
⑧ 手をつけて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる  
⑨ 病気の時や妊娠中につらくあたる  
⑩ その他(具体的に )  
⑪ そのような経験はない → 10ページの間8(性的暴力)へお進みください



問7-1 精神的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( )  
⑤ばらつきがある(具体的に )

問7-2 精神的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満  
⑤10年～20年未満⑥20年以上 ⑦不定期( )

問8 性的暴力について、次のような行為をされたことがありますか。①～⑬の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ①望まないセックスをむりやりする  
②不快・屈辱的な性行為をむりやりする  
③避妊に協力しない  
④中絶を強要する  
⑤中絶を拒否する  
⑥アダルト・ビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる  
⑦自分が、他の人と性的関係にあることをほのめかす・人前で言う  
⑧浮気をする  
⑨他の人との性的関係を疑う  
⑩「子どもができない」などと非難する  
⑪「不感症」「下手」などと、セックスや性器について非難する  
⑫その他(具体的に )  
⑬そのような経験はない → 次の問9(社会・経済的暴力)へお進みください

問8-1 性的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( )  
⑤ばらつきがある(具体的に )

問8-2 性的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満  
⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問9 社会・経済的暴力について、次のような行為をされたことがありますか。①～⑫の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ①仕事・社会的活動を制限・妨害する  
②持ち物を勝手に点検する  
③手紙や電話を制限する  
④外出を制限する  
⑤友人、親戚のつきあいを制限する  
⑥尾行する、外出先でまちぶせをする  
⑦異性とのつきあいを制限する  
⑧生活費を渡さない、家計の管理を独占する  
⑨家計の収入以上に、お金を使う(趣味、ギャンブルなど)  
⑩あなたの(暴力を受けている人)の給料を取りあげたり、貯金を勝手におろす  
⑪その他(具体的に )  
⑫そのような経験はない → 11ページの間10(暴力の原因)へお進みください

問9-1 社会・経済的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( )  
⑤ばらつきがある(具体的に )

問9-2 社会・経済的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満  
⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問10 どのような暴力であれ、相手が、初めて暴力をふるった時の原因はどこにあると思いますか。①～⑥の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①暴力をふるう側に原因がある(具体的に )  
②暴力をふるわれる側に原因がある(具体的に )  
③両方に原因がある(具体的に )  
④どちらともいえない  
⑤わからない  
⑥その他( )

問11 暴力によってあなたにどのような身体的な影響がありましたか。

- ①ケガはなかった  
②ケガをした

- a. どこをケガしましたか。 [ ]  
b. どんなケガでしたか。 [ ]  
c. 医者にかかりましたか。  
(ア)はい (イ)いいえ  
d. 全治[ ]日]

問12 一番初めに暴力を受けたときに(すべての暴力の中で)、もっとも強く感じたのはどのような気持ちでしたか。あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ショックだった  
②情けなかった・みじめだった  
③こわかった  
④腹が立った  
⑤くやしかった  
⑥呆然とした・何が起こったかわからなかった  
⑦相手のことをにくいと思った  
⑧相手を軽べつした・かわいそうだと思った  
⑨自分が悪いと思った  
⑩仕返しをしようと思った  
⑪その他(具体的に )

【E】過去に(または現在)、暴力をふるっていた(ふるっている)とお答えの方へ

あなたの過去(または現在)の加害体験についておたずねします

問1 暴力をふるっていた(ふるっている)相手との関係は

- ①配偶者 → a. 同居していた(現在も同居中)  
b. 別居していた(現在も別居中)  
c. 離婚した  
d. その他( )

- ②パートナー → a. 同居していた(現在も同居中)  
b. 別居していた(現在も別居中)  
c. 別れた  
d. その他( )

- ③その他( )

問2 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の職業は、次のどれにあたりますか。①～⑯の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

【お勤めの方】

- ①経営・管理職(会社、団体、官公庁の課長級以上)  
②専門・技術職(教員、研究員、技術者、勤務医など)  
③事務職(事務系会社員、事務系公務員など)  
④労務・技能職(工場等の生産工程従業者、運転士など)  
⑤土木・建築職  
⑥販売・サービス職、営業職(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑦派遣社員  
⑧その他( )

【自営業・家族従業の方】

- ⑨農林漁業  
⑩商工・サービス業(各種の卸・小売店、飲食店など)  
⑪自由業(開業医、弁護士、著述業、音楽家など)  
⑫財産・不動産利用  
⑬その他( )

【その他】

- ⑭学生  
⑮専業主婦(夫)  
⑯無職( )

問3 その人の勤務の形態は次のどれにあたりますか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①定期(常勤)      ②不定期(非常勤)      ③パート・アルバイト      ④無職  
⑤その他( )

問4 暴力をふるっていた(ふるう)相手の年収は、次のどれにあたりますか。①～⑩の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①なし    ② 100万円未満    ③ 100万円～200万円未満    ④ 200万円～300万円未満  
⑤ 300万円～500万円未満    ⑥ 500万円～700万円未満  
⑦ 700万円～900万円未満    ⑧ 900万円～1000万円未満    ⑨ 1000万円以上  
⑩わからない

問5 身体的暴力について、次のような行為をしたことがありますか(していますか)。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ①顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる
- ②胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる
- ③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る
- ④足でける、突き飛ばす
- ⑤物などでなぐる
- ⑥物を投げつける
- ⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる
- ⑧首をしめる(しめるふりをする)
- ⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る
- ⑩その他(具体的に )
- ⑪そのような経験はない →次の問6(精神的暴力)へお進みください

問5-1 身体的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( 回程度)
- ⑤ばらつきがある(具体的に )

問5-2 身体的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満
- ⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問6 精神的暴力について、次のような行為をしたことがありますか(していますか)。①～⑪の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①物をこわす
- ②大切な人・物・ペットを傷つける
- ③ののしる・中傷する
- ④何をいっても相手にせず、無視する
- ⑤殺す、死んでやる、捨てると言っておどす
- ⑥「食わせてやっている」と言う
- ⑦暴力をふるうふりをしておどす
- ⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる
- ⑨病気の時や妊娠中につらくあたる
- ⑩その他(具体的に )
- ⑪そのような経験はない →次の問7(性的暴力)へお進みください

問6-1 精神的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( 回程度)
- ⑤ばらつきがある(具体的に )

問6-2 精神的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満 ⑤10年～20年未満
- ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問7 性的暴力について、次のような行為をしたことがありますか(していますか)。①～⑬の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ①望まないセックスをむりやりする
- ②不快・屈辱的な性行為をむりやりする
- ③避妊に協力しない
- ④中絶を強要する
- ⑤中絶を拒否する
- ⑥アダルト・ビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる
- ⑦自分が、他の人と性的関係にあることをほのめかす・公言する
- ⑧浮気をする
- ⑨他の人との性的関係を疑う
- ⑩「子どもができない」などと非難する
- ⑪「不感症」「下手」などと、セックスや性器について非難する
- ⑫その他(具体的に )
- ⑬そのような経験はない →次の問8(社会・経済的暴力)へお進みください

問7-1 性的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( 回程度)
- ⑤ばらつきがある(具体的に )

問7-2 性的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満
- ⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問8 社会・経済的暴力について、次のような行為をしたことがありますか(していますか)。①～⑫の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をしてください。

- ①仕事・社会的活動を制限・妨害する
- ②持ち物を勝手に点検する
- ③手紙や電話を制限する
- ④外出を制限する
- ⑤友人、親戚のつきあいを制限する
- ⑥尾行する、外出先で待ちぶせをする
- ⑦異性とのつきあいを制限する
- ⑧生活費を渡さない、家計の管理を独占する
- ⑨家計の収入以上に、お金を使う(趣味、ギャンブルなど)
- ⑩相手(暴力を受けている人)の給料を取りあげたり、貯金を勝手におろす
- ⑪その他(具体的に )
- ⑫そのような経験はない →15ページの【F】(あなたの子どもの頃の体験)へお進みください

問8-1 社会・経済的暴力は、どれくらいの割合で起こりましたか。①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( 回程度)
- ⑤不定期(具体的に )

問8-2 社会・経済的暴力は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をしてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満
- ⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

【F】全員の方に、あなたの子どもの頃についておたずねします。

あなたの暴力(虐待)を受けた経験についておたずねします

[1]あなたが、子どもの頃に、家庭内で受けた経験についておたずねします。

問1 家庭内で暴力を受けたことがありますか。あてはまるものを1つ選び、数字に○をつけてください。

①ある

②ない → 17ページの[2](暴力の被害を見たことがある)へお進み下さい

問2 問1で「ある」とお答えの方にお聞きします。その暴力(虐待)をしていた人は誰ですか。①～⑪の項目のなかから、あてはまるものを1つ選び、数字に○をつけてください。

①父親 ②母親 ③継父 ④継母 ⑤養父 ⑥養母 ⑦兄弟 ⑧姉妹 ⑨祖父  
⑩祖母 ⑪その他( )

問3 身体的暴力(虐待)について次のような行為を受けたことがありますか。①～⑪の項目のなかから、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

①顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる

②胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる

③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る

④足でける、突き飛ばす

⑤物などでなぐる

⑥物を投げつける

⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる

⑧首をしめる(しめるふりをする)

⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る

⑩その他(具体的に )

⑪そのような経験はない → 次の問4(心理的暴力・虐待)へお進み下さい。

問4 心理的暴力(虐待)について、次のような行為を受けたことがありますか。①～⑩の項目のなかから、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

①物をこわす

②大切な人・物・ペットを傷つける

③ののしる・中傷する

④何をいっても相手にせず、無視する

⑤殺す、死んでやる、捨てると言っておどす

⑥「食わせてやっている」と言う

⑦暴力をふるうふりをしておどす

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる

⑨その他(具体的に )

⑩そのような経験はない → 16ページの間5(性的暴力・虐待)へお進み下さい。

問5 性的暴力(虐待)について次のような行為を受けたことがありますか。①～⑩の項目のなかから、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

- ①性器にさわる
- ②性行為をむりやりする
- ③性行為を見せる
- ④大人の性器を見せる
- ⑤大人の性器をさわらせる
- ⑥親密なキスをしたり、身体にさわる
- ⑦アダルト・ビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる
- ⑧入浴やトイレの時などにのぞく
- ⑨その他(具体的に )
- ⑩そのような経験はない → 次の問6(養育の怠慢・拒否)へお進み下さい。

問6 養育の怠慢・拒否について次のような行為を受けたことがありますか。①～⑦の項目のなかから、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

- ①食事を与えない
- ②病気になったり、ケガをしても病院に連れていかない
- ③学校に行かせない
- ④外出を制限・家に入れない
- ⑤養育をさせない(例:着替えをさせない、風呂に入れないなど)
- ⑥その他(具体的に )
- ⑦そのような経験はない

→暴力(虐待)を見たことのある方は17ページの[2](見た経験)へお進み下さい。

→暴力(虐待)を見たことのない方で

\*お子さんがいらっしゃる方は、19ページの【G】(子どもへの被害)へお進み下さい。

\*お子さんがおられない方は、22ページの【H】(自由記述)へお進み下さい。

あなたが、暴力(虐待)を見た経験についておたずねします

[2]あなたが、子どもの頃に、家庭内で見た経験についておたずねします。

問1 家庭内で、暴力(虐待)をしたり、されたりしている場面を見たことがありますか。あてはまるものを1つ選び、数字に○をつけてください。

①ある

②ない

→お子さんがいらっしゃる方は、19ページの【G】(子どもへの被害)へお進み下さい。

→お子さんがおられない方は、22ページの【H】(自由記述)へお進み下さい。

問2 問1で「ある」とお答えの方へおたずねします。

その暴力(虐待)をされていた人(被害者)は誰ですか。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

①父親 ②母親 ③継父 ④継母 ⑤養父 ⑥養母 ⑦兄弟 ⑧姉妹 ⑨祖父  
⑩祖母 ⑪その他( )

問3 その暴力(虐待)をしていた人(加害者)は誰ですか。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

①父親 ②母親 ③継父 ④継母 ⑤養父 ⑥養母 ⑦兄弟 ⑧姉妹 ⑨祖父  
⑩祖母 ⑪その他( )

問4 暴力(虐待)の実態についておたずねします。

身体的暴力(虐待)について、次のような行為を見たことがありますか。①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ①顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる
- ②胸ぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる
- ③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る
- ④足で蹴る、突き飛ばす
- ⑤物などでなぐる
- ⑥物を投げつける
- ⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる
- ⑧首を絞める(絞めるふりをする)
- ⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る
- ⑩その他(具体的に
- ⑪そのような経験はない → 18ページの間5(心理的暴力・虐待)へお進み下さい。



問5 心理的暴力(虐待)について、次のような行為を見たことがありますか。①～⑩の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ①物をこわす
- ②大切な人・物・ペットを傷つける
- ③ののしる・中傷する
- ④何をいっても相手にせず、無視する
- ⑤殺す、死んでやる、捨てると言っておどす
- ⑥「食わせてやっている」と言う
- ⑦暴力をふるうふりをしておどす
- ⑧手をつけて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる
- ⑨その他(具体的に )
- ⑩そのような経験はない → 次の問6(性的暴力・虐待)へお進み下さい。

問6 性的暴力(虐待)について、次のような行為を見たことがありますか。①～⑩の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ①性器にさわる
- ②性行為をむりやりする
- ③性行為を見せる
- ④大人の性器を見せる
- ⑤大人の性器をさわらせる
- ⑥親密なキスをしたり、身体にさわる
- ⑦アダルト・ビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる
- ⑧入浴やトイレの時などにのぞく
- ⑨その他(具体的に )
- ⑩そのような経験はない → 次の問7(養育の怠慢・拒否)へお進み下さい。

問7 養育の怠慢・拒否について、次のような行為を見たことがありますか。①～⑦の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ①食事を与えない
- ②病気になったり、ケガをしても病院に連れていかない
- ③学校に行かせない
- ④外出を制限・家に入れない
- ⑤養育をさせない(例:着替えをさせない、風呂にいれないなど)
- ⑥その他(具体的に )
- ⑦そのような経験はない  
→ お子さんがいらっしゃる方は、19ページの【G】(子どもへの被害)へお進み下さい。  
→ お子さんがおられない方は、22ページの【H】(自由記述)へのお進み下さい。

【G】お子さんがいらっしゃる方におたずねします。

お子さんへの暴力(虐待)について、見たり、行ったりしていることも含めて、おたずねします

問1 子どもは何人いらっしゃいますか。  
( )人

問2 次のような行為について、子どもへの身体的暴力(虐待)はありましたか(ありますか)。  
①～⑪の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ①顔や身体を平手打ちしたり、げんこつでなぐる
- ②胸ぐらやひじをつかんだり、腕をつかんでねじ上げる
- ③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る
- ④足でける、突き飛ばす
- ⑤物などでなぐる
- ⑥物を投げつける
- ⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる
- ⑧首をしめる(しめるふりをする)
- ⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る
- ⑩その他(具体的に )
- ⑪そのような経験はない → 次の問3(心理的虐待)へお進み下さい

問2-1 上記の身体的暴力(虐待)は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。

①～⑤の項目の中からあてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

- ①ほぼ毎日 ②週に一回程度 ③月に一回程度 ④年に数回( )回程度
- ⑤ばらつきがある(具体的に )

問2-2 上記の身体的暴力(虐待)は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。

①～⑦の項目の中からあてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

- ①1年未満 ②1年～3年未満 ③3年～5年未満 ④5年～10年未満
- ⑤10年～20年未満 ⑥20年以上 ⑦不定期( )

問3 次のような行為について、子どもへの心理的暴力(虐待)はありましたか(ありますか)。

①～⑩の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、その数字に○をつけてください。

- ①物をこわす
- ②大切な人・物・ペットを傷つける
- ③ののしる・中傷する
- ④何をいっても相手にせず、無視する
- ⑤殺す、死んでやる、捨てると言っておどす
- ⑥「食わせてやっている」と言う
- ⑦暴力をふるうふりをしておどす
- ⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことを無理矢理させる
- ⑨その他(具体的に )
- ⑩そのような経験はない → 20ページの間4(性的虐待)へお進み下さい

問3-1 上記の心理的暴力(虐待)は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。

①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ① ほぼ毎日 ② 週に一回程度 ③ 月に一回程度 ④ 年に数回( ) 回程度)  
⑤ ばらつきがある(具体的に )

問3-2 上記の心理的暴力(虐待)は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。

①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年～3年未満 ③ 3年～5年未満 ④ 5年～10年未満  
⑤ 10年～20年未満 ⑥ 20年以上 ⑦ 不定期( )

問4 次のような行為について、子どもへの性的暴力(虐待)はありましたか(ありますか)。

①～⑩の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ① 性器にさわる  
② 性行為をむりやりする  
③ 大人の性器を見せる  
④ 大人の性器をさわらせる  
⑤ 親密なキスをしたり、身体にさわる  
⑥ アダルト・ビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる  
⑦ 入浴やトイレの時などにのぞく  
⑧ からだのことをいう  
⑨ その他  
⑩ そのような経験はない → 次の問5(養育の怠慢・拒否)へお進み下さい

問4-1 上記の性的暴力(虐待)は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。

①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ① ほぼ毎日 ② 週に一回程度 ③ 月に一回程度 ④ 年に数回( ) 回程度)  
⑤ ばらつきがある(具体的に )

問4-2 上記の性的暴力(虐待)は、どのくらいの期間続いていますか(続きましたか)。

①～⑦の項目の中から、あてはまるものひ1つを選び、その数字に○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年～3年未満 ③ 3年～5年未満 ④ 5年～10年未満  
⑤ 10年～20年未満 ⑥ 20年以上 ⑦ 不定期( )

問5 次のような行為について、子どもへの養育の怠慢・拒否はありましたか(ありますか)。

①～⑦の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ① 食事を与えない  
② 病気になったり、ケガをしても病院に連れていかない  
③ 学校に行かせない  
④ 外出を制限・家に入れない  
⑤ 養育させない(例:着替えをさせない、風呂に入れられないなど)  
⑥ その他(具体的に )  
⑦ そのような経験はない → 21ページの間10(相談)へお進みください

問5-1 上記の養育の怠慢・拒否は、どれくらいの割合で起こりましたか(起こりますか)。

①～⑤の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ① ほぼ毎日 ② 週に一回程度 ③ 月に一回程度 ④ 年に数回( )  
⑤ ばらつきがある(具体的に )

問5-2 上記の養育の怠慢・拒否は、どのくらいの期間続きましたか(続いていますか)。

①～⑦の項目の中から、あてはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年～3年未満 ③ 3年～5年未満 ④ 5年～10年未満  
⑤ 10年～20年未満 ⑥ 20年以上 ⑦ 不定期( )

問6 子どものうち、暴力(虐待)を受けていたのは何人ですか。

( )人

問7 一番はじめの暴力(虐待)は、子どもが何歳の時からですか。

( )歳

問8 暴力(虐待)をしていた人(している人)は誰ですか。あてはまるものをすべて選び、

①～⑫の項目の中から、数字に○をつけてください。

- ① 父親 ② 母親 ③ 継父 ④ 継母 ⑤ 養父 ⑥ 養母 ⑦ 兄弟 ⑧ 姉妹 ⑨ 祖父  
⑩ 祖母 ⑪ 自分 ⑫ その他( )

問9 子どもへの暴力(虐待)が始まったきっかけは何だと思えますか。

(具体的に )

問10 子どもに被害があることで誰かに相談したことはありますか(現在相談していますか)。

①～⑳の項目の中から、あてはまるものをすべて選び、数字に○をつけてください。

- ① 両親  
② 舅・姑  
③ 兄弟姉妹  
④ 義兄弟姉妹  
⑤ 友人・知人  
⑥ その他の知り合い( )  
⑦ 警察  
⑧ 弁護士  
⑨ 婦人相談センター・女性センター  
⑩ 福祉事務所  
⑪ 病院  
⑫ 保健所  
⑬ 児童相談所  
⑭ 民生委員  
⑮ 学校・幼稚園・保育所関係者  
⑯ 民間の相談所機関  
⑰ 宗教団体  
⑱ 電話相談  
⑲ インターネット  
⑳ 相談したことがない  
㉑ その他( )

【H】ご記入いただきありがとうございました。

以下の欄には、アンケートについての感想やご意見など、その他ご自由にお書きください。

ご協力に深く感謝いたします。

アンケートは、添付の封筒に密封して、ポストに投函してください。

最後に、今後も聞き取り調査やアンケート調査にご協力いただける方は、お手数ですが、ご連絡先をご記入くださるようお願いいたします。

プライバシーは厳守いたします。

ご氏名

ご連絡先(連絡をしても可能である住所や電話番号)

Eメールなど

## 資料 2 調査結果表一覽

調査結果

1. アンケートに回答した人々			
問1あなたの性別			
		人数	パーセント
有効回答	男性	107	12.8
	女性	727	87.2
	合計	834	100
			有効パーセント
			12.8
			87.2
			100

問2 回答者の年齢			
		人数	パーセント
有効回答	10代	8	1.0
	20代	142	17.0
	30代	289	34.7
	40代	208	24.9
	50代	141	16.9
	60代	29	3.5
	70代	11	1.3
	80代	3	0.4
	合計	831	99.6
無回答		3	0.4
合計		834	100

問3 あなたの居住地			
		人数	パーセント
有効回答	アメリカ	1	0.1
	愛知県	7	0.8
	愛媛県	6	0.7
	茨城県	14	1.7
	岡山県	15	1.8
	岩手県	2	0.2
	岐阜県	5	0.6
	宮城県	9	1.1
	京都府	48	5.8
	群馬県	4	0.5
	広島県	12	1.4
	香港	1	0.1
	香川県	4	0.5
	高知県	2	0.2
	埼玉県	42	5.0
	三重県	5	0.6
	山口県	11	1.3
	山梨県	2	0.2
	滋賀県	8	1.0
	鹿児島県	1	0.1
	秋田県	1	0.1
	新潟県	7	0.8
	神奈川県	54	6.5
	静岡県	4	0.5
	石川県	4	0.5
	千葉県	38	4.6
	大阪府	251	30.1
	大分県	1	0.1
	長崎県	4	0.5
	長野県	3	0.4
	島根県	3	0.4
	東京都	105	12.6
	徳島県	4	0.5
	栃木県	5	0.6
奈良県	28	3.4	
富山県	3	0.4	
福岡県	12	1.4	
福島県	2	0.2	
兵庫県	89	10.7	
北海道	5	0.6	
和歌山県	10	1.2	
無回答		2	0.2
合計		834	100

問4 あなたの最終学歴				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	中学校	21	2.5	2.5
	高校・専門学校・各種学校	327	39.2	39.4
	短期大学・高専・大学	401	48.0	48.5
	大学院	27	3.2	3.3
	その他・在学中	52	6.2	6.3
	合計	828	99.3	100
無回答		6	0.7	
合計		834	100	

問5 あなたの職業				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	経営・管理職	19	2.3	2.3
	専門・技術職	228	27.3	27.4
	事務職・販売・サービス職・営業職	157	18.8	18.8
	労務・技能職・土木・建築職	24	2.9	2.9
	派遣社員	18	2.2	2.2
	勤め・その他	46	5.5	5.5
	農林漁業	1	0.1	0.1
	商工・サービス業	33	4.0	4.0
	自由業	16	1.9	1.9
	財産・不動産利用	6	0.7	0.7
	自営・その他	18	2.2	2.2
	学生	44	5.3	5.3
	専業主婦(夫)	181	21.7	21.7
	無職	42	5.0	5.0
合計	833	99.9	100	
無回答		1	0.1	
合計		834	100	

問6 あなたの勤務形態				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	定期(常勤)	371	44.5	45.4
	不定期(非常勤)	65	7.8	8.0
	パート・アルバイト	157	18.8	19.2
	無職	162	19.4	19.8
	その他	25	3.0	3.1
	主婦無記入	37	4.4	4.5
	合計	817	98.0	100
無回答		17	2.0	
合計		834	100	

問7 あなたの年収				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	なし	159	19.1	19.9
	100万円未満	137	16.4	17.1
	100-200万円未満	107	12.8	13.4
	200-300万円未満	98	11.8	12.3
	300-500万円未満	114	13.7	14.3
	500-700万円未満	84	10.1	10.5
	700-900万円未満	53	6.4	6.6
	900-1000万円未満	16	1.9	2.0
	1000万円以上	23	2.8	2.9
	わからない	9	1.1	1.1
	合計	800	95.9	100
無回答		34	4.1	
合計		834	100	



問8 あなたは現在、配偶者・パートナーがいますか				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	同居配偶者あり	469	56.2	56.4
	別居配偶者あり	79	9.5	9.5
	同居パートナーあり	18	2.2	2.2
	別居パートナーあり	91	10.9	10.9
	配偶者・パートナーなし	175	21.0	21.0
	合計	832	99.8	100
無回答		2	0.2	
合計		834	100	

2. ジェンダー意識				
問1 家庭内の男女の関係や役割について				
①「男は仕事・女は家庭」と分担するのがよい				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	30	3.6	3.6
	そう思わない	626	75.1	75.9
	どちらともいえない	169	20.3	20.5
	合計	825	98.9	100
無回答		9	1.1	
合計		834	100	

②女性は働く場合、家事に支障のないようにするべきだ				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	132	15.8	16.0
	そう思わない	461	55.3	55.9
	どちらともいえない	232	27.8	28.1
	合計	825	98.9	100
無回答		9	1.1	
合計		834	100	

③家族が快適に暮らせるよう配慮するのは、妻のつとめである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	138	16.5	16.7
	そう思わない	463	55.5	56.1
	どちらともいえない	225	27.0	27.2
	合計	826	99.0	100
無回答		8	1.0	
合計		834	100	

④妻子を養うのは「男の甲斐性」である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	193	23.1	23.5
	そう思わない	421	50.5	51.3
	どちらともいえない	207	24.8	25.2
	合計	821	98.4	100
無回答		13	1.6	
合計		834	100	

⑤女性として最も大切なのは思いやりや優しさである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	315	37.8	38.2
	そう思わない	269	32.3	32.6
	どちらともいえない	240	28.8	29.1
	合計	824	98.8	100
無回答		10	1.2	
合計		834	100	

⑥男性は弱音をはいてはいけない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	53	6.4	6.4
	そう思わない	681	81.7	82.8
	どちらともいえない	88	10.6	10.7
	合計	822	98.6	100
無回答		12	1.4	
合計		834	100	

⑦夫のセックスの求めに応じるのは妻のつとめである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	21	2.5	2.6
	そう思わない	682	81.8	83.1
	どちらともいえない	118	14.1	14.4
	合計	821	98.4	100
無回答		13	1.6	
合計		834	100	

⑧性的関係で主導権をにぎるのは男性である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	47	5.6	5.7
	そう思わない	601	72.1	73.3
	どちらともいえない	172	20.6	21.0
	合計	820	98.3	100
無回答		14	1.7	
合計		834	100	

⑨家庭内の問題は家庭間で解決すべきである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	145	17.4	17.6
	そう思わない	422	50.6	51.2
	どちらともいえない	258	30.9	31.3
	合計	825	98.9	100
無回答		9	1.1	
合計		834	100	

問2 女性の結婚について				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	①女性の幸福は結婚にあるからした方がよい	9	1.1	1.1
	②精神的・経済的に安定するからした方がよい	83	10.0	10.2
	③子どもを産み育てるにはした方がよい	192	23.0	23.5
	④独立立ちできればあえて結婚しなくてよい	260	31.2	31.9
	⑤自由を束縛するから結婚しなくてよい	65	7.8	8.0
	⑥その他	207	24.8	25.4
	合計	816	97.8	100
無回答		18	2.2	
合計		834	100	

問3 家庭の機能について				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	①子どもを産み育て、 社会生活の訓練の場	130	15.6	16
	②地域とのつながりをはぐくむ場	8	1.0	1.0
	③老身の介護など家族の相互援助の場	16	1.9	2
	④家族団らんの場	299	35.9	36.8
	⑤心身を休める場	204	24.5	25.1
	⑥家族や家の財産を守っていく場	2	0.2	0.2
	⑦夫婦の愛情をはぐくむ場	78	9.4	9.6
	⑧その他	76	9.1	9.3
	合計	813	97.5	100
無回答		21	2.5	
合計		834	100	

問4 夫婦の理想について				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	①夫は一家の主人	9	1.1	1.1
	②妻は一家の主人	1	0.1	0.1
	③夫も妻も仕事	757	90.8	91.6
	④夫は仕事	14	1.7	1.7
	⑤その他	45	5.4	5.4
		合計	826	99.0
無回答		8	1.0	
合計		834	100	

問5 現在の性に生まれてよかったかどうか				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よかった	616	73.9	79.1
	よくなかった	163	19.5	20.9
	合計	779	93.4	100
無回答		55	6.6	
合計		834	100	

問6 あなたの気持ちや感じ方について(日常生活での役割分担) ①生活費を稼ぐ				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	298	35.7	46.3
	どちらかといえば男性	165	19.8	25.7
	両方同じ	148	17.7	23.0
	主として女性の役割	10	1.2	1.6
	どちらかといえば女性	5	0.6	0.8
	その他	17	2.0	2.6
		合計	643	77.1
無回答		191	22.9	
合計		834	100	

②日々の家計の管理をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	17	2.0	2.7
	どちらかといえば男性	27	3.2	4.2
	両方同じ	122	14.6	19
	主として女性の役割	331	39.7	51.6
	どちらかといえば女性	123	14.7	19.2
	その他	21	2.5	3.3
	合計	641	76.9	100
無回答		193	23.1	
合計		834	100	

③食事の支度をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	3	0.4	0.5
	どちらかといえば男性	4	0.5	0.6
	両方同じ	67	8.0	10.4
	主として女性の役割	422	50.6	65.7
	どちらかといえば女性	135	16.2	21.0
	その他	11	1.3	1.7
	合計	642	77.0	100
無回答		192	23.0	
合計		834	100	

④食後の後片付けをする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	11	1.3	1.7
	どちらかといえば男性	11	1.3	1.7
	両方同じ	110	13.2	17.1
	主として女性の役割	366	43.9	57.0
	どちらかといえば女性	130	15.6	20.2
	その他	14	1.7	2.2
	合計	642	77.0	100.0
無回答		192	23.0	
合計		834	100	

⑤洗濯をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	2	0.2	0.3
	どちらかといえば男性	6	0.7	0.9
	両方同じ	92	11.0	14.4
	主として女性の役割	408	48.9	63.9
	どちらかといえば女性	116	13.9	18.2
	その他	14	1.7	2.2
	合計	638	76.5	100
無回答		196	23.5	
合計		834	100	

⑥掃除をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	2	0.2	0.3
	どちらかといえば男性	12	1.4	1.9
	両方同じ	118	14.1	18.5
	主として女性の役割	362	43.4	56.7
	どちらかといえば女性	128	15.3	20.0
	その他	17	2.0	2.7
	合計	639	76.6	100
無回答		195	23.4	
合計		834	100	

⑦買い物をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	3	0.4	0.5
	どちらかといえば男性	6	0.7	0.9
	両方同じ	163	19.5	25.4
	主として女性の役割	330	39.6	51.5
	どちらかといえば女性	127	15.2	19.8
	その他	12	1.4	1.9
	合計	641	76.9	100
無回答		193	23.1	
合計		834	100	

⑧老親や病身者介護や看護をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	どちらかといえば男性	4	0.5	0.6
	両方同じ	172	20.6	27.8
	主として女性の役割	214	25.7	34.6
	どちらかといえば女性	94	11.3	15.2
	その他	135	16.2	21.8
	合計	619	74.2	100
無回答		215	25.8	
合計		834	100	

⑨子どもをしつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	1	0.1	0.2
	どちらかといえば男性	3	0.4	0.5
	両方同じ	288	34.5	46.2
	主として女性の役割	178	21.3	28.5
	どちらかといえば女性	88	10.6	14.1
	その他	66	7.9	10.6
	合計	624	74.8	100
無回答		210	25.2	
合計		834	100	

⑩外食をする時の支払いをする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	主として男性の役割	91	10.9	14.2
	どちらかといえば男性	119	14.3	18.6
	両方同じ	170	20.4	26.6
	主として女性の役割	177	21.2	27.7
	どちらかといえば女性	55	6.6	8.6
	その他	27	3.2	4.2
	合計	639	76.6	100
無回答		195	23.4	
合計		834	100	

3. [1]あなたの気持ちや感じ方について  
問1あなたの気持ちについて

①むしように暴れたくなることが

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	22	2.6	2.7
	たまにある	251	30.1	30.5
	ない	549	65.9	66.8
	合計	822	98.6	100
無回答		12	1.4	
合計		834	100	

②誰かを殴りたくなることが

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	18	2.2	2.2
	たまにある	165	19.8	20
	ない	641	76.8	77.8
	合計	824	98.8	100
無回答		10	1.2	
合計		834	100	

③ケンカが強くなりたと思うことが

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	96	11.5	11.7
	たまにある	201	24.1	24.5
	ない	525	63.0	63.9
	合計	822	98.6	100
無回答		12	1.4	
合計		834	100	

④自分を守るために、ナイフなどを持っていたいと思うことが

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	19	2.3	2.3
	たまにある	50	6.0	6.1
	ない	753	90.3	91.6
	合計	822	98.6	100
無回答		12	1.4	
合計		834	100	

⑤いじめられたり、嫌がらせをされないかと心配することが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	127	15.2	15.4
	たまにある	264	31.7	32.0
	ない	435	52.1	52.7
	合計	826	99.0	100
無回答		8	1.0	
合計		834	100	

問2 テレビや映画のシーンを見てあなたの感じ方について				
①人が殴られるシーンを見ると、嫌な気持ちになることが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	480	57.5	58.3
	たまにある	271	32.5	32.9
	ない	73	8.8	8.9
	合計	824	98.8	100
無回答		10	1.2	
合計		834	100	

②血が飛び散ったりするシーンを見ると嫌な気持ちになることが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある /	542	64.9	65.7
	たまにある	215	25.8	26.1
	ない	68	8.2	8.2
	合計	825	98.9	100
無回答		9	1.1	
合計		834	100	

③バラエティ番組で人をどついて笑うシーンを見ると嫌な気持ちになることが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	424	50.8	51.3
	たまにある	304	36.5	36.8
	ない	99	11.9	12.0
	合計	827	99.2	100
無回答		7	0.8	
合計		834	100	

④悪いやつが主人公に殺されるのを見ると、すっきりした気持ちになることが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	115	13.8	14.0
	たまにある	413	49.5	50.3
	ない	293	35.1	35.7
	合計	821	98.4	100
無回答		13	1.6	
合計		834	100	

問3 人との関係について				
自分が悪くないのに				
①友達に怒られた時、言葉でうまく説明できないことが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	129	15.5	15.8
	たまにある	398	47.7	48.7
	ない	291	34.9	35.6
	合計	818	98.1	100
無回答		16	1.9	
合計		834	100	

②目上の人に怒られた時、言葉でうまく説明できないことが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	203	24.3	24.8
	たまにある	427	51.2	52.3
	ない	187	22.4	22.9
	合計	817	98.0	100
無回答		17	2.0	
合計		834	100	

③親に怒られた時、言葉でうまく説明できないことが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	149	17.9	18.5
	たまにある	321	38.5	39.9
	ない	335	40.2	41.6
	合計	805	96.5	100
無回答		29	3.5	
合計		834	100	

④後輩(部下)に責められた時、言葉でうまく説明できないことが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	91	10.9	11.3
	たまにある	338	40.5	42.1
	ない	374	44.8	46.6
	合計	803	96.3	100
無回答		31	3.7	
合計		834	100	

⑤配偶者(パートナー)に責められた時、言葉でうまく説明できないことが				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	よくある	246	29.5	30.8
	たまにある	312	37.4	39.0
	ない	241	28.9	30.2
	合計	799	95.8	100
無回答		35	4.2	
合計		834	100	

[2]あなたの性格や生活態度について 問1暴力の経験のある方・暴力経験以前 ①明るく元気なほうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	294	35.3	68.9
	そう思わない	39	4.7	9.1
	どちらともいえない	94	11.3	22.0
	合計	427	51.2	100
無回答		407	48.8	
合計		834	100	

②人とのつきあいがおっくうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	51	6.1	11.9
	そう思わない	265	31.8	61.9
	どちらともいえない	112	13.4	26.2
	合計	428	51.3	100
無回答		406	48.7	
合計		834	100	



③自分を大切だと感じているし、自分が好きである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	242	29.0	57.2
	そう思わない	66	7.9	15.6
	どちらともいえない	115	13.8	27.2
	合計	423	50.7	100
無回答		411	49.3	
合計		834	100	

④なんとなく自信がない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	109	13.1	25.7
	そう思わない	193	23.1	45.5
	どちらともいえない	122	14.6	28.8
	合計	424	50.8	100
無回答		410	49.2	
合計		834	100	

⑤頼られるとイヤといえないタイプ				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	310	37.2	72.8
	そう思わない	36	4.3	8.5
	どちらともいえない	80	9.6	18.8
	合計	426	51.1	100
無回答		408	48.9	
合計		834	100	

⑥自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	240	28.8	56.3
	そう思わない	56	6.7	13.1
	どちらともいえない	130	15.6	30.5
	合計	426	51.1	100
無回答		408	48.9	
合計		834	100	

⑦自分でものごとを決めることが苦手である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	69	8.3	16.3
	そう思わない	266	31.9	62.7
	どちらともいえない	89	10.7	21.0
	合計	424	50.8	100
無回答		410	49.2	
合計		834	100	

⑧一人でいると不安になる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	78	9.4	18.4
	そう思わない	267	32.0	63.1
	どちらともいえない	78	9.4	18.4
	合計	423	50.7	100
無回答		411	49.3	
合計		834	100	

⑨好奇心が旺盛で、行動的である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	267	32.0	62.7
	そう思わない	53	6.4	12.4
	どちらともいえない	106	12.7	24.9
	合計	426	51.1	100
無回答		408	48.9	
合計		834	100	

⑩ものごとによく感動するほうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	303	36.3	71.3
	そう思わない	35	4.2	8.2
	どちらともいえない	87	10.4	20.5
	合計	425	51.0	100
無回答		409	49.0	
合計		834	100	

⑪自分が何をしたいのがよくわからないことがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	82	9.8	19.3
	そう思わない	234	28.1	55.2
	どちらともいえない	108	12.9	25.5
	合計	424	50.8	100
無回答		410	49.2	
合計		834	100	

⑫最初から「うまくいかない、失敗する」とあきらめることがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	82	9.8	19.4
	そう思わない	223	26.7	52.7
	どちらともいえない	118	14.1	27.9
	合計	423	50.7	100
無回答		411	49.3	
合計		834	100	

暴力経験以後				
①明るく元気なほうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	131	15.7	30.3
	そう思わない	146	17.5	33.8
	どちらともいえない	155	18.6	35.9
	合計	432	51.8	100
無回答		402	48.2	
合計		834	100	

②人とのつきあいがおっくうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	198	23.7	46.0
	そう思わない	116	13.9	27.0
	どちらともいえない	116	13.9	27.0
	合計	430	51.6	100
無回答		404	48.4	
合計		834	100	

③自分を大切に感じているし、自分が好きである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	178	21.3	41.7
	そう思わない	128	15.3	30.0
	どちらともいえない	121	14.5	28.3
	合計	427	51.2	100
無回答		407	48.8	
合計		834	100	

④なんとなく自信がない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	235	28.2	55.4
	そう思わない	99	11.9	23.3
	どちらともいえない	90	10.8	21.2
	合計	424	50.8	100
無回答		410	49.2	
合計		834	100	

⑤頼られるとイヤといえないタイプ				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	276	33.1	64.6
	そう思わない	54	6.5	12.6
	どちらともいえない	97	11.6	22.7
	合計	427	51.2	100
無回答		407	48.8	
合計		834	100	

⑥自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	249	29.9	58.0
	そう思わない	52	6.2	12.1
	どちらともいえない	128	15.3	29.8
	合計	429	51.4	100
無回答		405	48.6	
合計		834	100	

⑦自分でものごとを決めることが苦手である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	129	15.5	30.1
	そう思わない	204	24.5	47.6
	どちらともいえない	96	11.5	22.4
	合計	429	51.4	100
無回答		405	48.6	
合計		834	100	

⑧一人でいると不安になる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	150	18.0	35.0
	そう思わない	210	25.2	49.0
	どちらともいえない	69	8.3	16.1
	合計	429	51.4	100
無回答		405	48.6	
合計		834	100	

⑨好奇心が旺盛で、行動的である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	152	18.2	35.3
	そう思わない	129	15.5	29.9
	どちらともいえない	150	18.0	34.8
	合計	431	51.7	100
無回答		403	48.3	
合計		834	100	

⑩ものごとすぐに感動するほうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	249	29.9	57.8
	そう思わない	77	9.2	17.9
	どちらともいえない	105	12.6	24.4
	合計	431	51.7	100
無回答		403	48.3	
合計		834	100	

⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	211	25.3	49.1
	そう思わない	131	15.7	30.5
	どちらともいえない	88	10.6	20.5
	合計	430	51.6	100
無回答		404	48.4	
合計		834	100	

⑫最初から「うまくいかない、失敗する」とあらかじめわかることがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	165	19.8	38.6
	そう思わない	127	15.2	29.7
	どちらともいえない	135	16.2	31.6
	合計	427	51.2	100
無回答		407	48.8	
合計		834	100	

問2 暴力の経験がない方・現在

①明るく元気なほうである

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	248	29.7	65.6
	そう思わない	25	3.0	6.6
	どちらともいえない	105	12.6	27.8
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

②人とのつきあいがおっくうである

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	46	5.5	12.2
	そう思わない	201	24.1	53.5
	どちらともいえない	129	15.5	34.3
	合計	376	45.1	100
無回答		458	54.9	
合計		834	100	

③自分を大切だと感じているし、自分が好きである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	263	31.5	69.6
	そう思わない	29	3.5	7.7
	どちらともいえない	86	10.3	22.8
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

④なんとなく自信がない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	99	11.9	26.2
	そう思わない	159	19.1	42.1
	どちらともいえない	120	14.4	31.7
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑤頼られるとイヤといえないタイプ				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	253	30.3	66.9
	そう思わない	51	6.1	13.5
	どちらともいえない	74	8.9	19.6
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑥自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	161	19.3	42.6
	そう思わない	45	5.4	11.9
	どちらともいえない	172	20.6	45.5
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑦自分でものごとを決めることが苦手である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	67	8.0	17.7
	そう思わない	224	26.9	59.3
	どちらともいえない	87	10.4	23.0
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑧一人でいると不安になる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	46	5.5	12.2
	そう思わない	238	28.5	63
	どちらともいえない	94	11.3	24.9
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑨好奇心が旺盛で、行動的である				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	181	21.7	47.9
	そう思わない	59	7.1	15.6
	どちらともいえない	138	16.5	36.5
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑩ものごとすぐに感動するほうである				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	254	30.5	67.4
	そう思わない	32	3.8	8.5
	どちらともいえない	91	10.9	24.1
	合計	377	45.2	100
無回答		457	54.8	
合計		834	100	

⑪自分が何をしたいのかよくわからないことがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	74	8.9	19.6
	そう思わない	181	21.7	47.9
	どちらともいえない	123	14.7	32.5
	合計	378	45.3	100
無回答		456	54.7	
合計		834	100	

⑫最初から「うまくいかない、失敗する」とあきらめることがある				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	そう思う	74	8.9	19.6
	そう思わない	183	21.9	48.5
	どちらともいえない	120	14.4	31.8
	合計	377	45.2	100
無回答		457	54.8	
合計		834	100	

4. 被害の実態				
過去(または現在)の暴力体験				
問1暴力関係について				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	被害あり	379	45.4	45.8
	加害あり	34	4.1	4.1
	なし	414	49.6	50.1
	合計	827	99.2	100
無回答		7	0.8	
合計		834	100	

問2 過去(または現在)の被害体験当時の関係				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	配偶者同居	241	28.9	63.4
	配偶者別居	12	1.4	3.2
	配偶者離婚	53	6.4	13.9
	配偶者その他	24	2.9	6.3
	パートナー同居	9	1.1	2.4
	パートナー別居	19	2.3	5.0
	パートナー別れた	14	1.7	3.7
	パートナーその他	4	0.5	1.1
	その他	4	0.5	1.1
	合計	380	45.6	100
無回答		454	54.4	
合計		834	100	

問3 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の職業				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	経営・管理職	54	6.5	14.5
	専門・技術職	65	7.8	17.5
	事務職・販売・サービス職・営業職	87	10.4	23.4
	労務・技能職・土木・建築職	69	8.3	18.5
	派遣社員	2	0.2	0.5
	勤め・その他	15	1.8	4.0
	農林漁業	1	0.1	0.3
	商工・サービス業	29	3.5	7.8
	自由業	8	1.0	2.2
	財産・不動産利用	4	0.5	1.1
	自営・その他	15	1.8	4.0
	学生	9	1.1	2.4
	専業主婦(夫)	1	0.1	0.3
	無職	13	1.6	3.5
	合計	372	44.6	100
無回答		462	55.4	
合計		834	100	

問4 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の勤務形態				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	定期(常勤)	314	37.6	86.3
	不定期(非常勤)	12	1.4	3.3
	パート・アルバイト	12	1.4	3.3
	無職	11	1.3	3.0
	その他	15	1.8	4.1
	合計	364	43.6	100
無回答		470	56.4	
合計		834	100	

問5 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の年収				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	なし	10	1.2	2.7
	100万円未満	8	1.0	2.1
	100-200万円未満	10	1.2	2.7
	200-300万円未満	34	4.1	9.1
	300-500万円未満	94	11.3	25.1
	500-700万円未満	76	9.1	20.3
	700-900万円未満	51	6.1	13.6
	900-1000万円未満	19	2.3	5.1
	1000万円以上	47	5.6	12.6
	わからない	25	3.0	6.7
	合計	374	44.8	100
無回答		460	55.2	
合計		834	100	

問6 身体的暴力の内容				
①顔や身体を平手打ちやげんこつでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	288	34.5	100
無回答		546	65.5	
合計		834	100	

②むなぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	194	23.3	100
無回答		640	76.7	
合計		834	100	

③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	171	20.5	100
無回答		663	79.5	
合計		834	100	

④足で蹴る、突き飛ばす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	269	32.3	100
無回答		565	67.7	
合計		834	100	

⑤物などでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	120	14.4	100
無回答		714	85.6	
合計		834	100	

⑥物を投げつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	237	28.4	100
無回答		597	71.6	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しつけたたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	25	3.0	100
無回答		809	97.0	
合計		834	100	

⑧首をしめる(しめるふりをする)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	120	14.4	100
無回答		714	85.6	
合計		834	100	

⑨刃物を突きつけたたり、刃物で切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	61	7.3	100
無回答		773	92.7	
合計		834	100	



⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	76	9.1	100
無回答		758	90.9	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	31	3.7	100
無回答		803	96.3	
合計		834	100	

問6-1 身体的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	23	2.8	6.8
	週1回	35	4.2	10.3
	月1回	39	4.7	11.5
	年に数回	80	9.6	23.5
	ばらつき	163	19.5	47.9
	合計	340	40.8	100
無回答		494	59.2	
合計		834	100	

問6-2 身体的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	48	5.8	14.2
	1-3年未満	53	6.4	15.6
	3-5年未満	38	4.6	11.2
	5-10年未満	61	7.3	18.0
	10-20年未満	58	7.0	17.1
	20年以上	36	4.3	10.6
	不定期	45	5.4	13.3
	合計	339	40.6	100
無回答		495	59.4	
合計		834	100	

問7 精神的暴力の内容				
①物をこわす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	233	27.9	100
無回答		601	72.1	
合計		834	100	

②大切な人・物・ペットを傷つける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	162	19.4	100
無回答		672	80.6	
合計		834	100	

③ののしる・中傷する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	328	39.3	100
無回答		506	60.7	
合計		834	100	

④何を言っても相手にせず、無視する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	166	19.9	100
無回答		668	80.1	
合計		834	100	

⑤殺す、死んでやる、捨てるといっておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	166	19.9	100
無回答		668	80.1	
合計		834	100	

⑥「食わせてやっている」と言う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	196	23.5	100
無回答		638	76.5	
合計		834	100	

⑦暴力をふるうふりをしておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	173	20.7	100
無回答		661	79.3	
合計		834	100	

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	ある	110	13.2	100
無回答		724	86.8	
合計		834	100	

⑨病気の時や妊娠中につらくあたる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	ある	201	24.1	100
無回答		633	75.9	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	ある	105	12.6	100
無回答		729	87.4	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	7	0.8	100
無回答		827	99.2	
合計		834	100	

問7-1 精神的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	125	15	34.4
	週1回	55	6.6	15.2
	月1回	31	3.7	8.5
	年に数回	39	4.7	10.7
	ばらつき	113	13.5	31.1
	合計	363	43.5	100
無回答		471	56.5	
合計		834	100	

問7-2 精神的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	30	3.6	8.2
	1-3年未満	58	7.0	15.9
	3-5年未満	49	5.9	13.4
	5-10年未満	71	8.5	19.5
	10-20年未満	72	8.6	19.7
	20年以上	59	7.1	16.2
	不定期	26	3.1	7.1
	合計	365	43.8	100
無回答		469	56.2	
合計		834	100	

問8 性的暴力の内容				
①望まないセックスをむりやりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	221	26.5	100
無回答		613	73.5	
合計		834	100	

②不快・屈辱的な性行為をむりやりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	137	16.4	100
無回答		697	83.6	
合計		834	100	

③避妊に協力しない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	111	13.3	100
無回答		723	86.7	
合計		834	100	

④中絶を強要する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	53	6.4	100
無回答		781	93.6	
合計		834	100	

⑤中絶を拒否する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	11	1.3	100
無回答		823	98.7	
合計		834	100	

⑥アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	66	7.9	100
無回答		768	92.1	
合計		834	100	

⑦自分が他人と性的関係にあることをほのめかず・公言する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	54	6.5	100
無回答		780	93.5	
合計		834	100	

⑧浮気をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	105	12.6	100
無回答		729	87.4	
合計		834	100	

⑨他の人との性的関係を疑う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	109	13.1	100
無回答		725	86.9	
合計		834	100	

⑩「子どもができない」などと非難する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑪「不感症」「下手」などとセックスや性器について非難する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	81	9.7	100
無回答		753	90.3	
合計		834	100	

⑫その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	61	7.3	100
無回答		773	92.7	
合計		834	100	

⑬そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	64	7.7	100
無回答		770	92.3	
合計		834	100	

問8-1 性的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	30	3.6	10.4
	週1回	53	6.4	18.3
	月1回	60	7.2	20.8
	年に数回	39	4.7	13.5
	ばらつき	107	12.8	37.0
	合計	289	34.7	100
無回答		545	65.3	
合計		834	100	

問8-2 性的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	35	4.2	11.7
	1-3年未満	62	7.4	20.7
	3-5年未満	42	5.0	14.0
	5-10年未満	58	7.0	19.4
	10-20年未満	48	5.8	16.1
	20年以上	33	4.0	11.0
	不定期	21	2.5	7.0
	合計	299	35.9	100
無回答		535	64.1	
合計		834	100	

問9 社会・経済的暴力の内容				
①仕事・社会活動を制限・妨害する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	185	22.2	100
無回答		649	77.8	
合計		834	100	

②持ち物を勝手に点検する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	107	12.8	100
無回答		727	87.2	
合計		834	100	

③手紙や電話を制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	138	16.5	100
無回答		696	83.5	
合計		834	100	

④外出を制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	166	19.9	100
無回答		668	80.1	
合計		834	100	

⑤友人、親戚のつきあいを制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	176	21.1	100
無回答		658	78.9	
合計		834	100	

⑥尾行する、外出先で待ち伏せをする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	45	5.4	100
無回答		789	94.6	
合計		834	100	

⑦異性との付き合いを制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	95	11.4	100
無回答		739	88.6	
合計		834	100	

⑧生活費を渡さない、家計の管理を独占する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	145	17.4	100
無回答		689	82.6	
合計		834	100	

⑨家計の収入以上に、お金を使う(趣味、ギャンブルなど)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	117	14.0	100
無回答		717	86.0	
合計		834	100	

⑩あなた(暴力を受けている人)の給料を取り上げたり、貯金を勝手におろす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	65	7.8	100
無回答		769	92.2	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	70	8.4	100
無回答		764	91.6	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	50	6.0	100
無回答		784	94.0	
合計		834	100	

問9-1 社会・経済的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	83	10.0	27.4
	週1回	28	3.4	9.2
	月1回	57	6.8	18.8
	年に数回	32	3.8	10.6
	ばらつき	103	12.4	34.0
	合計	303	36.3	100
無回答		531	63.7	
合計		834	100	

問9-2 社会・経済的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	38	4.6	12.3
	1-3年未満	55	6.6	17.7
	3-5年未満	41	4.9	13.2
	5-10年未満	59	7.1	19.0
	10-20年未満	56	6.7	18.1
	20年以上	42	5.0	13.5
	不定期	19	2.3	6.1
	合計	310	37.2	100
無回答		524	62.8	
合計		834	100	

問10 相手が初めて暴力をふるった時の原因				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	ふるう側に原因	213	25.5	57.7
	ふるわれる側	14	1.7	3.8
	両方	51	6.1	13.8
	どちらともいえない	24	2.9	6.5
	わからない	50	6.0	13.6
	その他	17	2.0	4.6
	合計	369	44.2	100
無回答		465	55.8	
合計		834	100	

問11 暴力による身体的影響(けがの有無)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	261	31.3	70.9
	なし	107	12.8	29.1
	合計	368	44.1	100
無回答		466	55.9	
合計		834	100	

問12 一番初めに暴力を受けたときの気持ちについて				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	ショック	57	6.8	15.3
	みじめ	69	8.3	18.5
	怖い	63	7.6	16.9
	腹が立つ	18	2.2	4.8
	悔しい	18	2.2	4.8
	呆然	59	7.1	15.8
	にくい	14	1.7	3.8
	軽蔑	11	1.3	2.9
	自分が悪い	5	0.6	1.3
	仕返し	3	0.4	0.8
	その他	16	1.9	4.3
	合計	373	44.7	100
無回答		461	55.3	
合計		834	100	

5. 加害の実態				
あなたの過去(または現在)の加害体験について				
問1 暴力をふるっていた(ふるっている)相手との関係				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	配偶者同居	21	2.5	53.8
	配偶者別居	2	0.2	5.1
	配偶者離婚	6	0.7	15.4
	配偶者その他	1	0.1	2.6
	パートナー同居	1	0.1	2.6
	パートナー別居	2	0.2	5.1
	パートナー別れた	4	0.5	10.3
	パートナーその他	1	0.1	2.6
	その他	1	0.1	2.6
		合計	39	4.7
無回答		795	95.3	
合計		834	100	

問2 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の職業					
		人数	パーセント	有効パーセント	
有効回答	経営・管理職	1	0.1	2.5	
	専門・技術職	7	0.8	17.5	
	事務職・販売・サービス職・営業職	12	1.4	30.0	
	労務・技能職・土木・建築職	7	0.8	17.5	
	勤め・その他	2	0.2	5.0	
	農林漁業	1	0.1	2.5	
	商工・サービス業	4	0.5	10.0	
	自営・その他	1	0.1	2.5	
	学生	1	0.1	2.5	
	専業主婦(夫)	4	0.5	10.0	
		合計	40	4.8	100
	無回答		794	95.2	
	合計		834	100	

問3 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の勤務形態				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	定期(常勤)	29	3.5	72.5
	不定期(非常勤)	1	0.1	2.5
	パート・アルバイト	6	0.7	15.0
	無職	4	0.5	10.0
		合計	40	4.8
無回答		794	95.2	
合計		834	100	

問4 暴力をふるっていた(ふるっている)相手の年収				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	なし	3	0.4	7.5
	100万円未満	3	0.4	7.5
	100-200万円未満	6	0.7	15.0
	200-300万円未満	4	0.5	10.0
	300-500万円未満	7	0.8	17.5
	500-700万円未満	7	0.8	17.5
	700-900万円未満	1	0.1	2.5
	900-1000万円未満	1	0.1	2.5
	1000万円以上	2	0.2	5.0
	わからない	6	0.7	15.0
	合計	40	4.8	100
無回答		794	95.2	
合計		834	100	

問5 身体的暴力の内容				
①顔や身体を平手打ちやげんこつでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	22	2.6	100
無回答		812	97.4	
合計		834	100	

②むなぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	11	1.3	100
無回答		823	98.7	
合計		834	100	

③髪の毛を引っ張ったり、髪の毛をつかんで引きずる、または髪の毛を切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	9	1.1	100
無回答		825	98.9	
合計		834	100	

④足で蹴る、突き飛ばす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	18	2.2	100
無回答		816	97.8	
合計		834	100	

⑤物などでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	

⑥物を投げつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	19	2.3	100
無回答		815	97.7	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑧首をしめる(しめるふりをする)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	



⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	9	1.1	100
無回答		825	98.9	
合計		834	100	

問5-1身体的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	週1回	3	0.4	10.3
	月1回	3	0.4	10.3
	年に数回	10	1.2	34.5
	ばらつき	13	1.6	44.8
	合計	29	3.5	100
無回答		805	96.5	
合計		834	100	

問5-2身体的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	7	0.8	25.0
	1-3年未満	7	0.8	25.0
	3-5年未満	2	0.2	7.1
	5-10年未満	3	0.4	10.7
	10-20年未満	3	0.4	10.7
	20年以上	2	0.2	7.1
	不定期	4	0.5	14.3
合計	28	3.4	100	
無回答		806	96.6	
合計		834	100	

問6 精神的暴力の内容				
①物をこわす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	14	1.7	100
無回答		820	98.3	
合計		834	100	

②大切な人・物・ペットを傷つける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

③ののしる・中傷する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	22	2.6	100
無回答		812	97.4	
合計		834	100	

④何を言っても相手にせず、無視をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑤殺す、死んでやる、捨てるといっておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	9	1.1	100
無回答		825	98.9	
合計		834	100	

⑥「食わせてやっている」と言う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

⑦暴力をふるうふりをしておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑨病気の時や妊娠中につらくあたる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

問6-1精神的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	3	0.4	8.3
	週1回	4	0.5	11.1
	月1回	10	1.2	27.8
	年に数回	9	1.1	25.0
	ばらつき	10	1.2	27.8
	合計	36	4.3	100
無回答		798	95.7	
合計		834	100	

問6-2精神的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	5	0.6	14.3
	1-3年未満	11	1.3	31.4
	3-5年未満	4	0.5	11.4
	5-10年未満	6	0.7	17.1
	10-20年未満	3	0.4	8.6
	20年以上	3	0.4	8.6
	不定期	3	0.4	8.6
	合計	35	4.2	100
無回答		799	95.8	
合計		834	100	

問7 性的暴力の内容				
①望まないセックスをむりやりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

②不快・屈辱的な性行為をむりやりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

③避妊に協力しない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

④中絶を強要する			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑤中絶を拒否する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑥アダルトビデオやポルノ雑誌、ヌード写真などを見せる			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑦自分が他人と性的関係にあることをほのめかず・公言する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑧浮気をする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

⑨他の人との性的関係を疑う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑩「子どもができない」などと非難する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑪「不感症」「下手」などとセックスや性器について非難する			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑫その他			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑬そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	24	2.9	100
無回答		810	97.1	
合計		834	100	

問7-1性的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	1	0.1	9.1
	年に数回	3	0.4	27.3
	ばらつき	7	0.8	63.6
	合計	11	1.3	100
無回答		823	98.7	
合計		834	100	

問7-2性的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	3	0.4	25.0
	1-3年未満	4	0.5	33.3
	5-10年未満	1	0.1	8.3
	10-20年未満	1	0.1	8.3
	20年以上	1	0.1	8.3
	不定期	2	0.2	16.7
	合計	12	1.4	100
無回答		822	98.6	
合計		834	100	

問8 社会・経済的暴力の内容				
①仕事・社会活動を制限・妨害する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

②持ち物を勝手に点検する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

③手紙や電話を制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

④外出を制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑤友人・親戚のつきあいを制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑥尾行する、外出先で待ち伏せをする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑦異性との付きあいを制限する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑧生活費を渡さない、家計の管理を独占する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

⑨家計の収入以上に、お金を使う(趣味、ギャンブルなど)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑩あなた(暴力を受けている人)の給料を取り上げたり、貯金を勝手におろす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑪その他			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑫そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	25	3.0	100
無回答		809	97.0	
合計		834	100	

問8-1 社会・経済的暴力の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	2	0.2	25.0
	週1回	1	0.1	12.5
	月1回	3	0.4	37.5
	ばらつき	2	0.2	25.0
	合計	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	

問8-2 社会・経済的暴力の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	1	0.1	10.0
	1-3年未満	1	0.1	10.0
	3-5年未満	2	0.2	20.0
	5-10年未満	3	0.4	30.0
	20年以上	2	0.2	20.0
	不定期	1	0.1	10.0
	合計	10	1.2	100
無回答		824	98.8	
合計		834	100	

6. 子どもの頃の経験 [1]体験 問1 体験の有無				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	314	37.6	37.8
	なし	516	61.9	62.2
	合計	830	99.5	100
無回答		4	0.5	
合計		834	100	

問2 暴力をしていた人 ①父親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	187	22.4	100
無回答		647	77.6	
合計		834	100	

②母親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	121	14.5	100
無回答		713	85.5	
合計		834	100	

③継父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

④継母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	

⑤養父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

⑥養母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑦兄弟				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	33	4.0	100
無回答		801	96.0	
合計		834	100	

⑧姉妹				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	9	1.1	100
無回答		825	98.9	
合計		834	100	

⑨祖父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑩祖母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	

⑪その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	13	1.6	100
無回答		821	98.4	
合計		834	100	

問3 身体的暴力(虐待)の内容				
①顔や身体を平手打ちやげんこつでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	213	25.5	100
無回答		621	74.5	
合計		834	100	

②むなぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

③髪の毛をひっぱたり、髪の毛をつかんで引きずる、または、髪の毛を切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	67	8.0	100
無回答		767	92.0	
合計		834	100	

④足で蹴る、突き飛ばす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	93	11.2	100
無回答		741	88.8	
合計		834	100	

⑤物などでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	79	9.5	100
無回答		755	90.5	
合計		834	100	

⑥物を投げつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	81	9.7	100
無回答		753	90.3	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しついたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑧首をしめる(しめるふりをする)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	14	1.7	100
無回答		820	98.3	
合計		834	100	

⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	18	2.2	100
無回答		816	97.8	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

問4 心理的暴力(虐待)の内容

①物をこわす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	79	9.5	100
無回答		755	90.5	
合計		834	100	

②大切な人・物・ペットを傷つける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	64	7.7	100
無回答		770	92.3	
合計		834	100	



③ののしる・中傷する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	175	21.0	100
無回答		659	79.0	
合計		834	100	

④何を言っても相手にせず、無視する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	73	8.8	100
無回答		761	91.2	
合計		834	100	

⑤殺す、死んでやる、捨てるといったおどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	58	7.0	100
無回答		776	93.0	
合計		834	100	

⑥「食わせてやっている」と言う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	120	14.4	100
無回答		714	85.6	
合計		834	100	

⑦暴力をふるうふりをしておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	75	9.0	100
無回答		759	91.0	
合計		834	100	

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	43	5.2	100
無回答		791	94.8	
合計		834	100	

⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	58	7.0	100
無回答		776	93.0	
合計		834	100	

⑩そのよな経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	60	7.2	100
無回答		774	92.8	
合計		834	100	

問5 性的暴力(虐待)の内容

①性器にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	33	4.0	100
無回答		801	96.0	
合計		834	100	

②性行為を無理やりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	7	0.8	100
無回答		827	99.2	
合計		834	100	

③性行為を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

④大人の性器を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	13	1.6	100
無回答		821	98.4	
合計		834	100	

⑤大人の性器を触らせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

⑥親密なキスをしたり、身体にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑦アダルトビデオやポルノ雑誌・ヌード写真など見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

⑧入浴やトイレの時などにのぞく				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	25	3.0	100
無回答		809	97.0	
合計		834	100	

⑩そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	227	27.2	100
無回答		607	72.8	
合計		834	100	

問6 養育の怠慢・拒否の内容

①食事を与えない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	25	3.0	100
無回答		809	97.0	
合計		834	100	

②病気になったり、ケガをしても病院に連れて行かない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	21	2.5	100
無回答		813	97.5	
合計		834	100	

③学校に行かせない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

④外出を制限・家に入れない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	56	6.7	100
無回答		778	93.3	
合計		834	100	

⑤養育させない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	7	0.8	100
無回答		827	99.2	
合計		834	100	

⑥その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	29	3.5	100
無回答		805	96.5	
合計		834	100	

⑦そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	211	25.3	100
無回答		623	74.7	
合計		834	100	

[2]子どもの頃の目撃 問1目撃の有無				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	269	32.3	32.9
	なし	549	65.8	67.1
	合計	818	98.1	100
無回答		16	1.9	
合計		834	100	

問2 暴力(虐待)をされていた人について ①父親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

②母親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	202	24.2	100
無回答		632	75.8	
合計		834	100	

③継父			
		人数	パーセント
無回答		834	100

④継母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

⑤養父			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑥養母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑦兄弟				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

⑧姉妹				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	52	6.2	100
無回答		782	93.8	
合計		834	100	

⑨祖父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑩祖母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑪その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	11	1.3	100
無回答		823	98.7	
合計		834	100	

問3 暴力(虐待)をしていた人				
①父親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	216	25.9	100
無回答		618	74.1	
合計		834	100	

②母親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	40	4.8	100
無回答		794	95.2	
合計		834	100	

③継父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

④継母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑤養父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑥養母			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑦兄弟				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

⑧姉妹				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

⑨祖父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	11	1.3	100
無回答		823	98.7	
合計		834	100	

⑩祖母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	15	1.8	100
無回答		819	98.2	
合計		834	100	

⑪その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	11	1.3	100
		823	98.7	
合計		834	100	

問4 身体的暴力(虐待)の内容				
①顔や身体を平手打ちやげんこつでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	169	20.3	100
無回答		665	79.7	
合計		834	100	

②むなぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	63	7.6	100
無回答		771	92.4	
合計		834	100	

③髪の毛をひっぱたり、髪の毛をつかんで引きずる、または、髪の毛を切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	79	9.5	100
無回答		755	90.5	
合計		834	100	

④足で蹴る、突き飛ばす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	99	11.9	100
無回答		735	88.1	
合計		834	100	

⑤物などでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	70	8.4	100
無回答		764	91.6	
合計		834	100	

⑥物を投げつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	123	14.7	100
無回答		711	85.3	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	7	0.8	100
無回答		827	99.2	
合計		834	100	

⑧首をしめる(しめるふりをする)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	20	2.4	100
無回答		814	97.6	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	21	2.5	100
無回答		813	97.5	
合計		834	100	

⑪そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	28	3.4	100
無回答		806	96.6	
合計		834	100	

問5心理的暴力(虐待)の内容				
①物をこわす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	110	13.2	100
無回答		724	86.8	
合計		834	100	

②大切な人・物・ペットを傷つける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	55	6.6	100
無回答		779	93.4	
合計		834	100	

③ののしる・中傷する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	186	22.3	100
無回答		648	77.7	
合計		834	100	

④何を言っても相手にせず、無視する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	67	8.0	100
無回答		767	92.0	
合計		834	100	

⑤殺す、死んでやる、捨てるといったおどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	51	6.1	100
無回答		783	93.9	
合計		834	100	

⑥「食わせてやっている」と言う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	107	12.8	100
無回答		727	87.2	
合計		834	100	

⑦暴力をふるうふりをしておどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	69	8.3	100
無回答		765	91.7	
合計		834	100	

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	40	4.8	100
無回答		794	95.2	
合計		834	100	

⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	27	3.2	100
無回答		807	96.8	
合計		834	100	

⑩そのよな経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	27	3.2	100
無回答		807	96.8	
合計		834	100	

問6 性的暴力(虐待)の内容				
①性器にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	
②性行為を無理やりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	
③性行為を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	
④大人の性器を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	
⑤大人の性器を触らせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	
⑥親密なキスをしたり、身体にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	
⑦アダルトビデオやポルノ雑誌・ヌード写真など見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	
⑧入浴やトイレの時などにのぞく				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	
⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	
⑩そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	224	26.9	100
無回答		610	73.1	
合計		834	100	



問7 養育の怠慢・拒否の内容				
①食事を与えない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	15	1.8	100
無回答		819	98.2	
合計		834	100	

②病氣になったり、ケガをしても病院に連れて行かない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

③学校に行かせない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

④外出を制限・家に入れない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	31	3.7	100
無回答		803	96.3	
合計		834	100	

⑤養育をさせない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

⑥その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	13	1.6	100
無回答		821	98.4	
合計		834	100	

⑦そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	191	22.9	100
無回答		643	77.1	
合計		834	100	

7. 子どもへの虐待				
問1 子どもの人数				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1人	116	13.9	21.8
	2人	281	33.7	52.9
	3人	118	14.1	22.2
	4人	8	1.0	1.5
	5人	6	0.7	1.1
	6人	1	0.1	0.2
	8人	1	0.1	0.2
	合計	531	63.7	100
無回答		303	36.3	
合計		834	100	

問2 子どもへの身体的虐待の内容				
①顔や身体を平手打ちやげんこつでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	255	30.6	100
無回答		579	69.4	
合計		834	100	

②むなぐらや肘をつかんだり、腕をつかんでねじ上げる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	66	7.9	100
無回答		768	92.1	
合計		834	100	

③髪の毛をひっぱたり、髪の毛をつかんで引きずる、または、髪の毛を切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	37	4.4	100
無回答		797	95.6	
合計		834	100	

④足で蹴る、突き飛ばす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	120	14.4	100
無回答		714	85.6	
合計		834	100	

⑤物などでなぐる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	56	6.7	100
無回答		778	93.3	
合計		834	100	

⑥物を投げつける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	82	9.8	100
無回答		752	90.2	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しつけたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑧首をしめる(しめるふりをする)				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

⑨刃物を突きつけたり、刃物で切る				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	10	1.2	100
無回答		824	98.8	
合計		834	100	

⑩その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	42	5.0	100
無回答		792	95.0	
合計		834	100	

⑩そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	216	25.9	100
無回答		618	74.1	
合計		834	100	

問2-1 身体的虐待の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	8	1.0	2.6
	週1回	26	3.1	8.5
	月1回	34	4.1	11.1
	年に数回	96	11.5	31.5
	ばらつき	141	16.9	46.2
	合計	305	36.6	100
無回答		529	63.4	
合計		834	100	

問2-2 身体的虐待の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	45	5.4	15.6
	1-3年未満	53	6.4	18.4
	3-5年未満	48	5.8	16.7
	5-10年未満	47	5.6	16.3
	10-20年未満	19	2.3	6.6
	20年以上	7	0.8	2.4
	不定期	69	8.3	24.0
	合計	288	34.5	100
無回答		546	65.5	
合計		834	100	

問3 子どもへの心理的虐待の内容				
①物をこわす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	74	8.9	100
無回答		760	91.1	
合計		834	100	

②大切な人・物・ペットを傷つける				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	51	6.1	100
無回答		783	93.9	
合計		834	100	

③ののしる・中傷する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	190	22.8	100
無回答		644	77.2	
合計		834	100	

④何を言っても相手にせず、無視する				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	103	12.4	100
無回答		731	87.6	
合計		834	100	

⑤殺す、死んでやる、捨てるといったおどす				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	46	5.5	100
無回答		788	94.5	
合計		834	100	

⑥「食わせてやっている」と言う				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	67	8.0	100
無回答		767	92.0	
合計		834	100	

⑦煙草の火を押しついたり、火傷をさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	88	10.6	100
無回答		746	89.4	
合計		834	100	

⑧手をついて土下座させるなど、屈辱的なことをむりやりさせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	26	3.1	100
無回答		808	96.9	
合計		834	100	

⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	59	7.1	100
無回答		775	92.9	
合計		834	100	

⑩そのような経験なし				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	232	27.8	100
無回答		602	72.2	
合計		834	100	

問3-1 心理的虐待の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	29	3.5	10.4
	週1回	38	4.6	13.6
	月1回	40	4.8	14.3
	年に数回	68	8.2	24.4
	ばらつき	104	12.5	37.3
	合計	279	33.5	100
無回答		555	66.5	
合計		834	100	

問3-2 心理的虐待の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	37	4.4	13.7
	1-3年未満	55	6.6	20.4
	3-5年未満	43	5.2	15.9
	5-10年未満	52	6.2	19.3
	10-20年未満	28	3.4	10.4
	20年以上	14	1.7	5.2
	不定期	41	4.9	15.2
	合計	270	32.4	100
無回答		564	67.6	
合計		834	100	

問4 子どもへの性的虐待の内容				
①性器にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

②性行為を無理やりする				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

③性行為を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

④大人の性器を見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑤大人の性器を触らせる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

⑥親密なキスをしたり、身体にさわる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑦アダルトビデオやポルノ雑誌・ヌード写真など見せる				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	6	0.7	100
無回答		828	99.3	
合計		834	100	

⑧入浴やトイレの時などにのぞく				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	16	1.9	100
無回答		818	98.1	
合計		834	100	

⑨その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	10	1.2	100
無回答		824	98.8	
合計		834	100	

⑩そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	479	57.4	100
無回答		355	42.6	
合計		834	100	

問4-1 性的虐待の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	4	0.5	17.4
	週1回	4	0.5	17.4
	月1回	3	0.4	13.0
	年に数回	3	0.4	13.0
	ばらつき	9	1.1	39.1
	合計	23	2.8	100
無回答		811	97.2	
合計		834	100	

問4-2 性的虐待の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	1	0.1	4.5
	1-3年未満	1	0.1	4.5
	3-5年未満	2	0.2	9.1
	5-10年未満	7	0.8	31.8
	10-20年未満	2	0.2	9.1
	20年以上	5	0.6	22.7
	不定期	4	0.5	18.2
	合計	22	2.6	100
無回答		812	97.4	
合計		834	100	

問5 子どもへの養育の怠慢・拒否の内容				
①食事を与えない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	27	3.2	100
無回答		807	96.8	
合計		834	100	

②病気になるったり、ケガをしても病院に連れて行かない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	17	2.0	100
無回答		817	98.0	
合計		834	100	

③学校に行かせない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

④外出を制限・家に入れない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

⑤養育させない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	7	0.8	100
無回答		827	99.2	
合計		834	100	

⑥その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	31	3.7	100
無回答		803	96.3	
合計		834	100	

⑦そのような経験はない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	430	51.6	100
	無回答	404	48.4	
合計		834	100	

問5-1 養育の怠慢・拒否の割合				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	毎日	7	0.8	10.1
	週1回	5	0.6	7.2
	月1回	5	0.6	7.2
	年に数回	20	2.4	29.0
	ばらつき	32	3.8	46.4
	合計	69	8.3	100
	無回答	765	91.7	
合計		834	100	

問5-2 養育の怠慢・拒否の継続期間				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1年未満	3	0.4	4.4
	1-3年未満	18	2.2	26.5
	3-5年未満	9	1.1	13.2
	5-10年未満	17	2.0	25.0
	10-20年未満	4	0.5	5.9
	20年以上	5	0.6	7.4
	不定期	12	1.4	17.6
	合計	68	8.2	100
	無回答	766	91.8	
合計		834	100	

問6 虐待を受けていた子どもの人数				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	1人	87	10.4	48.1
	2人	70	8.4	38.7
	3人	19	2.3	10.5
	4人	2	0.2	1.1
	5人	3	0.4	1.7
	合計	181	21.7	100
		無回答	653	78.3
合計		834	100	

問7 一番初めに虐待が生じた時の子どもの発達段階				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	乳児期	31	3.7	17.6
	幼児期	115	13.8	65.3
	学童期	19	2.3	10.8
	思春期	11	1.3	6.3
	合計	176	21.1	100
	無回答	658	78.9	
合計		834	100	

問8 子どもへ虐待をしていた人				
①父親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	119	14.3	100
	無回答	715	85.7	
合計		834	100	

②母親				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	54	6.5	100
	無回答	780	93.5	
合計		834	100	

③継父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

④継母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑤養父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑥養母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	1	0.1	100
無回答		833	99.9	
合計		834	100	

⑦兄弟				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	2	0.2	100
無回答		832	99.8	
合計		834	100	

⑧姉妹			
		人数	パーセント
無回答		834	100

⑨祖父				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	4	0.5	100
無回答		830	99.5	
合計		834	100	

⑩祖母				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	8	1.0	100
無回答		826	99.0	
合計		834	100	

⑪自分				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	47	5.6	100
無回答		787	94.4	
合計		834	100	

⑫その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	



問10 相談相手		①両親		
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	103	12.4	100
無回答		731	87.6	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	46	5.5	100
無回答		788	94.5	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	79	9.5	100
無回答		755	90.5	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	31	3.7	100
無回答		803	96.3	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	133	15.9	100
無回答		701	84.1	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	34	4.1	100
無回答		800	95.9	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	19	2.3	100
無回答		815	97.7	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	24	2.9	100
無回答		810	97.1	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	52	6.2	100
無回答		782	93.8	
合計		834	100	

		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	25	3.0	100
無回答		809	97.0	
合計		834	100	

⑪病院				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	38	4.6	100
無回答		796	95.4	
合計		834	100	

⑫保健所				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	14	1.7	100
無回答		820	98.3	
合計		834	100	

⑬児童相談所				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	36	4.3	100
無回答		798	95.7	
合計		834	100	

⑭民生委員				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	5	0.6	100
無回答		829	99.4	
合計		834	100	

⑮学校・幼稚園・保育所関係				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	44	5.3	100
無回答		790	94.7	
合計		834	100	

⑯民間の相談機関				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	23	2.8	100
無回答		811	97.2	
合計		834	100	

⑰宗教団体				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	20	2.4	100
無回答		814	97.6	
合計		834	100	

⑱電話相談				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	45	5.4	100
無回答		789	94.6	
合計		834	100	

⑲インターネット				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	3	0.4	100
無回答		831	99.6	
合計		834	100	

⑳相談したことがない				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	178	21.3	100
無回答		656	78.7	
合計		834	100	

21その他				
		人数	パーセント	有効パーセント
有効回答	あり	20	2.4	100
無回答		814	97.6	
合計		834	100	

## 資料 3 自由記述

1 アンケート回答した人

問4 最数学歴 ⑧(その他)

問4 最終学歴 ⑧(その他)

通信教育(大学)

大学院・在学中

大学

大学

大学

大学4回生

通信教育(大学)

大学

大学

大学(大学院[法学]修了後)

女学校卒

大学3年生

大学院・在学中

大学4年生

大学院(修士課程)

大学

大学

大学4回生

保健婦学校

大学

学生兼助産婦

大学

大学3回生(神戸大学発達化学部)

放送大学

東京都立職業訓練専修学校(和裁科)

大学院

通信教育(大学)

女学校卒

通信教育(大学)

女学校卒

短大(藍野短大専攻科)

放送大学

大学

大学2回生(社会人入試)

高等女学校

看護専門学校

大学5回生

大学

大学

国立身体障害者職業訓練校卒

大学院

大学

大学

問5 職業（その他）

【お勤め】⑧その他

問5 職業（その他）

塾講師

新聞配達員

専門職アルバイト

時々仕事をする

マスコミ

調理員

短大助手

保育園（パート）

流通関係

郵便局（パート）

アルバイト

新聞配達員

ホームヘルパー

結婚式場の生花

出版編集

調査員

広告デザイン

新聞配達員

嘱託

非常勤専門指導

和裁士

学童保育

検査補助

市施設の受付管理

清掃員

元保母

介護（パート）

事務員（パート）

生保会社確認業務

看護助手

看護助手

看護補助

歯科助手（パート）

主婦兼パート

調理師

問5 職業(その他)

【自営業・家族従業】 ⑬その他

問5 職業(その他)【自営業・家族従業】

⑬その他

舞踏指導

管工事業(自営)事務など手伝い

有償ボランティア

損保代理店

和紙造形作家

ピアノ・エレクトーン講師

司会・執筆業

自営手伝い(ガラス工業)

コンピューターシステムのサポート(自営)

サービス請負業の会社経営

兼専業主婦

学習塾(自営)

フェミニストカウンセラー神戸

求職中

問5 職業（その他）

【その他】 ⑩無職

問5 職業（その他）【その他】 ⑩無職

PTSD 治療中・子宮筋腫の手術後治療中

求職中

求職中（「やりたい仕事がなく就職難のため」）

休職中

求職中

鬱病のため治療中

平成12年3月末退職

専門・技術職に復帰予定

離婚し、実家で家事手伝い・子育て

家事手伝い

平成12年6月20日退職

神経症治療中（昨年まで中高非常勤講師）

平成11年退職

失業保険受給中

失業保険受給中

鬱病で生活保護受給中

フリーター

27年の教職経験有り

求職中

求職中

平成12年6月30日リストラ退職

求職中



問 6 勤務形態 ⑤ (その他)

問 6 勤務形態⑤ (その他)

備考

自宅

主婦

自営業手伝い

オーナー

現在産休中

現在は学生

不定期？収入有り

自営

不定期

フリー(著述業)

現在は別な職業？

日雇い

経営者

自営

主婦兼農業手伝い

有償ボランティア他

個人経営(塾)

問5は専業主婦と記入

## 2 ジェンダー意識

### 問2 女性の結婚について

#### 女性の結婚について⑥

- ・人間（女性）として生まれ、出来るなら結婚し子どもを産み育てることが役目と思う。
- ・精神的に癒されるが結婚という形を必ずしも取る必要はない。
- ・結婚し他人と共に生活し、人を作り（子育て）、そんな経験が自分を成長させていくと思う。
- ・したい人はすればいい。（3人）
- ・相手を好きになって結婚したいと思ったから、結婚した。
- ・そう思える人がいれば結婚すればいい。
- ・どちらでも幸せならよいのでは。
- ・結婚するもしないも自由。でも一回くらいはしてもよいと思う（した方がよい）。
- ・相手といつも一緒にいたい、一緒に苦楽を共にしたいと思うのであれば結婚した方がよい。男性に対しても同じ。
- ・したければすれば良い。これは女性に限らず。
- ・その女性にとって結婚が幸せになる手段なら選択すればいい。
- ・一生のうち一度は結婚した方がよい、何か得るものがある。
- ・精神的に安定すると思う。
- ・自由意志に任せるべき。
- ・よきパートナーに出会ったなら結婚したらよいし、そうでなければしないほうが良い。
- ・自分の考えと同じ人がいたなら結婚し、子どもを育てていく（協力して）。
- ・①～⑤以外の心をもつ相手となら。
- ・助け合えるパートナーであれば、子ども、経済に関係なく。
- ・相手を理解し、自分も納得できる人でなければ、結婚をする必要はない。
- ・結婚をして必ず幸福になれるという保障はないし、結婚をして逆に子どもを産んで幸福だと感じる人もいると思うのでその他にしました。
- ・結婚したい人は結婚したらいい。
- ・自分が幸せでいられるなら、どのような形でもよい。しかし、子どもがいるなら子どもの幸せを中心に考えたい。
- ・結婚は男性、女性がお互いを尊重し、協力していくことによって、共に成長していけるもの。しかし、結婚という言葉にこだわらなくてもよい。
- ・人間として生きるには、あらゆることを経験する意味で、結婚した方がよい。
- ・結婚したい人はすればいいし、やめたい思えば離婚すればよい。したくない人はしなくていい。
- ・その人が何を求めているかで選べない。
- ・⑤に近いが結婚という形をとらなくても同居という形をとってみては？
- ・一緒にいて安心感、安定感を得られるなら結婚した方がよい。

- ・一緒にいたい人と結婚したいならすればよい。
- ・したいと思ったらすればいい。
- ・各女性の考え方により自由にすればよい。
- ・自由でいいのでは（その人の考えで）。
- ・子どもを産める年齢、体のうちに産み、結婚はしたいときにすればいい。
- ・自立した大人同士の結婚ならしても良い。
- ・以前は③であったが今（DV 後）は子どものための結婚とは思えない。
- ・端的には答えられない。お互い人間として尊重しあえるパートナーであれば一人で生きていくより二人の方がより楽しく生きれるかもしれない。パートナーがDVであれば一人の方がいい。しかし子どもに助けられる面が大きい。
- ・人間同士の共同生活という制度の1つが結婚だと思う。
- ・精神的・経済的問題も含めて、人生を共にしたいと思う男性がいれば結婚した方がよい。
- ・好きにすればよい。
- ・したい人がする。男も同じ。
- ・自分も相手も結婚することで、より幸せになれる結婚ならすべきだ。
- ・結婚してもそれぞれ自分を高め自立できるようにするのがよいと思うからよい。相手にめぐり合えば結婚したらよいと思う。
- ・互いに尊重できる独立した男女が社会の小単位であるが、社会の大切な基礎となる家庭を築き、世の財産である子どもを育てていくため結婚する。
- ・全てはその女性の選択によるから全ては自由だと思う。
- ・する、しないは本人次第で。
- ・男性と女性、お互いにメリットがあるなら結婚した方がよい。
- ・個人の状況について色々と思うけど、男性が近くにいた方が精神的に安定して豊かな感情を持っていると思う。
- ・「女性」というより、個人の自由な選択だと思う。
- ・選択肢の1つであって、「結婚」する、しないに、「ない」とかは無いと思う。
- ・生き方の一部で、共有する時でありたい。
- ・特にこうでなければ、と決めることもなく、その人それぞれの立場によって考えればよいと思う。
- ・両性の理解がある事を確かめてから結婚すべき。
- ・女性も男性も経済的・精神的自立はしているべき。その上で好きな人ができたら二人の納得いくライフスタイルで生活（同居でも通い婚でも）していけばいい。
- ・結婚した方がいいとか、しない方がいいとか、断言すること、しようとすることに疑問。
- ・愛する人がいればする。
- ・結婚が女性にとって唯一の選択肢ではなく、いくつかある選択肢の1つだと思う。
- ・結婚をもっと柔軟に考えた方がよい。
- ・したい人はして、したくない人はしなくてよいと思う。（3人）

- ・本人が離婚をすることで幸せになるのならしたほうが良いと思う。
- ・自身の成長につながるのであればすればよい。
- ・結婚によって幸せになれるのならしたほうが良いが、不幸だと思うならやめたほうがよい。
- ・結婚形態は自由でよく、今の方法でなくても良いと思う。
- ・相手と同居してくらしたいかどうかできめればよい。独り立ちできるかどうかは基準ではない。
- ・人生を共にするよきパートナーとして考えたい。
- ・自己決定の領域であると思う。
- ・共に同じ考えで共同生活をやっているなら多少の犠牲は仕方がない。
- ・結婚してみないとわからないこともあるからしてみたほうが良い。
- ・それぞれの考え方で生きればよい。
- ・本当に好きな人に出会えてその人と一緒にいるのに結婚が通した方法の時のみ。
- ・結婚を幸福と思える女性は結婚し、そうでない女性は結婚しなくても良い。
- ・自由を奪うものではなく精神的には対等でありたい
- ・本人がしたい、結婚することが幸せと考えているのなら、すればいいし、したくない人はしなければいい。本人の自由で他人が口に出すことではない。
- ・信頼関係を築き、維持する努力をお互いもてる同士の家庭ならいい。自由意志の上に責任もきちんと考えられる相手、関係を持てるのなら。
- ・してもしなくても良い。
- ・結婚は選択肢の1つであり、個々人の考え方によるもの。ケースバイケースなので一概には言えない。
- ・結婚したいと思う人がいればすればいい。しない方がよい、しなくてははいけないうなど、決めつけられない。
- ・結婚の色々なスタイルがあつてよいと思う。
- ・依存しあう関係でなくお互い支え合う事が出来るパートナーであれば結婚しても良い。
- ・役割分担はあるだろうが、お互いに同等な存在であれば結婚した方がよい。
- ・女性の結婚に「幸福」にこだわる必要は無い。本人の自由に生き方を選ぶべきと思う。
- ・現在の日本では、②③④のどれもがあてはまると思います。法的にかつ、社会的に（子孫のため）。
- ・子どもが2歳くらいまでは、事実婚か同居したほうが便利でよい。
- ・独り立ちする力は残せる方がよいと思うが、色々な事を乗り越えようと思える人が出会えればすればよいと思う。
- ・結婚はあくまでもライフスタイルの一形態
- ・結婚は自立した男と女の契約だと思う。
- ・選択の1つ程度でよいと思う。
- ・その結婚が自分を幸せにするものならしたほうが良いし、そうでなければ無理にする必要がない。
- ・本人の意志で結婚したければする。ただ、平安時代のように通い婚的なものが一番幸せのような気がする。私はこの形態を非常に望んでいます。
- ・個人の自由。

- ・どちらでも良い。
- ・一緒にいて互いに心地よければOK。
- ・好きな人と一緒にいたい手段が結婚ならば結婚も良い。
- ・母性の自立を認めてくれる相手がいれば結婚してもよい
- ・したい人はすればいい。したくない人はしなければいい。したいけどできない人だっているんだから。
- ・結婚という形式にこだわらず、幸せになれば何でもよい。
- ・お互いの幸福のためなら結婚したらいい。
- ・お互いに心が寄りそっていれば結婚という型をとらなくてもよい。
- ・年齢と共に結婚観が変化しているためどれも考えた時期がある。
- ・結婚したい人はすればいいし、したくない人はしなければいい。結婚という制度にこだわらず内縁でもいいと思う。(お互いの気持ちがきちんとしていれば)
- ・パートナーと一生を共にしたいと思うなら、結婚したほうがよい。
- ・結婚することがその人の人生にプラスになると思えばすればいいし、マイナスになると思えばしなくてもいい。どちらにしても自由に選択できることが大切。
- ・好きな人と一緒になりたければ。
- ・お互い信頼し、尊重しあえる関係なら、結婚はよいと思うが、実際にはそうはなりにくいので、結婚そのものにこだわる必要性を感じていなかった。
- ・結婚したいと思えばすればよい。
- ・結婚するもしないも本人の自由。
- ・結婚して何事も共感できるパートナーを得ることは嬉しいし、子どもを育てて教えられることもたくさんある。
- ・その人らしく生きられれば結婚すればよい。
- ・私の場合は結果として結婚しているが一般論としてあてはまる考えはない。
- ・精神的に経済的に安定する。
- ・結婚する前は①～③の考えを持っていた。
- ・結婚したい人がする。
- ・好きな相手と一生一緒にいたいと思ひ、精神的にも経済的にも安らぎ安定していけるなら、結婚してもいいのでは……と思う。
- ・結婚とは  $1 + 1 = 2$  ではなく、4にも6にもしていけること。
- ・結婚しても自由に生きればよい。
- ・男女問わず自分の意志で決定するのが良い。
- ・人間としてより成長するには社会制度として認められている。結婚制度をわざわざ否定する理由はないと思うが、結婚に向いてない人(精神的、肉体的、人格的に)は無視してする必要はない。
- ・本当に愛し合う状態で、一生一緒にいたいと思えるなら結婚してもいいと思うが、そう思わないならあえてしなくてもよいと思う。
- ・その人の価値判断による。

- ・②の「経済的に」をはずして。
- ・独身の時の自由で気ままな生活がいいが、年を取っても、自分の矢はいつまでも生きているわけではないので、将来はお金と子どもを産むというためにも結婚をした方がよい。
- ・好きだから一緒にいたい。その結果が結婚であっただけ。
- ・結婚という形式をとりたい異性に会い、話し合っただけでそうした方がよいというお互いの考えに達したときにするもの。
- ・結婚に何を求めるかによって、結婚の是非が議論されると思う。
- ・ぴったり合う相手が見つからなければ、する必要はない。
- ・結婚が幸福に結びつくと感じ、考えるのなら結婚すればよい。したくなければしないのも自由。
- ・人それぞれの考えかたで良いと思う。
- ・よくわからない。
- ・個々の考えを重視すべきと思う。
- ・人生の伴侶として暮らすのを決めるだけだと思う。
- ・自由かそうでないか、自立しているかそうでないか、という問題と結婚は別問題であると思う。
- ・2人で話し合いながら、自分たちのスタイルの結婚ができればよい。
- ・してもしなくてもよいが、するのも経験の1つです。
- ・結婚に夢を持たなければ、経験という意味では一度くらいしてもいいのではないかと思う。
- ・自立の方針を確立した上で、場合によっては結婚の道を選ぶ。
- ・その女性の自立した生き方であるなら、どちらがよいとも言えない（結婚するしないは）。
- ・女性個人の立場からは④だと思うのですが、子どもが健やかに成長する場の保証として、結婚と言う手続きは有効であるようにも思います。あくまでも私の現状の息子にとっては。
- ・本当に一生この人と共に生きたいという人に巡り合えたら結婚したらよいと思う。
- ・年をとっても一緒に過ごせるパートナーを持ち、孫などに囲まれて幸せな老後を過ごすというイメージ。
- ・本人しだい。自分がどうしたいかが大切だと思う。
- ・結婚が終着点ではないので、共に生きられる人に出会えば、共に生きていけると思う。
- ・個人によって違ってよい。
- ・したいと思う相手がいれば、それでより快適にいられるならすればよい。
- ・②③⑤をミックスした上に「～とは言い切れない」。
- ・したければするもよし、したくなければしないのもよし。
- ・結婚し、新しい家庭を築くことは女性の幸福の一つの形であると思う。
- ・相手によって結婚の意味が大きく変わってくるので何とも言えない。
- ・結婚により、どちらも精神的、社会的に大きく成長するので結果はわからないが、結婚した方が良いと思う。
- ・今現在では結婚生活に失望していますので、何ともいえません。
- ・個人個人の生活設計は、いろんな方面にあると思うので、本人がしっかりした考えをもっていれば、結婚するもよし、結婚せずともよいと思います。

- ・するもよし、しないのもよしだと思う。
- ・個人的見解で決断するべき、「女性の結婚」というコンセプトに縛られることはない。
- ・お互いを尊重できる、尊敬し合える、横に並んで歩んでいけるパートナーと信じるならば、“結婚”という形にとらわれなくてもよいと思います。
- ・年老いてからの心の支えがあれば、あえてしなくとも（話し相手）
- ・①～⑤全部あてはまる。
- ・その時の状態によって変わる。最善の道を選ぶ。
- ・結婚は自然なことであるので好きな人がいたら、結婚するのは、自然なことだと思います。
- ・結婚は一つのあり方であり、大切なのは両者の気持ち。
- ・①DVなどがあれば、一口に幸福とは言いがたい。②安定するとは限らない。③紆余曲折があるにしてもDV夫がいるより、一人で育てたほうがよい。④よき配偶者ならしたほうが良い。⑤よき配偶者であれば、より自由に生きれる。
- ・助け合える結婚であればした方がよい。
- ・男性・女性にとって共に成長できるパートナーであれば結婚した方がよいと思う。
- ・結婚する、しないは本人の考え次第。
- ・人によって生かされていることは、大切であるので。
- ・結婚制度からは自由でありたいが、安心できる居場所が欲しい。
- ・何があっても、ずっと一緒にいられる人がみつければ、結婚したらいい。
- ・よかったこともなかったことも半分づつある。子どもとの関わりを思うと産む性であってよかったと感じる。
- ・自分にあったパートナーに出会い、家庭を築きたいと思ったなら結婚した方がよい。
- ・各自の主眼的選択肢の1つ。
- ・その人の自由。
- ・人生のパートナーがいた方がよい。できれば結婚という形があればその方がよいが別に結婚しなくても良いと思う。
- ・自分の求める結婚と相手に求められるものと同じなら結婚してもいいけれど、違おうまくいかないと思う。
- ・したいと思えばすればいいし、したくなければ理由はどうあれすべきではない。
- ・経済的に安定していればTWINになる必要はないが、あるにこしたことはない。
- ・女性も経済的自立を果たしてから結婚する方がよい。
- ・結婚したしたい人がすればよいと思う。独り立ちできるか否かにもかかわらず。
- ・自然の営みとして結婚した方がよい。
- ・一緒に住みたい人がいれば一緒に住めばよい。④に近いかも。
- ・⑤に近いが本当の魂レベルでの結婚をしたい（望む）人はした方がよい。
- ・例え離婚しても一度は結婚というものを経験することは大切だと思う。
- ・一度は結婚することを進めますが、婚姻生活の我慢は無用。

- ・両性の合意で結婚という形態を選ばなくても良い。
- ・わかりません。
- ・まず男女にかかわらず、1人で生きる事ができることが必要。その上で、二人暮らしたければそうすればいい。
- ・社会的な制約なしに結婚したい人はでき、結婚を選ばない人はそれによって何の不利益も被らないのがよい。
- ・結婚制度は家父長制や血縁家族制度を補強するのではない方がよい。
- ・結婚という形にとらわれない生殖形態。
- ・したい人がする、したくない人はしない、でよい。
- ・結婚、出産を通して人生の中で経験した方が厚みのある人生感を持てると思う。
- ・結婚したければすばい。したくなければしなくて良い。
- ・特にどうあったほうが良いという考え方はない。何でもありと思う。
- ・現在の結婚を知ったので結婚なら良いが…夫婦別姓にし、経済的にも物事に対しても対等に言い合えることが良いと思う。結婚は本人の自由。が、子どもを生み育てるのであれば常に子どもにとっては、と言うことを念頭に置く事。

### 問3 家庭の機能について ⑧

- ・家庭の機能を1つに限定するのはおかしい。①～⑦それぞれの機能を果す場だと思う。
- ・成人たちが小さい子どもたちを育て、互いに信頼した時を過ごし、子どもたちを自立させる場。
- ・①～⑦の2～3の項目があてはまる。1つに絞れない。
- ・家族全員にとって心を安らげ、活動のためのエネルギーを得る場である。
- ・夫婦で愛をはぐくみ、子どもを慈しみ育てる場。
- ・わからない。(4人)
- ・愛情と信頼のもとで助け合える。
- ・一つを選ぶのが難しい。人として生活していくための核である。
- ・問2と同様に端的には答えられない。
- ・社会の構成の最小単位。夫婦を核とする細胞のようなもの。
- ・それぞれ。
- ・現社会においての子孫を継承していくための最良手段。
- ・親も子も共に成長をするための生活と心の基盤。
- ・家庭の機能の設問に1つを選択するのは困難、優先順位をつけるなどの工夫が必要。
- ・家族が最も安心して過ごせるから。
- ・自然に求める場であり、機能など呼べない。そこに和やかな「和」があれば、自然にその中で。互いに育つものがある。和の場。
- ・人間組織の最末端組織。
- ・家族の心身を休める場である。



- ・自分が根をかるための大地。
- ・支えあう人間関係の最少単位。
- ・人間形成の1つの拠点、最小単位のコミュニティである。
- ・1つに決められません。全てが含まれ、人間として母は母として、父は父親としてそれぞれの役割を果たしつつ、成長していく場だと思います。
- ・一人一人にとっての基地のような場であると共にそれぞれの人間性を養う場。
- ・あえて回答するなら、これら全てであり、またどれも無い。決められた「機能」など求めるべきでは無いとも思う。
- ・一番基本的な社会である家庭として、人間関係を学ぶ場（思いやり、支え合い、安らぎ）。
- ・①～⑦のどれか1つを選ぶことはできません。どれもがリンクして機能するものだから。
- ・先祖の墓をまもり、子孫を残し、次の時世代へ続けていく役割をもつもの。
- ・最も愛し合う、信頼しあえる者同士が支えあい、人生を快適にかつ有意義に過ごしていくための場。
- ・夫婦はもちろん、他家族との愛情を深め安らぐ場である。
- ・夫婦ともに心身を休める場である。
- ・結果として①となったが、一般論とにあてはまる考えはありません。
- ・社会的生活を継続するために、必要な最小単位の社会が家庭であり、機能はその構成員である家族一人一人の価値観によってや、置かれている状況によって、流動的に変化すると考える。だから、①～⑦すべてであったり、一部であったり、まだ他にもあるように思う。
- ・夫婦が協力し合い、お互いを高めあい一緒に楽しんだり、休息したりする場。
- ・人間生活の社会最小単位である。
- ・⑦+①+④
- ・社会を仮に公とするならば、家庭は家族のメンバー一人一人が真に個として生まれ成長していく場と考える。（育み、成長のうちには、くつろぎ、団らん、プライベートも全て含まれる）
- ・自分だけでなく、全員がホッと一息つける場。
- ・生きていくための生活の場である。生まれたら死ぬこともできないし、生きるためにはお金を稼がないとごはんが食べていかれない。
- ・自分自身、パートナー、そして家族が協力し合って、幸福、充足を求める場。
- ・よくわからない。
- ・別の社会であるから。
- 」
- ・エネルギーの源
- ・⑤+社会に出ていくための準備をする場。
- ・家族全員が、自分の心身を休める場である。
- ・色々な「家庭」が存在するように「機能」も色々あると思う。
- ・自分の在り方を見つめる場。
- ・互いに育ちある場であってほしい。
- ・人間関係を学ぶ場である。
- ・家族が共に成長し、喜怒哀楽を出せる場である。

- ・ 家族全員の心身を休める場である。
- ・ 人として自分を高めるもの場。
- ・ 安らぎと明日へのエネルギーの蓄え、それぞれの成長を助ける場。
- ・ 人間らしい生き方をするための1つの場である。
- ・ ①～⑦までの複合的な場である。
- ・ 家族の愛情を育む場。
- ・ 家族みんなの共通の場。
- ・ 家族の心身を休める場。(3人)
- ・ 1つに絞れと言うのは無理。
- ・ ひとつにくれない。時と共に役割も変化する。血のつながりを中心に考える必要もなし。
- ・ 心からの休息の場だと思う。
- ・ 全て。
- ・ ⑤の自分の心身を休めることが、家族の心身を休めることにつながっていける場所であって欲しい。
- ・ 色々な家庭があってもいい。家族それぞれが色々なことを家庭に求めている。

#### 問4 ⑤夫婦の理想

- ・ お互いに能力、人格の上で尊敬でき、思いやりのあること
- ・ ③と④で揺れている。
- ・ 妻も夫も互いに相手を思いやり、協力する。
- ・ ①に近いがそこには圧制的でなく思いやりや愛情がないといけない。
- ・ ③に近い考え方ですが、それにゆずり合えばよいと思う。
- ・ 夫婦共に仕事を持っている人も多いと思うのでお互い協力して生活できる夫婦が私の理想です。
- ・ 妻の家事、育児も仕事ととらえ、お互い協力できる部分は協力し合う。
- ・ どちらがえらいとかでなく、お互いに思いやりをもって話してきめる。
- ・ 必ずしも仕事は持たなくても良いのでは？しかし、協力するのは当然。
- ・ 夫婦の形はどのようなものであれ、お互いが協力し尊重しあっていればよい。
- ・ 夫と妻がそれぞれの役割に納得して主体的に生きていけば、100組100様の形があってもいいと思う。
- ・ 夫、妻各の生き方を認めあえる。
- ・ 考え方は育ちにより違うので、決めてしまわず、その場の状況で適宜スムーズに運ぶように出来ればよいと思う。
- ・ ③の「夫も妻も自分の仕事、趣味を持ち…」ではなく「夫の妻も自分の役割と責任、生き方を持ち…」としたい。
- ・ それぞれが独立しながらも共通点を持ち、協力し合う。
- ・ ④のように分かれるけどお互いにできるところは協力する。夫の外の仕事を妻が手伝うのは難しいかもしれないが、特に育児は2人の協力が大切と思う。

- ・仕事や家事などについて納得するまで話し合い、その結果を分担して互いに頼りあい生活する。
- ・夫はこうあるべき、妻はこうあるべきだというようなことがない平等の夫婦。
- ・夫は仕事が大切だが、家事（育児）は少しは協力する、子どもが小さい時期には妻は育児が大事だと思う。
- ・人生を共に歩むパートナーでもあり、長い期間の中ではその立場も変わっていくものだろうと思うので、仕事も趣味もある時には持てばよいし、なくても良い。家事、育児も又然り。
- ・夫と妻が愛を育てていく場所。
- ・夫婦間で細かく分担せず、協力できることはお互いに助けあう。
- ・その時の状況にあう協力体制を夫婦話し合って割り当てあう。
- ・③にプラスして夫婦で話し合いが成立し、なにか夫婦にとっての目標が持てる。③だけではルームメートとなってしまう。
- ・③に近いが、理想として枠にはまる考えはない。
- ・お互い一緒にいると楽しい関係。
- ・夫・妻の相互理解があればどんな形でも可。
- ・何でも話せて、協力して、子どもが育てられる家庭。
- ・お互いに支え合って夫が、妻がの区別はなし。
- ・お互いができることを分担し、できないことは協力し、話し合って何事も決める。
- ・お互いの役割をわかり、いたわりあえる夫婦。
- ・お互いの信頼と思いやもてる人間関係。
- ・ジェンダーセンシティブを共有し、互いに人権を尊重し、個人として尊敬でき横並びで歩める関係。
- ・③に加えて愛情をはぐくむ。
- ・その時その時話し合いして、2人が納得して歩める関係。
- ・ひとりの人間として認め合い大切に作る。
- ・何事も協力しあう。どちらかに従うということは決めない。
- ・自分で自分を満足させる。共依存にならないこと。
- ・今のところ「主婦」になるつもりはない。
- ・夫が主夫してもいいし、④と分担してもいいし、お互いの能力と体力を相談して進めていけるのが理想。
- ・わかりません。

#### 問5 現在の性について ①よかった理由

- ・今の職業につけた。
- ・子どもを産んで育てることができた。(7人)
- ・特に不満はないから。
- ・現状に満足しているから。
- ・子どもを成人まで産み育てることが出来、動物や植物を慈しみ育てることがわかってきた。思いやることが出来た。

- ・子どもを産み愛情を注ぐことができた。
- ・女性になったことがないので良いも悪いもわかりませんがあえて2択から選べば良かったと。
- ・現在に満足しているから。
- ・今がとても楽しい。
- ・仕事を持つことも家庭に入る（専業主婦）ことのどちらでも選べるから。
- ・積極的な理由は無いがあえて答えるなら良かった。
- ・女性に生まれてないから女性の幸せや不平不満が良くわからない。
- ・男性に生まれたかったと考えたことが一度もないから。
- ・以前は良くなかったと思っていましたが、主人に会い、素晴らしい子どもたちに出会えてよかったです。
- ・今が幸せなのでこれで良かったと思う。
- ・子どもを産めるのは女性だけだから。
- ・束縛されることがない。
- ・今のように男女平等がいきとどけば、応用のきく女性に生まれたほうが良いから。
- ・特に良かったと思わないが、女性に生まれて、良かったと思えるように生きていきたい。
- ・よくわからない。(2人)
- ・周りの援助、優しさや愛情を男性よりも受けやすいから。
- ・とくに困ったことはないから。
- ・そう思えるよう、努力してきたと思う。
- ・子どもを産めること、いつもきれいでいることに興味があること。
- ・子どもを産む自由があること。
- ・今の夫と出会えたから。
- ・つらいことも多かったが今は自分の生きかたが好き。
- ・少なくとも不満に思うことは特になし。
- ・特にありません。これからも自分は成長しなくてはと思います。
- ・嫌だった時もあるけど、今の自分で頑張ろうと思えるから。
- ・現在社会で働いているが経済的にも自立していくのは大変。男社会の中で、男性の方がもっと苦しい立場の人が多くはないかと考えるため。また、女性の方が、友人や趣味など色々なことにチャレンジしやすいと考えるため。
- ・嫌だと思わないから。子どもを産めたから。
- ・男女差別を差別される女性側、当事者の立場に多くなって考えることができるから。障害者差別等は男女とも自分もそうなる可能性があると考え、男女差別だけは男性は女性として考えることができない。
- ・女性として人間を楽しんでいる。
- ・子どもを産むという経験ができたから感激を得られたことは女性に生まれてよかった。
- ・すばらしい子どもを持てたから。

- ・好きだから、うれしい。
- ・男性に比べて仕事に縛られることもなく、ある程度生き方の選択肢があるから。
- ・女性より。
- ・女性というだけで逃げる事が出来る場合も多い。
- ・男性だと弱い部分を見せにくくなると思うので…(たぶんカッコをつけてしまう)
- ・選択肢が多いから。
- ・取り上げて言うほどのものはない。
- ・女が好きだから。
- ・結婚もしてなくて子どももないが、今の性で満足してる。よかったと思っている。
- ・母となれたこと。又、自分の女としての感性が好きである。
- ・子どもといれる。
- ・女性向けの服、靴、バッグなどおしゃれが楽しめる。
- ・好きな異性に巡り会え、子を持ち共に育っていけるから。
- ・子どもが産める。(21人)
- ・別に不自由を感じたことがないから。
- ・どこでも寝れる。
- ・弱くても許されるから。
- ・男性に有利な社会だから。
- ・女性としての生きがいややりがいがあるから。
- ・男性のように「性」で支配されない、広く浅くで無く、ひとりのひとを深く愛することが出来る。
- ・仕事上の差別はありましたが、良くなかったとは思わない。
- ・妻と子どもに恵まれた。
- ・子どもを産むことができる可能性があるため。
- ・どちらでも幸せであれば良かったと思う。
- ・男性は仕事など社会的立場で責任が大きい。
- ・男性よりも自由がある気がする。
- ・子どもを産み育てることで自分にとっても生きている意味があった。
- ・肉体的に強くなりたいとは思わないから。
- ・今の方が多少充実できていると思えるから。
- ・今までに特に男性を羨ましく思ったこともなければ、女性であることを嫌だと思ったことがない。与えられた性各々に良いことも悪いこともあると思うので与えられた性を精一杯生きたいと思う。
- ・男性はめんどうくさそうだから。
- ・お洒落や化粧などが好き。女性として今が楽しく幸せなので。
- ・色んな面で守られていると思うから。

- ・生理が無い。外界からの圧力が少ない。
- ・女性に性虐待をせず済んだから、もし男性として生まれていたら犯罪者になっていたかもしれないと思う。
- ・子どもを産み育てることは男性には出来ないから。
- ・女としての弱さや社会的位置には不満だが、母親としての喜びは大きいものである。
- ・特に女性に生まれたから良かったのではないが、女性に生まれたことに不満はない。
- ・結構おもしろい。自由でもある。
- ・結婚してからというものつらいことが多かったが（男尊女卑の夫との間で）我が子を産み育てる性というものは、やはり男性では考えられない。
- ・出産・育児という「仕事」に打ち込めるから。「仕事」→義務感のみからの言葉ではありません。
- ・男性と比べ気楽な部分があるので。
- ・子どもを産み育てる楽しみを味わった。
- ・好きな人と結婚し子どもを産み育て、家庭を妻、母の立場で守っていくことが今のところ出来ている。
- ・子どもへの愛情を知って、人に優しくなれた。
- ・子どもを産み育て、母になる喜びを知った。
- ・子どもを産むことのできる性だから（可能性のある）。
- ・子どもを産む喜びを知ることできたから。
- ・今の境遇で何でもできるから。
- ・楽しみも多いし、男性よりも甘えられる。
- ・母としての幸せを体験できた。
- ・私の知る限りでは、現実を見て生活している、賢い男性は数少ない。
- ・子どもに恵まれ現在幸せであるから。
- ・女性であることに別に何の不自由もないから。
- ・自分で決めれるもんじゃないから。
- ・現在が幸せだと思えるから。
- ・子どもを産めた。(25人)
- ・自律は自己実現して生きていける。
- ・理屈ではなく、イメージから（外見の）そう思う。
- ・DV被害という悲しい現実はあるものの母親になれてよかったから。そして女の方が生命力が強いと思う。
- ・特に理由はありません。
- ・男のほうが肉体的にも強く、楽で自分の好きなことができるので。
- ・社会人として自由度が高いから（男性はまだまだ「主人」になったりまた勤めたりということが難。
- ・子どもを産む経験ができた。色々な差別はあるが、「女」としての体験ができたから。
- ・子どもを産め育てられる。おしゃれなどもしやすい。

- ・男女共同参画社会をめざして女性が声が出せる時代に入りつつある。
- ・女として不自由を感じることもあるが、色々な経験や挑戦をする現在の世の中では、男より良いこともあると思う。
- ・女の方は色々大変そう。
- ・日本にいる限り、あらゆる面で男性が優位だから。
- ・性格があっていると思うから。
- ・男でいる方が何かと自由に思える。
- ・あらゆるスポーツを楽しめるから。
- ・女性ほど色々なことに気を使わなくて良いから。
- ・社会構造が男性にメリットがある様に出来ていると、度々感じるから。
- ・今までの人生に、それなりに納得できているから。
- ・社会的には男性の責任が強く、それに縛られず、仕事、家系などにおいて、自由に生きれるから。
- ・出産を通して、自分の存在を確認できた。
- ・自分自身、女性として自由に生きているから。周囲の男性の方が男性であることによって、不自由であるように感じる。
- ・現在、不幸せだとか、不都合だとかということを感じていないから。
- ・子育てにより生命の尊さを知ることが出来た。
- ・良かったとも言えないが、どちらか1つといえば。
- ・女性として直面すべき問題を主体的に自分自身のこととして捉え、自分の頭で色々な事考え女性特有の問題について自分自身の意志を持つ事が出来たから。男だったらこうはしなかったと思う。
- ・今の自分が好きだから。
- ・今の夫婦間、家族間の自分の在り方に満足しているため。
- ・子どもを産んだことで、特にそう思いました。
- ・だんだん女性が社会に出始め、これからの可能性を秘めていると思う。子を産めるから。
- ・女性としての特性を活用できる。
- ・社会的には不自由であるが、それにより女で得をすることが多い。
- ・男女双方ともに損得はあるだろうし、現在の性を自ら卑下する事もないから。
- ・子孫を残す、選択が出来るから。
- ・今の生活に満足しているから。
- ・女性の人間関係はつらいから。
- ・現在幸せにしているから。
- ・特にながら現実女性として生まれてしまっているため。
- ・志が低いと言われるかもしれませんが、私の生き方には女の方が楽だから。
- ・女性の方が生活を支える責任がやすい。

- ・自分の子どもに出会えてよかった。(産むことができた)
- ・女性に生まれたほうが豊かな人間関係を築けたり、潤いのある生活を求めたりして精神的に良い人生を歩もうとするから。
- ・母親になれたから。
- ・女の役割を充実しその中から幸せを感じたい。
- ・現在の日本で女の方が生きやすい。私としては。
- ・子どもとよく話ができる。
- ・現在の自分が男でよかったと思うだけです。
- ・男にはなりたくないから。
- ・女性の方が自由に生きることができる。
- ・何か良かったということではなく、女性ということに不満を感じていません。
- ・女性でなければ味わえない喜びをいっぱい知ったから。
- ・この年まで生きて、不都合なく良いパートナーにも恵まれている。
- ・子どもに対する愛情の確認。
- ・子どもを産み育てることにより、自分自身も成長できるから。
- ・結婚後専業主婦になれば無理に働かなくともよいから。
- ・子どもを産む、おっぱいをあげるということは女性にしかできないことだから。
- ・今の状態では、女性という立場で色々な形でチャレンジできる。
- ・気楽に昼寝ができる。
- ・楽だと思う。
- ・支える側の性質だから。
- ・不満に思うことが無いから。
- ・やりがいがある。
- ・今の自分の能力であれば、日本社会の現状では良かったと思う。もっと秀でたものがあれば、男性の方が良かったと思うが。
- ・何の不自由も感じなかった。
- ・自由で解放されている。生きがいがある。
- ・家庭の大黒柱にはなりたくない。
- ・仲良しの友人をもっているから。
- ・ない。
- ・思春期の頃は社会的制度などで女性であることを拒否していましたが、現在は出産ということも一つの経験だと捉えれば、男性よりより多くの経験をする分この性でもいいと思っています。
- ・子どもが一番かわいい時にずっと一緒にいられた。家事、育児が一段落つけば趣味に熱中している時間が作られる。
- ・女性として自分は考えられないから。



- ・子どもを出産した時（母親になった）至上の幸福感を感じました。
- ・男性よりも束縛されることが少ない。
- ・幸せに人生を送れたから。
- ・子どもを産む幸せを実感できたから。
- ・今までの自分の生き方に満足しているの。
- ・趣味や嗜好が女性的なので。
- ・与えられた自分自身に感謝することから全てが始まる。
- ・私のバイタリティなどは現代の社会では、男性であったほうが、生かされたであろうとは思いますが、「出産」を経験し、それを経験できたことだけでも、私の人生にかなりのプラスになったし、母親というこの世でおそらく最もすばらしい職業に就けたことを誇りに思う。女性でなければ決して母親にはなり得ない。
- ・まだ、社会人ではないからかもしれないけれど、今まで割と女性だから得をするようなことが多かったから。
- ・出産、子育てにおいて大きな役割を担っている。
- ・母親（または女性）にしか経験出来ないことをしてきて（出産など）女に生まれて良かった、と思う。
- ・子どもを授かったのは女性だからこそだと思う。
- ・女だから旦那様と結婚できたと思う。
- ・私はDVの家庭で育ちました。強者（父）の卑劣さ、弱者（母）のしなやかな強さをみていたから卑怯者（父）の性と同じでなくてよかった、とずっと思っていました。
- ・女同士話が出きる。分かり合える人がいるから。
- ・妻と仲良く唯の一度も喧嘩しないている。
- ・今の社会では女性の方が気楽でいられる。でも男性になってみたいと思うこともある。（大きな事が出来る）
- ・仕事も家事も一通りできるし、自立していけると思う。
- ・精神的にも人間的にも尊敬する。パートナー(男性)に出会えたため。
- ・お互い理解があった結婚生活だったから。
- ・子どもを産む、育てるという体験をし、悩みも多いが自分も成長できる。仕事をしながら充実した生活。
- ・世間で男がするものと思われていることが性に合うから。
- ・現在生活が充実しているから。
- ・生を受けたことに感謝するが性の区別ではわからない。
- ・女性の生き方も自由になってきたので。
- ・もし男だったら戦争に行つて現在はなかったと思う。
- ・出産の喜びを体験できたから。
- ・特に理由はないが、他性でもそれなりによいことはあると思う。
- ・悪いことは悪いと言えるようになってきた今現在だから。
- ・母親になったことはとてもうれしい。
- ・生きていってすばらしい。見て食べて言葉を喋れて。

- ・経済的負担や責任が軽いから。
- ・子どもを妊娠、出産、育児の楽しみの喜びは男性では味わえないもの。
- ・子どもを産み育てることは至福の喜びでした。
- ・子どもを産み育てる喜びを知って楽しめる。
- ・女性にしかできない仕事があるから。
- ・男性は嫌いだから。
- ・子どもを産むことができる。男性のような責任は重すぎる。
- ・家庭内での母親としての役割に満足しているから。
- ・可能性をためせる。女としての生き方を考えられる。
- ・100%良いわけではないのですが、発想や考え方は現代の社会では女性の方が自由だと思うから。
- ・社会的な責任が男性より低いので失敗を恐がらないで色々な事に挑戦できる。失敗のリスクが低い。
- ・女性だからいやな思いをしたということは感じないので。
- ・自分の生き方に自由度が高いと思う。家庭を持っても仕事をする選択は女性の判断にある。男性は家計のため仕事をやめることは難しいと思う。
- ・社会的な規則が男性よりも自由であること。
- ・男性があまり好きではないから。
- ・私生活での自由度が高いので。
- ・就職時（72年）は女性の就職は今以上に厳しいものだったので、女性であることは、一石うったが、今は女性であることは特に嫌と思わない。
- ・男性より社会的な束縛をあまり受けず、行動できる⇒社会的な価値観の外側に置かれているから（もともとあまり期待されていない）。
- ・優遇されていると思うことがあるから。
- ・弱肉強食の社会で一生働いていける自信がないので。
- ・子どもを授かった。（2人）
- ・女性に比べ体力的ハンディが比較的少ないと思われる。
- ・36歳まで自由でいれた。
- ・より自由に行動できるから。
- ・男より色んな面でお得だ。おまけももらえたり…。
- ・積極的な理由として～が良いとは挙げられません。現在の自分自身の存在を受け入れられている、という状況が性もその他条件も含めて「良い」ということだと思っています。
- ・良くないとする理由も特にない。どちらも言えない、と言うのが正直なところ。
- ・思いやり、細かいところに気がつく。
- ・子どもを産むというすばらしい経験が出来るから。
- ・母親になれたから。男性よりも色んな面で社会的に束縛されることが少ない。
- ・子どもを産み育てられるから。自由な生き方が選択しやすいから。

- ・男と言うだけで、社会的・会社的・親戚付き合いに甘えられた。→それに甘えてしまって、彼女に負担をかけた。
- ・生命をはぐくみ、産み、育てることが出来る。それだけではないけれど、この時代女の方が生きやすいように思える。
- ・色々。
- ・母親になれたこと。(2人)
- ・色々な選択がある。
- ・女性ということで束縛を受けて経験がない。
- ・妊娠、出産、育児の喜びを知ることができる。
- ・わからないけど現状に不満はないから。
- ・嫌と思わないから。
- ・楽しいから。
- ・結婚後経済的にゆるせば仕事をしなくてよい。子どもを産むことができる。
- ・現在の自分に満足しているためで女性としての自分を知らない以上特に理由はあげられません。
- ・気分的に楽、一生働いてもいいし、働かなくてもいいし。
- ・なんとなく。(3人)
- ・子どもを産む喜びをもてる。
- ・出産体験はとても感動的で女であってよかったと思った。
- ・子どもを産み育てた自分も成長することができたから。
- ・助産婦という仕事につけたから。また、その職業のおかげで子どもをうんでみたいと思うようになり産める性でもあったから。
- ・女だから夫と出会えた。男だったら出会ったとしても恋愛に発展する確率が低かったと思うので女でよかったと思う。
- ・助産婦という仕事をしていて赤ちゃんやお母さんと接しているとき母性愛的なぬくもりを感じることができるから。
- ・女の方がいろいろ便利。
- ・男にはできないことが経験できる(妊娠、出産 etc.)。
- ・産む性を持っていることが誉れであると共に女性というある程度守られるべき性であることに甘えられるから。
- ・母性をすばらしいものと感じるから。子どもが産めるから。
- ・男性に比べて色々なことを経験(妊娠、出産)できるから。ある意味で、女性は強いから。
- ・子どもを産み育てられる性だから。
- ・女性ならではの職業につくことができたから。
- ・自分の性があるからこそ現職業につくことができたこと。子どもを産み育てることができたこと。
- ・そのように生まれついてきた。
- ・自分が満足しているように努力しているし、男性に生まれたことがないので比べようがないから。
- ・no idea

- ・子どもを産み育てる機会を得られたことは何ものにもかえがたいほどの経験になっているから。
- ・現状では男は家庭を養うとい使命があり、女の方が自由。
- ・選択（人生における）の幅が広い。
- ・100%よかったと思うわけではないが、そこそこによかったと思う。おしゃれのしがいがある場面などでよかった。
- ・性にはこだわらない。生まれてきたことその事が良かったと思っているから。
- ・特に性本能的部分について偏りの目立つ男性よりはましかという消極的理由。
- ・男より精神的に楽だから。
- ・力いっぱい企業戦士として働いた。
- ・男性よりも社会的束縛が少ないように思うから。
- ・子どもから一番愛されるのは母親だと思うから。
- ・子どもを産む選択権がある。
- ・自由な時間があり、仕事も選べる。
- ・精神的に弱いので夫に大部分依存しています。
- ・どちらかといえば家族を養う責任もなく、現在主婦育児の真っ最中ですが、子育てをしながら毎日楽しく過ごすそれが私の理想だったから。
- ・男というプレッシャーを受けずにすんだ。
- ・子どもを産み育てることができるから。(5人)
- ・子どもを産むことができる。オシャレができる。
- ・子どもを産み育てる喜びがある。いいか悪いかわからないが生活費を稼ぐことに責任がない。
- ・子どもが自分の体の中に何ヶ月間かいて生まれてきたそのときの思い。
- ・子どもを産み育てる幸せを感じられるから。
- ・気楽に過ごせるから。(裏返せば個人として認められていないことにつながりますが…)
- ・精神的・肉体的に男とに生きることは想像できない。
- ・自由がきかないけれど、気楽である。
- ・男性の方が精神的に弱く、何かへのあるいは誰かへの依存に傾きがちのように思えるから。
- ・苦勞も楽しみも男女それぞれにあると思うから。
- ・女は色々な事で不利だけでも「男に産まれればよかった」とは考えたことないので。
- ・自分の人生に満足している。
- ・ちやほやさされ、ある意味で楽（気持ち）に生きていける。
- ・好きな人の子どもを身ごもり「出産」という大きな経験をすることができたから。
- ・妻として母として明るく生活でき、女性としてむいている性格だと思う。
- ・女は大変。
- ・特にナシ。女性でもよかった。

- ・男性を見ていろいろ大変だなあと感じる人が多いから。女性の方が生きていく選択肢の自由度が高いから。
- ・子をさずかる喜びを味わうことができた。
- ・現在の生活を豊かにしていけばよいので（体験のない他の性とは比較できない）。
- ・女性の立場にたつてもものを見ることができるから。
- ・男がよいとも考えられないから。
- ・子どもを持ち人生の最大の勉強をした。
- ・結果論であって、どちらでも満足していると思う。
- ・どちらかといえどあつて、深く考えたことはない。
- ・男としてかなり無理して生きてこられたから。
- ・自由に生きることができるから。
- ・私の時代は夫が主導権を持ち、夫に従う世間だったので外で働くわずらわしさもなく、子どもを自分の思うように育てられた。今では2人きりで現代風に生きている。
- ・女性であることが好きです。育児も家事も好きですし、手芸やおしゃれや楽しめることが多い。
- ・苦しいことの方が多い。でもたったひとつ子どもを産めたから。
- ・男性に生まれてたら、どんな風か、イメージがぜんぜんわからない。
- ・食事とかをよくご馳走してもらえる。
- ・出産が体験できる。人生が豊かに送れる。
- ・別に嫌だと思つたことはないから。
- ・好きなことをやつて、許してくれる範囲が大きい。
- ・子どもの育児に深く関わられた。
- ・生き方に対していろいろな選択肢があるから。仕事・結婚・子育てに自己主張できるようになった。
- ・子どもを産めたから母としての喜びを感じた。
- ・女性でも男性でも生まれてよかったと思います。特に女性は子どもを産めるので。
- ・20年間、格闘技を学ぶことができた。
- ・理由は漠然としていて、答えがでてこない。
- ・特にナシ。(2人)
- ・経済力がなく夫にすべて依存している状態だから。男性に生まれていると生活できてない。
- ・現在は子どもを産み育ててよかった。
- ・差別されたりする場面もあるが、自分の意志がはっきりしていればどちらの性でも良かったと思つている。
- ・仕事も子育ても経験できたし、女の方が自由があるような面もあるから。
- ・社会の死角をのぞけたこと
- ・職場や日常生活において「男だったらなあ」と悔しい思いをしたことはなかつたし、「男だから、女だから」に縛られていないので、生まれてきた性をそのまま受け入れられる。

- ・もしも男性に生まれていたら、男社会でバリバリにやっていく自信がない。
- ・離婚はしたが、子どもを得られ子育ての大変さ、楽しいことを味わえた。
- ・女性のほうが自由で、楽しみが多いから。
- ・日本ではやはり男性優位の社会システムとなっているから。
- ・生きていく選択肢が広がりつつある現代は、女性のほうが楽しいのでは、と思います。
- ・女性の体が好きだから。
- ・男性のようにやせ我慢する必要がない。
- ・現在、自分を取り戻し、女性として生き生きと生きている実感がある。
- ・子育ての難しさはありますが、子どもを産むことは女性だけ。
- ・生む性だから。
- ・化粧など不要で生活できる。
- ・男性はいやなことがあっても、仕事を辞めず、家族を守り養っていくことが大変。
- ・自由に居心地よく生きられているから。
- ・我が子を出産でき、母親という立場で子どもの成長に関与できる。
- ・世の中で男がある程度の収入を持って生きるには大変な苦勞がいる。ミーハー的かもしれないが、おしゃれを楽しみ、楽に生きれるのは、女性かもしれない。
- ・わからない。(2人)
- ・今の性に特に不満はない。
- ・子どもを産むことができ、成長をみることができる。
- ・これといって思いつかないがたとえ女性に生まれていてもきっとよかったと感じると思う。
- ・おしゃれ、化粧もでき、女性ならではの楽しみがある。
- ・男の役割は果たせそうにない。
- ・子どもを産み育てる事によって自分の価値観の見直しができた。
- ・社会的責任が少ないほうに思えるから。
- ・子どもを授かることができるため。
- ・子どもが産める。かわいがってもらえる。男性以上に頑張れば、男性より出世がはやい。(業種にもよるが)
- ・男ほど我慢を強いられずにすむ。
- ・楽だから。
- ・昔に比べると女性の意識や社会性が向上している。また、自分の子どもが宿って成長がみられる。
- ・女性としての差別は感じることはないですが、女性としての楽しみ、喜びを感じているのでよかったと思っています。
- ・今の自分が好きだから。
- ・それなりに楽しく幸せだったので。

- ・お洒落など、女だから楽しめることもたくさんあるから。ただ、生まれ変わるなら、別の性も体験してみたい。
- ・出産育児を通じて、自分を見直すチャンスがあった。
- ・3人の子どもに出遭えたこと、育てることができたこと。
- ・子どもを妊娠・出産することができたから。
- ・この年齢まで幸せでしたから。
- ・生命を生み出せるから。
- ・子どもという時間が長く持てる。自分が男性として生きるには、気が小さく、苦しいように思う。
- ・自分のやりたいことを自由にしてくれたから。男性は社会的にまだあまり、許されていないと考えるため。
- ・よくなかったとは思わないから。次に生まれてきたらどちらでもよい。
- ・子どもを産める。おしゃれができる。
- ・今、現在、女性にしかできない仕事をしているから。
- ・楽しむことができている。
- ・子どもを産み、育てることができ、子どもも自分を一番好きでいてくれる。
- ・だいたい、男性はプライドばかり高く、いやな奴が多いように思う。男性不信だからかも。
- ・社会的弱者として扱われる時には、「普通」なら、気づかない問題にセンシティブになれるということ。色々な社会問題に直面し、解決する様、ポジティブに行動できるという面でよかったと思う。
- ・「女である」ということは、損も多いが、それでも男性より、人生における選択肢、自由度は高いと思えるため。
- ・社会にもまれていくだけの精神的な強さがない。
- ・今の現在の自分を認めつつあるから。
- ・若い時は男の性がいいと思っていた。今は、人生を楽しめる女の性でいい。
- ・育児にかかわれたこと。3人の子どもを育て上げたことは幸福。
- ・私を大切に育ててくれた両親に感謝します。そして、2人の子どもを恵まれたこと。
- ・昔の女性は、苦労も多かったが、現代ではほぼ、男女平等になり、むしろ男性の方が、つらい時代だと思うので。
- ・出産、育児を経験することで、自分自身をみつめ直せるようになった。
- ・子どもと産んで育てたという事が自信につながっている。
- ・女性の役割は非常に重要で、やりがいがある。
- ・今さら、仕方がないので考えたくない。
- ・今の生き方に不満はないので。
- ・出産という体験が出来たから。
- ・母親になれたから。(2人)
- ・男性になったことがないのでわからないが、女性であることが男性よりも不満であると思ったことはあまりない。

- ・決断力が乏しいので（逃げかもしれない）。
- ・今は良かった。仕事、子育ての両立ができた。離婚前は良くなかった。女に生まれたために暴力を受けた。
- ・自分に与えた性だから。
- ・社会因習的に何かと便利である。
- ・現在の性とは別の性になりたいと思ったことがないから。
- ・出産し、子育て楽しかった。体験できてよかった。
- ・子どもを産み育てることが出来ているから。
- ・社会制度、慣習など女でなければ経験できない「ツライこと」を身をもって知り、考えることができた。
- ・子どもを産むことができた。また、女性という性に対する差別の中から見えてくる人間としての深みを味わうことができた。
- ・不妊症を乗り越えて子どもという分身を授かったから。
- ・今は楽しい。
- ・これまでの日常生活の中で自分が選択できなかったことがないから。
- ・生き方の選択肢が多いから。
- ・自分のやりたいことができているし、女性としても一応満足している。
- ・今の生活に対し、性別が問題となっていないから。
- ・人を慈しむことがより深いから。
- ・今の生き方で不自由していないから。
- ・男性はやはり、妻子を養う必要があると思うから。
- ・競争は苦手。対等な関係でつながりやすい。泣いてもいい。
- ・特に支障がないから。
- ・母性を発揮して、子どもの成長に親としての役割を果たせるので、家事の中心的役割の中に創意工夫ややりがいがあるので。
- ・女性の位置も見直され、向上しつつあるから。
- ・やりたいことを仕事に持ち込める。
- ・子どもを産めたこと、子どもとの関係は夫と子どもよりいいと思えるから。結婚するまでは男に生まれたかった、と思っていた。
- ・特にないが良かったと思う。
- ・出産は女性にしかできないので良かった。
- ・男女差別のあることにはNOだが、自分自身であることに満足している。
- ・どちらに生まれていても、それなりに楽しくやっていたと思う。特に女性が得と感じられることもない。
- ・女の人にしかできない子どもを産むことを経験できた。
- ・妻と恋に（スムーズに）落ち、パートナーとなれたから。（私が女であつたらもっと苦勞していたと思う）
- ・子どもを産むことができたから。



- ・今まで自分が男だったらと（よかったのに）思ったことがないので。
- ・今までに女性だからと言う理由で不利益を被ったことがないから。
- ・幼少の頃は嫌だったが今はそれを受け入れて生きると言うことと思えるので。また女も男もそれぞれにしんどさがあるとわかったので。
- ・行動範囲が広い。
- ・男らしさを背負うデメリットより、自由さが勝る。
- ・現在の性に生まれてこなければよかったことと思ったことがないので、自分の性について深く考えたことがない。
- ・女性ならではの華やかさがあるから、また与えられるから。
- ・男にしかできない遊びができるから。
- ・結婚して子どもを産み、夫と子どもからたくさん学び、いっぱい幸せをもらいました。
- ・仕事したければ仕事ができるし、家庭に入りたければ家庭にも入れる。
- ・選択できないものだと思うから。どちらでも肯定できると思うから。
- ・自由だから。
- ・責任もあるが基本的に自分で色々決められる。
- ・社会的プレッシャーが少ない。
- ・今の人生で良かったと思っているので。
- ・夫と会えたこと。
- ・結婚はしなくてもさほど気になることはない。
- ・妊娠、出産は女性にとって一大イベント。体力、気力ともにしんどい面があるが生命の鼓動を感じられたことはすてき。
- ・出産、育児を体験できた。
- ・子どもが持てたので。それだけ。あとはマイナスとしか思わない。
- ・自分に満足しているから。
- ・家族を養う義務がない。自由に生きられる。
- ・現在は社会構造として男がオス力を持つようなシステムになっている。オス力なんか持ちたくないし、行使したくないから。
- ・生き方に多くの選択肢があるから。
- ・自分に正直に生き、目標を実現していつている。
- ・夫運が良かったから。
- ・自分の趣味などに費やす時間を多く持てている。
- ・慣習による制約が少なかったから。
- ・出産、育児を主導できる。
- ・男性として生きていくほど強くないから。
- ・これまでの人生に概ね満足しているから。

- ・毎日を精一杯感じて生きれているから。
- ・性に関する様々な問題に敏感になれる。
- ・被抑圧者として様々な立場に寄りそう事ができる。かっこいい。
- ・抑圧者の側にたたないで済む。
- ・今の自分に満足しているから。
- ・「生きにくさは」を感じる分、思うこと感じることも深まるから。
- ・女性に生まれ、男性に生まれたことがないから。
- ・出産を通して貴重な体験ができたから。
- ・仕事がしやすい。
- ・根本的には、どちらに生まれようと、育つ環境によって大きく変わると思う。強いて言えば子どもを生むことのできる性であったから。
- ・特別に意識していない。
- ・ワークショップなどに仲間が多いから。
- ・女性の方が男性よりファッション的にも自己主張できる（オシャレとか）。それに現在は幸せなので不満はない。
- ・外にでて仕事したり、遊んだりすることが好きだから。
- ・母として5人の子どもが育てられた。
- ・自分の性は与えられたもの。それを素直に受け入れたい。
- ・男性は責任が重い。ただし、今の男性はとてもかわいそうだと思う。
- ・子どもを育てていく過程をしっかりとみられた。
- ・自分の女性という性に誇りが持てるから。
- ・強いふりをしなくてもいいから。
- ・今の社会ではまだ男性の方が競争社会に生きざるを得ないように思うので。
- ・私は夫が大好きです。その夫とこうして同じ家で暮らせることをとても幸せと思っています。

#### 問5 現在の性について ②よくなかった理由

- ・女だからと差別されたり、経済的自立が困難。
- ・今の日本は男中心の社会である。
- ・しんどいから。
- ・男の方が自由に気兼ねなく外出できるから。
- ・自由がない。もっと一人の時間が欲しい。
- ・頭の回転が悪い男が社会の上にいる。
- ・男性の方が自由に生きていけるような気がするから。
- ・私の年代だと女性の負担が大きい。共働きをした時。

- ・不自由なことが多い。女性差別の問題は、なかなか女性にすら理解してもらえない。
- ・出産や育児で仕事をコンスタントにできないため。
- ・両親、親類皆北九州出身のせいか男尊女卑の考えを洗脳されたと思うから。男に尽くして当然という部分で。
- ・結婚前は良いと思っていた。結婚は「嫁」という言葉で姑にいじめ続けられるので。
- ・セクハラやレイプの対象になりやすい。
- ・女でよかったと思います。家族として生きれるから。
- ・男性優位の社会で自己実現が非常に困難。
- ・漠然とそう思う。
- ・女は男より能力がないと思われていると思う。
- ・仕事だけに集中できる。
- ・女は損と思うことがしばしばある。
- ・女性は虐げられて男尊女卑であるから。
- ・父が男を望んでいた。20代後半の女性は就職しづらい。
- ・女性に生まれた喜びを感じることがないから。
- ・色んな服が着れる。
- ・女はいつも弱い立場にあるので、身を守らなければいけない。(弱肉強食ということ)従わなければいけない男の社会である。
- ・今の自分が好きだから。
- ・力では絶対に男に負けるので。
- ・結婚後は夫への忍耐と服従が優先。自分をみつめることが全くできなかった。
- ・強く、雄雄しく生きなくてもよいから。
- ・男であれば最強く生きられると思うので。
- ・社会的に弱い。
- ・今の世の中では、(社会全体として代わりつつあるが)まだ、男と女の分担ができてしまっていることが多く、(特に結婚してから)「女性だから」という事で不満が多いため。
- ・将来の事とか女性よりも男の方が負担が大きい。
- ・体力的なものを含めて思っていたことをできる。
- ・別の性についてまったくわからないのでなんともいえないが良かったと思う。
- ・社会的制約が多すぎる。
- ・家のことは全て女性の責任であるから。
- ・DVの被害者になったから。(2人)
- ・女だからこうでなければならぬ、といつも頭から押さえつけられてきたため。
- ・日本では女性の地位が低い。
- ・男尊女卑の考え方の残る日本では、女性は何かにつけて不利である。

- ・大学進学、職業選択の際、明治生まれの両親の元、制約があった。
- ・主人に束縛される。
- ・女性は結婚すると姓が変わります。苦勞した。
- ・世の中は何もかも女に悪く、男に都合良く出来ている。
- ・男に振り回されたくない。社会の差別を受けたくない。(男であれば絶対に女に振り回されたくない等思う。性にこだわるのがおかしい。
- ・男性の方が偉そうにしている。
- ・女と言うことだけで馬鹿にされる。見下される。まだまだ男社会だから。
- ・幼い頃から「女の子だから」という理由で行動が制限されており、それが今も続いているから。
- ・夫が「オレは仕事なんだ・・・仕事が忙しいんだからな」と嘘をいっては女遊びをしているのを見てると「男は勝手気ままにできていいな」と考えます。
- ・女も男も大変だけど、男だったらもっとやりたいことができるなと思う。
- ・長男の嫁として色々なしきたりを覚えさせられた。
- ・束縛が多い。
- ・現在はそう思える。夫が女とはこうあるべきだという強い信念をもち、そうでない自分があるので。
- ・今いる地域では、まだまだ女性の地位が低いと思われるから。
- ・男性の方が生きる幅が広いと思う。
- ・体力的、社会的に弱いから。
- ・女性というだけで、社会的、経済的に差別があるので。
- ・男性に生まれてきたほうがよかった。女性はやはり、弱い(社会的、経済的にも)。
- ・女性の発言は軽視される。
- ・結婚によって仕事や今後の人生が束縛されてしまうから。
- ・女の癖に……という社会の目がいつもわずらわしく感じられ、女だから・・・と母、嫁、妻という立場で何もかも我慢をしなくてはならない。
- ・女だから、女のくせに、女はそんな事をするものではないなど我慢の連続。
- ・就職差別、“女の子らしさ”を押し付けられる。
- ・女性であるという事で小さい時から何とか人生の上で損をしたような気がする。(離婚も子育てでも責任が重い)
- ・何ととっても男の方がよい。例えば体力的には勝つ。
- ・いろいろな面でふたりだと思うから。
- ・今回のアンケートに答える理由が暴力でひどい目に合って受け身でいなければならなかった返せない女の力。
- ・自由がなかったように思う。
- ・めざめるのが遅かったのですが、女だから云々と制約をうける。感じるが多すぎて自分の意思と言うものをもてなかった。
- ・力では絶対夫に勝てないから。

- ・ 社会には歴然たる女性差別がはびこり、常に被差別者たる自分とまた同時に加差別となっている自分も否定できないという、アンバランスを抱えている。
- ・ もっと仕事も社会的地位も欲しい。
- ・ 結婚生活においてあらゆる面で夫から暴力を受けた。
- ・ 職業に差別。金額も差別がある。結婚してから特に思う。
- ・ まだまだ女性の地位が低く、生きにくいから。
- ・ 現代ではやはり女性と言うだけで不利なことが多いので。
- ・ 未婚でいることについての偏見が男より強い。プロ野球選手になれなかったいうのも少しあります。
- ・ 男性優位の社会だから。だんだんよくなってきたけれどまだまだ。
- ・ 女性が負担することが多い。
- ・ 男性社会という現実。
- ・ 結婚＝幸せという幻想を信じて結婚し、出産し、育児のため会社勤めをやめた。経済的には自立する道を断ってしまい、子の結婚が失敗と気付いた現在、どうすることもできない。仕事と家庭の両立できない(困難な)女性は不利と思う。
- ・ 男女平等とは言えまだまだ男性の方がえらいという意識が根底にあるように思います。(私自身の中にも)
- ・ 社会全体が女性を軽視するので嫌になりました。
- ・ 体力的に圧倒的に不利である。私や夫の親の世代は、「男尊女卑」の考えが根強く残っている。
- ・ 自分の思う生き方に進めなかった。
- ・ 女のくせに、女なんだから、と男からも女からも言われる。
- ・ 女の弱い立場をいやというほど思い知らされたから。
- ・ 母という重責、子どもに与える影響が最も大きい。女性は社会的にも身体的にも受け身の立場。
- ・ 非力なところ。
- ・ 男性は子どもを産まなくても良い。出産によって女性は仕事を制限させられる。
- ・ いわゆる「女らしい」性格ではなく、自分らしい生き方をすると社会規範から外されるから。
- ・ 夫に絶対服従の形をとらされているため。
- ・ 私が育った時代女性は良くなかったが、現在であればどちらの性でもよい。
- ・ 好きなことをやりにくい。
- ・ 人一倍の努力がいや人の何倍もしないと認められない。子どもを産み授乳することは捨てがたいが。
- ・ 男に生まれて欲しかったと育てられたからそうでなければ今の性でよかった。
- ・ 実際に夫は家事・育児に協力してくれるが周囲は夫婦の役割を期待している。
- ・ 女性にしかならない病気になったから。
- ・ 全てが男性優位社会で生きづらい(特に仕事)また、性的脅威(レイプなど)や妊娠などリスクが多いから。
- ・ 何かにつけ女はこうしなければならないなどと言われるからでも本当はどちらが良かったかわからない。
- ・ 女性というだけで、社会的差別があり、窮屈な感じがするから。

- ・母性は損をしているとか、女性であるだけで理不尽な扱いに遭っていると感じることがある。今の考え方は女性として生まれ、そのように（文化的背景に規定されたように）育てられ、教育された上での考え方、行動なので、この性で生きるしかないと思っている。もともと「もしも」と、ありえない規定不可能なことは考えても仕方ないと日ごろから思い、今をどう少しでも居心地良く生きられるかを考えている。
- ・女は絶対子どもを産まなくてはいけないと言われるので。
- ・現状ではよくない。女性としての不利益の方が多く感じられる。たとえば職場での待遇・家庭での家事育児の負担等。
- ・独身時代は自分の感性に自信を持ち、女でよかったと思っていたが結婚してからは理不尽なことがある。
- ・時に家事を忘れて仕事に打ち込みたかった。
- ・もっと社会に進出したい。
- ・男女平等とは言いつつまだまだ女が損をすることが多い。
- ・自由に選択肢を執行できなかった。
- ・生理がない。
- ・家事はあまり好きではない。
- ・損をする事が多い様に思う。
- ・昔はどちらでもなく、そんなことも思ってみなかったが、今になるといろいろな面で給料など、男の方がいいと思う。社会的にはまだ男社会なので。
- ・家庭、職場、社会的に、ありとあらゆる場で女性というだけで、差別を受けるから。
- ・仕事を含んだ様々な事に柔軟的にやれるので
- ・今の自分に満足しているため
- ・自分の能力を発揮したい。
- ・もし男性だったら、家庭の都合で仕事を辞めるようなことはなかった。社会的な立場を失った。
- ・子どもの時、いたずらされたので。
- ・もっと自由に暮らしたかった。
- ・女性だからといって劣っているように扱われ、人間として認められなかった（結婚生活において）。
- ・障害を持った場合、世帯主にはいろいろな減免があるため。
- ・幼い頃から男尊女卑の風土で育った。
- ・家事・仕事の両方、舅・夫の親族の面倒など大変だった。
- ・痛いことがいっぱいあるから。出産とか…。
- ・痴漢・ストーカーなどの被害によく合う。子どもの頃は教師、両親、クラスメートから女であることで、不利益を受け、職場でもそうであった。結婚してからは夫に虐げられている。
- ・女性というだけで家庭でも社会でも隷属を要求される現実ならば、次に生まれるときは絶対に男に思っている。
- ・四番目の女児として（長男長女次女がいた）女としてこの世に生を受けた時、既に親からの待遇は違った。一年半後に弟が生まれた。結婚後は夫の無理解である。
- ・社会世の中が、男社会である。仕事評価が男と同じにされない。
- ・配偶者の考えが女を馬鹿にした考えなので、配偶者が女に対して思いやりがあれば女性のほうがよい。

- ・家庭にしばられ、望む人生が生きられなかった。
- ・絶対男の方が全てにおいてよいと思うので。
- ・男女平等というたてまえはあるが、現実がちがうから。
- ・努力が報われず、無念。残り少ない月日に死の準備をしながら生活している。
- ・女だからと言って我慢させられることが多い。
- ・力が弱いというのが最大の欠点。かといって男になりたいとも思わない。
- ・女性ゆえに苦勞した。
- ・もし男性だったら、もっと自由に生きられるような気がして。
- ・男女の体力的差による上下関係が家族の中、また、自分の中に自然に出来、自分が弱い存在と思うところ。
- ・選択肢が少ない。
- ・もっと違う人生も歩んでみたいから。
- ・社会的に女性であることの方が、不利である。
- ・女性に生まれた事によってリスクが大きいと思うことがたくさんあるから
- ・日本の男社会において女性として制約されるものがあまりにも多い。
- ・自分を特に身体的に防御しつづけて生きなければならないから。
- ・なんとなく。
- ・男性に比べて制約が多すぎる。
- ・「女」の方が良かった、ということではなく、「男・女」の二分法自体が嫌。
- ・小さいときから、希望はすべて女だからと言う理由だけで親に拒否された。その上、女は馬鹿だと言われ続けた。
- ・就職した際に男性であると言うだけでどんどん仕事を任せてもらえていたから。
- ・女だからと言う理由だけで実家から独立させてもらえなかったの。
- ・女だからと言う理由でしたいことができないときがある。
- ・1人で生活するのに現在の性ではすべてにおいて不利なところが多い。
- ・子どもの頃から男の子に生まれたかったと思っていた。月経など女性には面倒なことが多いと思うから。
- ・子どもを産むことができるから。
- ・頼られる夫では何一つなく、何もかも私がやらなくてはならないことばかり。良い結果であれば当たり前と言われてきた。
- ・妊娠する機能があるから。
- ・夫に従うだけが嫌だから。
- ・社会から低く見られていると感じるから。
- ・中間の性がうらやましく思えるから。
- ・男の方が得。
- ・給料が低い。男に品定めされる。おばさんは相手にされない。

・損をする事が多いし、得たことがあまりありません。ぶすだから男性から迫害されますし。美人は歓迎するくせにとても悔しいです。



### 3 暴力意識

#### 問1 暴力前後での生活の変化⑬

- ・相手を憎み信じられなくなった。人間という動物を客観視するようになった。
- ・自分の体（多分弱い部分と思う）が痛む。精神的なダメージを受け体重が減る。
- ・現在は少し、自信回復してきた状態ですが、1年程前は生きること絶望感を抱いていた。
- ・集中力、持続力がなくなった。ボーとしていることが多く、印象や感情、思い出がはっきりと湧いてこない。
- ・簡単なことでも、自分には出来ないのではないかと思い、手につかない。（ずっと、主人に何をやっても「だめだめ」と言われつけ、その延長線上で殴られてきたので。
- ・友人などにこちらから電話をかけることが減った。
- ・子どもの頃理由（飲酒等）もなく、いきなりあればだし、めちゃくちゃに母と私に殴りかかってくる父に恐怖を感じ、そして理解不可能な人として見ていた。なぜか、妹は殴られず、母と妹から「私の」せいで父が暴れると今でも（父は故人）言われる。
- ・他人と接するときは遠慮がち。例えば同居の女友達の粗大ゴミ（和風ランプシェード、ランプ等のかなり占領域広い）、玄関先に置きっ放しでも何も言えないが、母に対してはいちいち腹が立つ、時には叩く、時には蹴る依然しなかったこと。
- ・家の中にいるのが不安で（夫と顔を合わせると不安）出来るだけ外での仕事（PTAやパートなど）するようにしている。家の中にいると何が正しいのか悪いのかわからなくなってしまふ。夫や姑に悪口など言ってしまう。
- ・家庭の中で笑うことが少なくなったり、会話が減った分、外でやたらと明るくなったような気がします。初対面の人とも平気で話が出来るよになりました。（これは年齢的なものがあるかもしれませんが）。
- ・生きていて毎日意味がないと思うようになった。
- ・子どもの行動にイライラしたりカッとなりやすくなった。すぐ怒鳴ったり、手を挙げたりして、後で“ハッ”と我に返ったことがあった。
- ・（今はいくらか被害の前に戻っていますが）自分は価値ある人間とは思えなくなった。すべてのことが自分が悪いと感じるようになった。暴力行為を思い出すような音、光、雰囲気などがあったとき。不安発作をおこすようになり、とても恐い思いをした。また、恐い夢を何度もみた（不安症、パニック発作、不眠で病院へかかった）。心的外傷後ストレスでつらかった。暴力をしていた（夫）の顔を直視できなくなった。自信が無くなった。一時的に（何度も）感情がショックでなくなった。
- ・能動的人間から受動的な人間に。30数年耐え難きを耐えしのぶ？忍びがたきを忍んで生きているうちにともすれば無気力無感動。人を愛することも信じることも出来なくなった。それでも生きる努力もしていないが自殺しようとも思わない。神か仏か加護を受け生き延びたい。夫はなくなった。
- ・依頼心がもたらなかったが、益々強まった。ガードしてくれるものが、何も無いという無力感が深まり、孤立していった。女であることに憎悪を覚えた。
- ・相手に対してびくびくすることが多くなった。けんかをするとちょっとした動きに反応してしまう。
- ・子どもの頃から親の暴力があったので「以前」「以後」に答えが適切かわからない。
- ・夜になるとたたかれたり、殴られたことを急に思い出し、眠れなくなる（不安になる）。
- ・言動の表現が慎重になる。
- ・とにかく恐かったのでパートナー（配偶者）が家にいる時は、出来るだけ動かない（掃除、洗濯、台所など）ようにしていました。掃除機の音がうるさいと暴れだす。食事の支度をしている時は、包丁が出ているので、危険だと思ったほどです。子どもとともに主人がいる時には、息を止めて生活をしていました。

- ・人の顔をうかがい、相手が不機嫌な態度をしていると自分が何か悪いことをしたかと心の中がパニックになり、いつまでもそのことで頭の中が一杯になってしまいます。自分が言った言葉で受け入れてもらえない時、そのことが、心配になってしまい、色々と考えてああいえばよかったとかとても気になります。
- ・相手（夫）や夫の父はどうして？あのような態度をとるのか考えるようになった（生育史など）。
- ・何かのトラブルが起きるとまず、自分自身を責めしまう。
- ・行動が制限するようになってしまった。と言うか夫から制限させられているような・あと無気力さが増えてきたような気がする。
- ・この人はどんな人だろうか第一に考えるようになった。全ての返事を先延ばし、あいまいにするようになった。時の過ぎるのを待っている。
- ・いつも人の顔色をうかがってしまう。嫌なことを我慢してしまう。言葉で自分が思うことやこうしたいと考えることをはっきり表せない。人とうまく話ができない。人間恐怖症（特に男性）⇒傍にいと緊張する。
- ・何事を行っても全て途中で邪魔されて達成できないと思い、全てにあきらめの気持ちが強くなった。
- ・暴力（けんかなど）を見ると悲鳴をあげたくなる。自分の感情がコントロールできなくなって人を傷つけたり、ひどいことを言っちゃいけないと思うと自分を傷つけたくなってしまう。（腕を切り落とそうとか）。色々な事に怯えてしまう。攻撃的になった。仕事を続けることができなくなった。
- ・現実から逃げている。空想の世界で生活しているようだ。優しい夫とかわいい子どもと楽しく幸福生活をしているように常に考えている。ポーとしているので怒鳴られる。
- ・積極的、行動的、友人関係多く、登山、旅行などけいこごとなどやおしゃれで楽しい生活を送っていたが（独身時代）結婚してから友人との電話、買い物、習い事、旅行、友人と会うこともすべてなし。消極的で夫の言うことにいつもビクビクして、いいなりで女中のような生活つまらない。図書でかたる図書だが、楽しい。夜寝るのも主人より先、寝ない。洋服など10年買ったことなし。デパート等いったことなし（10年）。
- ・暴力夫と離婚をしてから、顔の表情が明るくなった。積極的な性格になった。
- ・5歳の時に継父から性虐待、暴力を受けたのですが、それ以前にも実母からも言葉の暴力を受けて（身体的にも）いたので今の性格は、いつからのものなのかよくわかりません。
- ・人間嫌いになった。人間の欲というのが見えてきた。生きているのが面倒に思ったりする。
- ・人目を気にするようになった。恋人からの束縛から学校を休みがちになり、そのことについてクラスの人から、冷たい態度をとられ、友達づきあいをとれず、学校にいる時、どうにかとりつろう。（友達らしく話をしよう）として気をつかった（お世辞を言う）ことが多くなり結局うまくいかなかった。
- ・感情を表現すると人にきらわれるのではないかと信じるようになった。力を持っている人は、それが間違えていても意見がおおる事があると知った。男性が恐いと感じるようになった。
- ・夫は子どもにも感情をぶつける人だったため、夫中心（夫の気持ち次第）の生活だったが良い妻、嫁をやめ、子どもを守る母となることにした。自分もすごく気が楽になり、夫が不機嫌になったらどうしようと先のことを気にやむことが無くなった。
- ・本当は⑥の（自分の気持ちより人の立場にたって考えることが多い）という性格だったが、3年ほど前のあることがきっかけで夫に対しては、（夫に対してだけは）自然に思いやりをも放棄できるようになった。夫に対しては、言葉を話すことや、夫に対して何かをすることが恐怖となり、今では夫に対してする生活面のことは最小限のことしかしなくなった。（思いやりをもって一生懸命してもそれがいつのまにか義務化され私の心はどこか遠くに追いやられてしまっつらくなってしまったから。
- ・配偶者の顔色をうかがうことはもちろん、地域の方などのお付き合いでも引いてしまうことが多く、思うことを思うように伝えることが出来ない上に高圧的に物事を言われたりすると自分よりも弱い立場（例えば子ども）の人にあたってしまったりする。

- ・主人の目を見て話すことが少なくなった。手を出されたら、こちらもやり返していたけど、それ以上に帰ってくるので、それをしないように、そして相手が手を出してく前に“暴力はやめて”とはっきり言うようになった。けんかの時、言葉を選んで相手を逆上させないようにかつ自分のいいたいことは、きちんと伝えられるように考えるようになった。ある部分“この人には通じない”とあきらめたり、突き放した態度をとることが多くなった。
- ・自分が悪いことをしたバチがあたったとよく考えるようになった。誰かが自分を強く肯定してくれることを望む自分に気づいた。
- ・家庭内暴力でやっと離婚を2年かかってできたと思っていたらまた、他人になっても暴力を受けたため、すっかり人間不信におちいってしまい、人を信用できなくなった。女のついていた弁護士が自分の前で元夫が暴力をふるったのに証言してくれず、態度が悪かったとって責めた。何のために弁護士を依頼したのか？最初からしなければ良かったとの後悔です。生活が暗くなり落ち込み、人を信用出来なくなり、無気力に悪いほうへ考えるようになった。弁護士選びはよく考えて人選を。夫は弁護士をぎゅうじり、自分と私方の弁護士を召使のように自由に利用して恐いものはなしの態度でした。
- ・第三者に本当の気持ちや状況など伝えられなくなり、(ばれたらあとが怖いから)自分の中に真実・虚偽という二面性がはっきりできてしまった。社会(第三者)と自分との間に壁、カラ、フィルターのようなものができてしまった。
- ・物心ついた頃から父親に日常的に殴られたり、罵られたりしていたので、それ以前に自分の事はわかりません。でも結婚してから、夫に殴られた時は、子どものときよりも強くなっていたような気がします。
- ・自分の思うことを言わなくなった。黙っていれば安全と思う。
- ・家を出てから、車のブレーキ音やドアを叩く音をきくと夫がやってきたのではないかと思ってびくっとする。街を歩いていると、夫と似た人を見かけると足がすくみ、横道にそれる(姿を隠す)。
- ・自分自身の生活態度を変えることは無いが、冷静に慎重に物事をみるようになった。
- ・よる寝つきが悪くなった。男の人とうまく付き合えない。なんでも物事を悪いほうへ悪いほうへと考えるようになった。
- ・暴力をふるわれてから自分自身がなくなり、ただ怖いという恐怖心で毎日を過ごしました。自分が悪い、殴られる自分がバカでアホなんだと思い、小さい頃母親にしかられたり、叩かれたりしたこと、兄にげんこつで殴られたりしたことが、よみがえりやっぱり自分はダメな人間だと思い、恥をかくして人に言えず、特に母親にはいえなかった。誰も味方がいなかった。最後の最後殺されそうになり逃げた。
- ・人間的、常識的に全く外れていると思っていても直接本人に言えなくなった。子どもが小さい頃も子どもに関して・よいことしか伝えられず、心配なことがあっても配偶者には全く相談できなかった。病気や怪我を子どもや私がしても、配偶者に黙ってしか病院へ行けなかった。朝、昼、夜など食事の時間を越えての外出は、玄関のドアをあけたとたんの暴力暴言を覚悟。母親からは笑うことが少なくなったと言われた。
- ・結婚前(暴力がある)怯え、不眠、過食、拒食、将来や次のことが考えられない。結婚後(暴力が無い)安定、次の行動がすこしづつ考えられるようになった。
- ・やくざ映画がきらいになった。料理が嫌いになった。性への嫌悪感が強まった。世の中への不信感が強まった。唯一絶対の“正しさ”を探すようになった。一人の方がくつろげて快適を感じるようになった。弱者に対して気を遣うようになった。
- ・笑顔のつもりが引きつってしまうようになった。外出好きだったが、被害後、帰ることばかりが気にかかる。夫にマインドコントロールされ、自我を失いかけた。家を逃げ出し半年、元の自分を取り戻しつつある。
- ・男性恐怖症とまではいきませんが、今の夫(パートナー)などに少しでも冗談でこつかれたり、暴力とまではいかないのに、話の筋で叩かれたりしたらドキッとすることがある。今の夫は信頼しているが(私は再婚なので)もしも前夫と同じようなことをされたら・・・とか余計なことを考えてしまう。
- ・人が信じられない。

- ・配偶者から暴力を受けたので配偶者が何かをしようとちょっとしたことでも気に触るが、言葉に出して言えずイライラしてしまう。また、夜帰宅（配偶者が）するだけで、嫌な気分になる。配偶者を信じられなくなり、離婚を考えてしまう（2～3日）暴力を受けて。
- ・子どものPTA活動など以前は自由にしていたのに、相手（夫）の都合や行動にあわせるようになり、積極的な行動が出来なくなった。毎日家のことを少ししているだけなのに疲れがすぐ出てたくさん動くことができなくなった。花など育てる気がなくなったし、花を飾ろう、家をきれいにしようと思わなくなり、家の中が雑然とした。
- ・元夫の顔色を見るようになり、何でも言うとおりにするようになり、自分の感情を抑えていたため、テレビ番組でお笑い番組を観ていても笑えなくなり、私のすることなすことにいちいち文句を言われ、何もかも嫌になり、子どもにやつあたりしてしまいました。
- ・父親に暴力を受けてから家族であっても個人対個人であると考えるようになった。
- ・暴力を受けて痛みから人の痛みをわかるようになった。
- ・他人を心から信じられない。怖い。1989.2月から1998.1月まで勤務していた職場で今の言う「モラルハラスメント」されていたのでもしかすると複合しているかもです。
- ・夫に何をしてほしいとか頼まなくなった。
- ・夫に対する不信感から自分ひとりで家庭のことを背負ってしまうようになった。精神的な支えになってくれる人が家庭内にいないような気がするため寂しい。いつも専業主婦から社会復帰したい、何らかの形で外に出たいとあせり、強く思うようになった。高層集合住宅に居住しているのですが、時々外部からたばこシンナーなど非行グループが階段にいます。怪我以降、必要以上に恐怖心をもち、外出不可能になった時期がある。また、夫が大きな声をだすと怖くなったり息苦しくなったり過剰な反応を示してしまいます。自律神経失調症、うつ、パニック発作が出て心療内科にもかからなければならなくなったため、生活すること自体「動けない」など支障が出て悲観的に考えるようになりました。夫に対しては怒りっぽくなり、夫の両親とはそれまでうまくやって仲良くもしていたが、関わらないような態度をとるようになった。
- ・配偶者に外面、内面があったので特に男性を見る目が変わった。
- ・夫だけでなく、友人からの心無い言葉をたびたび聞かされたりして全ての人が信じられなくなり、毎日一人きりで過ごせるようになった。やさしい心ももっとあったはずなのに人間に対してはさめてしまったように思えます。動物だけは、とてもかわいいと感じます。
- ・相手と議論する時、話がまわりくどくなったように思う。
- ・夫の思う妻にならないと暴力を受けたりする。今は、何一つ会話を持たず、言葉もかけられない。夫は帰るとすぐ、テレビをつけ、私と話をするのをさけるみたい。次男（32歳）私に暴力をふるうので、言葉、力の暴力があるので、私の意見で夜間別所に行く。子どもの小さい頃養父母に私が気に入らないと思われる毎日だったので、子どもに暴力もしたし、あった。それが原因か長男34歳は10年以上閉じこもり、解決をせず、10年以上だが、今もわからない。私一人で待っている。
- ・主人に対して限定されることですが、（主人と関わる全て）、行動や判断が正しいと思っても行動に移すことが出来なくなった。どう言われるか、主人の反応が気になってしかたがない。何かもめごとがおこらないように対応するし、また、問題を自分で何とか解決してしまおうとする（かくす）ようになった。
- ・夫に対して憎しみの気持ちがあります。でもそれを直面になるべく出さないようにと思いますが、つい表に出てしまい、また、そのことで言われてしまうということで顔色をうかがったりしています。以前は家庭の中で笑っていたのにそれがなくなりました。事故がなんかで死んでしまえばいいと思います。そしてそう思う自分も嫌で自己嫌悪になります。

- ・過去のつらい出来事を思い出し、イライラしたりクヨクヨしたりする。仕事でも思い出すので仕事に身が入らない。常に何かを思い出して頭の中にあり、頭から離れない。眠れば夢に出てくる。まじめに生きるのがバカらしくなり、手を抜くようになった。無気力になった。対人関係がうまくいかない。物事を悪いほうへ考えるようになった。
- ・恐怖感で不眠になり、いつも疲労感に悩まされるため積極性、自発性が極度に衰えた（17年間、3年は別居）。朝起きられなくなり、生活全体が不規則になった（ただし、暴力夫から離婚した今（20年後）、定職にもつき元気に生活している）。
- ・感情面がすどくなつた。それまでは、ポーとした性格。死にたいと思う気持ちが強くなった。殺したいとか憎いと言う感情が生じた。それまでは、無かった感情。
- ・寝つきが非常に悪くなった。夜中に何度も目がさめる。夫が就寝中に殺しに来るのではないかと思う。いつか殺されるのでは？と思う。夫が事故で死んでくれないかと思う。子どもを連れて行ってしまおうのではという恐怖。
- ・無理して明るくふるまおうとするくせがついた。黙ってやられっぱなしではなくなった。
- ・どんなにいい人に出会っても男の人は結局どこかに暴力的なものを持っている、としか考えられない。何かと「期待していない」という考えがいつもある。よくない方向へ考えがちでよくないことが起きて自分が目をつむってやりすごそうとしてしまう。
- ・ゆっくりと買い物などが出来なくなった。いつもせかせかと落ち着きがなくなった。相手の話を最後まで聞かずすぐ自分の意見を言うてしまう。つらい出来事には強く平静にいられるが、他人からとか子どもに優しい言葉をかけられるとおおげさに涙がでてしまう。
- ・被害者としてほんやりとして話がよく聞けないことがある。
- ・私の夫は言葉の暴力がひどかった。よく夜中までも自分の納得のいくまで喚いていた。今、彼と別居して4ヶ月たちますが、いまだに夜なかなか眠れません。彼の今まで私にしてきた仕打ちを考えると悔しくて眠れないのです。また、自分で自分を責めてしまいたくなくなってしまいたいと思ったりします。でも2歳の子どものいるので立ち直らないといけないと思っています。
- ・例えば以前は夫が出勤する日の朝には天気予報が私が聴いておいて夫が帰宅する時刻頃に雨が降り出す予報だったりすると夫に傘を持っていくように言っていたのですが、その予報があたらなかつたりしますと徹底的に文句を言われて（これがたびたび続きました）責められています。それ以後は、気を遣ってあげても夫はそれを踏みにじてきますので何もしてあげなくなりました。
- ・私は小さい頃から父が母に対しての暴力や自分、妹に対してのをみているし、されているから、それがじぶんがどう今の私に影響しているのかは少しは説明できる。が以前、以後というような分け方では説明不可能だ。物心ついた時からそうだから。
- ・虚無感が強くなる。夕方夫が帰ってくるころ背筋がぞくぞくする。体の不調があっても、暴力を防ぐための方に気が向いて自分自身のことが、おそろかになり、病気が進んでいることが多かった。笑っていないと暴力を受けるのでどんな時でも（親が死んだ時でも）笑っていた。今は暴力から離れたが、PTSDは今もある。
- ・笑うことが少なくなった。精神的に緊張している状態がよくあるようになった。暴力をふるわれそうになるとパニック状態になる。
- ・相手の存在自体が許せなく顔も声も思い出すだけで不快になる。もう二度と会わないようにしたいので、徹底している。二倍返しばかり、空想がふくらむ（自分が直接ではなく、偶然などで天罰くだるなど）
- ・神経質で敏感になって、大声や大きな音など聞くと震える。
- ・被害⇒最初の1~2年家の出入時や窓を開ける時など怖かったです。加害⇒クラシック全集を買ったり、静かな海の絵を買ったり、自己啓発セミナーを受けたり精神科へ行ったり・・・
- ・初めて（新婚旅行から帰って2日目か3日目くらい）足げりされ、結婚してから主人がこれほど変わるのか、ショックで何も言えなかった。それ依頼主人の顔をうかがうようになってしまった。

- ・人間や出来事を客観的（かどうか、冷たい目で）にとられる。
- ・自分では特に変化があったとは認識していません。
- ・以前私の性格はとても明るく行動的でどんどん人を引っ張っていく。人からは貴女がいるとばっと明るくなるみたいとか「ひまわり」みたいね、とか言われていたのが、主人と結婚してからは主人から押さえつけられすぐにバカとかけなす言葉が投げつけられだんだんと人前にもあまり出れない。物が言えない。物を言われてなんと返事していいのかわからないから、なるべく人から離れていようとかとても消極的になりました。子どもから母さん友達が一人もいない、と聞かれてとても悲しいです。
- ・無感動。無気力。おそれ
- ・情緒不安定。自殺願望。将来への絶望。自己表現ができない。消費等の様相がでてきた。
- ・夫の以外の人との付き合いがいかに楽しく生き生きと自分が表現できるものかと感心することがある。昔の自分に戻ったようだ。・食料品を買いに行っても考えがまとまらずにやりくりはどうしていいのか戸惑う時がある。離婚もできずに、ただ夫が事故死でもしてくれないかといつもいつも考えてしまう。
- ・うつ病にかかって親（父）の期待にこたえられなくなった。糸がきれたように“努力”をすることが無くなった。将来に不安ばかりある。すぐ死にたがる。
- ・「ガタッ」と物音がただけでビクッと体が反応し、こわばってしまうようになった。電話がなくてもこわくてなかなかでられない。（訪問者がきても同じ）
- ・対人恐怖症。本音で人には話せない。友人に無視されたり、色々な公共施設（女性センター、警察、役所、医師）で出会った人が悪すぎて誰を信じて生きていけばよいかわからなくなり、暴力を受けたあとは、食事ものどをとおらないし、人とは話すことでも不安で誰でもいいから電話で声を聞いていないと不安。先走り傾向。不眠症など。
- ・暴力の加害者を見ざる、聞かざる、言わざるで接するようになった。なるべく同じ立場にいないでおこうとするようになった。
- ・暴力を受けた時期からかなり経っているので今は特に変わったことはありませんが、当時はエレベーターなどで男性と2人になったりすると恐怖を感じました。服装が地味になりました。
- ・自信が無くなり体調を崩し、自殺をはかり、二度失敗、以後いつも頭にあり向き合っています。
- ・私の場合は小さな頃から父が母に身体的。精神的暴力をふるい時にはそれが私自身にも及んだり、母からも時々うけたりもしていたのですが、結婚をして今度はそれを主人から特に精神的、経済的に多く身体的にも及ぶようになり、何かことがあると、（特に精神的に追いつめられると）自分が消えてなくなりたいと、思いつめて睡眠障害を起こしたり、高熱を出したり、他人に空想（理想）の人物のことを話したりすることがあり、自分もその人物が実際にいるような錯覚にとらわれたりする。自分が正しい時でも相手が強い態度にでると自分が悪いようにおもえてくる。いつも人の目が気になり、誰からも好かれないととりつくろってしまう。人に非難されることに臆病になっているように思う。
- ・精神的暴力を長い間私と子どもが受けていたため、私が平成3～4年頃うつ状態になりそれから様々なことが思い通り進まない。物事に判断が遅くなったように思う。近所の人に声をかけられなくなった。朝早く起床できなくて家事も以前毎朝していたことが全くできなくなった。外出しにくくなった。
- ・うつ病。
- ・「以前」というのは、「暴力だと気が付く前」の意、「以後」というのは「これは暴力というものだから私はどうやって助けをもとめたらよいか悩むようになってから後」の意。
- ・他者から見るとおどおどしていたと言われた。また、つきものがついたようだと言われた。私自身毎日びくびくしなくてもよく、解放感があり服装も変わったことを自らも認識しています。また、読む本の内容は変わりました。精神分析関係の本が多かったのですが、離婚後は幅広く趣味にも力が入るようになりました。新しいものへの挑戦への意欲が旺盛になりました。



- ・暴力を受けていた時は相手にやり返すとかできなかったが、離婚し、今のパートナーと一緒にいて言い合いになったりしてうまく伝わらないと相手に対して手をだしてしまうことがある。自分も人をたたいてしまうようになっている。
- ・夜寝る時にすぐ、逃げられるようにバックや車のキーを手元に置いておく。結婚前は父親の暴力でビクビクと生活していたし、結婚してからは、夫の暴力でビクビクしている。結婚してからは、身近に守ってくれる人がいないので車で逃げてずっと車の中にいる。
- ・他人の目が気になり、一人で家の外に出れなくなってしまった。(洗濯物も外で干せなくなった)。無口になってしまった。電話やインターフォンの音が怖くならないようにしてしまった。
- ・結局夫の暴力によって自分自身の理性を失い、生活面でもほんやり放心状態である。朝も起きれず(不眠)、頭痛続く。キッチンドリinkerにもかかった。うつ病で何も気力をなくし、カウンセラーにも通った。過食症、拒食症そして自律神経がこわれ失声にもなりました。自分のコントロールが出来なくなり、家に帰りたくない。外泊したり、(夜逃げる)でした。地での生活は只、生きている自分でした。
- ・人付き合いが狭くなった。親しい人以外の相手には妙に、生真面目になった。職場の人間関係がういかなくなった。
- ・被害にあってから、相手の怒りを受けないためにおこらせないよな行動、言葉を選ぶようになった。時々どうしてこんなに相手に気を遣って生活しなければならないのだろうと悲しくなる。
- ・いつもマラソンをしているような気分。(あそこまでいけば「楽になる。今は苦しいけど時間が経てば風化する。と自分に言い聞かせて現実をまっすぐにみつめなくなった。
- ・生まれたときから暴力が始まっていると思うので「以前」「以後」はありません。
- ・暴力を受けてしばらくの間は「主人は実は自分のことを信用していなかったのか」とか「本心はどうか」などと悩んで話をするにもビクビクしていた。
- ・自分ではあまり気が付かなかったが、夫や夫の友人より顔がキツくなったと言われた。・・・が原因は夫である。現在は自分も周囲もキツいとは思わない。
- ・男性不信になる。
- ・父親が母に暴力をふるっているのを見て、父親の顔色をうかがうようになった。そうしている内、自分もされるようになった。ビクビクしているのが伝わったのだろうか・・・。
- ・夫のあらゆる暴力から逃れるために結婚 20 年目にして 19 歳の息子に相談して協議離婚をいたしました。現在一人で年金生活です。子どもは独立・結婚してお互いに今は幸せです。
- ・夜道を一人で歩けなくなった。今でも遅い時間は絶対歩かない。近い距離でもタクシーを使う。
- ・娘の死の2ヶ月前より母に対する恨みつらみを娘に昼夜を問わず言い続けていた。娘は急にノイローゼ状態になっていった。
- ・結婚前は内気でおとなしい無口な方。結婚して酒乱の夫の暴力に毎晩あい、結果失語症のようになりものが言えない状態でした。とうとう離婚し 35 年、今は開き直ったせいもあり、幸せによくしゃべる自分になりました。
- ・開き直りたくなる気持ち、腕に自信があったら仕返しをしてやりたいと思う。
- ・今は回復しているので大丈夫ですが、当時(被害から 1~2 年)は人が恐くて子どもや動物としか会話できなかった。
- ・将来に向けて目標を持てなくなった。暗く感じるようになった。心から笑えない。相手が不幸になることを考えるようになった。人の目を気にするようになった。本来の自分を出せなくなった。相手に認められるようにと無理をするようになった。文句が多くなった。人に愚痴を言うようになった。人を見下すようになった。隠し事が多くなった。

- ・眠りが浅くなって、よく夢を見るようになりました。5才の子どもをいっそう守る気持ちが強くなった。笑いがなくなった気がします（心から笑えることがなくなりました）。面倒な相談事（特に家事のこと、子育てのこと）をさけるようになりました。
- ・いわれのない一方的な暴力にあったとき、それが続いたときにその暴力から「いかに逃れようか」と必死に考え、行動するようになった（自分から行動し、強くなった）。
- ・結婚以来、夫の威圧的な言動や（暴力もありましたが、それ以前に）考え方の違い（を話し合う事すらできない）にじっと耐えているうちに、自分が少しずつ少しずつ内向的になり人と話すことすら面倒になっていくことがわかっておりました。離婚後（20年間の結婚生活後）それは鬱病だとわかり現在も治療中です。
- ・元々自信がない方でしたがますます自信がなくなり、私はこんなにも責められなければいけないほどひどい人間なのかと、落ち込む時と逃げ出したくなる時、悔しくて悔しくて思いっきり殴り返すことを想像することもあります。結婚するまで人に暴力を振るうなんて考えたこともなかった。
- ・男性が怖い。初対面でも男性だと影の恐怖さを想像する。疑い深い。人の顔色をうかがう。人と目を合わせて話すことができない（一時的にあった）。人間不信。人に優しくされたい（言葉だけでも）願望が強くなった＝ひがみっぼい。自我を出さず、そっと静かに生活する（隠れるように）＝自信喪失。
- ・以前は自分から外出する機会を作り出しかけるのが好きだったし、今でも好きだかもしばれて怒られるかもと思うと、自然に控えるようになった。もしくは夫が外出中にのみ友人と会ったりするようになった（電話も含め）。自分の身の回りの雑誌のようなもの、手帳、手紙など隠すように（見つからないように）気をつけるようになった。
- ・人を信用できなくなった。そのため、社会に中での自分の態度、行動がぎこちなくなった。「他人をたてる」ようになった。
- ・友達と遊んでも楽しくなくなった。親に対して怒りっぽくなった理、逆に優しくしすぎる。学校を休みがちになった。
- ・生活費が入っていないので今後のことを考えると（子ども）心配で寝れなかったり、また夜中目が覚め、朝まで寝られなくなった。
- ・私は被害を受けている立場ですがなぜそういう態度、言動をとるのか、第三者的な立場で考えるようになった。
- ・めまいがおきたり、頭痛、吐き気がひどく疲れ切っていた。何もしたくなくなった。「死にたい」と思った。人間として自分は誰からも愛される事のない、力のない人間に思えた。「やる気」が続かなくなった。ストレスで耳や声が出なくなったことがある。
- ・子どもの頃のことなので「以前」の項目ははっきり覚えていない。しかし楽しい気分ですられる時間は「以後」よりもずっと多かったと思う。
- ・夫の暴力が社会的に不正義だと認識して以来、夫に対し私が強権的になったと思う。
- ・自分の言動が相手を不快にさせたか、考えてから行動するようになった。相手（誰でも）の機嫌を取るようになった。
- ・男性に前で強気な態度がとれなくなった。おそらく怖いからだと思う。
- ・あまりの暴力のひどさで、自分が自分と判断できなくなり、ものすごく孤独を感じるようになった。
- ・涙もろく、悲しく感じると人前でも泣くようになった。被害者意識が強くなった。人に自分がどう思われているかに敏感になった。明るくはきはきした態度をとれなくなりました。気分がムラがあるように思う。
- ・上記は結婚後のことであるが、基本的に子どもの頃から言葉の暴力を受けていたので、迷う部分があった。自分の存在が認められない、何のための自分なのかわからなくなる。諦めてしまう。感情を抑制し、感じられないようにしていた。



- ・3年前、娘が部屋で風邪でふせっているとき、妻が買い物に出ている間、押入から幼少時のおもちゃを引っ張り出して娘の見てる前でそのおもちゃを捨ててしまいました。小学校の時に私が父にされていた虐待を再現してからそれまでごまかしていた、私の妻が娘にますます嫉妬、虐待を意識し始めたら、ますます仕事依存になって、自分の感情すら無視するようになりました。
- ・(私の場合、以前も以後も変わらない) 子どもの頃から暴力を受けていたので、結婚してからもおなじ事が起こりやっぱり私の人間性が悪いのと思いこみ絶望的になったりした。(自分で自分をせめ追いつめる性格だった) 結婚してから7年目くらいから対人恐怖症気味になった(今も引きずっている)。結婚14年目で鬱病にかかり。8ヶ月目に闇から抜け出した。変化があったのはこの35才からですべてのしがらみから解放された。
- ・今は暴力を受けていた場合から離れ、自分なりに幸福を感じているので、また以前のように戻りつつあります。
- ・配偶者に暴力を受けていたのは、約30年前で子どものために辛抱していたが、25年前下の子が中学生になったので離婚した。
- ・結婚後、夫のネグレクトに1年半悩んだ末、外に出られない、人が怖いなどの症状が現れカウンセリングを受けるようになる。39年あまり暴力を受け続けて来た事による典型的、かつかなり重傷なPTSD。
- ・小さい頃から暴力を見てきたからだ、大人になって思ったことは…。他人のけんかも(もめごとなど)でもとても恐く胸がどきどきする。夫の口調がいつもより強いただけで、恐く感じる(本人は普通にしゃべっていて暴力もないのに)。パニックに陥りやすい。パニック症候群との診断を受け他が、私の弟はそれは本人次第ですべて暴力のせいというが、私はそうは思っていない。
- ・暗いイメージにとらえることが多くなった。他の人から標的にされるようになった。上司のストレス発散に怒鳴られる。友人との約束を相手の機嫌でドタキャンすることが増え、信用を落とした。
- ・絶えず死ぬ(自分が)事を考えるようになった。自殺を1つの解決方法だと思えるようになった。たまにどうしても自分を殺したいほど嫌になる。子どもを産み育てる気が全くなかった。自分の未来への夢やあこがれがなくなり、浮かびもしなくなった。他色々。
- ・自尊心が低くなったのをとても感じる。(無力で社会に必要な人間のように感じることもある)。
- ・元夫や姑の癖と同じ癖の人に会うと落ち着きがなくなったり、不愉快になったりする。元々あった離人感がいっそうひどくなった。記憶障害(結婚当時のことが思い出せないし、最初のこともごちゃごちゃで整理されない)。男性不信。「誰かを殴りたくなる」「自分を傷つけたくなる」衝動に駆られる。集中困難。
- ・子どもの頃は父親の、現在は夫の暴力にあっているの、以前以後の変化はわかりにくい。今はできるだけ影響を受けないようコントロールしているので、気持ちに変化は生じている。サポートしてくれる友人、先輩に恵まれたおかげである。
- ・子どもの時に受けた暴力で以前はわからない。とにかく、人によく思われなくてはいけないなど過度に相手のことばかり考えすぎと思う。
- ・「お前は頭がおかしい」「きちがい」「精神病院へ行け」と言われ続けたので自分で頭が本当におかしいのだと思いつけている。
- ・夫は自分の意見を言うことが苦手なようで、まして人の話も聞くのは嫌みたい。女は何事も察して夫の気に入るようにしなければならぬと言う。夫は男であるから好きなことをしても文句は言わせないと言う。
- ・心から笑えなくなった。
- ・他人に言えないことが増えたので、旧友に会うのが辛くなり、仲の良かった学生時代の友達に会えなくなる。友達が太勢いた私には寂しかった。会えたのは親友2~3人のみ、同窓会に出ておいでと誘われても行けなかった。
- ・4年前に当然夫の暴力が始まり数年前苦しみました。今はまた、元通り元気に活発になりました。その間なぜなのかわからなくなり、何もする気がなく、鬱状態でしたが、今は完全に乗り切り前よりも意欲的になったと思います。

- ・暴力を受けていた時期は、自分の行動全てに自信がなかった。男性や男性の声をきくと怖くて体が動かなかった。自分が被害者になるのではとこわくてテレビやアニメの暴力シーンがみられない。犯罪にまきこまれるのでは・・・と不安に思い、何回も閉じまりを確認するようになった。
- ・被害後は何もかもが嫌になり考えることもしなくなり、何のために生きているのかわからなくなり。しかし、子どもと実母の4人で主人と家、何もかも捨ててこの地に逃亡してから生きていくことの意味、また、素晴らしさを日々感じています。
- ・相手が信用できない。外出できない。電話がかかってくる出てくれない。
- ・本質的な生活態度や性格はかわってないと、思いますが家庭と外と内では外の方がのびのびとしており、明るく活発になっているとは思いますが。内では、不機嫌な顔をしていることが多いのではないかと思います。
- ・幼児期に受けた結果について判断することはできません。その結果として今の私がいるのであるなら幼児期での暴力が私の性格や生活態度を培った糧となったともいえるのでは・・・と考えてます。
- ・昔は純真でウブでしたが、今は夫といると常に身構えてしまいます。見た目はともかく、心の中はいつも。どんな無理難題をおしつけられるかわからないので。ただし、夫は無理難題とは思っていないようです。でも自分のやりたくないことをいとも簡単に私はおしつけます。例えば、妊娠9ヶ月の私に、大型犬の散歩など。犬が引っ張ってくれるんだから、右足と左足、を変わりばんこに動かしていればいいんだとか言って。でも自分はめったに散歩に行こうとしませんでした。
- ・時々いらいらする。あまり、怒らなくなった。
- ・夫の飲酒などの言葉の暴力のみであったときは、自分はわるくないと思っても脅し（「別れよう」「出て行け」などの）負け、悔し泣きしながらも誤ってその場をやり過ごし、翌朝にはまた、明るい気分に変換できたが、2人目の子どもの出産後、夫は酒量が増え、毎晩のように外で酔って帰って夜中子どもの前で肉体的暴力を私にふるったり、窓ガラスやふすまなどを壊したりと酒乱がひどくなった時、私は、翌朝になっても気分を変えることが出来なくなり、ヒステリックになったり、ひどく、うつな沈み込んだ暗い気持ちにとらわれるようになった。家事や他のことに対しても“やる気”がなくなり無気力になった。
- ・夫の帰宅時間が近づくと落ち着かなくなる（いらいらしてくる）、夫の顔色を見る。
- ・他人（特に夫）が信じられなくなった。
- ・大きな音を突然聞くと怯えてしまう。
- ・離婚後付き合う男性を「この人は手を上げない人か」どうかをすごく気にして不安になり、ある一定の距離を保ってそれ以上踏み込まれたら別れてしまったり、男友達でもふざけてこづかれた時、頭をこつんとしたり、肩を叩かれるのもすごくびっくりしてその人の近くにいることができなかった。
- ・子どもに対して暴力的になったように感じる（すぐ手がでてしまう）。
- ・前夫からの暴力により男性の声に怯えるようになり、特に少しでも乱暴な言葉を大きな声で言われると内容はたいしたことではないのに「びく」と震えたりする。町を歩く時、自分の身の回りを気にして歩いたりしている。また電話のベルにも怯えたり、つねに電話を気にしたり家の周辺に対しても気になる。
- ・言葉の暴力を受けた後では、その加害者に対して配慮した言葉のみをかけなくなった（こういうことを言うのは悪いかなという内容の言葉も躊躇せずにならなくなった）相手の云う言葉を聞き漏らさないように神経質になった。（私の耳にしていないことも「言った」と言い張ることがよくあるので）
- ・セックスが嫌でたまらない。心の底から大笑いすることがない。すぐ子どもに当たる。体調を崩す事が多い等。（私の場合精神的暴力のみ出した。今は夫も気をつけているがその当時ほどではありません）
- ・H12.5.1以降、自分が変わってしまって、怖いテレビ番組などを見ると自分と重なってしまって、とてもおぞましく怖い感じがする。思わずテレビのチャンネルを切り替える。H. 12. 4末まではかたおで生まれたわけではなくこんな感じではなく普通の感じだった。怖いテレビなども普通にみれたし、対人恐怖もなかった。今では対人恐怖と電話を取るのも怖いように感じる。

- ・何をするのも嫌。(電話がかけられない、受けられない、出かけるのが嫌、人と話をするのも嫌)物事全てに否定的とにかく社会から逃げ出し冬眠してしまいたい。両親や弟に対してまでも不信感を抱いてしまっている。極度の人間不信。
- ・私は少女期に父に暴力を振るわれていました。性的な事も言われました。その時の心の傷はまだ残り今でも男の人は恐いしいやらしい、とどうしても思ってしまう臆病なまいままで生きています。今まで恋人ができた事はありません。父をだぶらせてしまう傾向があります。洋服にしても父の目を気にしてしまい地味にしていることが常となっております。父とは私が中学生になって以来口を聞いていません。
- ・夫に対しては言いたいことを押さえてしまう。
- ・化粧している間、じっと見られることがすごく嫌な上に「ぜんぜんかわらんのに。その顔でよく外へ行けるな」と言われつづけたので、本当に自分はすごくぶすだと思うようになったし、鏡を見るのが辛くなった。玄関に人が近づいてくる気配がすると緊張するようになった。
- ・思ったことを口にすることで恐くなることもある。
- ・忍耐力が異常に強くなった。遠慮ばかりして過ごしている。自分の思っていることを口に出すことが減ってしまった。
- ・夫と離婚する直前、同じ部屋の空気を吸うのも気持ちが悪くなり、悪臭がするような気がした。一度は死も考えたりしたがそれを越えてきた頃ようやく夫と出会う以前の自分を少しずつ、取り戻してきたような気がする。自分に戻れると言うことは自信を取り戻すような感じで今の私は娘たちと暮らせないということは辛いことだが、明るく前向きになってきたと思う。
- ・相手の機嫌を常に伺い相手を怒らせないように行動したり、話してたりするようになった。最終的には言葉少なく YES,NO の返答さえしていれば無難だと思うこともある。
- ・心身共に傷つき数ヶ月引きこもりしていた(まだ子どもがいなかった)。親は心配して何度も訪ねてきたが玄関に出ることさえできなく、布団の中にいた。親は事実を知らない。自分がダメ人間かのようにずっと言われ全く自信がなくなったが親しい友人がいたおかげで何とか立ち直り少し強くなれたかと思う。
- ・主人の顔色を見て行動するようになった。主人が機嫌良いのか悪いのかを見てしまいます。機嫌が悪いときはなぜ悪いのか、自分のせいか、仕事のことがか考えて、わからないときは悩みます。主人に気に入られようと努力しても報われないとき悩みます。精神的に強い人間になりたいと思う。
- ・暴力の加害で自分をよく責めるようになりました。
- ・殴られること殴ることにより、相手の立場(痛み)に立つことができるようになった。
- ・おどおどする。人を信じられない。
- ・離婚を考えているので老後への不安が大きい。そのため何事にも消極的になることが多い。
- ・カウンセラーに多重人格者(解離性同一障害)と診断され、現在精神科に受診中。主人との対話が少なくなってきた。
- ・健康一体力気力が乏しくなってきた一食べまくって気を紛らわす。2年で10キロ増加。セックスしなくなった。笑いがなくなった。手のひらにいつも汗をかくようになった。相手の顔色をうかがって話を合わせたり、嘘をついて話のつじつまを合わせようとしてしまう
- ・以前は自分の住所等を人に教えていたが以後は教えなくなった。①～⑫の間に…自分が離婚後10年以上経っていたため現在の性格が④あたりから変化のないのに気づいた。
- ・電話が怖い。あまり外に出拓なかった。怒りっぽくなった。イライラするようになった。
- ・いつでも外へ逃げられるように服を着て寝ていとおことがあるので、玄関にすぐ靴が履ける状態か確認しないと眠れない。夜間、玄関が気になり眠れなく朝方3時間くらいねむるようになった。電話のベルが鳴ると胸がどきどきする。人と接することが好きだったが、夫の話が出るのがいやで消極的になった。経済的に自治会費が払えず、近所つき合いができない。新聞を取って織らず、社会のことがわからない事に不安。

- ・自分からの言葉の暴力（筋が通っているだけに腹が立つであろうことなど）や手出しをした結果の反撃であった場合が多いので「何を言えば相手が怒るのか（逆鱗の位置）」「直接手出しは負けるにきまっている」と言う2点を学び、控えるようになりました。自分の怒りの表現方法 攻撃型—無視口をきかない。
- ・酒を飲んだらまた絡まれたり、物を壊されたり、身体的暴力を受けたりするのではないかと予想するようになった。鬱病になり、体を痛めたので自分で物事を考え、物事を自分で判断し、決めることに自信が持てなくなり、人に頼るようになった。
- ・自分を責めるのはやめた。暴力をふるうのはどんな理由があれ良くないことで、止めて自分はあくまで被害者であると認識するようにした。人の言うことばかり聞く事が、良いことではないと考え改めた。相手をつけあがらせないように工夫する努力を始めた。
- ・父親に暴力を受けていたときは自分で気づかなかったが、後に本など読み、それは強迫神経症の症状であったことがわかる。例：洋服など着脱するとき頭の中で数を数え、その数字でピタリと終わらせなければ何度でもやり直す。例：靴箱に靴を入れるとき、ある角度に入れるため、最初の手順から何度も繰り返す。配偶者に暴力をふるわれたときはそこまでひどくは現在はないが一回暴力を振るわれる度に相手に対する気持ちが色々な面でさめていき、洗濯物等がふれないなど害が出ている。
- ・(昔のこと)二人の乳幼児を抱えていた頃は家の中で泣けないので、外で泣いていたから性格も暗くなった。けれど子どものために強くならなければと努力。また夫の度々のそして長年に渡る暴力は私を強くした。何の様な事情であれ私は生き抜かなければならないと思った。成人しつつある又その後の生きている子どもたちの名誉を守るために。
- ・自分という人間はもっと他人から「大切な物」として評価されているのだと思った。またそれに気づいた。例えば、親や姉妹友人たちは私のことを大切に考えていてくれていたということに気づき、自分ももっと私を大切にしようという自覚が持てた。
- ・暴力により体調を崩し、寝込むことが多くなっていた。いつも気持ちに不安を抱えて、生活をしていたので人疲れも多かった。
- ・夫婦というよりも子ども（一人っ子）に対しての父母と言う関係になった。私が父親に甘えられない状態出会ったので、子どもと父親の接触時間を多くするよう生活していたが、離婚しようと考えてからは父親を遠ざける生活。お風呂にも一緒に入れないようにした。
- ・相手が暴力をしてもそれが当たり前と思っている。
- ・我慢しようと思ってきたので、だんだんとなれて、少々のことでもなくとも少々のこととして片づけるようになってきた。(自分自身に降りかかることで。しかも配偶者より受けることで)
- ・子どもの頃に父から受けた暴力である。何かを訴えようとしても聞いてもらえず、すぐ殴られた。今でも人に話しかける前は話を聞いてもらえるかどうかとても不安になるし、過度に緊張する。しかし孤独は嫌いなので人と接していたいと思う。色々な思いがあって、ストレスを感じることが多い。
- ・暴力を受けるようになってから自分の都合のよい小さなうそをつくようになった。
- ・主人が背後から近づいてくると怖い。
- ・自分で自分を守るため嫁ぎ先の家族と会話するのが嫌になり、必要以外の口は開かなくなった。とにかく自分に自信がなくなったし、今後の人生がものすごく不安になった。
- ・主人には後ろから悔いを絞められたので、背後にたたれると恐怖心でドキドキになる。この人も殴るのかと先入観を持ってしまう。後人の愚痴とかを聞いてあげれる余裕がなくなっていました。子どもの頃受けていた暴力を思い出し憎しみが深くなってしまった。薬を飲まないで眠れない(薬に頼る生活)、お酒におぼれやすい炎になってしまいました。暗いところや狭いところが怖くなった。
- ・相手が強い態度で出られると、おろおろしてしまう。
- ・育児の一時期、暴力というのが子どもに手を上げてしまうことが何度もありました。一度手を上げると止められなく自分が恐ろしかった。自分の子ども相手になんて鬼のようなと落ち込むこともしばしばありました。今、子どもも大きくなり暴力はなくなりました(と思う)。

- ・相手の言動に無意識にびくびくしている事がある。とくに自分の体調が悪いとき。
- ・2000年の2月3月4月頃は、悲しくて泣いてばかりいた。食欲や何事に対しても意欲がなくなり鬱病のようになった時期もあった。現在は気分の浮き沈みはあるが何とか日常生活をこなしてはいる。でもとても辛い。夫に私の神経質なところが嫌いだと言われたので以前ほど神経質なことはいったり行ったりしないようにしている。
- ・人間同士「信頼感」「不信感」にとっても敏感になった。
- ・夫の顔色をうかがうようになった。気に障らないような言葉など選んで話した。夫の言動で傷つけられ、1人になると思い出し落ち込む。
- ・第2子(長男)がかわいく思えなかった。しかし、今はかわいい。第2子(長男)を産まなかったら良かったと思った。しかし、今は産んで良かった。第2子(長男)が男の子でなければ(女の子だったらよかったのに)と思った。しかし、今は、男の子もありと思うようになった。
- ・小さな事柄、内容でも何回も確認したり、念を押したりしないと不安になった(人との約束事、時間など、仕事の内容的なことも含む)。狭いところなどの閉所、または暴力を受けた場所に似ているところへ行くと恐怖感を感じ、不安になったり、ひどくなると気分が悪くなったりした。人付き合い等において、心配、不安になりすぎて回りくどい考え方をしたりしてしまう。素直に純粋に受け止めれず、相手のことを疑ったりするときもある。自分が疑われてないか怪しまれてないか妙に説明したり、言い訳したりしたりしてしまう。
- ・自分の命を大切に思えなくなっていて、明朝目が覚めなければいいのに、と長いこと思って暮らしていた。離婚した後では自分の命をとっても愛おしく大切に思えるようになった。
- ・「愛情」という感情がなくなってしまった。過去に愛情があったかどうか思い出せないし、現在、誰かに対して愛情を感じる事ができない、というか「愛情」という感情がどのようなものかわからなくなった。今までの趣味として楽しんできたことに一切興味がなくなった。
- ・子どもの頃から今まで暴力を受けつづけているので、以前がありません。子どもの頃は夜驚症、多動性障害など症状がありました。現在は過敏性大腸炎でカウンセリングを受けている。
- ・考え事をしている時に「死」を意識する時があったりする。自分の意見をはっきり言えなくなった。
- ・自分の仕事、趣味、友人と付き合い方で約束をして協力し合う行動に、出来る限り参加しないようになった(仕事仲間との旅行、会食など)。夫の暴力や行動で、自分の考え方や予定を変更せざるを得ず。
- ・夫に振り回され、日常生活に支障をきたすことがある。食欲など意欲低下(新聞を読むなど)。警戒心が強くなり(夫に対して)庭に出る気もなれない(別居中)。
- ・どんなに親切で優しい人でも他人は一切信用できません。親兄弟でしか信用できない。そのせいか身内には以前よりやさしくなった。
- ・5年前から子どもにかくれてタバコを吸うようになった。離婚してからは先のことを悩むより今日が楽しければ良いと、楽天的に考えるようにしている。
- ・物心ついたときから、暴力を受けていたので「以前」の方は答えられません。
- ・とにかくいつも相手のどのことを考えているため、注意力散漫、ボーとしてしまっていることが多い。看護婦していたが痴呆老人が少し手を上げる動作をただけで、ハッとよけてしまう。恐いと感じる事があった。
- ・夫の帰宅時間が近づくと落ち着かなくなる。夫の雰囲気を感じると身体が緊張する。夫の表情を覗き込むようになった。料理していて塩分に非常に敏感になった(塩分控えめをすごく強要されたので)。夫がいない間に仮眠を取ることが多くなったため、寝る時間が不規則になった。
- ・夫に私の考え方や行動を否定されたり(大声で怒鳴られたり)近所への気恥ずかしさなどから消極的になったり、しばらくは無気力、無関心、無感動になったりして、生活がぐちゃぐちゃになる。でも、怒鳴り、暴力をふるった本人は、すぐにすっきりして私の態度が変だと、よけいに怒ったり「いつまでそんな態度だ」と言って再度怒り出す。私は気をつけてもそんなフラストレーションを子どもにぶつけ、やたらと怒りっぽく、手を挙げたりしてしまう自分によけい落ち込む。

- ・ 受けた経験以降、あまりに自分自身に自信を全く失い、自分自身を責めるあまり、対世間や明るい子どもたちにはむしろ元気に明るく精一杯装っていたように思う。内面は真っ暗でも逆に空元気を出して日々崩れそうになる自分を必死で支えていたと思う。
- ・ 上記の質問で幼い頃なので「以前」がよくわからない。
- ・ 暴力経験の最中にある時は非常に無気力で暇さえあれば寝ているか泣いているかだった。
- ・ 私の場合、子どもの頃（幼少あり）は父親から。現在は夫から精神的暴力を受けているので（父親からは肉体的暴力も）以前と以後の区別が難しい。
- ・ 以後というのは、今現在までのことではなく、暴力に悩むようになってから5年後くらいまでの事です（今現在はそれからさらに5年が経っています）。
- ・ 子どもに被害が及んだらどうしようと思うので、夫に対して気をつけるようになった。
- ・ 自分の感情を押さえてしまい、時々絶望的な感じになる。男を見る目がなかったことに対し、自分自身を責め続けている。今の配偶者に対しての憎しみは時々殺意に変わっていく。もし刃物が近くにあれば、殺してしまうかもといつも思う。相手がはやく死ねばよいといつも思っている。チックの症状がでてくる。
- ・ 相手を変えることは難しいので相手が怒りそうなことは言えなくなった。言葉の自由がなくなった。
- ・ 被害者として性格はいつも夫にびくびくして毎日を送る、消極的になった。生活態度は生活に張りがなくなってだらしがなくなってしまった。
- ・ 他人に対してではなく、あくまでも夫に対して①会話もいっさいなし②信頼感なし（何も言ってくる信用できず無視している③完全なる家庭内別居状態（子ども公認）食事、洗濯すべて夫の物はタッチせず。食費も夫から自分の物は自分で…と言って毎月3万5000円（夫の自分の食事として）少なくして私へ渡されている。洗濯も洗剤を夫が買ってきて自分でやっている。
- ・ 怒るべき時に怒れない。40歳の時、そのことを直そうと舞台上で大声を出せばと思って、一度遠藤周作さんの「樹座」という劇団に入って舞台では大声を出したけど、終わってみても相手に怒れない、直ってなかった。
- ・ ②と似ていますが、以前に比べて人に関わるのが嫌いになり、人を信用、信頼できず、疑ってしまう。
- ・ 暴力の被害に遭った後、その相手に対して真から心を開く事はできず「強情」ともいえる性格になった。
- ・ 暴力を受けたのは小さい頃なので以前のことは覚えていない。
- ・ 子どもの頃（小学生低学年）、母親から暴力を受けていたので「変化」ははっきりわからないが、すぐに妹や弟をたたいたり、けったりしていたのと、かっとして服とか物を散らかしたりした。
- ・ 物音など特に大きな音に敏感になった。
- ・ 暴力を受けた時期及びその直後は無気力になったが、開き直った後は以前よりも前向きに物事を考えられるようになった。
- ・ 仕事をするまたは続ける自信が喪失した。被害から心療内科へ受診（心身症になったため）するようになり、この頃人間不信（仕事ができない一営業だったため一、自分の親も夫の親も信じられない）。外向的だったがやや内向的になった。パソコンが友達になった。
- ・ 相手がどんな心理状態なのか探るようになった。
- ・ ニュースなどで暴力的な事件を見るのが怖くなったのでなるべく見ない。
- ・ 表面的に明るく振る舞い、今までわからない態度で平気な振りをする。
- ・ パートナーに対して言いたいことを何でも言えていたけど、顔色を見るようになった。言いたいことの全部が言えなくなった。

- ・20年に渡る夫の暴力なので、以前以後と自分でも区別できません。以前に〇印したものは本来の私、と言う感じでつけました。夫の暴力で悩んでいた時期は自分に自身がなく、充実感を感じられず自分を好きになれず、暗い気持ちでした。
- ・物事を決めるときに相手の考えを優先するようになった。間食が増えた。
- ・「昔ひまわり、今月見草」くらいの変化がありました。
- ・言葉を言われたとき、言おうとするとき、またつきささる言葉を言われるのではないかと内心ビクビクしてしまう。だんだん言葉を相手に言わなくなる。無言の精神的圧力があった。

#### 4. 被害経験あり

##### 問6 身体的暴力の内容

###### ⑩その他

- ・後頭部をなぐった。いきなり（私がいきなり仕事をしている時）
- ・逆さ吊り、プロレスのような技をかけられる。
- ・踏みつけてぐりぐりと押しえつける。
- ・かみつく。
- ・床にひれ伏すようにされる。
- ・家に火をつける。
- ・足で踏みつける、頭突きをする。
- ・外に逃げ出しますので鍵を閉められてしまう。
- ・しばる
- ・銃を向ける。
- ・いきなり掴みかかったり、突き飛ばす。
- ・かみつく、ひっかく、つねり上げる、唾をかける。
- ・唾を吐きかける、ビールをかける、身体を踏みつける
- ・⑦のような振りをする。
- ・逃げれば追いかけてきて前よりひどく殴る。
- ・足で腹を蹴る。肘で背中を叩く。手とか足とかを噛む。
- ・寝ていると背中を叩く。
- ・服をはがされた。
- ・腕を振り上げて殴るまねをしておどす。
- ・家から引きずり出された。
- ・お茶をかける、つばを吐きかける、家から追い出す、寝かさない。

###### ⑩その他 備考

- ・出口にたつて拘束する。逃げようとするときれずくで部屋へ戻される・両脇を後ろからおさえられ、引きずり回される。
- ・⑥煙草を投げる（火をついたもの）。
- ・私81才の時、路上の人前で突き飛ばされた。79才の時、平手打ち。様子が変わると先に刃物を隠した。
- ・⑦実際はなかったが「おどし」としてあった。
- ・物を壊す。
- ・⑨壁に頭や身体を打ち付ける⑩煙草を吸いながら火をちらつかせて、煙を吹きかける。



問6-1 身体的暴力の割合

④年に数回（ 回程度）

回数	人数	回数	人数
1回	5人	4～5回	4人
1～2回	4人	4～6回	1人
2回	1人	6回	2人
2～3回	5人	8～10回	1人
3回	1人	10回	1人
4回	2人		

問6-1 身体的暴力の割合

⑤ばらつきがある（具体的に）

- ・数年に何回か。
- ・はじめは年に1回、最後の頃は週に2回くらい。
- ・年に1～2回だが、もめごとがあつて、酒が入っていると手を出されたり、出されそうになったりする。
- ・合計で3回、2年間で。
- ・飲酒時。
- ・怒らせないような対応に失敗したとき。
- ・週に一回の時や2、3ヶ月に一度や一ヶ月に2回、不定期。
- ・若いときは頻繁に、年々間隔があく。
- ・けんかしたとき（2人）
- ・2～3年前は20日に1度程度、一昨年くらいから半年に1度程度。
- ・本人の気分次第（イライラしたとき、疲れているとき）。
- ・8年ほど、年に1～2回、9年目ピークに月に1回程度、その後2年は全くなし。現在は何に1回位。
- ・自分を追い込んでいるような時。
- ・夫婦げんかのたび。
- ・最初は週に1回程度、年をとるにつれて減ってきた。
- ・多いときは週に1回、最近は何に1回くらい。
- ・けんかしたとき
- ・徐々に回数が増えた。月に1回から毎日。
- ・週に1～2回
- ・気に入らないことを言われたとき。
- ・酒に酔うと振るう。
- ・毎日の時もあり、週に2～3回の時もあった。

- ・私の言動に「何考えているのかわからない女、馬鹿にするな」といいながら～
- ・最もひどい 21 年間は週一回程度。今は年に 10 回程度。
- ・ある日突然に切れることがある。年に 3～5 回。(今はないが以前は)
- ・結婚して 7 年間で 3 回ほど (全て酔っているとき)。
- ・今までに 2～3 回。
- ・10 年間で 2 回程度。
- ・酒を飲んだときの気分で態度が変わる。
- ・飲酒によるので気分が夜。
- ・聴覚障害のため聞こえないとき。
- ・本人が機嫌の悪いとき、虫の居所が悪いとき、月に 2、3 回暗い。春か夏が多い。
- ・金銭的なことで。
- ・36 年間。
- ・夫の帰宅はいつも最終電車、仕事やつき合いに疲労とストレスはピーク。そのころ女性問題に関する後援会にすっかりはまってしまった私。そんな近所のお友達と深夜まで話しあかし、帰宅が遅いと叱られ、口答えしたことに対して暴力。
- ・ギャンブルに負けるとき、酒を多く飲んだ時等。
- ・自分が気に入らないとき。
- ・毎日家に帰ってこなくなって、帰ってきたとき私が寝てたり、買い物と一緒に出かけたときなど。
- ・酒が入るとひどくなる。
- ・週に 1 回程度も再々あれば、月に一回とまちまち。
- ・第 1 子出産後にひどく暴力が繰り返された (月に 1 回くらい)。その後は言葉の暴力に移ってきた身体的な暴力は数年間に 1 回くらいに減った。
- ・同居 4 年間のうち平手打ち 1 回。
- ・5 年に 1 回くらい。
- ・口げんかをしたときで今までに数回程度。
- ・口論となって夫が言葉で表現できないとき切れる形で怒る。
- ・精神的に不安定なとき。
- ・数年 (2～3 年) に 1 回。
- ・新婚ごろから 5～6 年はよく起こった (5～6 年前まで)。
- ・過去 2 回。
- ・その日の気分で同じ状況でも切れたり切れなかったり。
- ・酔った時、自分が気に入らないことがあったとき。
- ・多いときで月に 3～4 回。連続して週に 1～2 回に時もあった。
- ・連続して数日あり、その後しばらくなくなりまた数日続く。

- ・ 1 回だけ。
- ・ 彼の言うことに逆らった時。
- ・ 酒に酔いけんかした時。
- ・ はじまるとしばらく続き、間があって緊張が高まり何かのきっかけではじまるとしばらく続く。
- ・ 彼が気に触ることを私が言ってしまった時。
- ・ 結婚当初は年に 1、2 回程度。その間隔が週に 1、2 回となった。
- ・ 15 年ほど前に 1 度と今年 1 月に。
- ・ 口げんかになった時、口で負かされそうになったりしたら必ず、暴力をふるう。
- ・ もう耐えられない、殺されると思うのは半年に一回程度、物を投げつけるということは、イライラしたときにあった。

問 6-2 身体的暴力の期間

⑦ 不定期

- ・ 続いてはいない。単発的。
- ・ 結婚以来ずっと続いている。
- ・ 1 回限り。
- ・ 今までに 2~3 回。その時期を詳しく覚えていないので。
- ・ 結婚 20 年の間に。
- ・ 子どもが大きくなってしなくなった。
- ・ その時だけ 3 回。
- ・ 55 年間。
- ・ 1 日。
- ・ この数年はほとんどなし。
- ・ 1 回だけ。

問 6-2 身体的暴力の期間

⑦ 不定期：備考

- ・ ④ 10 年で別れた。
- ・ ① 危険なため別居した。
- ・ ⑥ 同居しているので一生です。
- ・ ③ 今が終わったかは不明。
- ・ ③ 同居期間ずっと。

## 問7 精神的暴力の内容

### ⑩その他

- ・執拗に干渉する。
- ・バッグ、鍵、車を取り上げる。隠す。汚物をふりまく。
- ・過去の失敗を持ち出して嫌味を言ったり謝罪を要求する。怒鳴る。
- ・生活費をなかなか渡さないことが年に数回。
- ・持ち物や電話を調べられて誰とどういう関係か聞かれる。
- ・子どもを取り上げて、育児をさせない。親に電話する。親に電話するふりをして脅す。心からの反省の言葉を言わせられる。長時間正座や反省を強要する。
- ・親のせいにする（私が暴力を振るわせるような人間なのを）。
- ・何か一言といっても手が出ます。馬鹿女、出ていけといいます。
- ・大声で怒鳴り散らす、「離婚してやる」「出ていけ」「お金を入れない」とおどす。
- ・アルコール依存、昼間寝ていて夜私を中傷し続けて寝かさない。
- ・裁判中、自分は（夫）暴力したことはないと言い通した。
- ・子どもの学費の納入金袋からお金を抜き取る、通帳、保険証などこっそり探し、借りまくる。
- ・不倫。好きな女を家に泊まらせる。
- ・私が作った料理を食べない、いない間に私の物を片づけてしまう。
- ・家に鍵をして中に入れてくれない。
- ・貯金通帳（全財産だった）や唯一の交通手段（自動車だった）を隠された当時（30才）の私は全く騙され、度々警察へ盗難届に行きました。今日まで慣習のように物を隠します。
- ・仕事と嘘について、遊びに出る。連絡なしに朝まで帰宅しない。
- ・他の女性（特に前彼女）と比較する
- ・服を破る、私のことを無言でじっと見つめる、にらんでいる。大声で怒鳴る。
- ・妊娠しているかもしれない時におなかを蹴られた。
- ・待ち合わせに何時間も遅れる。他の女性と付き合う。
- ・「人間のくずだ、頭が腐っている、俺の人生の邪魔をするな」等言う。
- ・足腰が立たないようにしてやる、と言う。でていけ、実家に帰れとおい出す。
- ・「死ね」と言われた。
- ・ベランダに閉め出されて、じっと正座させられる。冬の寒い夜に。唾もかけられた。
- ・子どもが泣き叫んでも怒鳴り散らし迫って来る。子ども（乳幼児）が怖がるようにドアを力一杯開ける。
- ・現在社会保険証を貸してもらえないので自分で国民健康保険証に入っている。社会、国民2種類加入。
- ・出ていけという。
- ・物を投げる、働けと暴言した。

- ・親、兄弟の悪口を言う。
- ・うそばかりついて私の真心を踏みにじったり、鬼のような顔ばかりしていた。不機嫌な態度でふて寝ばかりしていたり、こどもたちを怒鳴ってばかりいたりいろいろあった。
- ・経済的に無理な要求をする。
- ・離婚しても子どもはお前にやらない。
- ・逃げ場がないように追いつめて暴力を振るわれる。車の中に閉じこめる。人気のない山間部、墓地など助けを求めても人が来ないような場所など暗闇や、閉所の場所で受けた暴力は余計に恐怖心をうえつけられた。
- ・こちらが一番傷つくような言葉を投げつける。
- ・「死ね」と何万回も言われた。最初のうちは何を言われているかわからず、何かぶつぶつ言っているな、と思っていた。それが「死ね」と言っているのがわかった時は、ショックだった。「くさい」もよく使われた。
- ・自分の側に立っていると思う人にこちらが接近すると逆上する。
- ・8、9年前から口数が少なくなり、4、5年前からは怒鳴るか、黙るかのとっかだったので、だんだん何も言えなくなった。
- ・お前と俺は対等じゃないんだからな、とも言ってました。

#### 問7 精神的暴力の内容

##### ⑩その他：備考

- ・⑨自分勝手な行動に付き合わせる。寝させない。酒の相手をさせる。夜中に子どもを起こす。生活費をきちんと入れずに使う。
- ・「出ていけ」と言う。「お前の代わりなんて何人でもいる」と言う。
- ・戸の開閉（大きな音を立てる、門の鍵をかける）家からお金を盗む。
- ・⑩作った料理を「まずそう」と言い食べない。
- ・家から追い出そうとする。お前のせいで不幸になったと言う。
- ・「もし別れる時はぼこぼこにする。外に出ないようにしてやる」と言っておどす。車の運転中わざと危ない運転をしたりしてこわがらせる。私の留守の間、引出しの中など勝手に見る。勝手な想像で「浮気していただろう」と疑う。仕事を休んだのに、私には「行った」とうそをつく。サラ金のローンも「ない」と言ったのに実はあった。
- ・私が家にいると決まって私の知人に私のことをしつこく訪ねる。
- ・④拒絶する⑩命令し、自分は拒絶する。
- ・友人に会うこと嫌がる、友人を悪く言う（親戚についても）。

問7-1 精神的暴力の割合

④年に数回（ 回程度）

回数	人数	回数	人数
1回	2人	5回	1人
1~2回	1人	5~6回	2人
2回	2人	6回	1人
4回	1人	6~8回	1人
4~5回	1人		

問7-1 精神的暴力の割合

⑤ばらつきがある（具体的に）

- ・本人のストレスがあるとひどいから。（能力的に思うように行かない時など）
- ・飲酒時が多い。（2人）
- ・2~3年前は20日に1度程度。一昨年くらいから半年に1度程度。
- ・気分のムラ（私が相手の言うことを聞かなかったとき）。
- ・自分を追い込んでいるような時。
- ・夫婦げんかのたび。（2人）
- ・家に帰らないときが最初は続いたから。
- ・多いときは週に1回、最近は年に1回くらい。
- ・最もひどい23年間は毎日四六時中、今はこちらから接触しないようにしているので2~3日に1回程度。
- ・けんかしたとき。
- ・元々不定期に起こっていたが、問7⑩の経験をした後、私が理不尽なことについては徹底的に言葉で攻撃するようになって、減って来た。
- ・本人が機嫌の悪いとき、虫の居所が悪いとき。
- ・これも本人次第です。
- ・身体的暴力があったときだけ。
- ・機嫌が悪いとき、疲れているとき、子どもがけんかなどで騒いでいるとき。
- ・ギャンブルに負けるとき、酒を多く飲んだ時等。
- ・自分が気に入らないとき。
- ・ほとんど会話が無いのですが、子どものことで口を聞くときなどに。
- ・妊娠中に1回。仕事帰りに食事の用意ができそうにないので、お寿司を持ち帰ったが、2人前食べてしまった。
- ・何か発覚してもめたとき、特に怒る。あと無視はもうずっと続いている。
- ・口論となって夫が言葉で表現できないとき切れる形で怒る。
- ・精神的に不安定なとき。

- ・1999年の秋頃から急に増えた。新婚のころも多かった。
- ・その日の気分で。
- ・多いときは週に1回、最近は年に1回くらい。
- ・週に2~3回。
- ・ストレスがたまってきたときにお酒を飲んでいるとき。
- ・連続して数日あり、その後しばらくなくなりまた数日続く。
- ・彼の機嫌が悪い時、彼の言うことに逆らった時。
- ・酒に酔いけんかした時。
- ・身体的暴力のない間もいつもハラハラしていた。
- ・私の態度がおかしい、携帯に電話して出れなかった時など。
- ・自分の好きな海外旅行・ゴルフなどへ行くときは機嫌がよい。
- ・ストレスがたまったとき、数年間隔もあれば、ことしは数ヶ月続いている。
- ・自分が精神的にいらいらしたり、怒らされたとき、人を叱る時などその都度。
- ・常に夫の機嫌で決まる。

#### 問7-1 精神的暴力の割合

⑤ばらつきがある(具体的に):備考

- ・ほぼ毎日の時もあれば1ヶ月以上ないこともある。(2人)

#### 問7-2 精神的暴力の期間

⑦不定期

- ・一年間続いた。夫の禁煙期間中。その後は不定期。
- ・元々、常時起こっていたわけではないので。
- ・新婚のころから5~6年、1999年の秋から現在も。
- ・何度も繰り返す。

#### 問8 性的暴力の内容

⑫その他

- ・ねたみぶかく、やきもち焼き。
- ・全裸、半裸にされ、身体的暴力をふるう。
- ・20年ぶりに襲ってきたが当然拒否(愛のない行為はできない)。
- ・拒絶すると暴れ出す。
- ・「お前とのセックスは楽しくない」等、屈辱的なことを言う。
- ・セックスを拒否すると暴力を振るったり罵る。

- ・よく見えないと言って、ペンライトで性器を照らす。応じないと外で遊ぶから生活費を減らすと言っておどす。
- ・他の女性と比較する、他の女性のことを言う。
- ・セックスを排泄と考えている。
- ・公共の場所で性的会話を強要したり、他人に夫婦の行為の様子を話す。
- ・女の子が産まれないのは私が女らしくないからだと言われ続けた。
- ・⑧を自分はしてもいいがお前はダメだという。
- ・①②に近いですが生理中など。
- ・風俗の名刺、携帯の番号をもっている。スナック、バー、キャバレーの名刺。
- ・「淫乱」という。
- ・性的な話を面白がって言う。相手がおもしろがっていると勘違いしている。
- ・望まない妊娠を全て私のせいにする。拒否したことで殴られ、け飛ばされ、着ていた物を破かれた。
- ・2日続けてセックスを拒否したら、もうお前とはセックスできないと言われた。
- ・売春をする
- ・9年ほど前から、一度もセックスを誘われた事がなく、私から誘っていた。私は夫を愛していたのでセックスをしないことがとても苦痛だった。夫は怒鳴りながらしてくれたこともあったが、なんともなんとも断るようになった。年に数回しかしていない。

#### 問8-1 性的暴力の割合

回数	人数
1回	1人
1~2回	1人
2回	1人
2~3回	2人
10回	1人

#### 問8-1 性的暴力の割合

##### ⑤ばらつきがある(具体的に )

- ・拒否すると。
- ・めったになかたが、経験あり。
- ・自分の勝手な思いつきです。
- ・全く本人の気まま。
- ・9年間の結婚生活の中で2回(中絶と浮気)。
- ・若いとき。
- ・①②は年に4~5回、⑨は月に一回くらい。
- ・2年ほど前は②、その後は最低③。
- ・多いときは週に1回、最近は年に1回くらい。
- ・はじめてのデートで1回のみ。



- ・現在は性行為はないが、他のことでは言われる。
- ・夫は排泄と考えているので加齢とともに毎日～1日おき～2日おき～週1回と減ってきています。
- ・お客が来たときに言う。
- ・気が向けば毎日。向かなければ週2～3日。
- ・夫の気の向いたときなので不定期
- ・機嫌のいいとき？
- ・2～3年に1回。浮気は1度、5年間くらい。
- ・帰りがいつも遅いのですが、早く帰ってきた時がある。
- ・結婚してすぐの頃に集中した。
- ・その後気持ちも離れたようで、うまくいかずセックスレスになりました。
- ・その時の精神状態によって違う。
- ・浮気がばれたのは1回。
- ・月、週に多いときで3～4回。
- ・私の会社で飲み会があつて、2～3日あとなど勝手に浮気を疑って聞いてきたりする。
- ・今年になってはじめて。
- ・子どもが小学校に入る前後くらいまで。

#### 問8-1 性的暴力の割合

⑤ばらつきがある（具体的に ）：備考

- ・思い出したくない
- ・23年間はありましたが、今は没交渉。ただし「相手がいるのではないか」とたまに言う。

#### 問8-2 性的暴力の期間

⑦不定期

- ・あつたと思出すくらい。
- ・20年間。
- ・新婚のころほぼ毎日2～3年続き、その後も週に何回か続き、1999年秋から浮気をされていた。

#### 問9 社会・経済的暴力の内容

⑩その他

- ・母親に小遣いをせびり、家計と無関係な趣味、買い物をする事。
- ・生活費を言いがかりをつけてなかなか渡さないことがある。
- ・仕事、買い物でも帰宅時間も一分たりとも遅れないようにしないとおこる。飲み会、慰安会同窓会を浮気会と本気で思っている。
- ・同じ職場勤務だが地位は常に最下位におかれた。
- ・（私からの）生活費を出さねば家から追い出す。車を使用させず仕事ができなくさせられる。電話線を切る。他有り。

- ・人の手紙を勝手に開封する
- ・⑧に付け加えますが、全く渡さないわけではなく自分から食べないといっておいて、勝手に減らしている。また給料は食費を渡す以外自分で管理している。
- ・基本的には午後9時以降外出は許せないと考えているため、厳に施錠される。
- ・日常の食料の買い物にいちいち口出し（ふつうの店でふつうのものを買っても「こんな高いもの買って」といちいち言う）。
- ・1人で外出したいのに必ずついてくる。
- ・結婚後私1人のためのものをまだ1つも家計から買ったことのない時に、お金を全て使ってしまうと言われた。結局給料全てを生活費に充てるようになったことが不満でそのことを自己主張したいようだった。
- ・私の名前で（子どもの名前も）契約をして勝手に実印を作り、押し、保証人にまでなれとどなる。（負債が数千円になっている）。
- ・女友達からの手紙を勝手に読む。
- ・自分に都合の悪いことは石となり用事は全て紙に書く。
- ・土地は夫の両親のもの。建物は夫がローンをしており、その家に住んでいる私と娘に「でていけ」と言う。家庭裁判所より婚姻費用分担の審判がおりても送金してくれない。
- ・精神暴力の欄にも書いたけれど、保険がないということは精神的に辛い。
- ・電話の盗聴。
- ・サラ金からの借金。
- ・月収以外の収入を私に内緒にして勝手に使っている。
- ・⑩実際にはなかったが「おどし」としてあった。
- ・⑤嫌がる。
- ・家族でもないのに会社に外線電話を2度ほどかけてきた。しかも急用でないのに。貯金箱の小銭を勝手に使っていた。お金を貸しているが返済がまだ。ほぼ毎日、私の家に来るが生活費を入れてくれない。
- ・私の親のお金もだまし取られた。結婚している間の貯金を全部だまし取られた。結婚前に18年間の貯金を頭金にした家も手放した。
- ・自分が多大な浪費する割に人に細かい。「やりくりができない」と罵る。
- ・「お前はいくら持っている」と常に持金を確認する。

#### 問9 社会・経済的暴力の内容

##### ⑪その他：備考

- ・酒代。
- ・すごく嫌みをいったりする。
- ・⑥尾行は10日された⑦より絶対許さない。
- ・⑤主に私の両親。
- ・①結果的にこうなったことがある③疑う④⑤恐ろしくて出られなかった⑧今はわずかな金額の仕送り。

#### 問9-1 社会・経済的暴力の割合

##### ④年に数回（ 回程度）

- ・ 3回
- ・ 3～5回
- ・ ①と生活費はまだ1回。家計の管理の独占は毎月。
- ・ 1回
- ・ 2～3回
- ・ 5～6回
- ・ ①について：生活費を入れてくれないのに家に来る。家事は手伝ってくれるが、気まぐれ。
- ・ 5回

#### 問9-1 社会・経済的暴力の割合

##### ⑤ばらつきがある(具体的に )

- ・ 過去に1～2度。
- ・ 結婚後半年で、借金(ギャンブルのため)が判明。肩代わりして返済した。
- ・ とても良いときは「いいよ」がつきます。
- ・ 多いときは毎日、少ないときは日に一度。
- ・ 9年間の結婚生活の中で2回だけ。
- ・ ある一定期間。
- ・ 出張があるため、なければほぼ毎日です。
- ・ 帰省したとき。
- ・ 友人とのつき合いにも口を出す。
- ・ 多いときは週に1回、最近は年に1回くらい。
- ・ パートナーの気分次第。
- ・ 夫の気分しだいで時々。
- ・ 私の言動によって
- ・ 結婚して2～3年の間にあった。1つ1つ抗議するとなくなった。抗議するまでそれが私の変に思うこととは思っても寄らなかった様子だった。
- ・ 外出や電話の制限も暴力という意識が自分自身になかった。夫がいるとき電話をしたり、出かけたりできなくて当たり前だった。仕事も結婚した時点でやめるのが当たり前のようにだった。とくにPTAの役員をしたとき、その連絡など電話を邪魔された。
- ・ 機嫌による。
- ・ 本人が機嫌の悪いとき。
- ・ 現在はない。
- ・ 彼の言うことに逆らった時。
- ・ 最初はそれほどではなかったが結婚10年は毎月。
- ・ 今年入ってから継続中。
- ・ 金の使用目的に口を挟んだとき。
- ・ 最初は5年前に3ヶ月の間に4回。2度目は1年半前から1年までの間に何度も…覚えていない。

- ・お金を使うことが暴力といえるのなら毎週です。
- ・全て夫の機嫌である。

#### 問9-1 社会・経済的暴力の割合

⑤ばらつきがある（具体的に ）：備考

- ・23年間は四六時中、いまは2～3日に一回。

#### 問9-2 社会・経済的暴力の期間

⑦不定期

- ・ことに別居前の1～2年前。ひどい。
- ・私の行動次第。

#### 問9-2 社会・経済的暴力の期間

⑦不定期：備考

- ・同居期間中。

#### 問10 相手が初めて暴力をふるった原因

①暴力をふるう側に原因がある

- ・自分自身が親の暴力を目撃していたこと、自尊心の欠落。
- ・甘い母親から離れられず、当たりちらす。
- ・カッとすると押さえられない。
- ・暴力を振るう人が弱く劣等。
- ・酒乱。
- ・大事にしていた小鳥に義父母が餌を与えず餓死させたのでとがめた。
- ・追い込まれてはけ口にした。
- ・口答えをしたとき。
- ・相手の人格を認めない。
- ・ストレスがたまりコントロールできない時。
- ・内面的弱さ、依存的。
- ・配慮が足りない。
- ・暴力でしか解決方法を知らないから。
- ・私が悪いことしたことがなく、自分が気に入らなかったから。
- ・精神的に未熟。
- ・他の会社の人をうらやましいと言ったら頭を平手で数回叩かれた。
- ・生い立ち。

- ・子どもができたので結婚したが自分は遊びたかった。家族というものがよくわかっていなかったように思う。
- ・嫉妬されずじあいはないのにされた。
- ・酒乱、やきもち。
- ・どんな理由があれ暴力はいけないから。話し合いをすべきだと思うから。
- ・自分が一番正しいと思っている。
- ・職間の人間関係をまず理由にしてくるので。次いで私が悪い、と話を進めてくる。
- ・出来事、悩み相談など全て口実に使われる。
- ・自分の思う通りに行かないと暴力を振るう。
- ・些細なことでもカッとなると止められない。
- ・忍耐が足りない、支配欲が強い。
- ・お酒が入ると他人の批判ばかり、被害妄想的なところが大いにあった。
- ・不倫、お金のことを言われると。
- ・酒の飲み過ぎ。
- ・肺炎で40度の高熱で休んでいるといつまで寝ていると、足蹴りにされた。
- ・仕事でいやな事があった。
- ・基本的に男性の方が体力があるから。
- ・女（妻）を1人の人格と認めていない。自分より低いものと見なしている。
- ・自分の言うことは人にどう思われるかを全く考慮せずに口にする。（思いつくままに）
- ・禁煙中イライラしていた。
- ・暴力はどんな場合でも許されないという認識がない。
- ・話し合えばわかることがカッとなる。
- ・都合の悪いことを指摘されると口封じのために怒鳴ったりする。
- ・性格のかたより、神経質な性格、ストレスをためやすい。
- ・女を劣ったものと見ている。
- ・短期、わがまま、幼児性。
- ・相手の異性問題が原因。
- ・ギャンブルが原因、給料も誤魔化し、家族との会話がな。
- ・勝手な思いこみよるもの。
- ・「何もかもいやになった」と本人が話しました。
- ・なぜ暴力を振るわれるかわからない。
- ・性格、育ち、自信なさ。
- ・しらふの時にはなく酒に酔っているときは道理も何も通らない思うから。
- ・結婚後3ヶ月目食卓上の皿をさして「私は栄養あるのよ」と言ったとたん、パンパンと平手打ち。「毒食わしてない」怒る。安い給料の中、栄養考えて調理した食材でした。
- ・外（会社）でのストレスを持ち込んで。

- ・言葉では解決すべき件なのに、暴力で押さえつけた。
- ・短期で自己中心的だからすぐ怒鳴る。
- ・神経質。
- ・ギャンブルで負けたとき、酒に負けた時。
- ・女性問題に関して問われたら開き直り、軽く暴力。
- ・自分の弱さを当たり散らしているのが原因と思う。
- ・自分のいらいらのため。
- ・仕事や金銭面でいらいらしたとき。
- ・思い通りにならないと力任せになる。
- ・自分のしている賭け事に対して私が文句を言ったとき。
- ・カッとして見境がなくなる。
- ・相手が自分の気持ちの持っていく場がなくて私に向けた。
- ・話し合い、解決することができず、すぐ暴力となる。
- ・父親の暴力を目の当たりに育っており、コミュニケーションの力に欠けている。父親から本人もまた精神的な暴力をいまだに受け続けている（継母からも）
- ・もともと精神的に普通じゃない。
- ・今にして思えば夫は自分の両親と全く同じだった。子育てをしなかった父親、男と金にだらしない母親。
- ・自分に都合の悪い事をきちんと説明せず、暴力でごまかす。
- ・その時に私のとった行動とは関係のないことで怒鳴り出した。

#### 問10 相手が初めて暴力をふるった原因

##### ①暴力をふるう側に原因がある：備考

- ・ケースバイケースだと組み合わせが悪いこともある。

##### ②暴力をふるわれる側に原因がある

- ・悪いことをしていたと思っていた。
- ・夜、出かけようとする相手に辞めるように何度もいい、イライラさせた。その際、大きな声で脅かされた。恐くて抵抗できなかった。
- ・些細なことでも主人の言うことに従わなかったから。
- ・私が妻を十分に理解していなかった。
- ・自分（相手）の思い通りにならないから。

##### ③両方に原因がある

- ・元々は夫婦喧嘩。でも女に手を出すのは、最低。
- ・普段は話せないことを酒を飲んで話した。
- ・振られたことに諦めて、抵抗しなくなった。しかしそれは精神的に暴力をふるわれていてこわくて言えなかった。

- ・お互い相手の言うことが理解できなかった。主人は自分の母親の姿を私に求め、私は自分の父親の姿を主人に求めたのかも知れません。
- ・口答えにカッとする。
- ・その日は結婚してはじめてホテルに泊まりに行く日、私はとても楽しみで早く出かけたのに主人はパチンコをして夕方お腹がすいたと言って、帰ってきてビールを飲みました。その日はディナーの予約も入れてあるのに、私はカーッとなり口論から暴力へ。
- ・両方とも精神的に未熟。
- ・夫がセックスに強く、私より7才若かった。自分が妊娠したことに気づき（7週目）、医師の診断有り。細胞分裂とかがお腹の中で起きていると考ええるとセックスができる精神状態ではなかった。
- ・夫が幼児期に親から虐待を受けていた。
- ・昔の異性関係に腹を立てた。
- ・相手のプライドを傷つけてしまうことによって、引き起こされることが多い。さらに両方が疲れているとき。
- ・夫婦げんか。
- ・話し合いのはずが、お互いけんか腰になってしまった。私が「言わなくてもわかるでしょ」と思っている、相手は「言わなければわからないだろう」と考え方やお互いの常識が食い違っていることが多い。
- ・理不尽な指示に口答えした。

#### 問 10 相手が初めて暴力をふるった原因

##### ⑥その他

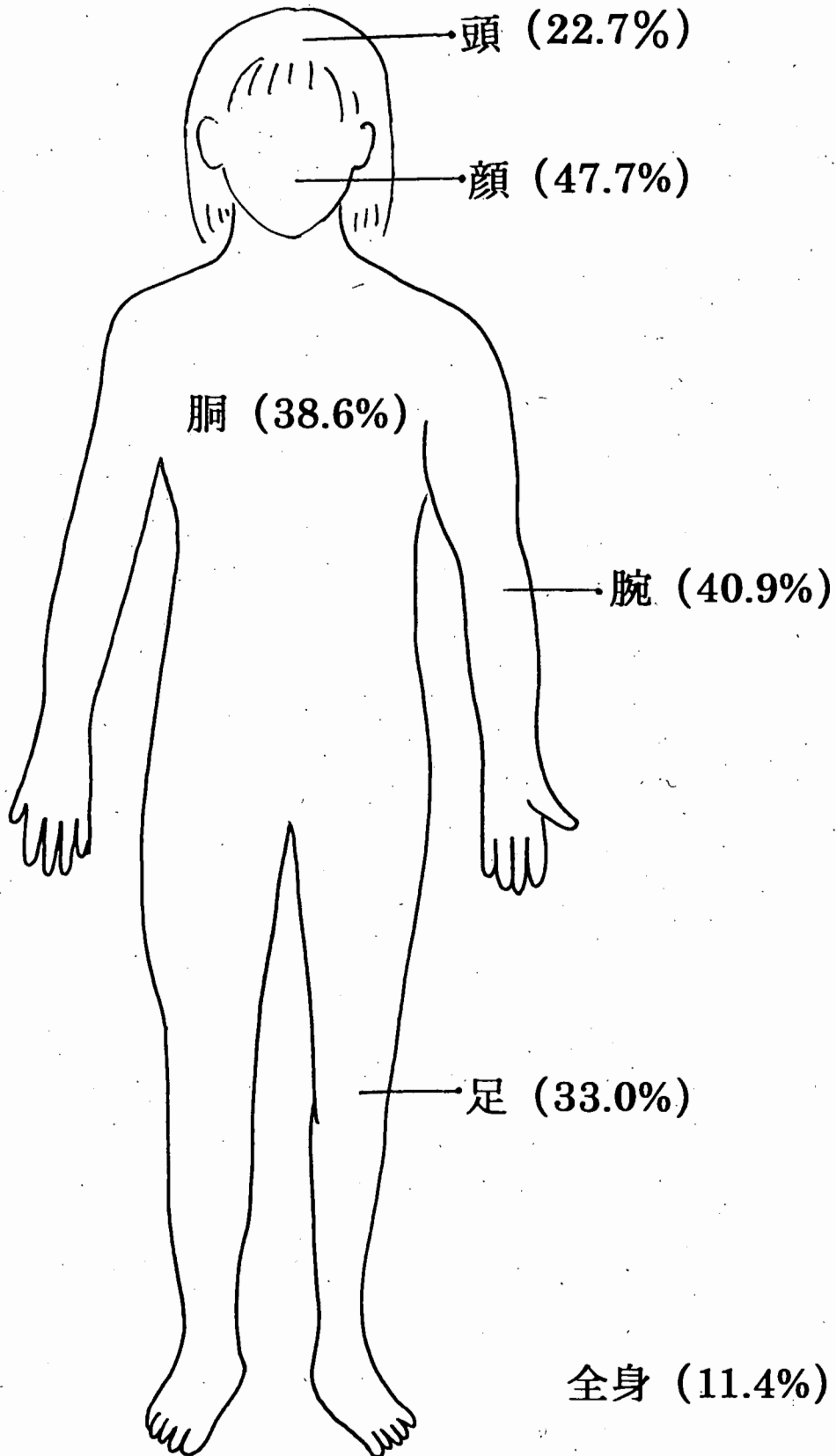
- ・善悪ではなく気に入らなければ暴力となった。考え方の違いもある。
- ・女なんて物は男に絶対服従だそうです
- ・多重人格、家庭の顔、家庭以外の顔、その場しのぎの格好良さを装う。夫の母が暴力することを知らない。
- ・夫が私に疑惑や不信を持ったとき、私の性格とも大いに関わりあると考えます。
- ・酒乱によるので。
- ・相互の親とのつき合いかたの意見が合わなかった。
- ・口げんかをしていて彼がカチンとくることを私が言ってしまった。彼は人に何か言われることが嫌い。
- ・結婚が両家に祝福された物でないから。

##### ⑥その他：備考

- ・⑤相手は「お前が悪い」と言うが、正直なぜこんなことで怒るのか、よくわからない。
- ・⑤急に怒り出す。

問 11 暴力による身体的影響

① ケガをした a どこをケガしましたか





問11 ①-b どんなケガでしたか

- ・一瞬ガーンとなって真っ白になった。
- ・内出血、打撲。
- ・擦り傷。
- ・あざができる。かぎで殴られ、手が切れたこともある。
- ・内出血、こぶ。
- ・打ち身。(3人)
- ・青あざができた。
- ・息もできないほど背骨をけられ、動けなくなりましたが半日くらい安静にしているうちに治りました。
- ・痣、打撲。(2人)
- ・裂傷。
- ・打撲。(6人)
- ・あざ。(9人)
- ・殴られたことにより、皮膚が裂けた。
- ・痣、2週間位痛む。
- ・打ち身、鬱血。
- ・打ち身、掻き傷、捻挫。
- ・一週間ほど腫れ上がった。
- ・腫れる、失神、首絞め。
- ・骨折をしたり、痣、切り傷。
- ・瘤、青あざ。
- ・歩行困難、ヒビ。
- ・痣、切り傷、脱毛600本以上。
- ・足の親指の生つめが抜けた。転び落ちてガラスを割ってしまいまだに右手首がしびれて震えます。
- ・痣だらけ、打撲、腫れ、尿に血が混じる、膀胱炎。
- ・青あざ。
- ・打撲、むち打ち、捻挫。
- ・腫れ。(2人)
- ・顔、鼻がふくれあがった。
- ・鼓膜が破れ、腎臓が内出血。
- ・打ち身、切り傷など。
- ・鼓膜に穴、目に影、切迫早産、痣。
- ・肘～前腕をすりむいた、痣ができた。
- ・骨折。(3人)

- ・最大は路上で殴る、蹴る。手足切り傷、左目がおいわさんのように腫れた。
- ・むち打ち症。
- ・物を投げられたので、手で払いのけた際、切れた。
- ・充血、耳が聞こなくなった。
- ・切り傷、骨折、鼓膜が破れる。
- ・頭を打たれ、吐き気、目が回った。内出血は度々でしたが大きいケガはない。
- ・打撲、打ち身。
- ・腫れ上がった。青あざ。
- ・打撲、ねんざ。
- ・額を切る、打撲（全身）。
- ・痣や傷。
- ・青あざができた。
- ・茶碗を投げられ額を切る。腕を殴られ、打撲傷、腫れる。
- ・出血。
- ・たんこぶや痣は消えたことはありません。
- ・割れたガラスで切る。
- ・打撲傷、打ち身、内出血、腰痛。
- ・顔が腫れました。
- ・青あざ、3日間口が開けられなかった。
- ・内出血。
- ・腰を蹴られたのでしばらく痛かった。
- ・痣、内出血、火傷。
- ・肋骨にひびが入った。
- ・頭がぶよぶよになった。
- ・顔面はいつも内出血。
- ・腫れた、絞められた。
- ・肋骨のなん骨部にヒビ、なん骨なのでレントゲンには写らないがずっと痛かった。
- ・瘤、打ち身、切り傷、ひっかけ傷。
- ・目の充血。
- ・押されたので手が赤くなった程度ですんだ。
- ・殴られ、蹴られたことによる、痣。
- ・歩行困難、外出困難、耳の障害。
- ・手首の腫れ、痣、唇の裂傷。
- ・家の中で痣ができた。
- ・痣程度、全身筋肉痛。

- ・足首骨折、肋骨は2本骨折、他、全身打撲など。
- ・後ろから蹴られ、額をぶつけて大きな痣ができた。
- ・痣、耳が1日聞こえなかった。
- ・噛みつかれ、犬歯で手の甲に穴ができた。
- ・ひびがはいった。
- ・両目の周りに紫色の痣とはれ、2本骨折、痣、あちこち。最初の頃は赤くなったり腫れたりしても1日～2日で治っていたが、一ヶ月前に受けた暴力が一番強かった。(全部で7回目)足、もものあたり。一箇所タバコの火を押し付けられた。あとが残っている。
- ・ひびがはいった。
- ・痣、切り傷、打ち身、はれ。
- ・足が腫れて歩くのが困難。首が痛くて起きあがれなかった。
- ・頭部打撲、瘤と内出血。
- ・網膜剥離、瘤、痣。
- ・体中に痣、アトピーの悪化。
- ・裂傷。骨折。打撲。関節炎。
- ・片眼の出血。
- ・首を絞められた後、打撲、切り傷。
- ・神経性胃炎。
- ・打撲。脳震盪。

問11 暴力による身体的影響

①-c 医者にかかりましたか

医者にかかった	39人
医者にかからなかった	48人

問12 暴力を受けたときの気持ち ⑩その他

- ・本気になって怒ってくれたので嬉しいと思った。
- ・どうして…暴力する理由がわからなかったから。
- ・私に性格と夫の性格の不一致。親が育ち方、環境の違い、私の男全般の不信感、夫自身が持つ人間関係への不信感、孤独感など、複雑でした。
- ・妊娠中で子どものことを考えた。
- ・障害に対しての理解がほしい。
- ・小さい頃から父親に暴力を受けていたことを話して聞いていたはずなのに、と思い会社の家族旅行先だったので頭が混乱して自宅に帰ろうと思った(しかし待ち合わせのお金が少なく深夜だったので帰れなかった)。
- ・子どもが独立するようになったら離婚を決意している。
- ・暴力を振るうことは絶対に許さない、その人とは必ず別れる、という信念を持っていたが、子どもが生まれていたので、それができないと思い、困惑した。
- ・これからどうして良いかわからずに不安になっただけでなく、ぼーっと考え込むようになった。

問 12 暴力を受けたときの気持ち ①その他：備考

- ・生活費を渡さんぞ、すぐこの家から出て行け。
- ・32年以上も前にことなので覚えていません。
- ・①ただただ大ショック。何十年経た今日も記憶ははっきり。

5 加害経験あり

問5 身体的暴力の内容

問5 身体的暴力 ⑩その他

- ・アイロンを少しパッとあてた。

問5-1 身体的暴力の割合 ④年に数回 ( 回程度)

回数	人数
1回	2人
2回	3人
3回	1人
8回	1人

問5-1 身体的暴力の割合

⑤ばらつきがある(具体的に )

- ・長男が気に障ることをしたとき。生後40日から平手打ち。
- ・相手の態度による。
- ・自分の思う通りにいかないとき。
- ・過去に1回のみ。
- ・1回程度
- ・暴力を受けたときに我慢しきれなくなった、年に2~3回、自己防衛。
- ・子どもにひどいことをしたときだけ。
- ・1回だけ
- ・彼に暴力をふるわれたとき。
- ・相手が先に喧嘩を仕掛けてきた場合。
- ・どうしてもなく腹が立ったと時に。

問5-2 身体的暴力の期間

⑦不定期

- ・一回だけ(2人)

問6 精神的暴力の内容

⑩その他

- ・老人には、汚い、臭い、近づくな、と言う。
- ・私がやられたことをそのまま同じ事を行った。
- ・無断外泊。

問6-1 精神的暴力の割合

④年に数回（ 回程度）

- ・1回程度。
- ・4回程度。
- ・3～4回程度。
- ・8回程度。

問6-1 精神的暴力の割合

⑤ばらつきがある（具体的に ）

- ・2～3回程度。
- ・腹が立った時に仕返しのためで行う。
- ・機嫌の悪いとき、ちょっとしたことなど。
- ・私の親との関係が主な原因で、妻が私の気持ちを聞きたいときなど。
- ・1回程度（2人）
- ・別居する前、1～1.5年（同居期間5年）。
- ・子どもにひどいことをしたときだけ。
- ・彼と喧嘩したとき。
- ・腹が立った時。

問6-2 精神的暴力の期間

⑦不定期

- ・時々。
- ・その日そのときだけ。
- ・喧嘩したとき。

問7-1 性的暴力の割合

④年に数回（ 回程度）

- ・2～3回程度（2人）

問7-1 性的暴力の割合

⑤ばらつきがある(具体的に )

- ・ほとんどなかったが、皆無ではない。
- ・好きな女性ができた時。
- ・気分なので具体的には表せない。
- ・その日の気分、テレビ見たり、話したりするときです。
- ・9年間に1度だけ。
- ・1回程度。
- ・1回のみ。

## 6 子どものころの経験

### [1] 暴力体験

#### 問2 虐待をしていた人

##### ⑩その他

- ・叔父

#### 問3 身体的虐待の内容

##### ⑩その他

- ・体をつねる。体のことを他人に言う。
- ・頭から水をかけられた、線香をつけられた。
- ・馬乗りになって殴る、屋外へ締め出す。
- ・つねられて、腕はいつも痣になっていた。
- ・幼い頃の兄とのけんか。
- ・お灸（やいと）をすえられる。
- ・おしりを叩かれたり、忘れてしまっている。
- ・トイレのベンゾールを、継母が蒸かし饅頭の材料にいれてつくり、食べさせて隠れてはいた。
- ・家から締め出される。

#### 問3 身体的虐待の内容

##### ⑩その他：備考

- ・つねる

#### 問4 心理的虐待の内容

##### ⑨その他

- ・戸外へ出す。
- ・精神的プレッシャー。
- ・大切にしている玩具を隠す、取り上げる。
- ・裸で外に出された。
- ・私に対しては厳しく、弟には甘くかわいがる。(差が3)
- ・押し入れに入れられる。
- ・酒乱で暴れる。
- ・裸で立たせる(家族全員の目にさらす)。
- ・酔っぱらって血走った目でくだをまき、逃げようとするとき引き止める。



- ・父親、母親が口けんかをする。
- ・…をしる、と行動を管理、コントロールされる。例えば、下着の数を全部数えさせるとか、夏休みの自由課題を母親のやりたいものをあげ、強制的にやらせるとか。
- ・腹違いの弟の布団や衣類、持ち物は私のよりいいものを買って、差別された。

#### 問4 心理的虐待

##### ㊦その他：備考

- ・㊦いをつける㊦置いてけぼりにする。みそっかす、できないと下げすむ。からかう。お化けが出る、怖い人が来る、人さらいがくる、おまわりさんに怒られる、注射する、注射しても泣かない子だ、と呪文のように繰り返しておどす。

#### 問5 性的虐待の内容

##### ㊦その他

- ・父が性に関する話をする。
- ・擬似性交、大腿にペニスや性器を挟み、擦りつける。
- ・行動、人間関係を制限。

#### 問6 養育の怠慢・拒否の内容

##### ㊦その他

- ・電話をさせない、テレビを見せない。
- ・生活の技術を教えない。着替えか（靴下の左右）はきかたとか。
- ・行動、考え方を親が支配して従わせる。
- ・着たきりすずめで夏冬あわせて数点しか下着も服も少なかった。

### [2] 暴力目撃

#### 問2 暴力（虐待）をされていた人（被害者）

##### ㊦その他

- ・近所の妻
- ・おじ
- ・いとこ

#### 問3 暴力（虐待）していた人（加害者）

##### ㊦その他

- ・近所の夫
- ・おば

#### 問4 身体的暴力の内容

##### ⑩その他

- ・怒鳴る。
- ・身近の家具を壊す、ガラスを割る。
- ・忘れている。
- ・指の骨をへし折っていた。

#### 問4 身体的暴力の内容

##### ⑩その他：備考

- ・思い出すことに抵抗があります。
- ・新しいシェーバーを祖母の顔で拭き、出血させた。

#### 問5 心理的暴力の内容

##### ⑨その他

- ・容姿のことを言って傷つける。病気になったとき「金がかかる」と嫌みを言う。「介護してやった」と恩着せがましく言う。
- ・他人に乳が大きいとか、尻が大きいと言う。
- ・はしやスプーンなどを額（祖母の）にぶつける。
- ・行動を制限する、実家へ帰らせない。
- ・自分が無能である。絶対言うことを聞く、と言った事を紙に書かせて張り出させる。口で言わせる。
- ・妹は悪くないのに、いちいち文句をつけてあやまらせる。頭が悪いとか、出来が良くない、と言って自尊心を傷つける。

#### 問5 心理的暴力の内容

##### ⑨その他：備考

- ・酒を飲み続ける、働かない、人とのコミュニケーションをとらない。

#### 問6 性的暴力の内容

##### ⑨その他

- ・衣服を与えない。
- ・ホテルに連れて行こうとする。

#### 問7 養育の怠慢・拒否の内容

##### ⑥その他

- ・生活費を渡さない。

・お前がかわいそうだから、お父さんは我慢して離婚しないでいると執拗に言う。

## 7 子どもへの虐待

### 問2 身体的虐待の内容

#### ⑩その他

- ・何度も曲を練習させる、一度外へ出した。
- ・ラジカセ、懐中電灯など寝ているときに頭などに投げつける。
- ・私をかばう子どもを追い回す。
- ・ひもで手足を縛る。
- ・顔をつねる。
- ・寝ている子を逆さずりにする。そして窓から子どもを捨てるしぐさをする。
- ・はし、布団たたきで各1回ずつ頭をぶった。
- ・冬に下着姿でベランダに立たせる。

### 問2 身体的虐待の内容

#### ⑩その他：備考

- ・夫だった人が私だけでなく自分の子どもにもした。
- ・①上の子のおむつトレーニングの頃数回失敗したら叩いたことがあります。

### 問2-1 身体的虐待の割合

#### ④年に数回（ 回数程度）

回数	人数
1～2回	3人
2回	2人
2～3回	2人
3回	1人
4回	1人
5回	2人
10回	1人

#### ⑤ばらつきがある（具体的に ）

- ・精神的に不安定なときに、夫婦ゲンカしたとき。
- ・目に余るときだけ。
- ・子どもが私の言うことを聞かなかったとき。
- ・2～3日に1回。
- ・子どもの行動次第。人間として許せない事をした時など。しかし自分のストレス発散のため、殴ったこともある。
- ・子どもが聞き分けのないとき。

- ・低学年の頃勉強をみてた時期があり、そのころほぼ毎日私が見てないときがあった。
- ・手を上げたのは滅多になかったと思います。が、一度だけはよく覚えています。
- ・それぞれ1度。
- ・唯一、小4の息子が宿題を友達にさせ、遊びに行ったとき許せなかった。
- ・夫婦間でのトラブルの時。
- ・回数は少なく、数回。(合計)
- ・子ども2才半の頃の数回。
- ・一人っ子だと甘やかしてわがまま出るので、それを注意するとき。
- ・30年間に一回だけ。
- ・夫の気分なのか自分の思うように物事がすすまなかった時など、子どもが口答えし、反発した時、夫が我が子に対して。
- ・子どもの受験期。
- ・気分によって瞬間的にやってしまう。
- ・1回叩いたことはある。
- ・年に1回。
- ・子どもを叱る時、全くない月もある。
- ・子どもの生涯で1回ずつ計2回のみ。
- ・長男、次男が中学生ぐらいのころ。

## 問2-2 身体的虐待の期間

### ⑦不定期

- ・2人目の子どもができて～、上の子が幼稚園に行く時期。
- ・2人の子どもの中で唯一、1回。今も大変後悔しています。それ以降から「怒っても罪をおかしてはならない」と思ってましたのに、「非暴力」を大切にしてきました。
- ・たまに
- ・そんな子はいない。ルワンダのことを思ったら幸せだぞ、文句を言うな、と脅す。
- ・一回だけ。

## 問3 心理的虐待の内容

### ⑨その他

- ・子ども自身や大事にしているものを川に捨ててやる。ちょっとここに座れ、話を聞け、イヤと出来ない状況である。
- ・嫌いな食べ物を無理矢理口に押し込んだ。
- ・親のDVがある家庭でした。
- ・車の運転が大変あらくなり子どもがおびえる。

- ・子どもの気持ちを理解せず、子どもの失敗や行動を責めたり注意する。
- ・出ていけという。兄弟の差別をする。
- ・①ズボンのベルトで子どもを殴る②夫の手にタオルを巻き子どもの顔を殴る（跡が残らないように、夫の手が痛くならないように）止めにはいる私にも同じ。子どもを長く風呂に入れる。酒乱状態の時に一回だけあり。
- ・（私が入浴中）ベビーベッドで寝ている子どもが泣き出したときパートナーが泣きやませることができない自分に腹を立てて、子どもが寝ているベビーベッドを蹴ったり叩いたりして、外枠の一片を壊してしまい、子どもが顔を真っ赤にして泣いていてもそのままにしていた。
- ・私が少ししかしていない（1回長男）のに、すごくうらんで、物を壊してあばれる。一生懸命育てて、割に合わない。

### 問3-1 心理的虐待の割合

回数	人数
1回	1人
1~2回	2人
2回	1人
3~4回	3人
5回	2人
5~6回	1人
10回	1人

### 問3-1 心理的虐待の割合

#### ⑤ばらつきがある（具体的に）

- ・何度言っても言うことを聞かなかったとき「いい加減にしないとぶつよ」と言い、ついおどしてしまう。実際はやらない。
- ・目に余るときだけ。
- ・子どもが言うことを聞かなかったとき、つい長々と小言を言った。
- ・子どもが聞き分けのないとき。
- ・記憶では数回/成人するまで。
- ・子どもが中学生くらいまではずっと口やかましかった。
- ・子どもが小学生の頃の出来事 20年以上前になる。
- ・気分によって瞬間的にやってしまう。
- ・何年か前にあった。子ども 16 と 19。
- ・子どもを叱る時、全くない月もある。

### 問3-2 心理的虐待の期間

#### ⑦不定期

- ・目に余るときだけ。
- ・年に一回あるかないか。

#### 問4 性的虐待の内容

##### ⑨その他

- ・父が子どもの下着を見る。その行為は私（母）に知れないように。
- ・20歳の娘のそばで裸になり風呂に入る。
- ・結婚前の娘にセックスについて聞いたりした。

#### 問4-1 性的虐待の割合

##### ④年に数回（回程度）

- ・3回。
- ・1～2回。

#### 問4-1 性的虐待の割合

##### ⑤ばらつきがある（具体的に）

- ・私の目を盗みやっていたのでその割合はわからない。
- ・娘の思春期～現在。

#### 問5 養育の怠慢・拒否の内容

##### ⑥その他

- ・授業料がもったいないと言って授業料を渡してくれなかった。
- ・学費を出さない、お金を渡してくれない。
- ・無視する。
- ・紙おむつ使用。機嫌が悪いと、お菓子でごまかす。ビデオ、テレビでおもり。
- ・父（私の夫）の教育放棄。家庭内での教育は全て私任せ。ふろ、食事、通院、みんな私がするが、外では例えば親戚の家へ行くと抱っこしたり育児に協力してますとばかりにふるまうが、子どもがなつかないので不審がられる。

#### 問5-1 養育の怠慢・拒否の割合

##### ④年に数回（回程度）

1回（2人）

##### ⑤ばらつきがある（具体的に）

- ・主人（夫）が自分を本当に愛していると思えなかったから、子どもに対しても愛情が感じられない時期があったりした。
- ・合計3回。

- ・夫にひどいことをされると数日続き、また夫から暴力暴力だから、「ほぼ毎日」だったかも。
- ・10年に2回ぐらい。

#### 問8 虐待していた人（している人）

##### ⑫その他

- ・育成室の先生。

#### 問8 虐待していた人（している人）

##### ⑫その他：備考

- ・小学生になってから言うことが生意気になった。育成室の先生に「お母さんもう少し叱った方がいいんじゃない。大人になってから大変よ」と言われた。

#### 問9 子どもへの虐待が始まったきっかけ

##### (具体的に)

- ・私に暴力をふるい子どもが私をかばうといっそうの暴力となった。
- ・成長による子どもの反抗。
- ・親の言うことを聞かなかったとき。
- ・どうしても言うことを聞かないときは（言ってもわからないとき）は、叩いた方が良く、夫の母や自分の母にアドバイスを受けてから。
- ・言葉で言ってもわからないとき、どうしても許せない様をしたりした時。子育て、夫へのストレス発散。
- ・浮気を理解できず、心を閉じた私への当てつけ。
- ・結婚後も続く実母の支配的な親子関係を養父母との同居、出産、その後の病気、入院などによるストレス。
- ・子どもが言うことを聞かないとき、父親が浮気をしたとき、子どもが邪魔故。
- ・お酒を飲んでいるときだけです。飲んでいないときは非常にいい人です。
- ・夫のわがまま。
- ・ごはんを食べない、眠らないなど。
- ・両親、夫から受けた抑圧に対する疲れが立場の弱い子どもに移行。母親（私）は両親に叱られてばかりいたので子どもを叱ることに抵抗がなかった。
- ・学校に行きだしてから人の物を取ってから。
- ・子どものすることに腹を立てて。
- ・夫。
- ・保育所に行きたがらない。
- ・暴力というのはちょっと違うが、悪いこと、間違ったこと、命に関わるような危ないことをしたとき、手が出してしまった。
- ・子どもの父親が子どもへの暴力を振ったのは妻である私への不満がたまったこと。出産後数ヶ月性交渉がいやでほとんどしてなかったのを彼が不満にしてた。



- ・夫婦関係がうまくいってない時はお互いへのあてつけのための時を子どもがどうしても言うことを聞かない時。
- ・学校の宿題が終わってから外出させる習慣をつけたかった。
- ・まず父親のいらいら。(例えば過労、失業、海外出張、転職失敗、引越しなど)
- ・子どもが学友と行動をとり家族と一緒に外出しなくなった。(塾、部活)を優先したため。夫(親の行動に批判したりして)。
- ・子どもの受験の時、子どもが口答えした時に母を苦しめた人たちのことを思い出したとき。
- ・子どもが生まれて、自分の存在を疎外されていると思っているらしい。子どもが言うことを聞かない、思い通りにならない。
- ・子どもが言葉を話すようになり、その言葉が気に入らなくて。
- ・よっぽど言うことを聞いてくれなかったとき、4~5年で1回か2回おしりを叩いた。
- ・わからない。
- ・トイレットトレーニングがうまくいかなかった。
- ・近所の奥さんに嫌な態度を取られ、子どもにあたった(一回のみ、息子に)夫に対して不快感から(娘に1回のみ)。
- ・自分の思う通りにならない。

#### 問10 相談

##### ⑥その他知り合い

- ・彼氏。
- ・夫。
- ・パートナーとの共通な知り合い。

#### 問10 相談

##### ・21 その他

- ・自分のしていることがわかっていたので、主人との関係がうまくいくように気を使いすぎて、疲れていたと思います。
- ・言うことを聞かない。
- ・市の育児相談で、しつけ上、叩くことについて道なのか、聞いてみたことがあります。
- ・カウンセラー・ヒーラー。
- ・夫、大学。

## 財団法人 女性のためのアジア平和国民基金 (アジア女性基金)

アジア女性基金は、元「慰安婦」の方々への国民の償いを行うこと、女性の名誉と尊厳に関わる今日的な問題の解決に取り組むことを目的として、1995年7月に発足いたしました。以来、政府と国民の協力によって、具体的な事業を実施してまいりました。

そのひとつは、元「慰安婦」の方々への国民的な償い事業です。それは、1) 元「慰安婦」の方々の苦悩を受け止め心からの償いを示す事業、2) 国としての率直なお詫びと反省の表明、3) 政府の資金による医療・福祉支援事業です。この償い事業については、一刻も早く日本の道義的責任を具体的に表したいという気持ちで進めています。

同時に、ドメスティック・バイオレンス（夫や恋人からの暴力）や人身売買など、女性や子どもに対する暴力や人権侵害によって苦しむ方々が、まだまだたくさんいます。アジア女性基金では、今日的な女性の人権の問題にかかわることによって、過去だけでなくすべての女性に対する暴力のない社会を目指して、その問題の解決のために、以下のような活動に取り組んでいます。

- 女性が現在直面している問題についての国際会議の開催
- 女性の人権問題に様々な角度から取り組んでいる女性の団体への支援活動
- 女性に対する暴力、あるいは、女性に対する人権侵害についての原因と防止に関する調査・研究
- 暴力や人権侵害の被害女性に対するメンタルケアの開発など
- 女性に対する暴力のない社会を目指す啓発活動

基金の事業や活動についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。なお、インターネットでも基金の活動はご覧になれます。

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-42 赤坂アネックスビル4階

TEL : 03-3583-9322/9346 FAX : 03-3583-9321/9347

Home Page : <http://www.awf.or.jp> e-mail : [dignity@awf.or.jp](mailto:dignity@awf.or.jp)